IBM Cognos PowerPlay Client
バージョン **11.0**

マクロ参照ガイド

IBM

©

このドキュメントは IBM Cognos Analytics バージョン 11.0.0 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos PowerPlay Client
Version 11.0
Macro Reference Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

著作権

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corp. 2005, 2017.

IBM、 IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、 http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標または登録商標です。

- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。
- Intel、Intel (ロゴ)、Intel Inside、Intel Inside (ロゴ)、Intel Centrino、Intel Centrino (ロゴ)、Celeron、Intel Xeon、 Intel SpeedStep、Itanium、Pentium は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標です。
- UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。
- Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは Oracle やその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft 製品のスクリーン・ショットは、Microsoft の許可を得て使用しています。

目次

はじめに ix

第 1 章 PowerPlay OLE オートメーション 1
マクロ・スクリプトの設計 2
CognosScript 言語とさまざまなバージョンの Basic 言語との比較 3
CognosScript 言語と Visual Basic との違い 4
CognosScript 言語と Microsoft Visual Basic for Applications との違い 4

第 2 章 オブジェクト 7
AdvancedQuery オブジェクト 8
Application オブジェクト 11
CategoryList オブジェクト 14
Child オブジェクト 15
Column オブジェクト 16
Dimension オブジェクト 20
DimensionLine オブジェクト 22
Exception オブジェクト 23
FindQuery オブジェクト 25
Graph オブジェクト 27
Layer オブジェクト 30
Level オブジェクト 33
ParentageQuery オブジェクト 34
Print オブジェクト 36
Range オブジェクト 39
Report オブジェクト 40
Row オブジェクト 45
SaveAsPDF オブジェクト 49
ValueRestriction オブジェクト 51

第 3 章 コレクション 55
Children 55
列 59
Exceptions 62
Graphs 63
Layers 66
Levels 69
Ranges 70
ReportQueries 71
Reports 73
行 74

第 4 章 メソッド 79
Accumulation メソッド 87
Activate メソッド 89
Active メソッド 90
ActiveReport メソッド 91
Add メソッド (CategoryList) 92
Add メソッド (Columns、Layers、Rows) 95
Add メソッド (Exceptions) 96
Add メソッド (Graphs) 97

Add メソッド (Ranges) 99
Add メソッド (ReportQueries) 100
Add メソッド (Reports) 102
AddBlanks メソッド (Reporter) 104
Addition メソッド (コレクション) 106
Addition メソッド (オブジェクト) 107
AddLevel メソッド 108
AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter) 111
AddToReport メソッド 112
AddToReportAtSpecificNestingLevel メソッド 115
Average メソッド (コレクション) (Reporter) 118
Average メソッド (オブジェクト) (Reporter) 120
CanDrillDown メソッド. 121
CanDrillUp メソッド. 122
Category メソッド 123
CategoryList メソッド 125
CellValue メソッド 126
Change メソッド 128
ChangeToParent メソッド 129
ChangeToTop メソッド 130
Children メソッド 130
Close メソッド. 132
Columns メソッド 133
Copy メソッド. 134
CumPercentOfBase メソッド 135
Cut メソッド (Reporter) 137
DeleteExplorerRank メソッド 138
DeleteAllDataSourceInfo メソッド 139
DeleteAllMDCAccessInfo メソッド 140
DeleteDataSourceInfo メソッド 141
DeleteMDCAccessInfo メソッド 143
DeleteSelected メソッド. 144
DeploymentOptions メソッド. 145
Depth メソッド 146
DimensionFilter メソッド 147
DimensionLine メソッド 149
Division メソッド. 150
DrillDown メソッド 152
DrillUp メソッド 153
Exceptions メソッド 154
Exclude メソッド 155
Execute メソッド 157
Exponentiation メソッド 159
Find メソッド 161
FindNext メソッド 163
FindPrevious メソッド 166
Forecast メソッド (Explorer) 170
GetDataNow メソッド 172
Graphs メソッド 173
HasParent メソッド 174
Hide メソッド 175
HideSelected メソッド 176
HideUnselected メソッド 178
Include メソッド 179
Item メソッド 181
ItemAtLevel メソッド 182

Layers メソッド 184
Level メソッド 185
Levels メソッド 187
Logon メソッド 188
Logoff メソッド 190
Maximize メソッド 191
Maximum メソッド (コレクション) (Reporter) 191
Maximum メソッド (オブジェクト) (Reporter) 193
Minimize メソッド 195
Minimum メソッド (コレクション) (Reporter) 195
Minimum メソッド (オブジェクト) (Reporter) 197
Multiplication メソッド (コレクション) 198
Multiplication メソッド (オブジェクト) 200
New メソッド 201
Open メソッド (Reports) 203
Open メソッド (Report) 205
OpenRemoteReport メソッド 207
Parent メソッド 209
Paste メソッド (Reporter) 210
PDFFile メソッド 211
Percent メソッド 213
PercentGrowth メソッド 214
PercentOfBase メソッド 216
Print メソッド 217
PrintOut メソッド 219
PublishToPortal メソッド 220
Quit メソッド 221
Ranges メソッド 222
Rank2 メソッド 223
Remove メソッド 226
Remove メソッド (ReportQueries) 227
RemoveLevel メソッド 229
ReportQueries メソッド 231
Reports メソッド 232
ResetPrintOptionsToDefault メソッド 233
Restore メソッド 234
Rollup メソッド 235
Rows メソッド 236
Save メソッド 237
SaveAs メソッド 239
Select メソッド 241
SelectAllDimensions メソッド 242
SelectBlank メソッド 243
SetChartToPrint メソッド 245
SetChartToSave メソッド 246
SetDataSourceInfo メソッド 247
SetDrivingCategory メソッド 250
SetListOfLayersToPrint メソッド 251
SetListOfLayersToSave メソッド 253
SetListOfRowsToPrint メソッド 254
SetListOfRowsToSave メソッド 255
SetMacro メソッド 257
SetMDCAccessInfo メソッド 258
SetType メソッド 260
SizeSelected メソッド 261
Sort メソッド 262

StyleSelected メソッド 265
Subset メソッド 266
Subtraction メソッド (コレクション) 267
Subtraction メソッド (オブジェクト) 269
SwapColumnsAndLayers メソッド 270
SwapRowsAndColumns メソッド 271
SwapRowsAndLayers メソッド 272
UnhideAllCategories メソッド 273
Unselect メソッド. 274
UnselectAllDimensions メソッド. 275
UnselectBlank メソッド. 276
UpdatePublishedReport メソッド 278
ValueRestriction メソッド 278
Vertical メソッド 280

第 5 章 プロパティー 283
Application プロパティー 292
AutomaticExceptions プロパティー 294
AutomaticExceptionSensitivity プロパティー. 295
Average プロパティー 297
AxisOnAllPages プロパティー 298
BlankWhenDividedByZero プロパティー 299
BlankWhenMissing プロパティー 300
BlankWhenZero プロパティー 301
CalculatedCategories プロパティー 303
Caption プロパティー 304
CellText プロパティー 305
CellValueAlignment プロパティー 306
CellValueFontColor プロパティー 307
CellValueFontName プロパティー 309
CellValueFontSize プロパティー 311
ChartTitleOnAllPages プロパティー. 312
Collate プロパティー. 314
Copies プロパティー. 315
Count プロパティー 316
CubeName プロパティー 318
DataGridlines プロパティー 319
DefaultAlternateDirectory プロパティー 320
DefaultCubeDirectory プロパティー. 321
DefaultMacroDirectory プロパティー 322
DefaultReportDirectory プロパティー 323
Dimension プロパティー 324
DimensionLineIndex プロパティー 325
DimensionSettings プロパティー. 327
DrivingCategory プロパティー 328
DrivingDimension プロパティー. 329
Each プロパティー 330
EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー 331
EnableUserRowSummaryLabel プロパティー. 333
Exception プロパティー. 334
ExplorerMode プロパティー 335
FitToPage プロパティー. 336
FooterText プロパティー 337
FullName プロパティー. 340
GetDataAutomatically プロパティー 341
HeaderText プロパティー 342

HideRankCategory プロパティー 344
IncludeLegend プロパティー 345
IndentTotalsLevel プロパティー 347
Index プロパティー 348
Intersect プロパティー 349
IsAlternate プロパティー 350
IsCalculatedCategory プロパティー 352
KeepSummaryVisible プロパティー 353
LabelAlignment プロパティー 354
LabelFontColor プロパティー 355
LabelFontName プロパティー 357
LabelFontSize プロパティー 358
LabelGridlines プロパティー 360
Layout プロパティー 361
Level プロパティー 362
LevelList プロパティー 364
LevelsDown プロパティー 365
LogonPrompt プロパティー 367
LowerBoundary プロパティー 368
LowestLevel プロパティー 369
MacroName プロパティー 370
MacroStyle プロパティー 371
MaximumNumberOfRanges プロパティー 372
MaxPrintedBars プロパティー 373
MaxVisibleBars プロパティー 374
Measure プロパティー 376
MeasureCurrency プロパティー 377
Name プロパティー 379
NamesShown プロパティー 380
NestedCharts プロパティー (Explorer) 381
NestedName プロパティー 383
Operand1 プロパティー 384
Operand2 プロパティー 386
Operator プロパティー 388
ParentCategory プロパティー 390
Path プロパティー 391
Pattern プロパティー 392
Precedence プロパティー 395
PrintAllCharts プロパティー 397
PrintColorsAsPatterns プロパティー 399
PrintEntireReport プロパティー 400
PrintPageLayout プロパティー 401
PrintSelectedDisplay プロパティー 402
PromptForCurrency プロパティー 403
PromptForDimension プロパティー 405
PromptForLongShortNames プロパティー 406
PromptForSwapRowsAndColumns プロパティー 407
PromptForZeroSuppression プロパティー 408
RefreshSubCube プロパティー 409
SaveAllCharts プロパティー 411
Saved プロパティー 412
SaveEntireReport プロパティー 413
SearchDescription プロパティー 415
SearchShortName プロパティー 416
SearchText プロパティー 417
ShareDimensionLine プロパティー 419

ShareOf プロパティー 420
ShowSummaryBreakdown プロパティー (Explorer) 421
ShowSummaryColumn プロパティー (Explorer) 423
ShowSummaryRow プロパティー (Explorer). 424
ShowTies プロパティー 425
ShowValuesAs プロパティー (Explorer) 426
StatsLineCaption プロパティー 427
StatsLineColor プロパティー 429
StatsLineOn プロパティー 431
StatsLineStyle プロパティー 432
StatsLineUserValue プロパティー 434
Style プロパティー 435
Sum プロパティー 436
SummariesOnAllPages プロパティー 437
SummaryColumnOnAllPages プロパティー 439
SummaryRowOnAllPages プロパティー 440
Suppress8020 プロパティー (Explorer) 441
SuppressZeros プロパティー 443
Threshold プロパティー. 444
TitleText プロパティー 445
TopLevelCategory プロパティー (Explorer) 447
TopLevelParentCategory プロパティー. 449
Type プロパティー 450
UpperBoundary プロパティー 451
UseFontSubstitution プロパティー 452
UserControl プロパティー 453
UserColumnSummaryLabel プロパティー. 454
UserRowSummaryLabel プロパティー 455
UseScrolling プロパティー 457
ValuesAutoFit プロパティー 458
ValuesFontColor プロパティー 459
ValuesFontName プロパティー 461
ValuesFontSize プロパティー 462
ValuesFontStyle プロパティー. 464
ValuesPosition プロパティー 465
ValuesShown プロパティー 466
Version プロパティー 467
Visible プロパティー. 468

第 6 章 管理マクロ 471
管理マクロの作成 471
After Doc Open マクロ. 472
AppClose マクロ 473
AppOpen マクロ 474
DocClose マクロ 476
DocOpen マクロ 477
Highlight Exceptions マクロ 478

特記事項. 481

索引 485

はじめに

このドキュメントには、IBM® Cognos® PowerPlay® Client のタスクに OLE オートメーションを使用する方法についての情報が記載されています。

情報の入手方法

Web で製品資料 (各国語版のすべての資料を含む) を検索するには、IBM Knowledge Center (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter) にアクセスしてください。

ユーザー補助機能

現在 IBM Cognos PowerPlay Client では、アクセシビリティー機能はサポートされていません。アクセシビリティー機能とは、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体の不自由な方に製品をご使用いただけるように支援する機能のことです。

将来の見通しに関する記述

このドキュメントには製品の現在の機能が記載されています。現在利用できない項目への言及が含まれる場合もありますが、将来的に使用可能になることを示唆するものではありません。このような言及は、なんらかの資料、規約、または機能を提供するという誓約、保証、または法的義務ではありません。特性や機能の開発、公開、およびその時期に関しては、引き続き IBM が単独裁量権を有します。

サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名前のすべてのバリエーション、および Planning サンプルでは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用されるサンプル・データにより、架空の企業活動が描出されています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係がありません。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、版権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。許可なく複製することは禁止されています。

第 1 章 PowerPlay OLE オートメーション

IBM CognosScript 言語を使用してマクロを作成することにより、OLE オートメーションを使用した IBM Cognos PowerPlay タスクの自動化を実現できます。

次のツールを使用してマクロを作成できます。

- IBM Cognos Series 7 CognosScript Editor

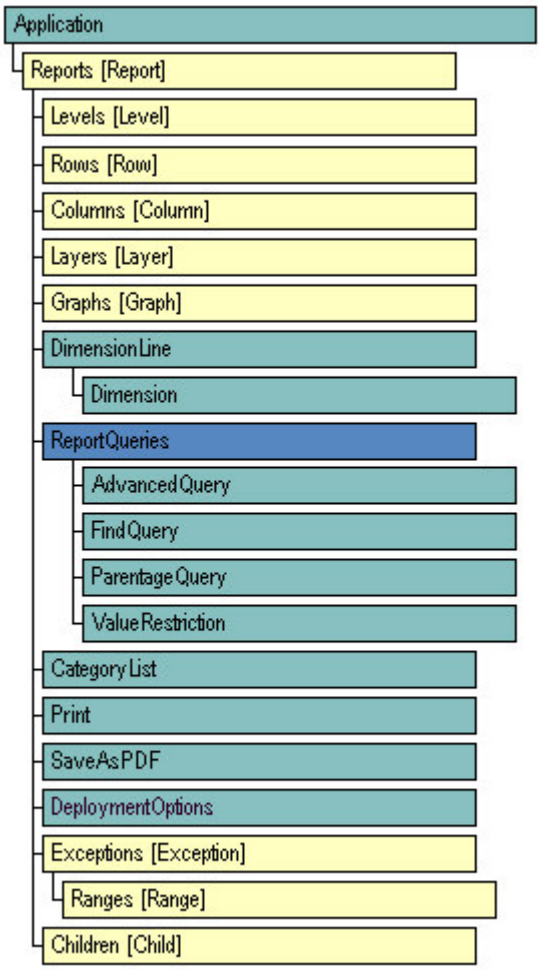
  IBM Cognos PowerPlay には CognosScript Editor は含まれていません。IBM Cognos Series 7 CognosScript Editor を使用して、 IBM Cognos PowerPlay のマクロを作成し、実行することができます。詳細については、IBM Cognos Series 7 CognosScript Editor「参照ガイド」を参照してください。
- Microsoft Visual Basic

  詳細については、 3 ページの『CognosScript 言語とさまざまなバージョンの Basic 言語との比較』を参照してください。
- メモ帳などのテキスト・エディター
- テキスト・エディターを使用してマクロを作成する場合、エディターからのマクロのコンパイルや実行はできません。マクロのコンパイルと実行には、IBM Cognos Series 7 CognosScript Editor、または、これと互換性のある Microsoft Visual Basic for Applications などのマクロ・エディターを使用する必要があります。

PowerPlay アプリケーションの階層

PowerPlay アプリケーションの階層は、動作を相互に依存するオブジェクトとコレクションの論理ツリー構造で編成されます。ツリー構造には、プロパティーまたはメソッドを使用して別のオブジェクトの動作と特性を制御する前に必要なオブジェクトが表示されます。

次の図には、コレクションとオブジェクトの関係、またコレクションとオブジェクトが階層に表示される順序が示されています。



関連トピック

- 『マクロ・スクリプトの設計』
- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 471 ページの『第 6 章 管理マクロ』

マクロ・スクリプトの設計

マクロ・スクリプトを作成するには、エラー処理、スケジュール指定、および配布について考慮する必要があります。

エラーの取り扱い

スクリプトは、徹底的にデバッグしても、存在しないファイルや使用不能なファイルを開こうとするスクリプトの実行などのエラーが発生します。IBM Cognos PowerPlay では、エラーが発生しても、エラーに対する処置を行って処理を続行できます。ただし、マクロは、エラーが発生すると停止します。マクロにエラーを処理する命令が含まれていないと、残りのマクロ命令は実行されません。

マクロの作成におけるポイントは、特定条件に過度に依存しないマクロを作成することです。たとえば、ユーザーから厳密で正確な入力を必要とするようなマクロは作成しないでください。IF ステートメントを含むようなマクロを構成すると、ユーザーの応答を予測できます。

マクロを正常に機能させるには、次の処理を実行する必要があります。

- マクロによって開かれたが、ユーザーが必要としなくなったドキュメントを閉じる。
- 保存の必要なファイルを保存するか、または保存のプロンプトを表示する
- マクロによって変更された可能性のあるオプションの全設定を復元しておく。
- テンポラリー・ファイルを削除する。

スケジュール

IBM Cognos Series 7 Scheduler を使用してマクロを実行する場合は、マクロ実行に必要な時間を推定します。時間がかかる処理を実行する場合は、ネットワーク動作を最小限にするため、マクロをオフピーク時に実行するように指定できます。ただし、大きなマクロが非常に多く、他のルーチン・ネットワーク動作と重なると、マクロが正常に実行されないことがあります。

配布

使用可能な任意のファイル配布メソッドを使用して、モデル、キューブ、レポート、およびマクロを配布できます。

モデル、キューブ、およびレポートの配布を自動化する PowerPlay 戦略を定義するには、次のことが必要です。

- 定期的に変更または更新するモデル、ビュー、キューブ、およびレポートの識別など、反復タスクを識別する
- ファイルが必要なユーザーまたはユーザー・グループのリストを作成する
- 各ユーザーまたはユーザー・グループが更新情報を受け取る方法および時期を明確にする

CognosScript 言語とさまざまなバージョンの Basic 言語との比較

次に、CognosScript とさまざまなバージョンの Microsoft Basic との相違点について理解するのに役立つ情報を説明します。 IBM Cognos Series 7 CognosScript Editor の代わりに Microsoft Basic でマクロを作成して実行することを計画している場合には、これらの相違点を考慮する必要があります。

Basic には、よく知られているバージョンがいくつかありますが、その中で最も頻繁に使用されているのが Microsoft Visual Basic と Word Basic です。CognosScript 言語では、関数や文の最も中心となる部分はこれらの Basic 言語に共通していますが、それぞれ独自の機能も備えています。

CognosScript 言語と Visual Basic との違い

CognosScript 言語は、Microsoft Visual Basic に似ていますが、重要な相違点もいくつかあります。次に示すトピックでは、CognosScript 言語と Visual Basic の相違点をいくつか説明しています。

CognosScript 言語に独自の関数および文

CognosScript 言語には、Visual Basic の標準バージョンにはない文や関数がいくつかあります。

そのような文や関数のいくつかを以下に示します。

- $CStrings メタコマンド
- $Include メタコマンド
- $NoCStrings メタコマンド
- GetField$ 関数
- SetFields$ 関数
- Assert 文

コントロール・ベースのオブジェクト

CognosScript 言語には、Visual Basic 形式のコントロール・ベースのオブジェクトはありません。そのため、"BorderStyle" などの Visual Basic のプロパティーは、CognosScript 言語に組み込まれていません。これは、CognosScript 言語では、BorderStyle をプロパティーとして持つオブジェクトの定義ができないという意味ではありません。アプリケーションに組み込まれているオブジェクトの多くは、統合化の過程で定義されるためです。

CognosScript 言語と Microsoft Visual Basic for Applications との違い

Microsoft は、Visual Basic for Applications という変更版の Visual Basic を一部の製品で提供しています。CognosScript 言語に特有の関数や文の他にも、CognosScript 言語と Microsoft Visual Basic for Applications には相違点があります。

Microsoft Visual Basic for Applications では、次のように処理されます。

- Global Const が Const として扱われる。相当機能は Public Const になります。
- Declare 文の動作に次の違いがある。
  - 関数への定義の転送が使用できない。
  - BasicLib 属性が認識されず、Lib に変換する必要がある。
  - 前に「#」付けなければ、Ordinal 属性が外部 DLL のプロシージャーの序数として扱われない。
- Input 文または Line Input 文の形式で要求されたユーザー入力を使用できない。
- Print 文をファイル番号なしで使用するときには、相当機能の Debug.Print 文に変更する必要がある。

- クリップボード・オブジェクトにアクセスできない。
- Erl 関数が認識されない。

ダイアログ・ボックス機能と Microsoft Visual Basic for Applications

Microsoft Visual Basic for Applications には、ダイアログ・ボックスを作成または実行する構文がありません。一方、CognosScript 言語では、ダイアログ・ボックスを使用するための一連の関数や文 (Word と類似) があります。

Microsoft Visual Basic for Applications にはダイアログ・ボックスを取り扱う文や関数があります。ただし、CognosScript のダイアログ関数や文は、Visual Basic for Applications では直接動作しません。カスタム・ユーザー・フォームにダイアログ・スクリプトを移植する必要があります。

CognosScript 言語と Word Basic との違い

Word Basic は、以前のバージョンの Microsoft Word に付属していた Visual Basic です。Word Basic では、ダイアログ・ボックスはサポートされていますが、オブジェクトはサポートされていません。次のトピックでは、CognosScript 言語と Word Basic の相違点をいくつか説明しています。

ダイアログ・ボックス機能

CognosScript 言語と Word のダイアログ・ボックス機能は非常に似ていますが、Word には DlgFilePreview などのように CognosScript 言語にはない文や関数がいくつかあり、

同様に CognosScript 言語にも Word にはない、次のような機能がいくつかあります。

- ボタン
- ButtonGroup
- キャプション
- DropComboBox
- StaticComboBox

特定のダイアログ・ボックスをサポートするために、CognosScript 言語では Word Basic よりも前に、ダイアログ・ボックスのオプションがいくつかサポートされていました。その後、Word Basic でもこれらのオプションに対応する構文がサポートされるようになりました。その結果、これらの 2 つの言語間では、ダイアログ・ボックスの取り扱い方法に違いが生じるようになりました。

Button と PushButton

Button は CognosScript 言語独自の構文で、PushButton は Word Basic の構文です。これら 2 つは交換可能で、CognosScript Editor では両方ともサポートされています。PushButton を使用することを推奨します。

ダイアログ・ボックスの単位

2 つのダイアログ・ボックス構文で使用される測定単位は異なります。CognosScript Editor では両方ともサポートされているので、どちらか一方を選択して使用できます。

オリジナルの CognosScript の単位をベースにしたスクリプトを作成しているクライアントが多いため、例文ではこの単位が使用されています。このため Word の単位を使用した場合、例文で作成したダイアログ・ボックスでは、不自然に表示される場合があります。

ユーザー入力のしくみ

ユーザー入力のしくみには、異なるものがいくつかあります。

次の表はそのような違いを示します。

CognosScript 言語	**Word Basic**
StaticComboBox または ComboBox (CognosScript 言語では交換可能)	ComboBox (Word Basic ではこの構文のみをサポート)。
DropComboBox	N/A

第 2 章 オブジェクト

IBM Cognos PowerPlay OLE オートメーションでは、次のオブジェクトを使用します。

名前	説明
AdvancedQuery オブジェクト	サブセット定義で指定された特定の基準に基づくカテゴリーを含む、詳細クエリーを表します。
Application オブジェクト	このオブジェクトは PowerPlay のメインとなる Application オブジェクトです。
CategoryList オブジェクト	多次元キューブのカテゴリー・リストを管理します。
Child オブジェクト	コレクションに含まれる特定の Child オブジェクトを参照します。
Column オブジェクト	レポートに含まれる列の操作に使用するオブジェクトです。
Dimension オブジェクト	PowerCube からの DimensionLine オブジェクト内にあるディメンションを含むオブジェクトです。
DimensionLine オブジェクト	Dimension オブジェクトのリストを管理します。
Exception オブジェクト	レポートに、新しいハイライトを定義します。
FindQuery オブジェクト	カテゴリー内で、特定の文字列を検索します。
Graph オブジェクト	PowerPlay レポートでグラフ表示を操作できるようにします。
Layer オブジェクト	レポートに含まれるレイヤーを操作するためのオブジェクトです。
Level オブジェクト	レポート内にあるレベルを返すためのオブジェクトです。
ParentageQuery オブジェクト	レポートにあるレベルに基づいて、クエリーを実行する。

名前	説明
Print オブジェクト	PowerPlay レポートの印刷パラメーターを操作して、印刷を開始するためのオブジェクトです。
Range オブジェクト	数値範囲を指定するためのオブジェクトです。PowerPlay レポート内のハイライトを設定するために使用します。
Report オブジェクト	1 つ以上のキューブからのデータを含むオブジェクトです。
Row オブジェクト	レポートに含まれる行を操作するためのオブジェクトです。
SaveAsPDF オブジェクト	レポートを PDF ファイル (.pdf) 形式で保存します。
ValueRestriction オブジェクト	指定された値の範囲外にある値、または指定された範囲内にある値に基づいて、AdvancedQuery の結果に制限を適用します。

AdvancedQuery オブジェクト

サブセット定義で指定された特定の基準に基づくカテゴリーを含む、詳細クエリーを表します。

解説

AdvancedQuery オブジェクトは、次のうち 1 つ以上の基準を使用してレポートに表示するカテゴリーを指定します。

- ディメンション
- ドリルダウン・パス
- 1 つ以上のレベル
- 1 つ以上の限定子 (オプション)
- 1 つ以上の検索クエリー (オプション)

基準の組み合わせをクエリーと呼びます。クエリーをレポートに含めると、基準で指定されたカテゴリーがレポートに追加されます。レポートを開くたびに、クエリーが自動的に再実行されます。指定された基準に適合する新しいカテゴリーがレポートに表示され、基準に適合しなくなったカテゴリーはレポートに表示されません。

クエリー機能を最大限に活用するには、AdvancedQuery で FindQuery サブセットの結果を使用します。最初に FindQuery オブジェクトを作成し、次にサブセット・データを AdvancedQuery で使用します。

AdvancedQuery オブジェクトと FindQuery オブジェクトに含まれる、Item インデックスの初期値は 1 です。

Find クエリーは、最下位レベルのみに適用されます。

AdvancedQuery に複数のレベルがあり、ValueRestriction クエリーを含む場合、値制限は最下位レベルのみに適用されます。AdvancedQuery ごとの値制限は、1 つのみ使用できます。

AdvancedQuery では、クエリーが有効のときは、ディメンションを変更しないでください (変更すると、すべてのレベルが無効になります)。

AdvancedQuery におけるサブセット定義の順序と構造は、次のとおりです。

Name

Dimension

Level

Find

Include

Exclude

ValueRestriction

Execute

AddToReport

名前	説明
AddToReport メソッド	クエリー結果をレポートに追加する。
Exclude メソッド	クエリーから除外するカテゴリーを設定する。
Execute メソッド	キューブで詳細クエリーを実行する。
Find メソッド	AdvancedQuery に含める FindQuery オブジェクトの名前を指定する。
Include メソッド	クエリーに含めるカテゴリーを設定する。
Item メソッド	AdvancedQuery オブジェクトからカテゴリーを返す。
Level メソッド	クエリーでカテゴリーを検索するための AdvancedQuery オブジェクトで使用されるレベルを設定する。

名前	説明
Remove メソッド	ReportQueries コレクションから AdvancedQuery オブジェクトを削除する。
ValueRestriction メソッド	AdvancedQuery オブジェクトの値制限を返す。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	サブセットを満たすカテゴリー数を示す値を返す。
Dimension プロパティー	カテゴリーの取得元ディメンションを設定するか、設定状態を返します。
LevelList プロパティー	指定されたドリルダウン・パスのレベル・リストを返します。
Name プロパティー	サブセットの名前を設定する、または設定状態を返す。
Type プロパティー	クエリー・オブジェクトのタイプを返す。

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。次に、Find サブセット定義の結果を使用して、AdvancedQuery (タイプ 3) サブセット定義を作成します。最後に、「Star」で始まる"Products"のサブセットを列としてレポートに追加します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
```

```
        .SearchShortName = False
        .SearchText = "Star"
        .Pattern = 2
    End With
    Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
    With objAdvanced
        .Name = "Star Products"
        .Dimension = "Products"
        .Level "Product Id"
        .Find objFind.Name
        .Execute
        .AddToReport 1,1,3
    End With
    Set objAdvanced = Nothing
    Set objFind = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 25 ページの『FindQuery オブジェクト』
- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 71 ページの『ReportQueries』
- 231 ページの『ReportQueries メソッド』

Application オブジェクト

これは、IBM Cognos PowerPlay のメインの Application オブジェクトです。

解説

Application オブジェクトを使用して、アプリケーションを制御します。OLE オートメーション・スクリプト内から PowerPlay を起動します。オブジェクト変数を宣言してから、CreateObject メソッドを使用して PowerPlay Application オブジェクトを作成します。

次の方法で Application オブジェクトを選択できます。

- CreateObject("CognosPowerPlay.Application") により、別の PowerPlay のインスタンスを起動する
- GetObject (,"CognosPowerPlay.Application") により、アクティブなアプリケーションを選択する
- 他のオブジェクトに Application メソッドを使用する

名前	説明
Activate メソッド	Application オブジェクトにフォーカスを設定する。
Active メソッド	アクティブな Report オブジェクトを返す。
139 ページの『DeleteAllDataSourceInfo メソッド』	すべての PowerCube について、セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除する。
DeleteAllMDCAccessInfo メソッド	すべてのキューブについて、PowerCube セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除する。
DeleteMDCAccessInfo メソッド	指定されたキューブについて、PowerCube セキュリティーのアクセス情報をメモリーから削除する。
Maximize メソッド	Application オブジェクト・ウィンドウを最大化する。
Minimize メソッド	Application オブジェクト・ウィンドウを最小化する。
Quit メソッド	PowerPlay を終了します。
Reports メソッド	1 つの Report オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
Restore メソッド	Application オブジェクト・ウィンドウを元のサイズと位置に戻す。
SetDataSourceInfo メソッド	データ・ソースのセキュリティー情報をメモリーに保存する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Caption プロパティー	Application オブジェクト・ウィンドウのタイトルを返します。
DefaultAlternateDirectory プロパティー	読み取り専用レポートに対する更新を保存するディレクトリーを設定するか、設定状態を返します。
DefaultCubeDirectory プロパティー	多次元キューブ・ファイル (.mdc) のデフォルト・パスを設定する、または設定状態を返す。

名前	説明
DefaultMacroDirectory プロパティー	マクロ・ファイルのデフォルト・パスを設定するか、設定状態を返します。
DefaultReportDirectory プロパティー	PowerPlay レポート・ファイルのデフォルト・パスを設定するか、設定状態を返します。
FullName プロパティー	Application オブジェクトの場所を含む完全な名前を返す。
LogonPrompt プロパティー	ログオンまたはセキュリティー情報に関するプロンプトを、アプリケーションで表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Name プロパティー	Application オブジェクトの名前を返す。
Path プロパティー	Application オブジェクトのパスを返す。
RefreshSubCube プロパティー	サブキューブを自動的に最新の情報に更新するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShareDimensionLine プロパティー	開いているレポートがディメンション・ラインを共有するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
UserControl プロパティー	Application オブジェクトがユーザーの制御下にあるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Version プロパティー	PowerPlay のバージョン番号を返します。
Visible プロパティー	Application オブジェクトがユーザーに表示されるかどうかを設定する、または設定状態を返す。

例

次の例は、PowerPlay Application オブジェクトのインスタンスを作成し、いくつかのプロパティーをユーザーに表示します。実行中の PowerPlay アプリケーションにリンクするには、CreateObject 関数を GetObject 関数に置き換えます。

```
Sub Main()
   Dim objPPlayApp as Object
   Set objPPlayApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPlayApp.Visible = 1
   MsgBox "The name of the Application is " &objPPLayApp.Name
   MsgBox "The location of the Application is " _
```

```
    &objPPLayApp.Path
  MsgBox "The Application version is " &objPPLayApp.Version
  Set objPPlayApp = Nothing
End Sub
```

CategoryList オブジェクト

多次元キューブのカテゴリー・リストを管理します。

解説

CategoryList オブジェクトを使用して、キューブからカテゴリーを選択するか、またはカテゴリーを新規作成して、カテゴリーすべてまたは一部をレポートに追加します。

カテゴリーをレポートに追加するには、最初に Report メソッドである CategoryList メソッドを呼び出し、CategoryList オブジェクトを作成します。次に作成したオブジェクトを使用して、必要なカテゴリーを指定します。

これらのカテゴリーは、キューブに含まれる既存のカテゴリー、または CategoryList オブジェクトがレポートに渡されるときに新規作成されるカテゴリーです。Add メソッドを使用して MDC ファイルから既存のカテゴリーを選択するか、または Average、Intersection、および Sum プロパティーのうち 1 つ以上を True に設定してカテゴリーを新規作成します。

名前	説明
Add メソッド (CategoryList)	1 つ以上のカテゴリーを、CategoryList オブジェクトに追加する。
Remove メソッド	CategoryList オブジェクトからカテゴリーすべてを削除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Average プロパティ	CategoryList オブジェクトにある選択されたカテゴリーの平均値を計算するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Count プロパティー	CategoryList オブジェクトに含まれるカテゴリー数を返す。
Each プロパティー	選択されたカテゴリーと新規カテゴリーのすべて、または新規カテゴリーのみを Report オブジェクトに表示するように設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
Intersect プロパティー	異なるディメンションから、選択されたカテゴリーのインターセクト値を決定するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShareOf プロパティ	選択されたカテゴリーの値を上位レベルにあるカテゴリーの割合として表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Sum プロパティー	選択されたカテゴリーの合計を計算するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

例

次の例は、カテゴリーをレポートの列と行に追加します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objCatList as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great " & _
      "Outdoors.mdc", False
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList
   objPPRep.Visible = True
   objCatList.Add 1, "Products", "Outdoor Products"
   objPPRep.Columns.Add objCatList
   objCatList.Add 1, "Locations", "Far East"
   objPPRep.Rows.Add objCatList
   Set objCatList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Child オブジェクト

コレクションに含まれる特定の Child オブジェクトを参照します。

解説

Child オブジェクトは、コレクションから子の名前を取得する場合に使用します。Child オブジェクトを使用して、子カテゴリーの名前を指定することなく、ドリルダウン・パスに従ってカテゴリーを別のカテゴリーの 1 つ下のレベルに分離することができます。

Children コレクションから Item メソッドを使用して、Child オブジェクトの名前を取得することもできます。

名前	説明
Name プロパティー	Child オブジェクトの名前を設定する、または設定状態を返す。

例

次の例は、Rows コレクションの最初にあるカテゴリーの子の名前を取得して、その名前を表示します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFirstRow As Object
   Dim strChild As String
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objFirstRow = objPPRep.Rows.Item(1)
   strChild = objFirstRow.Children.Item(1).Name
   MsgBox strChild & " is a child of the " &
_
         objFirstRow.Name & " category.", , "Child
Object"
   Set objFirstRow = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 55 ページの『Children』
- 130 ページの『Children メソッド』

Column オブジェクト

レポートに含まれる列の操作に使用するオブジェクトです。

解説

Column オブジェクトを使用するには、最初に CategoryList オブジェクトからカテゴリーをレポートに追加するか、または既存のレポートを開きます。

Column オブジェクトの計算、ドリルアップ、ドリルダウン、非表示、ランク付け、削除を行うことができます。Columns コレクションに含まれる Column オブジェクトの場所を参照するには、インデックスを使用します。

Reporter モードでのみ使用可能なメソッドがあります。

名前	説明
Accumulation メソッド	Column オブジェクトに含まれるカテゴリーの値すべてを累計する。
Activate メソッド	Column オブジェクトにフォーカスを設定する。
Addition メソッド (オブジェクト)	定数値またはカテゴリーを Column オブジェクトに追加する。
AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter)	最下位レベルにある子カテゴリーをレポートに追加します。
Average メソッド (オブジェクト) (Reporter)	定数値または別のカテゴリーと、Column オブジェクトの平均を計算する。
CanDrillDown メソッド	Column オブジェクトをドリルダウンできるかどうかを返す。
CanDrillUp メソッド	Column オブジェクトをドリルアップできるかどうかを返す。
Children メソッド	Column オブジェクトの階層にある次の子を返す。
CumPercentOfBase メソッド	Row オブジェクトをベース・カテゴリーとして使用し、Base Column オブジェクトに対する累積パーセントを追加する。
Division メソッド	Column オブジェクトを、定数値または別のカテゴリーで除算する。
DrillDown メソッド	Column オブジェクトをドリルダウンする。
DrillUp メソッド	Column オブジェクトをドリルアップする。
Exponentiation メソッド	Column オブジェクトを、別のカテゴリーまたは定数値でべき乗する。
Hide メソッド	Column オブジェクトを非表示にする。
Maximum メソッド (オブジェクト) (Reporter)	Column オブジェクトと定数値、または別のカテゴリーの最大値を計算する。
Minimum メソッド (オブジェクト) (Reporter)	Column オブジェクトと定数値、または別のカテゴリーの最小値を計算する。
Multiplication メソッド (オブジェクト)	定数値または別のカテゴリーを Column オブジェクトに乗算する。

名前	説明
Percent メソッド	別のカテゴリー、または定数値を基準にした Column オブジェクトのパーセントを追加する。
PercentGrowth メソッド	2 つのカテゴリーまたは数値データ間の割合の変化を計算する。
PercentOfBase メソッド	Row オブジェクトをベース・カテゴリーとして使用し、Base Column オブジェクトに対するパーセントを追加する。
Rank2 メソッド	Row オブジェクトを、Column オブジェクトに基づいてランク付けしてソートする。
Remove メソッド	レポートから Column オブジェクトを削除する。
Rollup メソッド	算出値を持つカテゴリーをグループ化し、新しい動的計算を作成する。
Select メソッド	Column オブジェクトを選択する。
SelectBlank メソッド	特定の空白列を選択する。
Subtraction メソッド (オブジェクト)	Column オブジェクトから、定数値や別のカテゴリーを減算する。またはカテゴリーや定数値から、Column オブジェクトを減算する。
Unselect メソッド	Column オブジェクトの選択を解除する。
UnselectBlank メソッド	特定の空白列の選択を解除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
CellText プロパティー	セルに含まれるテキストを返します。
CellValueAlignment プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用された位置揃えを返します。
CellValueFontColor プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント色を返します。
CellValueFontName プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント名を返します。

名前	説明
CellValueFontSize プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント・サイズを返します。
Exception プロパティー	Column オブジェクトにハイライトを設定する、または設定状態を返す。
Index プロパティー	Columns コレクションに含まれる Column オブジェクトの場所を返す。
IsAlternate プロパティー	ドリルダウン・パスが主要または代替のどちらであるかを返します。
IsCalculatedCategory プロパティー	カテゴリーが算出カテゴリーであるかどうかを返します。
LabelAlignment プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用された位置揃えを返す。
LabelFontColor プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント色を返します。
LabelFontName プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント名を返します。
LabelFontSize プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント・サイズを返します。
Level プロパティー	ディメンションに含まれるカテゴリーのレベルを返します。
Name プロパティー	Column オブジェクトの名前を設定する、または設定状態を返す。
NestedName プロパティー	カテゴリーのネストされた名前を返します。
ParentCategory プロパティー	オブジェクトに対する親カテゴリーの名前を返します。
Precedence プロパティー	複雑な計算に使用される優先順位を設定するか、設定状態を返します。
Style プロパティー	Column オブジェクトに使用されるスタイルを設定する、または設定状態を返す。
TopLevelParentCategory プロパティー	オブジェクトのディメンション名を返します。

例

次の例は、レポートを開き、Columns コレクションで Column オブジェクト "Tents"を検索し、名前を"Old Tents"に変更して、レポートを保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\sample1.ppr"
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Tents")
   objPPCol.Name = "Old Tents"
   objPPRep.Save
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』

Dimension オブジェクト

PowerCube からの DimensionLine オブジェクト内にあるディメンションを含むオブジェクトです。

解説

Dimension オブジェクトは、DimensionLine オブジェクトに含まれるディメンションに対するデフォルト設定の変更、またはディメンションのプロパティー決定に使用します。各 Dimension オブジェクトには、カテゴリーの異なるレベルが含まれます。オブジェクトは、アイテムを行、列、またはレイヤーで参照するために使用します。

また、特殊カテゴリーと代替ドリル・パスは、OLE オートメーションで認識されます。たとえば、ディメンション"Years"に、標準カテゴリー"1995"と"1996"、および特殊カテゴリーと代替ドリル・パスを表す"Current Month"、"QTD"、"Last Month"の 3 つのカテゴリーがあると仮定します。

"Years"ディメンションに次の Count を実行します。

```
Msgbox Report.DimensionLine.Item("Years").Count
```

標準カテゴリーおよび特殊カテゴリーすべてが OLE オートメーションに認識されるため、「5」が返されます。

次のように名前で指定すると、特殊カテゴリーにフィルターをかけることができます。

```
Report.DimensionLine.Item("Years").Change("Current Month")
```

名前	説明
Change メソッド	Dimension オブジェクトに対する現在のカテゴリーを変更する。
ChangeToParent メソッド	Dimension オブジェクトに対する現在のカテゴリーを、1 つ上のレベルにあるカテゴリーに変更する。
ChangeToTop メソッド	Dimension オブジェクトの現在のカテゴリーを、最上位レベルにあるカテゴリーに変更する。
Children メソッド	現在のディメンションの階層にある次の子カテゴリーを返す。
HasParent メソッド	現在のカテゴリーに親があるかどうかを返す。
Levels メソッド	ディメンションに含まれるカテゴリーに使用可能なレベルすべてを返す。
Parent メソッド	親カテゴリーの名前を返す。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
BlankWhenDividedByZero プロパティー	ゼロで除算した数値を、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定する、または設定状態を返す。
BlankWhenMissing プロパティー	欠落値を、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。
BlankWhenZero プロパティー	数値のゼロを、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定する、または設定状態を返す。
Count プロパティー	現在のカテゴリーより 1 つ下のレベルにあるカテゴリー数を返す。
Index プロパティー	DimensionLine オブジェクトに含まれる Dimension オブジェクトの場所を返す。
IsAlternate プロパティー	ドリルダウン・パスが主要または代替のどちらであるかを返します。
IsCalculatedCategory プロパティー	カテゴリーが算出カテゴリーであるかどうかを返します。

名前	説明
Level プロパティー	ディメンションに含まれるカテゴリーのレベルを返します。
Measure プロパティー	指定した通貨に使用する値または記号を設定するか、設定状態を返します。
Name プロパティー	Dimension オブジェクトの名前を設定する、または設定状態を返す。
Visible プロパティー	Dimension Line オブジェクトがユーザーに表示されるかどうかを設定する、または設定状態を返す。

例

次の例は、現在のレポートに含まれる DimensionLine オブジェクトに対する現在の 2 つのカテゴリー ("Years"ディメンションと"Products"ディメンションのカテゴリー) を変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPDim1 as Object
   Dim objPPDim2 as Object
   Set objPPRep = GetObject("c:\cognos\change.ppr")
   Set objPPDim1 = objPPRep.DimensionLine.Item("Years")
   Set objPPDim2 = objPPRep.DimensionLine.Item("Products")
   objPPDim1.Change ("1996")
   objPPDim2.Change ("Outdoor Products")
   Set objPPDim2 = Nothing
   Set objPPDim1 = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『DimensionLine オブジェクト』

DimensionLine オブジェクト

Dimension オブジェクトのリストを管理します。

解説

DimensionLine オブジェクトには、キューブの各ディメンションからデータのフィルターに使用するカテゴリーが含まれます。DimensionLine オブジェクトには、Dimension オブジェクトが含まれます。

レポートのディメンション・ラインに対する表示設定を自動的に変更できます。レポートを開くとき、またはレポートを開いた後、DimensionLine をユーザーに対して非表示にすることができます。

名前	説明
Item メソッド	DimensionLine オブジェクトから、Dimension オブジェクトを返す。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	DimensionLine オブジェクトに含まれる Dimension オブジェクトの個数を返す。
Visible プロパティー	DimensionLine オブジェクトがユーザーに表示されるかどうかを設定する、または設定状態を返す。

例

次の例は、現在のレポートに含まれる DimensionLine オブジェクトに対する現在の 2 つのカテゴリーを変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Sample.ppr")
   objPPRep.DimensionLine.Item("Years").Change ("1995")
   objPPRep.DimensionLine.Item("Products").Change _
       ("Go Sport Line")
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 20 ページの『Dimension オブジェクト』

Exception オブジェクト

レポートに、新しいハイライトを定義します。

解説

このオブジェクトは、レポート・データに含まれるハイライトを識別する際の基本です。ハイライトを使用して、指定した基準を満たすレポートに含まれる情報を強調表示できます。ハイライトを適用する範囲と適用するスタイルを定義する必要があります。レポートに含まれる情報がハイライト範囲で設定された条件を満たすと

きに、書式設定を適用する範囲を決定するには、UpperBoundary メソッドと LowerBoundary メソッドを使用します。Exception オブジェクトは、定義後にカテゴリーに適用できます。

名前	説明
Ranges メソッド	1 つの Range オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
Remove メソッド	Report オブジェクトから Exception オブジェクトを削除する。
SetDrivingCategory メソッド	Exception オブジェクトのドライブ・カテゴリーを設定する。
SetMacro メソッド	Exception オブジェクトで使用されるマクロの名前とスタイルを設定する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
DrivingCategory プロパティー	Exception オブジェクトのドライブ・カテゴリーを返します。
DrivingDimension プロパティー	Exception オブジェクトのドライブ・ディメンションを返します。
MacroName プロパティー	Exception オブジェクトに関連付けられたマクロの名前を設定するか、設定状態を返します。
MacroStyle プロパティー	マクロに関連付けられたスタイルの名前を設定する、または設定状態を返す。
Name プロパティー	Exception オブジェクトの名前を設定する、または設定状態を返す。

例

次の例は、レポートを開き、最初の Exception オブジェクトについてドライブ・フィールドを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Exception.ppr"
   MsgBox "Driving Category:" & _
      objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingCategory
```

```
   MsgBox "Driving Dimension:" & _
      objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingDimension
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

FindQuery オブジェクト

カテゴリー内で、特定の文字列を検索します。

解説

FindQuery オブジェクトを使用して、指定された SearchText 文字列と一致する個々のカテゴリーまたは全カテゴリーを検索します。サブセット定義で SearchText 文字列を指定するには、Patterns プロパティーを使用して詳細パターンを指定します。

FindQuery を使用してレポートに含まれるデータを検索すると、検索条件と一致するカテゴリーを検索できます。FindQuery を使用してキューブに含まれるデータを検索すると、指定された検索条件と一致する全カテゴリーを検索するクエリーが作成されます。また、FindQuery の結果を AdvancedQuery オブジェクトで使用できます。

FindQuery 検索は、レポートにある非表示カテゴリーを含みません。

FindQuery オブジェクトに含まれる Item インデックスの初期値は 1 です。

FindQuery における、サブセット定義 (FindQuery オブジェクトのコンポーネント) の順序と構造は次のとおりです。

- Name
- Dimension
- SearchShortName
- SearchDescription
- SearchText
- Pattern
- Execute
- AddToReport

FindQuery を AdvancedQuery オブジェクトと組み合わせて使用するには、最初に FindQuery を定義します。

名前	説明
AddToReport メソッド	クエリー結果をレポートに追加する。

名前	説明
Execute メソッド	キューブに対して検索を実行する。
Item メソッド	ReportQueries コレクションから FindQuery オブジェクトを返す。
Remove メソッド	ReportQueries コレクションから FindQuery オブジェクトを削除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	サブセットを満たすカテゴリー数を示す値を返す。
Dimension プロパティー	カテゴリーの取得元ディメンションを設定するか、設定状態を返します。
Name プロパティー	サブセットの名前を設定する、または設定状態を返す。
Pattern プロパティー	サブセット定義の検索基準を設定します。
SearchDescription プロパティー	FindQuery オブジェクトの使用時に、キューブに含まれるカテゴリーの説明を検索するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SearchShortName プロパティー	FindQuery オブジェクトの使用時に、短い形式または長い形式のどちらでカテゴリー名を検索するかを設定するか、設定状態を返します。
SearchText プロパティー	FindQuery クエリーのサブセット定義で使用される検索文字列を設定するか、設定状態を返します。
Type プロパティー	クエリー・オブジェクトのタイプを返す。

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery サブセット定義を作成します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
```

```
    Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
    objPPRep.New strCubePath, 1
    objPPRep.ExplorerMode = False
    objPPRep.Visible = True
    Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
    With objFind
       .Name = "Find Star"
       .Dimension = "Products"
       .SearchShortName = False
       .SearchText = "Star"
       .Pattern = 2
    End With
    Set objFind = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』
- 231 ページの『ReportQueries メソッド』
- 73 ページの『Reports』

Graph オブジェクト

IBM Cognos PowerPlay レポートでグラフ表示を操作できるようにします。

解説

Graph オブジェクトは、比較、関係、および傾向を伝達します。レポートに大きなサイズのデータがある場合は、データを表す別の手段として Graph オブジェクトを使用できます。また、Swap メソッドを使用してレポートに含まれるレイヤー、列を入れ替えるなど、Graph オブジェクトの属性を使用すると、データをより効果的に表示することもできます。Graph オブジェクトを追加および削除し、選択されたグラフ表示のタイプを決定できます。

名前	説明
Activate メソッド	Graph オブジェクトにフォーカスを設定する。
Depth メソッド	Graph オブジェクトが 3 次元 (3D) かどうかを返す。
Remove メソッド	レポートから Graph オブジェクトを削除する。

名前	説明
SetType メソッド	Graph オブジェクトのタイプを設定する。
Vertical メソッド	Graph オブジェクトが縦表示かどうかを返す。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
DataGridlines プロパティー	クロス集計でのグリッド線をオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。
EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計列に、ユーザー定義のラベルを使用するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
EnableUserRowSummaryLabel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計行に、ユーザー定義のラベルを使用するかどうか設定するか、設定状態を返します
HideRankCategory プロパティー	ランク・カテゴリーを非表示にするかどうかを設定するか、設定状態を返します。
IndentTotalsLevel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる集計セルの現在のインデント・レベルを設定するか、設定状態を返します。
Index プロパティー	Graphs コレクションに含まれる Graph オブジェクトの場所を返す。
KeepSummaryVisible プロパティー	スクロールするページすべてについて、合計カテゴリーを表示したままにするかどうかを設定するか、設定状態を返します。
LabelGridlines プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれるカテゴリー・ラベルに対するグリッド線をオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。
Layout プロパティー	ネストされたクロス集計の現在のレイアウト・スタイルを設定するか、設定状態を返します。
MaxPrintedBars プロパティー	印刷データの 1 ページに表示する、グラフ棒の最大数を設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
MaxVisibleBars プロパティー	スクロールするデータの 1 ページに表示する、グラフ棒の最大数を設定するか、設定状態を返します。
NamesShown プロパティー	円グラフの横にカテゴリー名を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
NestedCharts プロパティー (Explorer)	集計データを表す複数のグラフを、1 つのグラフに表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowSummaryBreakdown プロパティー (Explorer)	クロス集計に合計行および合計列の内訳を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowSummaryColumn プロパティー (Explorer)	合計列を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowSummaryRow プロパティー (Explorer)	合計行を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowTies プロパティー	ラベル連結を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
StatsLineCaption プロパティー	グラフに含まれる統計線のタイトルを設定するか、設定状態を返します。
StatsLineColor プロパティー	グラフに含まれる統計線の色を設定する、または設定状態を返す。
StatsLineOn プロパティー	グラフの統計線を設定するか、設定状態を返します。
StatsLineStyle プロパティー	グラフに含まれる統計線のスタイルを設定するか、設定状態を返します。
StatsLineUserValue プロパティー	グラフの統計線にカスタム値を設定します。
Type プロパティー	Graph オブジェクトのタイプを返す。
UserColumnSummaryLabel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計列について、ユーザー定義のラベルを設定するか、設定状態を返します。
UserRowSummaryLabel プロパティー	ネスト・クロス集計に含まれる最も内側の合計行について、ユーザー定義のラベルを設定するか、設定状態を返す。
UseScrolling プロパティー	スクロールを可能にするかどうかを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
ValuesAutoFit プロパティー	値ラベルをグラフ棒や円セグメントの中に収めるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ValuesFontColor プロパティー	グラフの値ラベルに使用するフォント色を設定するか、設定状態を返します。
ValuesFontName プロパティー	値ラベルに使用するフォント名を設定するか、設定状態を返します。
ValuesFontSize プロパティー	グラフの値ラベルに使用するフォント・サイズを設定するか、設定状態を返します。
ValuesFontStyle プロパティー	グラフの値ラベルに使用するフォント・スタイルを設定するか、設定状態を返します。
ValuesPosition プロパティー	一部のグラフ・タイプについて、値ラベルの位置を設定するか、設定状態を返します。
ValuesShown プロパティー	円グラフの横に値ラベルを表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。

例

次の例は、レポートを開き、レポートの最初にあるグラフの表示タイプを示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Graph.ppr"
   MsgBox "The type of graph is" & _
      objPPRep.Graphs.Item(1).Type & "."
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Layer オブジェクト

レポートに含まれるレイヤーを操作するためのオブジェクトです。

解説

Layer オブジェクトは、レポートに追加できる列および行とともに、3 番目のカテゴリーを表します。Layer オブジェクトの計算、ドリルアップ、ドリルダウン、非表示、ランク付け、削除を行うことができます。Layers コレクションに含まれる Layer オブジェクトの場所を参照するには、インデックスを使用します。

Row オブジェクトを使用するには、最初に CategoryList オブジェクトからカテゴリーをレポートに追加するか、または既存のレポートを開きます。

Reporter モードでのみ使用可能なメソッドがあります。

名前	説明
Activate メソッド	Layer オブジェクトにフォーカスを設定する。
Addition メソッド (オブジェクト)	定数値またはカテゴリーを Layer オブジェクトに追加する。
AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter)	最下位レベルにある子カテゴリーをレポートに追加します。
Average メソッド (オブジェクト) (Reporter)	定数値または別のカテゴリーと、Layer オブジェクトの平均を計算する。
CanDrillDown メソッド	Layer オブジェクトをドリルダウンできるかどうかを返す。
CanDrillUp メソッド	Layer オブジェクトをドリルアップできるかどうかを返す。
Children メソッド	Layer オブジェクトの階層にある次の子を返す。
Division メソッド	Layer オブジェクトを、定数値または別のカテゴリーで除算する。
DrillDown メソッド	Layer オブジェクトをドリルダウンする。
DrillUp メソッド	Layer オブジェクトをドリルアップする。
Exponentiation メソッド	Layer オブジェクトを、別のカテゴリーまたは定数値でべき乗する。
Maximum メソッド (オブジェクト) (Reporter)	Layer オブジェクトと定数値、または別のカテゴリーの最大値を計算する。
Minimum メソッド (オブジェクト) (Reporter)	Layer オブジェクトと定数値、または別のカテゴリーの最小値を計算する。

名前	説明
Multiplication メソッド (オブジェクト)	定数値または別のカテゴリーを Layer オブジェクトに乗算する。
Percent メソッド	別のカテゴリー、または定数値を基準にした Layer オブジェクトのパーセントを追加する。
Remove メソッド	Report オブジェクトから Layer オブジェクトを削除する。
Rollup メソッド	算出値を持つカテゴリーをグループ化し、新しい動的計算を作成する。
Select メソッド	Layer オブジェクトを選択する。
Subtraction メソッド (オブジェクト)	Layer オブジェクトから定数値または別のカテゴリーを減算するか、定数値または別のカテゴリーから Layer オブジェクトを減算する。
Unselect メソッド	Layer オブジェクトの選択を解除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Index プロパティー	Layers コレクションに含まれる Layer オブジェクトの場所を返す。
IsAlternate プロパティー	ドリルダウン・パスが主要または代替のどちらであるかを返します。
IsCalculatedCategory プロパティー	カテゴリーが算出カテゴリーであるかどうかを返します。
LabelFontColor プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント色を返します。
LabelFontName プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント名を返します。
LabelFontSize プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント・サイズを返します。
Level プロパティー	ディメンションに含まれるカテゴリーのレベルを返します。
NestedName プロパティー	カテゴリーのネストされた名前を返します。

名前	説明
ParentCategory プロパティー	オブジェクトに対する親カテゴリーの名前を返します。
Precedence プロパティー	複雑な計算に使用される優先順位を設定するか、設定状態を返します。
Style プロパティー	Layer オブジェクトに使用されるスタイルを設定する、または設定状態を返す。
TopLevelParentCategory プロパティー	オブジェクトのディメンション名を返します。

例

次の例は、開かれているレポートを取得し、最初と 2 番目にあるレイヤーを削除します。次に、最初にある新規レイヤーから 2 番目にある新規レイヤーを減算し、レイヤーすべてについて最大値を計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep AS Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Sample.ppr"
)
   objPPRep.Visible = 1
   objPPRep.ExplorerMode = 0
   objPPRep.Layers.Subset(1,2).Remove
   objPPRep.Layers.Subset(1,2).Subtraction
   objPPRep.Layers.Maximum
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』

Level オブジェクト

レポート内にあるレベルを返すためのオブジェクトです。

解説

レベルは、メンバー・カテゴリーすべてに共通の、またはデフォルトの属性を含むオブジェクトです。ディメンションに対してドリルダウンを実行すると、カテゴリーを任意のレベルから別のレベルにドリルダウンします。各 Dimension オブジェクトに含まれるデータは、一連の Level オブジェクトとして構成されます。各ディメンションは、1 つ以上のデータ・レベルを含むことができます。Levels コレクションに含まれる Level オブジェクトにアクセスするには、Item メソッドを使用します。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Name プロパティー	Level オブジェクトの名前を返す。

例

次の例は、Item メソッドを使用して、Levels コレクションからディメンションの Level オブジェクトにアクセスします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension As Object
   Dim objLevel As Object
   Dim intx As Integer
   Dim strLevelList As String
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item(1)
   For intx = 1 to objDimension.Levels.Count
      Set objLevel = objDimension.Levels.Item(intx)
      strLevelList = strLevelList & chr$(10) &
objLevel.Name
      Set objLevel = Nothing
   Next intx
   MsgBox "The levels in the " & objDimension.Name
& _
         " dimension are:" & chr$(10) & strLevelList
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

ParentageQuery オブジェクト

レポートにあるレベルに基づいて、クエリーを実行する。

解説

ParentageQuery オブジェクトを使用して、サブセット定義で指定されたレベルに基づいたレポートに対してクエリーを実行します。

ReportQuery オブジェクトには、AdvancedQuery、FindQuery、および ParentageQuery オブジェクトなど、いくつかの種類があります。サブセットはクエリーの結果です。また、サブセットは、Report オブジェクトに追加された、選択されたカテゴリーのグループです。ParentageQuery オブジェクトの場合は、サブセットは指定されたレベルに対する全カテゴリーです。

ParentageQuery オブジェクトに含まれる Item インデックスの初期値は 1 です。

ParentageQuery における、サブセット定義 (ParentageQuery オブジェクトのコンポーネント) の順序と構造は次のとおりです。

Name

Category

LevelsDown

LowestLevel

Execute

AddToReport

名前	説明
AddToReport メソッド	クエリー結果をレポートに追加する。
Category メソッド	ParentageQuery サブセット定義の親カテゴリーまたはディメンションを設定します。
Execute メソッド	キューブに対してペアレンタージ・クエリーを実行する。
Item メソッド	ReportQueries コレクションから ParentageQuery オブジェクトを返す。
Remove メソッド	ReportQueries コレクションから ParentageQuery オブジェクトを削除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	サブセットを満たすカテゴリー数を示す値を返す。
LevelsDown プロパティー	次のレベルの Parentage サブセットを指定するために、階層の下にあるレベル数を設定する。
LowestLevel プロパティー	親カテゴリーの次の下位レベルと最下位レベルのどちらを、クエリーで使用するかを設定します。
Name プロパティー	サブセットの名前を設定する、または設定状態を返す。
Type プロパティー	クエリー・オブジェクトのタイプを返す。

例

次の例は、"Channels"の 1 レベル下にあるカテゴリーすべてを返す ParentageQuery (タイプ 2) サブセット定義を作成します。"Channels"の 1 レベル下にあるカテゴリーは、行の最初にあるネストされたレベルとしてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCategory As Object
   Dim objParent As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objParent = objPPRep.ReportQueries.Add(2)
   With objParent
      .Name = "Sales Channels"
      .Category "Channels"
      .LowestLevel = False
      .LevelsDown = 1
      .Execute
      .AddToReport 0,1,6
   End With
   Msgbox "The first category added was " & _
      objParent.Item(1).Name & ".", ,"Subset"
   Set objParent = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 25 ページの『FindQuery オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 71 ページの『ReportQueries』
- 231 ページの『ReportQueries メソッド』

Print オブジェクト

IBM Cognos PowerPlay レポートの印刷パラメーターを操作して、印刷を開始するためのオブジェクトです。

解説

このオブジェクトは、レポートの印刷方法を決定する際の基本です。自動化を通じて、次のような印刷オプションを設定できます。

- 印刷するレイヤー
- 印刷する行
- 印刷するグラフ (複数のグラフを表示している場合)
- グラフ内の印刷する部分
- ページ・レイアウト表示
- パターン表示
- 印刷するページ
- 最大印刷ページ数
- 印刷部数

名前	説明
PrintOut メソッド	Report オブジェクトを印刷する。
ResetPrintOptionsToDefault メソッド	印刷オプションをデフォルト設定にリセットする。
SetChartToPrint メソッド	印刷するレポートの Graph オブジェクトを指定する。
SetListOfLayersToPrint メソッド	印刷するレポートのレイヤー範囲を指定する。
SetListOfRowsToPrint メソッド	印刷するレポートの行範囲を指定する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
AxisOnAllPages プロパティー	軸とラベルを、印刷されたレポートの全ページに表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。
ChartTitleOnAllPages プロパティー	タイトルを、印刷されたレポートの全ページに表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。
Collate プロパティー	Report オブジェクトを、印刷時に部単位で印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Copies プロパティー	印刷する部数を設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
FitToPage プロパティー	レポートを 1 ページに収まるように拡大/縮小するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
IncludeLegend プロパティー	凡例をレポートに印刷するかどうかを設定する、または設定状態を返す。
PrintAllCharts プロパティー	グラフすべてを同一ページに印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PrintColorsAsPatterns プロパティー	色を、パターンと色のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。
PrintEntireReport プロパティー	すべての表示、レイヤー、行を含むレポート全体を印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PrintPageLayout プロパティー	同一ページに、ページ・レイアウトまたはページ幅を基準にした表示に含まれるすべての表示を印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PrintSelectedDisplay プロパティー	選択した Graph オブジェクト、または現在アクティブになっている Graph オブジェクトを印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SummaryColumnOnAllPages プロパティー	印刷されたレポートの全ページに、合計列カテゴリーを表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。
SummaryRowOnAllPages プロパティー	印刷されたレポートの全ページに、合計行カテゴリーを表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。

例

次の例は、レポートを開き、1 番目のグラフのみに含まれるデータすべてを、1 部印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppr"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
```

```
    objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
    objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(1)
    objRepPrt.IncludeLegend = False
    objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
    objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
    objRepPrt.AxisOnAllPages = True
    objRepPrt.Collate = True
    objRepPrt.PrintOut
    Set objRepPrt = Nothing
    Set objPPrep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Range オブジェクト

数値範囲を指定するためのオブジェクトです。 IBM Cognos PowerPlay レポート内のハイライトを設定するために使用します。

解説

Exception オブジェクトで使用する最小値と最大値を設定できます。Range オブジェクトの値は、セル値に対するハイライト設定に失敗するかどうかを決定します。

Exception オブジェクトに含まれる Range オブジェクトを、Ranges コレクションにグループ化できます。Ranges コレクションを使用すると、Range オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で Range オブジェクトのグループ全体を操作できます。

名前	説明
Remove メソッド	Exception オブジェクトから Range オブジェクトを削除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Index プロパティー	Ranges コレクションに含まれる Range オブジェクトの場所を返す。
LowerBoundary プロパティー	Range オブジェクトの下限として定義される値を設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
Style プロパティー	Range オブジェクトに対して定義されたスタイル名を設定する、または設定状態を返す。
UpperBoundary プロパティー	Range オブジェクトの上限として定義される値を設定するか、設定状態を返します。

例

次の例は、Range オブジェクトを返し、Exception オブジェクトに含まれる範囲の下限として定義される値を返す方法を示します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPRange As Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Exception.ppr")
   objPPRep.Visible = 1
   Set objPPRange = objPPRep.Exceptions.item(1).Ranges.Item(1)
   MsgBox "Lower boundary is " &objPPRange.LowerBoundary
   Set objPPRange = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Report オブジェクト

1 つ以上のキューブからのデータを含むオブジェクトです。

構文 A

GetObject(pathname)

構文 B

GetObject(, class)

パラメーター	説明
PathName	必須。取得するオブジェクトのパスとファイル名を指定します。 タイプ:String

パラメーター	説明
Class	必須。オブジェクトのクラスを含む文字列「CognosPowerPlay.Report」を指定します。 タイプ:String

名前	説明
Activate メソッド	Report オブジェクトにフォーカスを設定する。
AddBlanks メソッド (Reporter)	ネスト・クロス集計に単一の空白行または空白列を追加する。
CategoryList メソッド	Report オブジェクトに挿入されるカテゴリーを識別するための CategoryList オブジェクトを作成する。
CellValue メソッド	Report オブジェクトに含まれるセル値を取得する。
Close メソッド	Report オブジェクトを閉じる。
Columns メソッド	すべての Column オブジェクトを含むコレクションを返す。
Copy メソッド	現在、Report オブジェクトで選択されている Row、Column、または Layer オブジェクトをクリップボードにコピーする。
Cut メソッド (Reporter)	現在、Report オブジェクト内で選択されている Row、Column、または Layer オブジェクトをクリップボードに移動する。
DeleteSelected メソッド	コレクションに含まれる、選択されたオブジェクトを削除する。
DimensionLine メソッド	現在の Report オブジェクトに対する DimensionLine オブジェクトを返す。
Exceptions メソッド	1 つの Exception オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
FindNext メソッド	レポートに含まれる、一致する次のカテゴリー・ラベルを検索します。
FindPrevious メソッド	一致する前のカテゴリー・ラベルをレポート内で検索します。

名前	説明
Forecast メソッド (Explorer)	既存の時間ディメンションに基づいて、指定した数の予測カテゴリーを作成します。
GetDataNow メソッド	Report オブジェクトに含まれるデータを更新します。
Graphs メソッド	1 つの Graph オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
HideSelected メソッド	コレクションに含まれる、選択されたオブジェクトを非表示にする。
HideUnselected メソッド	コレクションに含まれる、選択されていないオブジェクトを非表示にする。
Layers メソッド	1 つの Layer オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
Maximize メソッド	Report オブジェクト・ウィンドウを最大化する。
Minimize メソッド	Report オブジェクト・ウィンドウを最小化する。
Paste メソッド (Reporter)	Report オブジェクトの選択したカテゴリーにクリップボードの内容を貼り付ける。
PDFFile メソッド	PDF オブジェクトを保存するときのファイル名を設定する。
Print メソッド	Print オブジェクトを返す。
PublishToPortal メソッド	IBM Cognos Analytics Content Store にレポートを作成します。ユーザーは、Cognos Analytics ポータルを使用してレポートにアクセスします。
ReportQueries メソッド	ReportQueries コレクションを返します。
Restore メソッド	Report オブジェクト・ウィンドウを元のサイズと位置に戻す。
Rows メソッド	1 つの Row オブジェクトまたはコレクション全体を返します。
Save メソッド	1 つまたはすべての Report オブジェクトを保存する。
Select メソッド	Report オブジェクトに含まれるカテゴリーすべてを選択する。

名前	説明
SizeSelected メソッド	選択したオブジェクトにサイズを適用する。
StyleSelected メソッド	選択したオブジェクトにスタイルを適用する。
SwapColumnsAndLayers メソッド	Column オブジェクトと Layer オブジェクトの位置を交換する。
SwapRowsAndColumns メソッド	Row オブジェクトと Column オブジェクトの位置を交換する。
SwapRowsAndLayers メソッド	Row オブジェクトと Layer オブジェクトの位置を交換する。
UnhideAllCategories メソッド	非表示になっているカテゴリーすべてを表示する。
Unselect メソッド	Report オブジェクトに含まれるカテゴリーすべての選択を解除する。
UpdatePublishedReport メソッド	IBM Cognos Analytics Content Store に以前に発行されたレポートを更新します。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
AutomaticExceptions プロパティー	自動ハイライトをオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。
AutomaticExceptionSensitivity プロパティー	例外のハイライト優先度を設定する、または設定状態を返す。
CalculatedCategories プロパティー	算出カテゴリーのオン/オフの切り替え、あるいは PowerCube が算出カテゴリーを含むかどうかを設定するか、設定状態を返します。
CubeName プロパティー	アクティブ・レポートに含まれるキューブのファイル名を返します。
ExplorerMode プロパティー	Report オブジェクトを Explorer レポートまたは Reporter レポートに設定するか、設定状態を返します。
FooterText プロパティー	レポートのフッターに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
FullName プロパティー	Report オブジェクトの場所を含む完全な名前を返す。
GetDataAutomatically プロパティー	データが変更されるたびに、Report オブジェクトがデータを自動的に取得するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
HeaderText プロパティー	レポートのヘッダーに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。
Index プロパティー	Reports コレクションに含まれる Report オブジェクトの場所を返す。
Name プロパティー	Report オブジェクトの名前を返す。
Path プロパティー	Report オブジェクトのパスを返す。
Saved プロパティー	Report オブジェクトが保存されているかどうかを返します。
ShareDimensionLine プロパティー	開いているレポートがディメンション・ラインを共有するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowValuesAs プロパティー (Explorer)	レポートでの値の表示方法を設定するか、設定状態を返します。
Suppress8020 プロパティー (Explorer)	レポート・ディメンションを 80/20 消去モードに設定するか設定状態を返します。
SuppressZeros プロパティー	Report オブジェクトを消去モードに設定するか、設定状態を返します。
TitleText プロパティー	レポートのタイトルに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。
Visible プロパティー	Report オブジェクトがユーザーに表示されるかどうかを設定する、または設定状態を返す。

解説

Report オブジェクトは、レポートを作成および管理する際の基本です。このオブジェクトを使用して、レポートの属性を設定および操作します。各 Report オブジェクトは、個別の PowerPlay レポートです。

Report オブジェクトの現在のインスタンスがある場合、またはすでにロードされているファイルを使用してオブジェクトを作成する場合は、GetObject 関数を使用し

ます。現在のインスタンスがない場合やロードされたファイルからオブジェクトを作成しない場合は、CreateObject 関数を使用します。

CreateObject 関数を使用して既存の PowerPlay レポートを取得するには、必ず次の構文を使用します。他の構文を使用すると、エラーが発生します。

例

次の例は、IBM Cognos PowerPlay レポートを開き、いくつかのプロパティーを設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open ("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppr")
   objPPRep.ExplorerMode = True
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.ShowValuesAs = 2
   objPPRep.ShareDimensionLine = 1
   objPPRep.Suppress8020 = 3
   objPPRep.SuppressZeros = 3
   objPPRep.CalculatedCategories = True
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Row オブジェクト

レポートに含まれる行を操作するためのオブジェクトです。

解説

Row オブジェクトは、水平方向のリストにある関連情報を表示するカテゴリーです。Row オブジェクトを使用するには、最初に CategoryList オブジェクトからカテゴリーをレポートに追加するか、または既存のレポートを開きます。

Row オブジェクトの計算、ドリルアップ、ドリルダウン、非表示、ランク付け、削除を行うことができます。Rows コレクションに含まれる Row オブジェクトの場所を参照するには、インデックスを使用します。

Reporter モードでのみ使用可能なメソッドがあります。

名前	説明
Accumulation メソッド	Row オブジェクトに含まれるカテゴリーの値すべてを累計する。

名前	説明
Activate メソッド	Row オブジェクトにフォーカスを設定する。
Addition メソッド (オブジェクト)	定数値またはカテゴリーを Row オブジェクトに追加する。
AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter)	最下位レベルにある子カテゴリーをレポートに追加します。
Average メソッド (オブジェクト) (Reporter)	定数値または別のカテゴリーと、Row オブジェクトの平均を計算する。
CanDrillDown メソッド	Row オブジェクトをドリルダウンできるかどうかを返す。
CanDrillUp メソッド	Row オブジェクトをドリルアップできるかどうかを返す。
Children メソッド	Row オブジェクトの階層にある次の子を返す。
CumPercentOfBase メソッド	Column オブジェクトをベース・カテゴリーとして使用し、Base Row オブジェクトに対する累積パーセントを追加する。
Division メソッド	Row オブジェクトを、定数値または別のカテゴリーで除算する。
DrillDown メソッド	Row オブジェクトをドリルダウンする。
DrillUp メソッド	Row オブジェクトをドリルアップする。
Exponentiation メソッド	Row オブジェクトを、別のカテゴリーまたは定数値でべき乗する。
Hide メソッド	Row オブジェクトを非表示にする。
Maximum メソッド (オブジェクト) (Reporter)	定数値または別のカテゴリーと、Row オブジェクトの最大値を計算する。
Minimum メソッド (オブジェクト) (Reporter)	定数値または別のカテゴリーと、Row オブジェクトの最小値を計算する。
Multiplication メソッド (オブジェクト)	定数値または別のカテゴリーを Row オブジェクトで乗算する。
Percent メソッド	別のカテゴリー、または定数値を基準にした Row オブジェクトのパーセントを追加する。

名前	説明
PercentGrowth メソッド	2 つのカテゴリーまたは数値データ間の割合の変化を計算する。
PercentOfBase メソッド	Column オブジェクトをベース・カテゴリーとして使用し、Base Row オブジェクトに対するパーセントを追加する。
Rank2 メソッド	Column オブジェクトを、Row オブジェクトに基づいてランク付けしてソートする。
Remove メソッド	レポートから Row オブジェクトを削除する。
Rollup メソッド	算出値を持つカテゴリーをグループ化し、新しい動的計算を作成する。
Select メソッド	Row オブジェクトを選択する。
SelectBlank メソッド	特定の空白行を選択する。
Subtraction メソッド (オブジェクト)	Row オブジェクトから、定数値や別のカテゴリーを減算する。またはカテゴリーや定数値から、Row オブジェクトを減算する。
Unselect メソッド	Row オブジェクトの選択を解除する。
UnselectBlank メソッド	特定の空白行の選択を解除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
CellText プロパティー	セルに含まれるテキストを返します。
CellValueAlignment プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用された位置揃えを返します。
CellValueFontColor プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント色を返します。
CellValueFontName プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント名を返します。
CellValueFontSize プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント・サイズを返します。
Exception プロパティー	Row オブジェクトに対するハイライトを設定する、または設定状態を返す。

名前	説明
Index プロパティー	Rows コレクションに含まれる Row オブジェクトの場所を返す。
IsAlternate プロパティー	ドリルダウン・パスが主要または代替のどちらであるかを返します。
IsCalculatedCategory プロパティー	カテゴリーが算出カテゴリーであるかどうかを返します。
LabelAlignment プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用された位置揃えを返す。
LabelFontColor プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント色を返します。
LabelFontName プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント名を返します。
LabelFontSize プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント・サイズを返します。
Level プロパティー	ディメンションに含まれるカテゴリーのレベルを返します。
Name プロパティー	Row オブジェクトの名前を設定する、または設定状態を返す。
NestedName プロパティー	カテゴリーのネストされた名前を返します。
ParentCategory プロパティー	オブジェクトに対する親カテゴリーの名前を返します。
Precedence プロパティー	複雑な計算に使用される優先順位を設定するか、設定状態を返します。
Style プロパティー	Row オブジェクトに使用されるスタイルを設定する、または設定状態を返す。
TopLevelParentCategory プロパティー	オブジェクトのディメンション名を返します。

例

次の例は、レポートを開き、Columns コレクションで Column オブジェクト "1996"を検索し、名前を"Last Year"に変更して、レポートを保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
```

```
    objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppr"
    objPPRep.Rows.Item("1996").Name = "Last Year"
    objPPRep.Save
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』

SaveAsPDF オブジェクト

レポートを PDF ファイル (.pdf) 形式で保存します。

解説

このオブジェクトは、レポートを PDF 形式で保存する際の基本です。このオブジェクトを使用して、レポートの属性を設定および操作します。PDF は、Adobe Reader を使用して標準のレポートを配布する場合に役に立ちます。また、PDF では質の高い複数ページ出力が可能です。PDF は、コンパクトで、移植性が高く、プラットフォームに依存しないため、ドキュメントに含まれる全フォント、イメージ、グラフィック、書式を含めオリジナルの外観を保存できます。

名前	説明
Save メソッド	レポートを PDF 形式で保存する。
SetChartToSave メソッド	PDF に保存する Graph オブジェクトを指定する。
SetListOfLayersToSave メソッド	PDF に保存するレイヤーの範囲を指定する。
SetListOfRowsToSave メソッド	PDF に保存する行範囲を指定する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
AxisOnAllPages プロパティー	印刷されたレポートまたは PDF の全ページに、軸とラベルを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ChartTitleOnAllPages プロパティー	グラフのタイトルを、PDF の全ページに表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。
IncludeLegend プロパティー	凡例を PDF に表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。

名前	説明
SaveAllCharts プロパティー	レポートに含まれる Graph オブジェクトすべてを PDF (.pdf) に保存するかどうかを設定する、または設定状態を返す。
SaveEntireReport プロパティー	レポート全体を PDF 形式で保存するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SummariesOnAllPages プロパティー	PDF の全ページに、合計列カテゴリーを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SummaryRowOnAllPages プロパティー	PDF の全ページに、合計行カテゴリーを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

例

次の例は、レポートを開いて、レポートの保存オプションを設定して PDF 形式で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPDF as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open( "c:\Cognos\sample.ppr" )
   objPPRep.visible( TRUE )
   Set objPDF = objPPRep.PDFFile( "c:\Cognos\PDFSample"
, True )
   With objPDF
      .SaveEntireReport = False
      .AxisOnAllPages = True
      .ChartTitleOnAllPages = False
      .IncludeLegend = True
      .SetChartToSave objPPRep.Graphs.Item(1)
      .SetListOfLayersToSave objPPRep.Layers
      .SetListOfRowsToSave objPPRep.Rows
   End With
   objPDF.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPDF = Nothing
End Sub
```

ValueRestriction オブジェクト

指定された値の範囲外にある値、または指定された範囲内にある値に基づいて、AdvancedQuery の結果に制限を適用します。

解説

ValueRestriction オブジェクトを使用して、AdvancedQuery の結果に含めるカテゴリー数を制限します。

ValueRestriction オブジェクトは、AdvancedQuery オブジェクトで使用する前に定義する必要があります。また、ValueRestriction は AdvancedQuery オブジェクトと合わせて使用します。ValueRestriction を定義して、AdvancedQuery オブジェクトと合わせて使用すると、詳細クエリーの実行により、ValueRestriction がクエリー結果に適用されます。

AdvancedQuery オブジェクトに複数のレベルがあり、ValueRestriction クエリーを使用する場合、値制限は最下位レベルのみに適用されます。

ValueRestriction では、コンポーネントの順序が重要です。Dimension プロパティーは、Measure、Operator、Operand1、Operand2、および Count の各プロパティーと DimensionFilter メソッドの前に設定する必要があります。Name プロパティーは、フィルター定義の任意の場所で設定できます。

数値をパーセントで表示する場合は、値を入力するときに 10 進数形式を使用する必要があります。たとえば、AdvancedQuery を 20 パーセントを超える利益率に制限する場合は、「20」と入力します。

名前	説明
DimensionFilter メソッド	インデックス付きディメンションのフィルター・カテゴリーを設定する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	演算子が「Smallest」または「Largest」のときに、ValueRestriction 結果に含まれるカテゴリー数を設定する、または設定状態を返す。
Dimension プロパティー	カテゴリーの取得元ディメンションを設定するか、設定状態を返します。
DimensionSettings プロパティー	ValueRestriction に対するディメンション・ラインの設定すべてを、コンマ区切り文字列として返します。

名前	説明
Measure プロパティー	値制限に使用される数値データの名前を設定するか、設定状態を返します。
Name プロパティー	ValueRestriction オブジェクトの名前を設定する、または設定状態を返す。
Operand1 プロパティー	指定した演算子に基づくレポート・セル値の比較で使用する値を設定するか、設定状態を返します。
Operand2 プロパティー	Between 演算子を使用して範囲を指定する場合の 2 番目の値を設定するか、設定状態を返します。
Operator プロパティー	値制限に使用される演算子を設定するか、設定状態を返します。

例

次の例は、"Locations" ディメンションから国または地域を選択する詳細サブセットを作成します。値制限 (タイプ 4) は、"Sports Chain" の "Revenue" 値が 25,000～100,000 の範囲にある国または地域のみが返されるように結果を制限します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objValue As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objValue = objPPRep.ReportQueries.Add(4)
   With objValue
      .Name = "25000-100000"
      .Dimension = "Locations"
      .Measure = "Revenue"
      .Operator = "between"
      .Operand1 = 25000
      .Operand2 = 100000
      .DimensionFilter 4, "Sports Chain"
   End With
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
```

```
    With objAdvanced
        .Name = "Locations"
        .Dimension = "Locations"
        .Level "Country or Region"
        .ValueRestriction objValue.Name
        .Execute
        .AddToReport 0,1,3
    End With
    Set objPPRep = Nothing
    Set objAdvanced = Nothing
    Set objValue = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』
- 231 ページの『ReportQueries メソッド』
- 73 ページの『Reports』

第 3 章 コレクション

IBM Cognos PowerPlay OLE オートメーションでは、次のコレクションを使用します。

名前	説明
Children	子オブジェクトのリストを管理します。
Columns	レポートの Column オブジェクトのリストを管理します。
Exceptions	レポートの Exception オブジェクトのリストを管理します。
Graphs	Report オブジェクト内にある Graph オブジェクトのリストを管理します。
Layers	レポートの Layer オブジェクトのリストを管理します。
Levels	レポートの Level オブジェクトのリストを管理します。
Ranges	レポートの Range オブジェクトのリストを管理します。
ReportQueries	レポートのクエリー・オブジェクトのリストを管理します。
Reports	Report オブジェクトのリストを管理します。
Rows	レポートの Row オブジェクトのリストを管理します。

関連トピック

- 7 ページの『第 2 章 オブジェクト』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 79 ページの『第 4 章 メソッド』

Children

子オブジェクトのリストを管理します。

解説

階層内の特定の子オブジェクトにアクセスと、階層内の特定のレベルにある子オブジェクトの数を判断するために使用します。たとえば、このメソッドを使用して、Columns コレクションに含まれる最初のカテゴリーの子の名前を取得できます。このコレクションは、Columns、Dimensions、Layers、および Rows に適用されます。

算出カテゴリーは子を持つことができませんが、代替カテゴリーは子を持つことができます。

名前	説明
Item メソッド	Children コレクションから子オブジェクトを返す。

名前	説明
Count プロパティー	コレクションに含まれる Child オブジェクトの数を返す。

例

次の例は、Columns、Dimensions、Layers、Rows の各コレクションに含まれる最初のカテゴリーの子の名前を取得し、それぞれのコレクションに含まれる子の項目数と名前を返します。

列

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objChildrenCols As Object
   Dim strColChild As String
   Dim strColChildren As String
   Dim intx As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"PowerPlay.Report")
   Set objChildrenCols = objPPRep.Columns.Item(1).Children
   For intx = 1 to objChildrenCols.Count
      strColChild = objChildrenCols.Item(intx).Name
      strColChildren = strColChildren & chr$(10)
& _
         strColChild
   Next intx
   MsgBox "The " & objPPRep.Columns.Item(1).Name
& _
      " category has " & objChildrenCols.Count &
_
```

```
      " children." & chr$(10) & chr$(10) &
"They are: " & _
      chr$(10) & strColChildren, , "Column Children"
   Set objChildrenCols = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

ディメンション

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension As Object
   Dim strName As String
   Dim intx as Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item(1)
   objDimension.ChangeToTop
   If objDimension.HasParent = 0 Then
      Msgbox "The " & objDimension.Name & " dimension
has " & _
         "no parent."
      For intx = 1 to objDimension.Children.Count
          strName = objDimension.Children.Item(intx).Name
          objDimension.Change strName
          MsgBox "The parent for the " &objDimension.Name
& _
              " dimension is " & objDimension.Parent
& "."
      Next intx
   End If
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

Layer

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objChildrenLayers As Object
   Dim strLayerChild As String
   Dim strLayerChildren As String
   Dim intx As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objChildrenLayers = objPPRep.Layers.Item(1).Children
   For intx = 1 to objChildrenLayers.Count
      strLayerChild = objChildrenLayers.item(intx).Name
```

```
      strLayerChildren = strLayerChildren & chr$(10)
& _
         strLayerChild
   Next intx
   MsgBox "The " & objPPRep.Layers.Item(1).Name &
_
      " category has " & objChildrenLayers.Count
& _
      " children." & chr$(10) & chr$(10) &
_
      "They are: " & chr$(10) & strLayerChildren,
' _
      "Layer Children"
   Set objChildrenLayers = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

行

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objChildrenRows As Object
   Dim strRowChild As String
   Dim strRowChildren As String
   Dim intx As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objChildrenRows = objPPRep.Rows.Item(1).Children
   For intx = 1 to objChildrenRows.Count
      strRowChild = objChildrenRows.item(intx).Name
      strRowChildren = strRowChildren & chr$(10)
& _
         strRowChild
   Next
   MsgBox "The " & objPPRep.Rows.Item(1).Name &
_
      " category has " & objChildrenRows.Count &
_
      " children." & chr$(10) & chr$(10) &
_
      "They are: " & chr$(10) & strRowChildren,
' _
      "Row Children"
   Set objChildrenRows = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

列

レポートの Column オブジェクトのリストを管理します。

解説

コレクションとは、タイプが異なるオブジェクトをグループ化またはリストにする、汎用的なオブジェクトです。Report オブジェクトに含まれる Column オブジェクトを、Columns コレクションにグループ化できます。Columns コレクションを使用すると、Column オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で Column オブジェクトのグループ全体を操作できます。

Columns コレクションに含まれる Column オブジェクトに対して計算およびソートを実行できます。

このコレクションを使用するには、最初に CategoryList オブジェクトからカテゴリーをレポートに追加し、続いて Column オブジェクトを追加するか、または列を持つ既存のレポートを開きます。

Reporter モードでのみ使用可能なメソッドがあります。

名前	説明
Accumulation メソッド	オブジェクトまたはコレクションに含まれるカテゴリーのすべての値を累計します。
Active メソッド	アクティブな Column オブジェクトを返す。
Add メソッド (Columns、Layers、Rows)	Columns コレクションに Column オブジェクトを追加する。
Addition メソッド (コレクション)	Columns コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトに、定数値またはカテゴリーを追加する。
AddLevel メソッド	ネスト・クロス集計の列のコレクションに列のレベルを追加する。
AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter)	最下位レベルにある子カテゴリーをレポートに追加します。
Average メソッド (コレクション) (Reporter)	定数値または列と、1 つ以上の列の平均値を返す。

名前	説明
CumPercentOfBase メソッド	Row オブジェクトをベース・カテゴリーとして使用し、Base Column オブジェクトに対する累積パーセントを追加する。
DeleteExplorerRank メソッド	Explorer レポートからランク・カテゴリーを削除します。
Division メソッド	コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトを、定数値または別のカテゴリーで除算する。
Exponentiation メソッド	すべての Column オブジェクトを、別のカテゴリーまたは定数値でべき乗する。
Hide メソッド	コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトを非表示にする。
Item メソッド	Columns コレクションから Column オブジェクトを返す。
ItemAtLevel メソッド	ネスト・レポートから Column オブジェクトを返す。
ItemAtLevel メソッド	コレクションに含まれる各 Column オブジェクトと、定数値または別のカテゴリーの間で最大値を計算する。
Minimum メソッド (コレクション) (Reporter)	コレクションに含まれる各 Column オブジェクトと、定数値または別のカテゴリーの間で最小値を計算する。
Multiplication メソッド (コレクション)	コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトに、定数値またはカテゴリーを乗算する。
Percent メソッド	カテゴリーまたは定数値を基準にした Column オブジェクトのパーセントを追加する。
PercentOfBase メソッド	Row オブジェクトをベース・カテゴリーとして使用し、Base Column オブジェクトに対するパーセントを追加する。
Remove メソッド	Report オブジェクトからすべての Column オブジェクトを削除する。
Select メソッド	すべての Column オブジェクトを選択する。
Sort メソッド	列を昇順または降順にソートする。

名前	説明
Subset メソッド	Columns コレクションに含まれる Column オブジェクトのサブセットを返す。
Subtraction メソッド (コレクション)	コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトから、定数値またはカテゴリーを減算する。または定数値やカテゴリーから、すべての Column オブジェクトを減算します。
Unselect メソッド	コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトの選択を解除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	コレクションに含まれる Column オブジェクトの数を返します。
DimensionLineIndex プロパティー	Layer、Row、および Column オブジェクトのリストを管理するディメンション・ライン・アイテムの位置を返します。
Exception プロパティー	コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトのハイライトを設定する。
Style プロパティー	コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトに使用されるスタイルを設定する。
TopLevelCategory プロパティー (Explorer)	コレクションのディメンション名を返します。

例

次の例は、Reporter モードで新規レポートを作成します。すべての列に 10% を乗算し、古い列を削除します。最後に、レポートを保存して閉じます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objNewCol As Object
   Dim strOldCol As String
   Dim intx as Integer
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",
True
   objPPRep.ExplorerMode = False
```

```
   For intx = 1 TO objPPRep.Columns.Count
      strOldCol = objPPRep.Columns.Item(intx).Name
      Set objNewCol = objPPRep.Columns.Item _
          (intx).Multiplication(1.10)
      Msgbox "The new column name is " &objNewCol.Name
      objPPRep.Columns.Item(strOldCol).Remove
   Next intx
   objPPRep.SaveAs "C:\Cubes and Reports\10perc.ppr"
   objPPRep.Close
   Set objNewCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 133 ページの『Columns メソッド』

Exceptions

レポートの Exception オブジェクトのリストを管理します。

解説

コレクションとは、タイプが異なるオブジェクトをグループ化またはリストにする、汎用的なオブジェクトです。Report オブジェクトに含まれる Exception オブジェクトを、Exceptions コレクションにグループ化できます。Exceptions コレクションを使用すると、Exception オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で Exception オブジェクトのグループ全体を操作できます。

Exceptions コレクションを使用して、レポートに含まれる Exception オブジェクトの数を返すことができます。

名前	説明
Add メソッド (Exceptions)	Exceptions コレクションに Exception オブジェクトを追加します。
Item メソッド	Exceptions コレクションから Exception オブジェクトを返す。
Remove メソッド	Report オブジェクトからすべての Exception オブジェクトを削除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。

名前	説明
Count プロパティー	Exceptions コレクションに含まれる Exception オブジェクトの数を返す。

例

次の例は、レポートを開き、最初の Exception オブジェクトについてドライブ・フィールドを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Exception.ppr"
   MsgBox "Driving Category:" & _
      objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingCategory
   MsgBox "Driving Dimension:" & _
      objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingDimension
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 23 ページの『Exception オブジェクト』

Graphs

Report オブジェクト内にある Graph オブジェクトのリストを管理します。

解説

コレクションとは、タイプが異なるオブジェクトをグループ化またはリストにする、汎用的なオブジェクトです。Report オブジェクトに含まれる Graph オブジェクトを、Graphs コレクションにグループ化できます。Graphs コレクションを使用すると、Graph オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で Graph オブジェクトのグループ全体を操作できます。

Graphs では、さまざまな統計機能を強調するいくつかの形式でレポート・データを表示します。たとえば、円グラフは全体に対するカテゴリーの関係を示しますが、クラスター・グラフは時間の経過に伴うカテゴリーの傾向を示します。

名前	説明
Active メソッド	アクティブな Graph オブジェクトを返す。
Add メソッド (Graphs)	Graphs コレクションに Graph オブジェクトを追加します。

名前	説明
Item メソッド	Graphs コレクションから 1 つの Graph オブジェクトを返す。
Remove メソッド	Report オブジェクトからすべての Graph オブジェクトを削除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	Graphs コレクションに含まれる Graph オブジェクトの数を返す。
DataGridlines プロパティー	クロス集計に対するグリッド線をオンまたはオフに設定する。
EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー	ネスト・クロス集計に含まれる最も内側の合計列に、ユーザー定義のラベルを使用するかどうかを設定する。
EnableUserRowSummaryLabel プロパティー	ネスト・クロス集計に含まれる最も内側の合計行に、ユーザー定義のラベルを使用するかどうかを返す。
HideRankCategory プロパティー	ランク・カテゴリーを非表示にするかどうかを設定する。
IndentTotalsLevel プロパティー	コレクション内のネスト・クロス集計にある集計セルの、現在のインデント・レベルを設定する。
KeepSummaryVisible プロパティー	スクロールするページすべてについて、合計カテゴリーを表示したままにするかどうかを設定する。
LabelGridlines プロパティー	ネスト・クロス集計に含まれるカテゴリー・ラベルに対するグリッド線を、オンまたはオフに設定する。
Layout プロパティー	コレクションに含まれるネスト・クロス集計の現在の、レイアウト・スタイルを設定する。
MaxPrintedBars プロパティー	印刷データの 1 ページに表示するグラフ棒の最大数を設定する。
MaxVisibleBars プロパティー	スクロールが必要なデータの 1 ページに表示するグラフ棒の最大数を設定する。

名前	説明
NamesShown プロパティー	円グラフの横にカテゴリー名を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowSummaryBreakdown プロパティー (Explorer)	クロス集計に合計行および合計列の内訳を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowSummaryColumn プロパティー (Explorer)	コレクションに含まれるクロス集計に対して、合計列を表示するかどうかを設定する。
ShowSummaryRow プロパティー (Explorer)	コレクションに含まれるクロス集計に対して、合計行を表示するかどうかを設定する。
ShowTies プロパティー	ラベル連結を表示するかどうかを設定する。
StatsLineCaption プロパティー	グラフに含まれる統計線のタイトルを設定するか、設定状態を返します。
StatsLineColor プロパティー	グラフに含まれる統計線の色を設定するか、設定状態を返します。
StatsLineOn プロパティー	グラフの統計線を設定するか、設定状態を返します。
StatsLineStyle プロパティー	グラフに含まれる統計線のスタイルを設定するか、設定状態を返します。
StatsLineUserValue プロパティー	グラフの統計線にカスタム値を設定します。
UseScrolling プロパティー	スクロールを可能にするかどうかを設定するか、設定状態を返します。
UserColumnSummaryLabel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計列について、ユーザー定義のラベルを設定するか、設定状態を返します。
UserRowSummaryLabel プロパティー	ネスト・クロス集計に含まれる最も内側の合計行について、ユーザー定義のラベルを設定するか、設定状態を返す。
ValuesAutoFit プロパティー	値ラベルがグラフ棒と円セグメントの間に収まるかどうかを設定する。
ValuesFontColor プロパティー	コレクションに含まれるグラフの値ラベルに使用するフォントの色を設定する。
ValuesFontName プロパティー	コレクションに含まれるグラフの値ラベルに使用するフォント名を設定する。

名前	説明
ValuesFontSize プロパティー	コレクションに含まれるグラフの値ラベルに使用するフォント・サイズを設定する。
ValuesPosition プロパティー	コレクションに含まれるいくつかのグラフ・タイプについて、値ラベルの位置を設定する。
ValuesShown プロパティー	円グラフの横に値ラベルを表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。

例

次の例は、レポートを開き、新規 Graph オブジェクトを Graphs コレクションに追加し、レポートを保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Trend.ppr"
   objPPRep.Graphs.Add 5
   objPPRep.Save
   objPPRep.Close
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Layers

レポートの Layer オブジェクトのリストを管理します。

解説

コレクションとは、タイプが異なるオブジェクトをグループ化またはリストにする、汎用的なオブジェクトです。Report オブジェクトに含まれる Layer オブジェクトを、Layers コレクションにグループ化できます。Layers コレクションを使用すると、Layer オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で Layer オブジェクトのグループ全体を操作できます。

このコレクションを使用するには、最初に CategoryList オブジェクトからレポートにカテゴリーを追加し、続いて Layer オブジェクトを追加するか、またはレイヤーを持つ既存のレポートを開きます。

Reporter モードでのみ使用可能なメソッドがあります。

名前	説明
Active メソッド	アクティブな Layer オブジェクトを返す。
Add メソッド (Columns、Layers、Rows)	Layers コレクションに Layer オブジェクトを追加する。
Addition メソッド (コレクション)	Layers コレクションに含まれるすべての Layer オブジェクトに、定数値またはカテゴリーを追加する。
AddLevel メソッド	ネスト・クロス集計のレイヤーのコレクションにレイヤーのレベルを追加する。
AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter)	最下位レベルにある子カテゴリーをレポートに追加します。
Average メソッド (コレクション) (Reporter)	定数値またはレイヤーと、1 つ以上のレイヤーの平均値を返す。
Division メソッド	コレクションに含まれるすべての Layer オブジェクトを、定数値または別のカテゴリーで除算する。
Exponentiation メソッド	すべての Layer オブジェクトを、定数値または別のカテゴリーでべき乗する。
Item メソッド	Layers コレクションから Layer オブジェクトを返す。
Maximum メソッド (コレクション) (Reporter)	コレクションに含まれる各 Layer オブジェクトと、定数値または別のカテゴリーの間で最大値を計算する。
Minimum メソッド (コレクション) (Reporter)	コレクションに含まれる各 Layer オブジェクトと、定数値または別のカテゴリーの間で最小値を計算する。
Multiplication メソッド (コレクション)	コレクションに含まれるすべての Layer オブジェクトに、定数値またはカテゴリーを乗算する。
Percent メソッド	カテゴリーまたは定数値を基準にした Layer オブジェクトのパーセントを追加する。
Remove メソッド	Report オブジェクトからすべての Layer オブジェクトを削除する。
Select メソッド	コレクションに含まれるすべての Layer オブジェクトを選択する。
Sort メソッド	レイヤーを昇順または降順にソートする。

名前	説明
Subset メソッド	Layers コレクションから Layer オブジェクトのサブセットを返す。
Subtraction メソッド (コレクション)	コレクションに含まれる Layer オブジェクトから、定数値またはカテゴリーを減算する。または定数値やカテゴリーから、すべての Layer オブジェクトを減算する。
Unselect メソッド	コレクションに含まれるすべての Layer オブジェクトの選択を解除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	コレクションに含まれる Layer オブジェクトの数を返す。
DimensionLineIndex プロパティー	Layer、Row、および Column オブジェクトのリストを管理するディメンション・ライン・アイテムの位置を返す。
Exception プロパティー	コレクションに含まれるすべての Layer オブジェクトのハイライトを設定する。
Style プロパティー	コレクションに含まれるすべての Layer オブジェクトに使用されるスタイルを設定する。
TopLevelCategory プロパティー (Explorer)	コレクションのディメンション名を返します。

例

次の例は、開かれているレポートを取得し、最初と 2 番目にあるレイヤーを削除します。次に、最初にある新規レイヤーから 2 番目にある新規レイヤーを減算し、レイヤーすべてについて最大値を計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp As Object
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPApp = GetObject( , "CognosPowerPlay.Application"
)
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppr")
   objPPRep.Visible = True
   objPPApp.Reports(1).ExplorerMode = False
   objPPApp.Reports(1).Layers.Subset(1,2).Remove
```

```
    objPPApp.Reports(1).Layers.Subset(1,2).Subtraction
    objPPApp.Reports(1).Layers.Maximum
    Set objPPRep = Nothing
    Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Levels

レポートの Level オブジェクトのリストを管理します。

解説

Level オブジェクトのグループを操作するには、Levels コレクションを使用します。たとえば、Dimension オブジェクトに含まれる Level オブジェクトを Levels コレクションにグループ化できます。

Levels コレクションに含まれる Level オブジェクトにアクセスするには、Item メソッドを使用します。Item メソッドのインデックスの初期値は 1 です。

Dimension オブジェクトには Levels コレクションがあります。

名前	説明
Item メソッド	コレクションに含まれる特定のインデックスの Level オブジェクトを返す。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	コレクションに含まれる Level オブジェクトの数を返す。

例

次の例は、ディメンション・ラインの最初のディメンションのすべてのレベルを表示します。

```
Sub Main()
    Dim objPPRep As Object
    Dim objDimension As Object
    Dim objLevel As Object
    Dim strLevelList As String
```

```
   Dim intx As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item(1)
   For intx = 1 to objDimension.Levels.Count
      Set objLevel = objDimension.Levels.Item(intx)
      strLevelList = strLevelList & chr$(10) &
objLevel.Name
      Set objLevel = Nothing
   Next intx
   MsgBox "The levels in the " & objDimension.Name
& _
         " dimension are:" & chr$(10) & strLevelList
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 33 ページの『Level オブジェクト』

Ranges

レポートの Range オブジェクトのリストを管理します。

解説

コレクションとは、タイプが異なるオブジェクトをグループ化またはリストにする、汎用的なオブジェクトです。Exception オブジェクトに含まれる Range オブジェクトを、Ranges コレクションにグループ化できます。Ranges コレクションを使用すると、Range オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で Range オブジェクトのグループ全体を操作できます。

名前	説明
Add メソッド (Ranges)	Ranges コレクションに Range オブジェクトを追加します。
Item メソッド	Ranges コレクションから Range オブジェクトを返す。
Remove メソッド	Exception オブジェクトからすべての Range オブジェクトを削除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。

名前	説明
Count プロパティー	コレクションに含まれる Range オブジェクトの数を返す。
MaximumNumberOfRanges プロパティー	Exception オブジェクトについて、定義可能な Range オブジェクトの最大数を返します。

例

次の例は、Ranges コレクションを返す方法、および Exception オブジェクトに対して定義できる Range オブジェクトの最大数を返す方法を示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPRange As Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Exception.ppr")
   objPPRep.Visible = True
   Set objPPRange = objPPRep.Exceptions.item(1).Ranges
   MsgBox "The maximum number of ranges: " _
      &objPPRange.MaximumNumberOfRanges
   Set objPPRange = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 23 ページの『Exception オブジェクト』
- 39 ページの『Range オブジェクト』

ReportQueries

レポートのクエリー・オブジェクトのリストを管理します。

解説

ReportQueries は、クエリー・オブジェクトのコレクションです。コレクションとは、タイプが異なるオブジェクトをグループ化またはリストにする、汎用的なオブジェクトです。Report オブジェクトに含まれるクエリー・オブジェクトを、ReportQueries コレクションにグループ化できます。ReportQueries コレクションを使用すると、ReportQuery オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で ReportQuery オブジェクトのグループ全体を操作できます。

このコレクションを使用するには、最初に CategoryList オブジェクトからレポートにカテゴリーを追加し、続いてクエリー・オブジェクトを作成するか、またはクエリーを持つ既存のレポートを開きます。

ReportQueries コレクションは、Report オブジェクトに属する特殊なオブジェクトです。ReportQueries コレクションに属するクエリー・オブジェクトには、FindQuery、ParentageQuery、および AdvancedQuery など、いくつかの種類があります。

名前	説明
Add メソッド (ReportQueries)	ReportQueries コレクションにクエリー・オブジェクトを追加します。
Item メソッド	ReportQueries コレクションからクエリー・オブジェクトを返す。
Remove メソッド	ReportQueries コレクションからすべてのクエリー・オブジェクトを削除します。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	コレクションに含まれるオブジェクトの個数を返します。

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery サブセット定義を作成します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
   End With
   Set objFind = Nothing
```

```
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 25 ページの『FindQuery オブジェクト』
- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』
- 51 ページの『ValueRestriction オブジェクト』

Reports

Report オブジェクトのリストを管理します。

解説

コレクションとは、タイプが異なるオブジェクトをグループ化またはリストにする、汎用的なオブジェクトです。Application オブジェクトに含まれる Report オブジェクトを、Reports コレクションにグループ化できます。Reports コレクションを使用すると、Report オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で Report オブジェクトのグループ全体を操作できます。

Reports コレクションに対して Add メソッドまたは Open メソッドを使用する場合は、新規 Report オブジェクトを取得しておかないとレポートが終了します。たとえば、オブジェクト PPRep1 を使用して、OUTDOORS.MDC から作成された新規レポートを取得するには、次のコードを使用する必要があります。

```
Set PPRep1 = PPApp.Reports.Add("c:\cognos\outdoors.mdc")
```

次のコードを使用するとします。

```
PPApp.Reports.Add("c:\cognos\outdoors.mdc")
```

この場合は、レポートが終了します。

名前	説明
Active メソッド	アクティブな Report オブジェクトを返す。
Add メソッド (Reports)	Reports コレクションに Report オブジェクトを追加します。
Close メソッド	コレクションに含まれるすべての Report オブジェクトを閉じる。
Item メソッド	Reports コレクションから Report オブジェクトを返す。
Open メソッド (Reports)	Report オブジェクトのコレクションを開く。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	コレクションに含まれる Report オブジェクトの個数を返します。

例

次の例は、コレクションに 2 つのレポートを追加し、コレクションに含まれる最初のレポートを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp As Object
   Dim objTest As Object
   Set objPPApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPApp.Visible = True
   Set objTest = objPPApp.Reports.Add _
      ("C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc")
   Set objTest = objPPApp.Reports.Open _
      ("C:\Cubes and Reports\Exception.ppr")
   Msgbox "The number of reports in the collection is
" _
      &objPPApp.Reports.Count
   Msgbox "The name of the first report in the collection
is " _
      &objPPApp.Reports(1).Name
   objPPApp.Reports(1).Visible = True
   Set objTest = Nothing
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 40 ページの『Report オブジェクト』

行

レポートの Row オブジェクトのリストを管理します。

解説

コレクションとは、タイプが異なるオブジェクトをグループ化またはリストにする、汎用的なオブジェクトです。Report オブジェクトに含まれる Row オブジェクトを、Rows コレクションにグループ化できます。Rows コレクションを使用すると、Row オブジェクトを 1 つずつ操作する代わりに、1 回の操作で Row オブジェクトのグループ全体を操作できます。

このコレクションを使用するには、最初に CategoryList オブジェクトからレポートにカテゴリーを追加し、続いて Row オブジェクトを追加するか、または行を持つ既存のレポートを開きます。

Reporter モードでのみ使用可能なメソッドがあります。

名前	説明
Accumulation メソッド	Rows コレクションに含まれるカテゴリーの値すべてを累計する。
Active メソッド	アクティブな Row オブジェクトを返す。
Add メソッド (Columns、Layers、Rows)	Rows コレクションに Row オブジェクトを追加する。
Addition メソッド (コレクション)	Rows コレクションに含まれるすべての Row オブジェクトに、定数値またはカテゴリーを加算する。
AddLevel メソッド	ネスト・クロス集計の行のコレクションに行のレベルを追加する。
AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter)	最下位レベルにある子カテゴリーをレポートに追加します。
Average メソッド (コレクション) (Reporter)	定数値または行と、1 つ以上の行の平均値を返す。
CumPercentOfBase メソッド	Column オブジェクトをベース・カテゴリーとして使用し、Base Row オブジェクトに対する累積パーセントを追加する。
DeleteExplorerRank メソッド	Explorer レポートからランク・カテゴリーを削除します。
Division メソッド	コレクションに含まれるすべての Row オブジェクトを、定数値または別のカテゴリーで除算する。
Exponentiation メソッド	すべての Row を、別のカテゴリーまたは定数値でべき乗する。
Hide メソッド	コレクションに含まれるすべての Row オブジェクトを非表示にする。
Item メソッド	Reports コレクションから Row オブジェクトを返す。
ItemAtLevel メソッド	ネスト・レポートから Row オブジェクトを返す。

名前	説明
Maximum メソッド (コレクション) (Reporter)	コレクションに含まれる各 Row オブジェクトと、定数値または別のカテゴリーの間で最大値を計算する。
Minimum メソッド (コレクション) (Reporter)	コレクションに含まれる各 Row オブジェクトと、定数値または別のカテゴリーの間で最小値を計算する。
Multiplication メソッド (コレクション)	コレクションに含まれるすべての Row オブジェクトに、定数値またはカテゴリーを乗算する。
Percent メソッド	カテゴリーまたは定数値を基準にした Row オブジェクトのパーセントを追加する。
PercentOfBase メソッド	Column オブジェクトをベース・カテゴリーとして使用し、Base Row オブジェクトに対するパーセントを追加する。
Remove メソッド	Report オブジェクトからすべての Row オブジェクトを削除する。
Select メソッド	コレクションに含まれるすべての Row オブジェクトを選択する。
Sort メソッド	行を昇順または降順にソートする。
Subset メソッド	Rows コレクションに含まれる Row オブジェクトのサブセットを返す。
Subtraction メソッド (コレクション)	コレクションに含まれる Row オブジェクトから、定数値またはカテゴリーを減算する。または定数値やカテゴリーから、すべての Row オブジェクトを減算する。
Unselect メソッド	コレクションに含まれるすべての Row オブジェクトの選択を解除する。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
Count プロパティー	コレクションに含まれる Row オブジェクトの数を返す。
DimensionLineIndex プロパティー	Layer、Row、および Column オブジェクトを管理するディメンション・ライン・アイテムの位置を返す。

名前	説明
Exception プロパティー	コレクションに含まれるすべての Row オブジェクトのハイライトを設定する。
Style プロパティー	コレクションに含まれるすべての Row オブジェクトに使用されるスタイルを設定する。
TopLevelCategory プロパティー (Explorer)	コレクションのディメンション名を返します。

例

次の例は、最初にある 3 行を追加し、列 1 と列 4 も追加します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objNewCol As Object
   Dim objNewRows As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   Set objNewRows = objPPRep.Rows.Subset(1,3).Addition
   MsgBox "The sum of the first three rows is " _
      &objPPRep.CellValue(objNewRows(1).Index,1)
   Set objNewCol = objPPRep.Columns.Item(4).Addition
_
      (objPPRep.Columns.Item(1))
   MsgBox "The sum of columns 1 and 4 is " _
      &objPPRep.CellValue(1,objNewCol.Index)
   Set objNewRows = Nothing
   Set objNewCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

第 4 章 メソッド

IBM Cognos PowerPlay OLE オートメーションでは、次のメソッドを使用します。

名前	説明
Accumulation メソッド	オブジェクトまたはコレクションに含まれるカテゴリーのすべての値を累計します。
Activate メソッド	オブジェクトにフォーカスを設定します。
Active メソッド	コレクションに含まれるアクティブなオブジェクトを返します。
ActiveReport メソッド	Application オブジェクトのアクティブな Report オブジェクトを返します。
Add メソッド (CategoryList)	1 つ以上のカテゴリーを、CategoryList オブジェクトに追加する。
Add メソッド (Columns、Layers、Rows)	1 つ以上のオブジェクトを、コレクションに追加するか、他のオブジェクト・リストを保持するオブジェクトに追加します。
Add メソッド (Exceptions)	Exceptions コレクションに Exception オブジェクトを追加します。
Add メソッド (Graphs)	Graphs コレクションに Graph オブジェクトを追加します。
Add メソッド (Ranges)	Ranges コレクションに Range オブジェクトを追加します。
Add メソッド (ReportQueries)	ReportQueries コレクションにクエリー・オブジェクトを追加します。
Add メソッド (Reports)	Reports コレクションに Report オブジェクトを追加します。
AddBlanks メソッド (Reporter)	ネスト・クロス集計に単一の空白行または空白列を追加する。
Addition メソッド (コレクション)	コレクションに含まれる 1 つ以上のオブジェクトに、定数値またはカテゴリーを追加します。
Addition メソッド (オブジェクト)	定数値またはカテゴリーをオブジェクトに追加します。

名前	説明
AddLevel メソッド	ネスト・クロス集計に行、列、またはレイヤーのレベルを追加します。
AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter)	最下位レベルにある子カテゴリーをレポートに追加します。
AddToReport メソッド	クエリー結果をレポートに追加する。
AddToReportAtSpecificNestingLevel メソッド	指定されたネスト・レベルで、クエリー結果をレポートに追加します。
Add メソッド (CategoryList)	定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの平均値を返します。
Average メソッド (オブジェクト) (Reporter)	定数値または別のカテゴリーと、オブジェクトの平均を計算します。
CanDrillDown メソッド	Category オブジェクトをドリルダウンできるかどうかを返します。
CanDrillUp メソッド	Category オブジェクトをドリルアップできるかどうかを返します。
Category メソッド	ParentageQuery サブセット定義の親カテゴリーまたはディメンションを設定します。
CategoryList メソッド	Report オブジェクトに挿入するカテゴリーの識別に使用する CategoryList オブジェクトを作成します。
CellValue メソッド	Report オブジェクトに含まれるセル値を取得する。
Change メソッド	Dimension オブジェクトの現在のカテゴリーを変更します。
ChangeToParent メソッド	Dimension オブジェクトの現在のカテゴリーを、階層の 1 つ上のレベルにあるカテゴリーに変更します。
ChangeToTop メソッド	Dimension オブジェクトの現在のカテゴリーを、最上位レベルにあるカテゴリーに変更する。
Children メソッド	オブジェクトの階層にある次の子を返します。
Close メソッド	1 つまたはすべての Report オブジェクトを閉じます。

名前	説明
Columns メソッド	すべての Column オブジェクトを含むコレクションを返す。
Copy メソッド	現在レポートで選択されている Row、Column、または Layer オブジェクトをクリップボードにコピーします。
CumPercentOfBase メソッド	異なるディメンションを基本として使用し、ベース・カテゴリーに対する累積パーセントを追加します。
Cut メソッド (Reporter)	現在選択されている Row、Column、または Layer オブジェクトをクリップボードに移動します。
DeleteAllMDCAccessInfo メソッド	すべてのキューブについて、PowerCube セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除する。
DeleteExplorerRank メソッド	Explorer レポートからランク・カテゴリーを削除します。
DeleteDataSourceInfo メソッド	指定されたキューブについて、PowerCube セキュリティーのアクセス情報をメモリーから削除する。
DeleteAllDataSourceInfo メソッド	すべての PowerCube について、セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除する。
DeleteMDCAccessInfo メソッド	1 つのローカル PowerCube について、セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除します。
DeleteSelected メソッド	選択したオブジェクトを Report コレクションから削除します。
DeploymentOptions メソッド	IBM Cognos ポータルに発行するレポートの配布オプションを返します。
Depth メソッド	Graph オブジェクトが 3 次元 (3D) かどうかを返す。
DimensionFilter メソッド	インデックス付きディメンションのフィルター・カテゴリーを設定する。
DimensionLine メソッド	現在の Report オブジェクトに対する DimensionLine オブジェクトを返す。

名前	説明
Division メソッド	1 つ以上のカテゴリーを、定数値または別のカテゴリーで除算します。
DrillDown メソッド	Category オブジェクトをドリルダウンします。
DrillUp メソッド	Category オブジェクトをドリルアップします。
Exceptions メソッド	1 つの Exception オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
Exclude メソッド	クエリーから除外するカテゴリーを設定する。
Execute メソッド	キューブに対してクエリーを実行します。
Exponentiation メソッド	1 つ以上のカテゴリーを、他のカテゴリー、または定数値でべき乗します。
Find メソッド	AdvancedQuery に含める FindQuery オブジェクトの名前を指定する。
FindNext メソッド	レポートに含まれる、一致する次のカテゴリー・ラベルを検索します。
FindPrevious メソッド	一致する前のカテゴリー・ラベルをレポート内で検索します。
Forecast メソッド (Explorer)	既存の時間ディメンションに基づいて、指定した数の予測カテゴリーを作成します。
GetDataNow メソッド	Report オブジェクトに含まれるデータを更新します。
Graphs メソッド	1 つの Graph オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
HasParent メソッド	現在のカテゴリーに親があるかどうかを返す。
Hide メソッド	カテゴリーを非表示にします。
HideSelected メソッド	コレクションに含まれる、選択されたオブジェクトを非表示にする。
HideUnselected メソッド	コレクションに含まれる、選択されていないオブジェクトを非表示にする。
Include メソッド	クエリーに含めるカテゴリーを設定する。

名前	説明
Item メソッド	コレクションまたは他のオブジェクト・リストを保持するオブジェクトから、オブジェクトを 1 つ返します。
ItemAtLevel メソッド	ネストされたレポートから、行または列オブジェクトを返します。
Layers メソッド	1 つの Layer オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
Level メソッド	クエリーでカテゴリーを検索するための AdvancedQuery オブジェクトで使用されるレベルを設定する。
Levels メソッド	ディメンションに含まれるカテゴリーに使用可能なレベルすべてを返す。
Logon メソッド	認証されたユーザーとして IBM Cognos Analytics にログオンして、パッケージなどの保護された IBM Cognos Analytics リソースに対するアプリケーション・オブジェクト・アクセスを可能にします。
Logoff メソッド	アプリケーション・オブジェクトのすべての IBM Cognos Analytics ネームスペースに対する認証を取り消します。セッションで複数のネームスペースを使用した場合も、一度だけログオフすればセッションを終了できます。
Maximize メソッド	オブジェクト・ウィンドウを最大化します。
Maximum メソッド (コレクション) (Reporter)	定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの最大値を計算します。
Maximum メソッド (オブジェクト) (Reporter)	定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの最大値を計算します。
Minimize メソッド	オブジェクト・ウィンドウを最小化します。
Minimum メソッド (コレクション) (Reporter)	定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの最小値を計算します。
Minimum メソッド (オブジェクト) (Reporter)	定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの最小値を計算します。
Multiplication メソッド (コレクション)	定数値またはカテゴリーを 1 つ以上のカテゴリーで乗算します。
Multiplication メソッド (オブジェクト)	定数値またはカテゴリーをオブジェクトで乗算します。

名前	説明
New メソッド	新規 Report オブジェクトを作成します。
Open メソッド (Report)	既存の Report オブジェクトを開きます。
Open メソッド (Reports)	Reports オブジェクトのコレクションを開きます。
207 ページの『OpenRemoteReport メソッド』	既存のリモートのレポート・オブジェクトを開きます。
Parent メソッド	親カテゴリーの名前を返す。
Paste メソッド (Reporter)	Report オブジェクトの選択したカテゴリーにクリップボードの内容を貼り付ける。
PDFFile メソッド	PDF オブジェクトを保存するときのファイル名を設定する。
Percent メソッド	カテゴリーまたは定数値を基準にして、1 つ以上のカテゴリーに対する割合を追加します。
PercentGrowth メソッド	2 つのカテゴリーまたは数値データ間の割合の変化を計算する。
PercentOfBase メソッド	異なるディメンションのカテゴリーを基本として使用し、ベース・カテゴリーに対する割合を追加します。
Print メソッド	Print オブジェクトを返す。
PrintOut メソッド	Report オブジェクトを印刷する。
PublishToPortal メソッド	IBM Cognos Analytics Content Store にレポートを作成します。ユーザーは、Cognos Analytics ポータルを使用してレポートにアクセスします。
Quit メソッド	PowerPlay を終了します。
Ranges メソッド	1 つの Range オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
Rank2 メソッド	Row オブジェクトまたは Column オブジェクトをランク付けしてソートします。
Remove メソッド	1 つのオブジェクトまたはオブジェクトすべてを、コレクションから削除します。

名前	説明
Remove メソッド (ReportQueries)	ReportQueries コレクションからすべてのクエリー・オブジェクトを削除します。
RemoveLevel メソッド	列、レイヤー、または行レベルをレポートのネスト・クロス集計から削除します。
ReportQueries メソッド	ReportQueries コレクションを返します。
Reports メソッド	1 つの Report オブジェクトまたはコレクション全体を返す。
ResetPrintOptionsToDefault メソッド	印刷オプションをデフォルト設定にリセットする。
Restore メソッド	オブジェクト・ウィンドウを元のサイズと位置に戻します。
Rollup メソッド	算出値を持つカテゴリーをグループ化し、新しい動的計算を作成する。
Rows メソッド	1 つの Row オブジェクトまたはコレクション全体を返します。
Save メソッド	1 つまたはすべての Report オブジェクトを保存する。
SaveAs メソッド	Report オブジェクトに異なる名前を付け、必要に応じて異なる形式で保存します。
Select メソッド	カテゴリーを選択します。
SelectAllDimensions メソッド	IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに、フィルターをかけるディメンション・ラインの Dimension オブジェクトをすべて選択します。
SelectBlank メソッド	特定の空白行または空白列を選択します。
SetChartToPrint メソッド	印刷するレポートの Graph オブジェクトを指定する。
SetChartToSave メソッド	PDF に保存する Graph オブジェクトを指定する。
SetDataSourceInfo メソッド	データ・ソースのセキュリティー情報をメモリーに保存する。
SetDrivingCategory メソッド	Exception オブジェクトのドライブ・カテゴリーを設定する。

名前	説明
SetListOfLayersToPrint メソッド	印刷するレポートのレイヤー範囲を指定する。
SetListOfLayersToSave メソッド	PDF に保存するレイヤーの範囲を指定する。
SetListOfRowsToPrint メソッド	印刷するレポートの行範囲を指定する。
SetListOfRowsToSave メソッド	PDF に保存する行範囲を指定する。
SetMacro メソッド	Exception オブジェクトで使用されるマクロの名前とスタイルを設定します。
SetMDCAccessInfo メソッド	PowerCube セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーに保存します。
SetType メソッド	Graph オブジェクトのタイプを設定する。
SizeSelected メソッド	選択したオブジェクトにサイズを適用する。
Sort メソッド	列、レイヤー、または行を、昇順または降順でソートします。
StyleSelected メソッド	選択したオブジェクトにスタイルを適用する。
Subset メソッド	現在のコレクションからオブジェクトのサブセットを返します。
Subtraction メソッド (コレクション)	コレクションに含まれる 1 つ以上のカテゴリーから、定数値またはカテゴリーを減算します。または、定数値や他のカテゴリーから、カテゴリーすべてを減算します。
Subtraction メソッド (オブジェクト)	オブジェクトから定数値または別のカテゴリーを減算します。または、カテゴリーまたは定数値からオブジェクトを減算します。
SwapColumnsAndLayers メソッド	Column オブジェクトと Layer オブジェクトの位置を交換する。
SwapRowsAndColumns メソッド	Row オブジェクトと Column オブジェクトの位置を交換する。
SwapRowsAndLayers メソッド	Row オブジェクトと Layer オブジェクトの位置を交換する。
UnhideAllCategories メソッド	非表示になっているカテゴリーすべてを表示する。

名前	説明
Unselect メソッド	カテゴリーの選択を解除します。
UnselectBlank メソッド	特定の空白行または空白列の選択を解除します。
UnselectAllDimensions メソッド	IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに、フィルターをかけるディメンション・ラインの選択されたディメンション・オブジェクトをすべて選択解除します。
UpdatePublishedReport メソッド	IBM Cognos Analytics Content Store に以前に発行されたレポートを更新します。
ValueRestriction メソッド	AdvancedQuery オブジェクトの値制限を返す。
Vertical メソッド	Graph オブジェクトが縦表示かどうかを返す。

Accumulation メソッド

オブジェクトまたはコレクションに含まれるカテゴリーのすべての値を累計します。

構文

object.**Accumulation** [Operand]

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Row オブジェクト

Rows

解説

レイヤーを超えて値の累積はできません。

メソッドがオブジェクトに適用されるか、またはコレクションに適用されるかに応じて、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

計算結果は、新しいカテゴリーに保存され、Row または Column オブジェクトの横か、Rows または Columns コレクションの最後に追加されます。

コレクションに含まれる値を累積すると、コレクションの各オブジェクトに対応する新しいカテゴリーが作成されます。たとえば、Accumulation メソッドでコレクションの 5 列を使用すると、新しい 5 列が作成されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

累積されたカテゴリーをクロス集計した結果は未定義です。

注

Explorer モードで値を累計した場合は、合計カテゴリーが除外され、その結果、N/A 値が表示されます。また N/A 値は、ランク、他の累積、ビジネス計算 (基底値に対する累積パーセントなど) の交差部分にも表示されます。

Explorer モードでは、複数のカテゴリーが選択されていると、「累積」計算が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	オプション。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、開かれたレポートを返し、行と列すべてを累積し、新しい行と列を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Columns.Accumulation
   objPPRep.Rows.Accumulation
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

• 74 ページの『行』

Activate メソッド

オブジェクトにフォーカスを設定します。

構文

object.**Activate**

適用対象

Application オブジェクト

Column オブジェクト

Graph オブジェクト

Layer オブジェクト

Report オブジェクト

Row オブジェクト

解説

このメソッドは次の場合に使用します。

- Graph オブジェクトをアクティブにする。
- Layer オブジェクトをアクティブにし、カーソルをそのカテゴリーに移動する。
- Column または Row オブジェクトをアクティブにし、カーソルをそのカテゴリーに移動する。
- Report オブジェクトをアクティブにし、同じ Application オブジェクトに含まれる Report オブジェクトすべての最前面に移動する。
- アプリケーションをアクティブにし、Visible メソッドが True を返したときに、他のアプリケーションすべての最前面に移動する。

たとえば、いくつかの異なるレポートに影響を与えるオートメーション・プロシージャーを作成する場合、影響される異なるオブジェクトにフォーカスを設定できます。たとえば、マクロによって異なるレポートが 4 つ開かれる場合、Activate メソッドを使用して、フォーカスを現在アクティブでないレポートへ移動します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開かれているレポートへのリンクを確立して、その内容を変更します。Application メソッドを使用すると、 IBM Cognos PowerPlay アプリケーションが前面に移動され、アクティブになります。

```
Sub Main()
```

```
   Dim objRep As Object
   Set objRep = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   MsgBox "The name of the current report is " &objRep.Name
   If objRep.Saved = False Then
      objRep.Save
      MsgBox "Changes to the report have been saved."
   Else
      MsgBox "No changes have been made to the report."
   End If
   objRep.Application.Activate
   Set objRep = Nothing
End Sub
```

Active メソッド

コレクションに含まれるアクティブなオブジェクトを返します。

構文

object.**Active**

適用対象

Columns

Graphs

Layers

Reports

Rows

解説

コレクションに含まれるアクティブなオブジェクトを制御します。たとえば、複数の Graph オブジェクトがレポートに含まれている場合、このメソッドを使用して、Graph オブジェクトのコレクションから単一のアクティブな Graph オブジェクトを識別します。

関連トピック

- 59 ページの『列』
- 63 ページの『Graphs』
- 66 ページの『Layers』
- 73 ページの『Reports』
- 74 ページの『行』

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、積み上げグラフをレポートに追加し、アクティブなグラフのグラフ・タイプを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Trend.ppx"
   objPPRep.Graphs.Add 5
   MsgBox "The active graph type is " _
      &objPPRep.Graphs.Active.Type
   objPPRep.Save
   objPPRep.Close
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

ActiveReport メソッド

Application オブジェクトのアクティブな Report オブジェクトを返します。

構文

Application.**ActiveReport**

適用対象

Application オブジェクト

解説

アプリケーションに含まれるアクティブなレポートを制御します。たとえば、複数のレポートを開くときに、このメソッドを使用すると、Report オブジェクトの名前を指定しなくてもアクティブな Report オブジェクトが返されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、複数のレポートが開かれるように、レポートを Reports コレクションに追加します。ActiveReport メソッドは、最後に開いたレポートか、または最後にコレクションに追加したレポートに、フォーカスを設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPApp As Object
```

```
   Dim objReports As Object
   Set objPPApp = GetObject(, "CognosPowerPlay.Application")
   Set objReports = objPPApp.Reports
   Set objPPRep = objReports.Add("C:\Cubes and Reports\"
& _
      "Sample1.ppx")
   objPPRep.Visible = True
   MsgBox "There are " & objReports.Count & "
reports open."
   Set objPPRep = objPPApp.ActiveReport
   MsgBox "The name of the active report is " &objPPRep.Name
   Set objPPRep = Nothing
   Set objReports = Nothing
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』

Add メソッド (CategoryList)

1 つ以上のカテゴリーを、CategoryList オブジェクトに追加する。

構文

CategoryList.**Add** Level, Dimension[, Category]

適用対象

CategoryList オブジェクト

解説

カテゴリーをレポートに追加するには、まず Report メソッドである CategoryList メソッドを呼び出し、CategoryList オブジェクトを作成します。次に、作成したオブジェクトを使用して、必要なカテゴリーを識別します。その後、このメソッドを使用して、多次元キューブ・ファイル (.mdc) から既存のカテゴリーを選択します。

Add メソッドは、CategoryList オブジェクトで、CategoryList オブジェクトに追加するカテゴリーを、追加可能なカテゴリーすべてから選択するために使用します。追加されるカテゴリーは、指定した Dimension または Category の Level n に存在するカテゴリーです。

ReporterMode では、Level パラメーターに任意の数を使用できます。
ExplorerMode では、Level パラメーターに 0 以外を指定すると、値が無視されます。ExplorerMode では、「Add」メソッドはドリルダウンまたはフィルターのア

クションになり、マクロはカテゴリーを置換します。また、ReporterMode では追加アクションとなり、マクロは既存のカテゴリーと置換せず、カテゴリーを追加します。

Category 名を指定しないと、ディメンションの下位にある指定したレベルに存在するカテゴリーすべてが CategoryList オブジェクトに追加されます。

Category 名を 1 つ指定すると、Category 名の下位にある指定したレベルに存在するカテゴリーすべてが CategoryList オブジェクトに追加されます。

以降の Category 名は、直前の Category 名の子でなければなりません。Category 名は最大 10 個まで指定できます。

たとえば、次のように指定します。

- Catlist.Add 0, "Years"

"Years"ディメンション・カテゴリーをレポートに追加します (子はレポートに追加されません)。

- Catlist.Add 2,"Dimension","Category1","Category2"

"Category2"の第 2 下位レベルにあるカテゴリーを CategoryList オブジェクトに追加します。"Category1"は"Dimension"の第 1 レベルにあるカテゴリーを指定し、"Category2"は"Category1"の子を識別します。

カテゴリーを追加する前に Dimension が必要です。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

メモ

カテゴリー名が指定されたディメンションで一意の場合は、親カテゴリーを指定せずに、下位レベルにあるカテゴリー名を指定できます。たとえば、次のように指定します。

```
Catlist.Add 2, "Dimension","Category1"
```

"Category1"の第 2 下位レベルにあるカテゴリーが CategoryList オブジェクトに追加され、"Category1"はディメンション"Dimension"の第 3 レベルのカテゴリーである可能性があります。この方法は、構文は正しくても、追加するカテゴリーが属するレベルが不明確なため、マクロが正しく読み込まれない場合があります。

パラメーター	説明
レベル	必須。追加するカテゴリーを検索する指定したディメンションまたはカテゴリーから下位にあるレベル数を指定します。ゼロは、指定したディメンションまたはカテゴリーを意味します。 タイプ:Integer このパラメーターに関する解説の「注」を参照。
ディメンション	必須。追加するディメンション名またはインデックスか、または追加するカテゴリーを検索するディメンション名またはインデックスを指定します。 タイプ:String
Category	オプション。目的のカテゴリー、または子の追加を開始するカテゴリーを正確に識別するために、0 個以上のカテゴリー名を指定できます。最大数は 10 です。 タイプ:String

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、列を Reporter レポートに追加します。行は、"Years"ディメンションの"2008 Q1"カテゴリーの下位にあるカテゴリーです。

```
Sub Main()
   Dim objMDCCats as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objMDCCats = objPPRep.CategoryList
   objMDCCats.Add 1, "Years","2008","2008 Q1"
   objPPRep.Rows.Add objMDCCats
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objmdcCats = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Add メソッド (Columns、Layers、Rows)

1 つ以上のオブジェクトを、コレクションに追加するか、他のオブジェクト・リストを保持するオブジェクトに追加します。

構文

collection.**Add** CategoryList [, NestingLevel]

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

CategoryList オブジェクトで識別されたカテゴリーを、レポートの列、レイヤー、または行に追加します。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
CategoryList	必須。カテゴリー・ラベルが一意の場合はディメンションを識別せずに、CategoryList オブジェクトを指定します。 タイプ:Object
NestingLevel	オプション。カテゴリーを追加するネスト・レベルを示す値。 デフォルト:0 (最上位レベル) タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、カテゴリーの新規レベルをレイヤーとしてレポートに追加します。

```
Sub Main()
```

```
   Dim objCubeCategories As Object
   Dim objPPRep As Object
   Const level_0 = 0
   Const level_1 = 1
   Const add_to_current = 0
   Const add_to_all = 1
   Const as_parent = 0
   Const as_child = 1
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",
-1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCubeCategories = objPPRep.CategoryList
   objCubeCategories.Add level_1, "Locations"
   objPPRep.Layers.Add objCubeCategories
   Set objCubeCategories = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Add メソッド (Exceptions)

Exceptions コレクションに Exception オブジェクトを追加します。

構文

Exceptions.**Add** Identifier

適用対象

Exceptions

解説

Add メソッドは、Exceptions コレクションに Exception オブジェクトを追加します。識別子は追加されるオブジェクトの名前です。

Add メソッドを使用して作成したハイライトは共有ハイライトではなく、"ppexcept.ini"ファイルに追加されることもありません。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Identifier	必須。ハイライト名を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、1 つの範囲を持つハイライトを作成して、新規レポートに適用します。ハイライトに適用するスタイルは、あらかじめ定義しておく必要があります。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim strExceptionName As String
   strExceptionName = "At Least 400 Thousand"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",True
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.Exceptions.Add strExceptionName
   objPPRep.Exceptions.Item(strExceptionName).Ranges.Add
_
      "Minimum",399999,"Good News"
   objPPRep.Columns.Exception =strExceptionName
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Add メソッド (Graphs)

Graphs コレクションに Graph オブジェクトを追加します。

構文

Graphs.**Add** GraphType[, Depth][, Vertical]

適用対象

Graphs

解説

Graph オブジェクトは、ユーザー・インターフェースでの表示と同じです。

次のリストを使用して、Graph オブジェクトのタイプを設定します。

- 0 (クロス集計)
- 1 (円)
- 2 (3D)
- 3 (棒)
- 4 (クラスター)
- 5 (積み上げ)
- 6 (線)
- 7 (複線)
- 8 (相関)
- 9 (散布)

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
GraphType	必須。追加する Graph オブジェクトのタイプを指定します。 タイプ:Integer
Depth	オプション。Graph オブジェクトが 3 次元 (3D) かどうかを指定します。適用可能なグラフ・タイプは、1、3、4、5 のいずれかです。 デフォルト:True (タイプ 1、3、4、5) タイプ:Boolean
Vertical	オプション。Graph オブジェクトが縦表示かどうかを指定します。プロパティーが False の場合、適用されるグラフ・タイプは 3 だけです。 デフォルト:True タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、新しい表示タイプをアクティブなレポートに追加します。追加される表示は、水平の 3D 棒グラフです。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPGraph As Object
   Dim objGraphs As Object
   Const type_bar = 3
   Const three_d = True
   Const horizontal = False
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objGraphs = objPPRep.Graphs
   Set objPPGraph = objGraphs.Add _
      (type_bar, three_d, horizontal)
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objGraphs = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Add メソッド (Ranges)

Ranges コレクションに Range オブジェクトを追加します。

構文

Ranges.**Add** LowerBoundary, UpperBoundary, Style

適用対象

Ranges

解説

ハイライトの適用範囲、および指定したスタイルのハイライトへの適用場所を定義する必要があります。レポートに含まれる情報がハイライト範囲で設定した条件を満たす場合に、書式設定の適用範囲を決定するには、Range オブジェクトの UpperBoundary メソッドと LowerBoundary メソッドを使用します。

1 つのハイライトに複数の値の範囲を定義し、範囲ごとに書式スタイルを設定できます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
LowerBoundary	必須。範囲の下限を指定します。 タイプ:Variant
UpperBoundary	必須。範囲の上限を指定します。 タイプ:Variant
Style	必須。追加する範囲に適用するスタイルの名前を指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、1 つの範囲を持つハイライトを作成して、新規レポートに適用します。ハイライトに適用するスタイルは、あらかじめ定義しておく必要があります。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim strExceptionName As String
   strExceptionName = "At Least 400 Thousand"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",True
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.Exceptions.Add strExceptionName
   objPPRep.Exceptions.Item(strExceptionName).Ranges.Add
_
       "Minimum",399999,"Good News"
   objPPRep.Columns.Exception =strExceptionName
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Add メソッド (ReportQueries)

ReportQueries コレクションにクエリー・オブジェクトを追加します。

構文

ReportQueries.**Add** Type

適用対象

ReportQueries

解説

新規クエリーを作成して追加し、新規のクエリー・オブジェクトを返します。Report オブジェクトに含まれるクエリー・オブジェクトを、ReportQueries コレクションにグループ化できます。このメソッドを使用して、CategoryList オブジェクトのカテゴリーをレポートに追加し、クエリー・オブジェクトを作成します。

ReportQueries コレクションは、Report オブジェクトに属する特殊なオブジェクトです。ReportQueries コレクションに属するクエリー・オブジェクトには、FindQuery、ParentageQuery、および AdvancedQuery など、いくつかの種類があります。

パラメーター	説明
Type	必須。クエリー・オブジェクトに追加するクエリーのタイプを識別する数値を指定します。 1 = Find クエリー 2 = Parentage クエリー 3 = Advanced クエリー 4 = ValueRestriction クエリー タイプ:Integer

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、"Europe"に属するカテゴリーすべてを取得する、AdvancedQuery (タイプ 3) のサブセット定義を作成します。サブセットが行としてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode False
   objPPRep.Visible = True
```

```
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name "European Countries"
      .Dimension "Locations"
      .Level "Country"
      .Include "Europe"
      .Execute
      .AddToReport 1,1,3
   End With
   Msgbox "Name:  " & objAdvanced.Name & chr$(10)
& _
      "Dimension:  " & objAdvanced.Dimension &
chr$(10) & _
      "Level List:  " & objAdvanced.LevelList &
chr$(10) & _
      "Query Type Code:  " & objAdvanced.Type &
chr$(10) & _
      "Number of Categories:  " & objAdvanced.Count
& _
      chr$(10) & _
      "First Category:  " & objAdvanced.Item(1).Name,
_
      ,"Subset"
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 112 ページの『AddToReport メソッド』
- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 25 ページの『FindQuery オブジェクト』
- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』

Add メソッド (Reports)

Reports コレクションに Report オブジェクトを追加します。

構文

Reports.**Add** MDCName

適用対象

Reports

解説

Add メソッドは、既存のレポートまたはキューブを開き、それを Reports コレクションに追加します。

Reports コレクションに対して Add メソッドを使用する場合は、新規 Report オブジェクトを取得しておかないとレポートが終了します。たとえば、オブジェクト objPPRep1 を使用して、"outdoors.mdc"から作成された新規レポートを取得するには、次のコードを使用する必要があります。

```
Set objPPRep1 = objPPApp.Reports.Add("c:\cognos\outdoors.mdc")
```

次のコードを使用するとします。

```
objPPApp.Reports.Add(c:\cognos\outdoors.mdc")
```

この場合は、レポートが終了します。

パラメーター	説明
MDCName	必須。開く MDC (キューブ) の名前を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、既存のレポートを Reports コレクションに追加し、 IBM Cognos PowerPlay のアクティブなインスタンス内で表示可能にします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPApp As Object
   Dim objReports As Object
   Set objPPApp = GetObject(, "CognosPowerPlay.Application")
   Set objReports = objPPApp.Reports
   Set objPPRep = objReports.Add("C:\Cubes and Reports\"
& _
      "Sample1.ppx")
   objPPRep.Visible = True
   MsgBox "There are " & objReports.Count & "
reports open."
   Set objPPRep = Nothing
   Set objReports = Nothing
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

AddBlanks メソッド (Reporter)

ネスト・クロス集計に単一の空白行または空白列を追加する。

構文

Report.**AddBlanks**

適用対象

Report オブジェクト

解説

行または列のグループを空白で区切り、クロス集計の外観を改善します。空白の行または列は、サイズ変更、移動、削除、書式設定ができます。

空白の行および列は、値を含むためのものではありません。値を含む列、レイヤー、および行を追加するには、Add または AddLevel メソッドを使用します。

AddBlanks メソッドは、Select メソッドと組み合わせて使用します。レポートで Select を使用してオブジェクトを選択した後で、AddBlanks を使用して選択したメンバーの直後に空白 (行または列) を追加できます。ネスト・クロス集計の階層が尊重されます。つまり、挿入された空白は、対応する選択したメンバーと同じレベルに表示されます。空白の行または列は、選択したメンバーに属するリストに所属します。

たとえば Rows の場合は、選択した行と空白行すべての直下に新しい空白行が挿入されます。

次の例は、ItemAtLevel メソッドを使用して、空白行が特定の位置に挿入されないようにします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel("Environmental Line",1).Select
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel("Recycled Products",0).Select
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel("Outdoor Products",1).Select
   objPPRep.Rows.AddBlanks
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

行とレイヤーを入れ替えた場合、空白行は空白レイヤーと一致しません。ただし、行とレイヤーを再度入れ替えると、空白行が再び表示されます。

AddBlanks は、Reporter のネスト・クロス集計のみに適用されます。表示がネスト・クロス集計でない場合はエラーが発生します。

また、処理が成功した場合は True が、失敗した場合は False が返されます。

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、AddBlanks メソッドを使用して、アクティブなレポートに含まれる最終行の前に空白行を、最終列の前に空白列を追加します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intRow As Integer
   Dim intColumn As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   intRow = objPPRep.Rows.Count - 1
   intColumn = objPPRep.Columns.Count - 1
   objPPRep.Rows.Item(intRow).Select
   objPPRep.AddBlanks
   objPPRep.Rows.Unselect
   objPPRep.Columns.Item(intColumn).Select
   objPPRep.AddBlanks
   objPPRep.Columns.Unselect
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel(intRow,0).SelectBlank(1)
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intColumn,0).SelectBlank(1)
   Msgbox " A blank row and column have been added "
& _
      "and selected.",64,"Blanks"
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel(intRow,0).UnselectBlank(1)
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intColumn, _
      0).UnselectBlank(1)
   Msgbox " The blank row and column have now been "
& _
      "unselected.",64,"Blanks"
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 241 ページの『Select メソッド』

Addition メソッド (コレクション)

コレクションに含まれる 1 つ以上のオブジェクトに、定数値またはカテゴリーを追加します。

構文

collection.**Addition** [Operand]

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

複数のカテゴリーを同時に加算することもできます。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	オプション。定数値または Category オブジェクトを指定します。このパラメーターを指定すると、カテゴリーと演算項目の各組が加算され、それぞれの結果を表示する新規カテゴリーが作成されます。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、最初にある 3 行を加算し、列 1 と列 4 も加算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objNewCol As Object
   Dim objNewRow As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objNewRow = objPPRep.Rows.Subset(1, 3).Addition
   MsgBox "The sum of the first three rows is " _
```

```
      &objPPRep.CellValue(objNewRow(1).Index,1)
   Set objNewCol = objPPRep.Columns.Item(4).Addition
_
      (objPPRep.Columns.Item(1))
   MsgBox " The sum of column one and column four is
" _
      &objPPRep.CellValue(1,objNewCol.Index)
   objPPRep.Save
   Set objNewRow = Nothing
   Set objNewCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

Addition メソッド (オブジェクト)

定数値またはカテゴリーをオブジェクトに追加します。

構文

object.**Addition**(Operand)

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

カテゴリーと演算項目を加算し、それぞれの結果を表示する新規カテゴリーを作成します。

Explorer モードでは、計算の演算項目が、同じディメンションと軸から取得されている必要があります。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

Explorer モードでは、新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、列に 6 を加算してから、合計をレポートの新しい列に返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Tents")
   objPPCol.Addition(6)
   objPPRep.Save
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

AddLevel メソッド

ネスト・クロス集計に行、列、またはレイヤーのレベルを追加します。

構文

collection.**Addlevel** CubeCategories, Level, Action, Position

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

Category オブジェクトのコレクションを、ネスト・クロス集計の指定したレベルの現在のカーソル位置に挿入します。新規レベルには、カテゴリー・リストのカテゴリーが含まれます。

レベルは、Action パラメーターの設定に従って、ネスト・レベルまたはグループ・レベル (親カテゴリーに対する子カテゴリー) に挿入されます。グループ・レベルを追加すると、同じグループの一部を構成するレベルにあるカテゴリーすべてにカテゴリーが追加されます。レベルは、親または子のいずれかで、Position パラメーターの設定に依存します。

また、Level パラメーターを使用して設定され、0 は実際のデータに最も近いレベル (最下位レベルの行または列) を表し、1 は 1 つ上位にあるレベルを表します。たとえば、財務クロス集計には"Years"と"Months"のレベルとデータがあり、レベル 0 は"Months"、レベル 1 は"Years"を示します。

AddLevel は、ネスト・クロス集計のみに適用されます。表示中のグラフがネスト・クロス集計でない場合は、エラーが発生します。

Explorer モードでは、同じディメンションからレベルを追加すると、Action パラメーターが無視されます。

パラメーター	説明
CubeCategories	必須。指定した Dimension (Rows、Columns、または Layers) および指定したレベルに追加する、Category オブジェクトのコレクションを指定します。 タイプ:Object
レベル	必須。カテゴリーを追加するネスト・レベルを指定します。 タイプ:Long

パラメーター	説明
Action	必須。レベルの追加先を指定します。 1 = グループ・レベルに追加0 = ネスト・レベルに追加 注:Position パラメーターが False (親) に設定されている場合は、このパラメーターを 1 (グループ) に設定します。 タイプ:Integer
Position	必須。カテゴリーを、親または子のどちらで追加するかを指定します。 False = 親レベル True = 子レベル タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、カテゴリーの新規ネスト・レベルを行としてレポートに追加し、次に列の新規ネスト・レベルを追加します。

```
Sub Main()
   Dim objCubeCategories As Object
   Dim objPPRep As Object
   Const level_0 = 0
   Const level_1 = 1
   Const add_to_current = 0
   Const add_to_all = 1
   Const as_parent = 0
   Const as_child = 1
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",
-1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCubeCategories = objPPRep.CategoryList()
   objCubeCategories.Add level_1, "Channels"
   objPPRep.Rows.AddLevel objCubeCategories, level_0,
_
         add_to_all, as_child
   objCubeCategories.Remove
```

```
   objCubeCategories.Add level_1, "Locations"
   objPPRep.Columns.AddLevel objCubeCategories, level_0,
_
         add_to_all, as_child
   Set objCubeCategories = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 104 ページの『AddBlanks メソッド (Reporter)』

AddLowestLevelCategories メソッド (Reporter)

最下位レベルにある子カテゴリーをレポートに追加します。

構文

object.**AddLowestLevelCategories** [Rollup]

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Layer オブジェクト

Layers

Row オブジェクト

Rows

解説

Reporter レポートに親カテゴリーが含まれている場合、指定した親カテゴリーの後に最下位レベルにある子カテゴリーを挿入します。

このメソッドは、現在のレポートに存在しないカテゴリーでは実行できませんが、マクロにあらかじめ追加したカテゴリーでは実行できます。この場合は、最下位レベルの子カテゴリーが、現在のカーソル位置の後に挿入されます。

ヒント: このメソッドは、最下位レベルのカテゴリーを表示するレポートを開くときに、After Doc Open 管理マクロで使用すると便利です。

パラメーター	説明
Rollup	オプション。集計カテゴリーをレポートに追加するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。 True = 集計カテゴリーを追加する False = 集計カテゴリーを追加しない デフォルト:True タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートに含まれる最初の行カテゴリーに含まれる最下位レベルの子カテゴリーを追加します。

```
Sub Main()
   Dim objReport As Object
   Set objReport = GetObject ("c:\Cubes and Reports\Sample2.ppx")
   objReport.ExplorerMode = False
   objReport.Rows.Item(1).AddLowestLevelCategories True
   objReport.Rows.Item(1).Remove
   MsgBox "The parent category has been removed."
   Set objReport = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

AddToReport メソッド

クエリー結果をレポートに追加する。

構文

object.**AddToReport** InsertItem, InsertPoint, LevelAction

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

FindQuery オブジェクト

ParentageQuery オブジェクト

解説

レポートに含まれる行、列、またはレイヤーに、クエリー結果を追加します。サブセットを挿入するレポートの位置と挿入方法を指定します。

AdvancedQuery オブジェクト、FindQuery オブジェクト、または ParentageQuery オブジェクトを使用して、サブセットを定義します。次に、サブセット定義のために指定したプロパティーに基づいて、Execute メソッドを使用してクエリーを実行します。サブセットが、レポートの指定された位置に挿入されます。

AddtoReport メソッドでは、どのレベルに行や列を追加するかは指定できません。新しい AddToReportAtSpecificNestingLevel メソッドでは、希望するネスト・レベルを指定できます。

AddToReport メソッドは、クエリーのサブセット定義にある最後のコンポーネントであることが必要です。

パラメーター	説明
InsertItem	必須。サブセットを挿入するレポートの位置を指定します。 0 = Row 1 = Column 2 = Layer タイプ:Integer
InsertPoint	必須。サブセットを追加するレポートのインデックスを指定します。Rows、Columns、および Layers の初期値は 1 です。 タイプ:Long

パラメーター	説明
LevelAction	必須。行、列、またはレイヤーをセットに追加するときに実行するアクションを指定します。 0 = なし (何も許可しない) 1 = (現バージョンでは未使用) 2 = 前に挿入 (ショート・バー・ドロップ・ゾーンのネスト (親)) 3 = 後に挿入 (ショート・バー・ドロップ・ゾーンのネスト (親)) 4 = 兄弟カテゴリーを前に追加 (同じレベル) 5 = 兄弟カテゴリーを後に追加 (同じレベル) 6 = グループを前に (新しいネスト・グループを挿入 - ロング・バー・ドロップ・ゾーン) 7 = グループを後に (新しいネスト・グループを挿入 - ロング・バー・ドロップ・ゾーン) タイプ:Integer 注:0 を使用すると、行、列、またはレイヤーが存在しない行、列、またはレイヤーに、サブセットが挿入されます。行、列、またはレイヤーが存在する場合、この値は機能しません。

戻り値のタイプ

整数

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。クエリーにより検索された、「Star」で始まる名前を持つ製品のサブセットが、列としてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
```

```
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
   End With
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Star Products"
      .Dimension = "Products"
      .Level "Product Id"
      .Find objFind.Name
      .Execute
      .AddToReport 1,1,3
   End With
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objFind = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 157 ページの『Execute メソッド』

AddToReportAtSpecificNestingLevel メソッド

指定されたネスト・レベルで、クエリー結果をレポートに追加します。

構文

object.**AddToReportAtSpecificNestingLevel** InsertItem, InsertPoint, LevelAction

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

FindQuery オブジェクト

ParentageQuery オブジェクト

解説

レポートに含まれる行または列に、クエリー結果を追加します。サブセットを挿入するレポートの位置と挿入方法を指定します。また、どのネスト・レベルにクエリー結果を挿入するかを指定することもできます。

AdvancedQuery オブジェクト、FindQuery オブジェクト、または ParentageQuery オブジェクトを使用して、サブセットを定義します。次に、サブセ

ット定義のために指定したプロパティーに基づいて、Execute メソッドを使用してクエリーを実行します。サブセットが、レポートの指定された位置に挿入されます。

AddToReportAtSpecificNestingLevel メソッドは、クエリーのサブセット定義にある最後のコンポーネントでなければなりません。

パラメーター	説明
InsertItem	必須。サブセットを挿入するレポートの位置を指定します。 0 = Row 1 = Column タイプ:Integer
InsertPoint	必須。サブセットを追加するレポートのインデックスを指定します。Rows、Columns、および Layers の初期値は 1 です。 タイプ:Long
LevelAction	必須。行または列をセットに追加するときに実行するアクションを指定します。 0 = なし (何も許可しない) 1 = (現バージョンでは未使用) 2 = 前に挿入 (ショート・バー・ドロップ・ゾーンのネスト (親)) 3 = 後に挿入 (ショート・バー・ドロップ・ゾーンのネスト (親)) 4 = 兄弟カテゴリーを前に追加 (同じレベル) 5 = 兄弟カテゴリーを後に追加 (同じレベル) 6 = グループを前に (新しいネスト・グループを挿入 - ロング・バー・ドロップ・ゾーン) 7 = グループを後に (新しいネスト・グループを挿入 - ロング・バー・ドロップ・ゾーン) タイプ:Integer 注:0 を使用すると、行または列が存在しない行または列に、サブセットが挿入されます。行または列が存在する場合、この値は機能しません。

パラメーター	説明
InsertLevel	必須。クエリー結果を挿入するネスト・レベルを指定します。 OLE ネスト・レベルの番号割り当ては、レポートの端から最も遠いカテゴリーから開始されます。たとえば、行軸に次のネストが設定されたレポートがあるとします。 "製品"->"小売業者"->"場所" 対応する OLE ネスト・レベルは次のようになります。 "場所"- 1 "小売業者"- 2 "製品"- 3 タイプ:Integer

戻り値のタイプ

整数

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。クエリーにより検索された、「Star」で始まる名前を持つ製品のサブセットが、列としてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
```

```
    End With
    Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
    With objAdvanced
       .Name = "Star Products"
       .Dimension = "Products"
       .Level "Product Id"
       .Find objFind.Name
       .Execute
       .AddToReportAtSpecificNestingLevel 1,1,3
    End With
    Set objAdvanced = Nothing
    Set objFind = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 157 ページの『Execute メソッド』
- 112 ページの『AddToReport メソッド』

Average メソッド (コレクション) (Reporter)

定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの平均値を返します。

構文

collection.**Average** [Operand]

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

このメソッドは、Report オブジェクトが Reporter モード (ExplorerMode プロパティーが False) の場合のみ有効です。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、Reporter レポートに含まれる最初の 3 行の平均、および列 1 と 4 の平均を計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objNewCol As Object
   Dim objNewRow As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   Set objNewRow = objPPRep.Rows.Subset(1, 3).Average
   MsgBox "The average of the first three rows is " _
      &objPPRep.CellValue(objNewRow(1).Index,1)
   Set objNewCol = objPPRep.Columns.Item(4).Average _
      (objPPRep.Columns.Item(1))
   MsgBox " The average of column one and column four
is " _
      &objPPRep.CellValue(1,objNewCol.Index)
   objPPRep.Save
   Set objNewRow = Nothing
   Set objNewCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

Average メソッド (オブジェクト) (Reporter)

定数値または別のカテゴリーと、オブジェクトの平均を計算します。

構文

object.**Average**(Operand)

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

カテゴリーと演算項目の平均を計算し、結果を表示する新規カテゴリーを作成します。

このメソッドは、Report オブジェクトが Reporter モード (ExplorerMode プロパティーが False) の場合のみ有効です。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、1 列に含まれる値と定数値の平均を新しい列に返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.ExplorerMode = False
```

```
    Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Tents")
    objPPCol.Average(67000)
    objPPRep.Save
    Set objPPCol = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

CanDrillDown メソッド

Category オブジェクトをドリルダウンできるかどうかを返します。

構文

object.**CanDrillDown**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

子カテゴリーを表示可能かどうかを決定します。ドリルダウン・カテゴリーは、カテゴリーのすぐ下の子孫 (子) で、ドリルダウン・パスのプロパティーを定義します。

このメソッドが True の場合、カテゴリーをドリルダウンできます。False の場合、カテゴリーをドリルダウンするとエラーが発生します。カテゴリーの次レベルへドリルダウンするには、DrillDown メソッドを使用します。

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、行がドリルダウン可能かどうかを決定し、可能な場合は、次のレベルへドリルダウンします。

```
Sub Main()
```

```
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Dim objPPRow as Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Outdoor Products")
   Set objPPRow = objPPRep.Rows.Item("1997")
   If objPPCol.CanDrillDown Then
      objPPCol.DrillDown
   End If
   If objPPRow.CanDrillUp Then
      objPPRow.DrillUp
   End If
   Set objPPRow = Nothing
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

CanDrillUp メソッド

Category オブジェクトをドリルアップできるかどうかを返します。

構文

object.**CanDrillUp**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

子カテゴリーを削除できるか、また親カテゴリーと親族カテゴリーを追加できるかどうかを決定します。ドリルダウンして表示した階層は、すべてドリルアップできます。たとえば、子カテゴリーである"Europe"から、その親である"Locations"へドリルアップできます。ドリルアップによって、Dimension オブジェクトのより広範な視点が提供されます。

このメソッドが True を返す場合、カテゴリーをドリルアップできます。False の場合、カテゴリーをドリルアップするとエラーが発生します。カテゴリーの次レベ

ルへドリルアップするには、DrillUp メソッドを使用します。

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、列がドリルアップ可能かどうかを決定し、可能な場合は、次のレベルへドリルダウンします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Dim objPPRow as Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Outdoor Products")
   Set objPPRow = objPPRep.Rows.Item("1997")
   If objPPCol.CanDrillDown Then
      objPPCol.DrillDown
   End If
   If objPPRow.CanDrillUp Then
      objPPRow.DrillUp
   End If
   Set objPPRow = Nothing
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Category メソッド

ParentageQuery サブセット定義の親カテゴリーまたはディメンションを設定します。

構文

ParentageQuery.**Category**(Category[,AncestorOfCategory])

適用対象

ParentageQuery オブジェクト

解説

ParentageQuery で、クエリーを開始するディメンション名またはカテゴリー名を指定します。使用するカテゴリー名またはディメンション名は、親とみなされます。

注: サブセットの定義では、コンポーネントの順序が重要です。最初に Category メソッドを指定し、次に LevelsDown プロパティーと LowestLevel プロパティー、さらに Execute メソッドと AddToReport メソッドを指定します。Name プロパティーは、サブセット定義の任意の場所に設定できます。

パラメーター	説明
Text	必須。検索する文字列のディメンション名またはカテゴリー名を指定するか、または、指定した名前に基づいて検索されたカテゴリー名を返すこともできます。 タイプ:String
AncestorOfCategory	オプション。カテゴリーが一意でない場合に、そのカテゴリーの先祖を指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Channels"の 1 レベル下にあるカテゴリーすべてを返す ParentageQuery (タイプ 2) サブセット定義を作成します。"Channels"より 1 レベル下にあるカテゴリーは、行の最初にあるネスト・レベルとしてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCategory As Object
   Dim objParent As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objParent = objPPRep.ReportQueries.Add(2)
   With objParent
      .Name = "Sales Channels"
      .Category "Channels"
```

```
      .LowestLevel = False
      .LevelsDown = 1
      .Execute
      .AddToReport 0,1,6
   End With
   Msgbox "The first category added was " & _
      objParent.Item(1).Name & ".", ,"Subset"
   Set objParent = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』

CategoryList メソッド

Report オブジェクトに挿入されるカテゴリーを識別するための CategoryList オブジェクトを作成する。

構文

Report.**CategoryList**

適用対象

Report オブジェクト

解説

カテゴリーをレポートに追加するには、最初に CategoryList メソッドを使用して CategoryList オブジェクトをレポートに作成し、次に作成したオブジェクトを使用して、必要なカテゴリーを指定します。これらのカテゴリーは、キューブに含まれる既存のカテゴリー、または CategoryList オブジェクトがレポートに渡されるときに新規作成されるカテゴリーです。Add メソッドを使用して、MDC ファイルから既存のカテゴリーを選択します。Average プロパティー、Intersection プロパティー、または Sum プロパティーを True に設定すると、各プロパティーでは、選択したカテゴリーに含まれる平均値、インターセクト、または合計を計算する新規カテゴリーが作成されます。

Add メソッドを使用して、識別されたカテゴリーをレポートに追加します。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、ポートを作成してキューブに接続します。次に、"Years"ディメンションに含まれる既存のカテゴリーを行に追加し、"Products"ディメンションに含まれる既存のカテゴリーを列に追加し、さらに新規の平均カテゴリーを列に追加します。

```
Sub Main()
   Dim objReport as Object
   Dim objCatList as Object
   Set objReport = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objReport.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",
False
   objReport.Visible = True
   Set objCatList = objReport.CategoryList()
   objCatlist.Add 1, "Years", "2008"
   objCatlist.Each = True
   objReport.Rows.Add objCatList
   objCatlist.Remove
   objCatlist.Add 1, "Products"
   objCatlist.Each = True
   objCatList.Average = True
   objReport.columns.Add objCatList
   objReport.SaveAs "New Report.ppx"
   Set objCatList = Nothing
   Set objReport = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

CellValue メソッド

レポートに含まれるセル値を取得します。

構文

Report.**CellValue**([Row][, Column][, Layer])

適用対象

Report オブジェクト

解説

パラメーターを指定しない場合は、現在アクティブな行、列またはレイヤーを使用します。カーソルを任意のセルに移動するには、Activate メソッドを使用します。

現在のカーソルがデータを含まないセルにあると、このメソッドは失敗します。

パラメーター	説明
行	オプション。行番号をインデックスとして指定、またはセルを含む Row オブジェクトを指定します。 タイプ:Integer または Object
列	オプション。列番号、またはセルを含む Column オブジェクトを指定します。 タイプ:Integer または Object
Layer	オプション。レイヤー番号、またはセルを含む Layer オブジェクトを指定します。 タイプ:Integer または Object

戻り値のタイプ

Double

例

次の例は、レポートを開き、個々の店について、2008 年第 1 四半期のアウトドア用品に関する予測値と一致したかどうかを調べ、メッセージを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim dValue As Double
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
   dValue = objPPRep.CellValue(objPPRep.Rows.item("2008
Q 1"), _
      objPPRep.Columns.item("Outdoor Products"), _
      objPPRep.Layers.item("Independent")  )
   If dValue > 100000 Then
      MsgBox "Results met expectations"
  Else
      MsgBox "Results are below expectations"
  End If
  Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』

- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Change メソッド

Dimension オブジェクトに対する現在のカテゴリーを変更する。

構文

Dimension.**Change**(CategoryLabel)

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

異なるカテゴリー・レベルにフォーカスします。レポートには、キー・パフォーマンス・インディケーターの詳細または概要が表示されます。Dimension オブジェクトに含まれる現在のカテゴリーの変更は、Dimension のフィルターを変更することと同じです。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
CategoryLabel	必須。アクティブにするカテゴリー・ラベルまたはインデックスを指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、現在のレポートに含まれる DimensionLine オブジェクトに対する現在の 2 つのカテゴリーを変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject ("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
   objPPRep.DimensionLine.Item("Years").Change("1997")
   objPPRep.DimensionLine.Item("Products").Change _
      ("Go Sport Line")
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 20 ページの『Dimension オブジェクト』

ChangeToParent メソッド

Dimension オブジェクトの現在のカテゴリーを、階層の 1 つ上のレベルにあるカテゴリーに変更します。

構文

Dimension.**ChangeToParent**

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

現在のレベルのカテゴリーを集計した階層で、上位レベルにあるカテゴリーを最初に識別します。カテゴリーが見つからない場合は、現在のレベルのカテゴリーを集計しなかった階層で、最初の上位レベルのカテゴリーが検索されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Measures"ディメンションの現在のカテゴリーを、階層の 1 つ上のレベルにあるカテゴリーに変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item("Measures")
   objDimension.ChangeToParent
   objDimension.Change "Product Cost"
   objDimension.BlankWhenZero = True
   objDimension.BlankWhenMissing = False
   objDimension.BlankWhenDividedByZero = False
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 20 ページの『Dimension オブジェクト』

ChangeToTop メソッド

Dimension オブジェクトの現在のカテゴリーを、最上位レベルにあるカテゴリーに変更する。

構文

Dimension.**ChangeToTop**

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

ディメンションの最上位レベルにあるカテゴリーへ直接移動します。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Measures"ディメンションの現在のカテゴリーを、階層の最上位レベルにあるカテゴリーに変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item("Measures")
   objDimension.ChangeToTop
   objDimension.Change "Product Cost"
   objDimension.BlankWhenZero = True
   objDimension.BlankWhenMissing = False
   objDimension.BlankWhenDividedByZero = False
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 20 ページの『Dimension オブジェクト』

Children メソッド

オブジェクトの階層にある次の子を返します。

構文

object.**Children**

適用対象

Column オブジェクト

Dimension オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

Column、Dimension、Layer、および Row オブジェクトの子を取得します。Children メソッドは、現在のカテゴリーの異なる子にアクセスします。たとえば、"1998 Q1"カテゴリーには、"1998/January"、"1998/February"、および "1998/March"の 3 つの子があります。

Dimensions の場合、階層に含まれる特定のカテゴリーを指定するには Change メソッド、最上位レベルの指定には ChangeToTop メソッド、1 レベル上位の指定には ChangeToParent メソッドを使用します。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、Columns コレクションの最初にあるカテゴリーの子の名前を取得し、コレクションに含まれるアイテム数と子の名前を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objChildrenCols As Object
   Dim strColChild As String
   Dim strColChildren As String
   Dim intx As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objChildrenCols = objPPRep.Columns.Item(1).Children
   For intx = 1 to objChildrenCols.Count
      strColChild = objChildrenCols.Item(intx).Name
      strColChildren = strColChildren & chr$(10)
& _
         strColChild
   Next intx
   MsgBox "The " & objPPRep.Columns.Item(1).Name
& _
```

```
      " category has " & objChildrenCols.Count &
_
      " children." & chr$(10) & chr$(10) &
"They are: " & _
      chr$(10) & strColChildren, , "Column Children"
   Set objChildrenCols = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 128 ページの『Change メソッド』
- 129 ページの『ChangeToParent メソッド』
- 130 ページの『ChangeToTop メソッド』
- 15 ページの『Child オブジェクト』
- 55 ページの『Children』
- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 20 ページの『Dimension オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Close メソッド

1 つまたはすべての Reports オブジェクトを閉じます。

構文

object.**Close**

適用対象

Report オブジェクト

Reports

解説

Report オブジェクトで Close メソッドを使用すると、最後の保存以降に加えた変更が保存されずに、Report オブジェクトが閉じます。Reports コレクションで Close メソッドを使用すると、変更が保存されずに、すべてのレポートが閉じます。アプリケーションまたはレポートが表示され、変更されている場合は、閉じる前に変更を保存するプロンプトが表示されます。アプリケーションまたはレポートが非表示の場合は、閉じる前に変更を保存するプロンプトは表示されません。

このメソッドは、レポートへの OLE 接続をすべて切断します。レポートを再び開くか、または他のレポートを開くには、CreateObject("CognosPowerPlay.Report") に続けて、New メソッドまたは Open メソッドを使用する必要があります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開いているレポートを保存せずに閉じます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPCol As Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item(1)
   Set objPPCol = objPPRep.Columns(1)
   MsgBox "The name of the first column is " _
      &objPPRep.Columns.Item(1).Name & " using
the Item method."
   MsgBox "The name of the first column is " _
      &objPPRep.Columns(1).Name & " using column
index."
   objPPRep.Close
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 73 ページの『Reports』
- 232 ページの『Reports メソッド』

Columns メソッド

すべての Column オブジェクトを含むコレクションを返す。

構文

Report.**Columns**

適用対象

Report オブジェクト

解説

インデックスを指定しないと、コレクションに含まれるすべての Column オブジェクトが返されます。インデックスを指定すると、指定した Column オブジェクトのみが返されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、既存のレポートから同じ Column オブジェクトを返す、2 種類の方法を示しています。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPCol As Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item(1)
   Set objPPCol = objPPRep.Columns(1)
   MsgBox "The name of the first column is " _
      &objPPRep.Columns.Item(1).Name & " using
the Item method."
   MsgBox "The name of the first column is " _
      &objPPRep.Columns(1).Name & " using column
index."
   objPPRep.Close
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Copy メソッド

現在、Report オブジェクトで選択されている Row、Column、または Layer オブジェクトをクリップボードにコピーする。

構文

Report.**Copy**

適用対象

Report オブジェクト

解説

Select メソッドを使用して、コピーするカテゴリーを選択します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、2 つのレポートを開き、1 番目のレポートから列をコピーして 2 番目のレポートに貼り付け、2 番目のレポートを保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep1 as Object
   Dim objPPRep2 as Object
   Set objPPRep1 = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPRep2 = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep1.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep2.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   objPPRep1.ExplorerMode = False
   objPPRep2.ExplorerMode = False
   objPPRep1.Columns.Item("Back Packs").Select
   objPPRep1.Copy
   objPPRep2.Paste
   objPPRep2.Save
   objPPRep1.Close
   objPPRep2.Close
   Set objPPRep1 = Nothing
   Set objPPRep2 = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 241 ページの『Select メソッド』

CumPercentOfBase メソッド

異なるディメンションをベースとして使用し、ベース・カテゴリーに対する累積パーセントを追加します。

構文

object.**CumPercentOfBase(BaseCategory)**

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Row オブジェクト

Rows

解説

行の基底値に対する累積パーセントを決定する場合、ベース・カテゴリーとして使用できるのは列のみです。列の基底値に対する累積パーセントを決定する場合、ベース・カテゴリーとして使用できるのは行のみです。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

Explorer モードでは、新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、作成できない計がすべて消失します。

パラメーター	説明
BaseCategory	必須。計算の基底値となるカテゴリーを指定します。 タイプ:Object

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、"2008"をベース・カテゴリーとして使用し、Columns コレクションの基底値に対する累積パーセントを計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPRes as Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPRes = objPPRep.Columns.CumPercentOfBase _
      (objPPRep.Rows.Item("2008"))
   objPPRep.SaveAs "MyNewReport"
```

```
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

Cut メソッド (Reporter)

現在 Report オブジェクトで選択されている Row、Column、または Layer オブジェクトをクリップボードに移動します。

構文

Report.**Cut**

適用対象

Report オブジェクト

解説

Select メソッドを使用して、切り取るカテゴリーを選択します。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

このメソッドは、Report オブジェクトが Reporter モード (ExplorerMode プロパティーが False) の場合のみ有効です。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開き、列"Outdoor Products"を切り取り、レポートを保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Columns.Item ("Outdoor Products").Select
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.Cut
   objPPRep.Save
```

```
    objPPRep.Close
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 241 ページの『Select メソッド』

DeleteExplorerRank メソッド

Explorer レポートからランク・カテゴリーを削除します。

構文

collection.**DeleteExplorerRank**

適用対象

Columns

Rows

解説

カテゴリーのランク序数を表示する行または列を削除します。レポートを更新して詳細 (ランク・カテゴリー) が不要になった場合や、レポートにネスト・カテゴリーを追加してカテゴリーのランク序数の再計算が必要になった場合は、ランク・カテゴリーを削除できます。

Explorer レポートにカテゴリーのランク序数を表示する列が含まれている場合、Columns コレクションとこのプロパティーを使用すると、そのカテゴリーが完全に削除されます。Explorer レポートにカテゴリーのランク序数を表示する行が含まれている場合、Rows コレクションとこのプロパティーを使用すると、そのカテゴリーが完全に削除されます。

レポートが Reporter モードで表示されている場合、このプロパティーによってランク・カテゴリーが削除されることはありません。Reporter レポートからランク・カテゴリーを削除するには、DeleteSelected メソッドを使用します。

戻り値のタイプ

整数

例

次の例は、アクティブなレポートで、行のランク序数を表示している列を削除します。

```
Sub Main()
```

```
    Dim objPPRep As Object
    Dim objRslt As Object
    Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
    objPPRep.Columns.DeleteExplorerRank
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 223 ページの『Rank2 メソッド』

DeleteAllDataSourceInfo メソッド

すべての PowerCube データ・ソースについて、セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除します。

構文

Application.**DeleteAllDataSourceInfo**

適用対象

Application オブジェクト

解説

SetDataSourceInfo メソッドによってメモリーに保存されたすべてのデータ・ソースのアクセス情報レコードを削除します。

1 つのデータ・ソースのアクセス情報をメモリーから削除するには DeleteDataSourceInfo メソッドを使用します。

DeleteAllMDCAccessInfo メソッドは、必要なレポートすべてを開いた後、不正なユーザーが同じデータ・ソースに基づいて以後のレポートを開くことを防止する目的にも使用できます。DeleteAllMDCAccessInfo メソッドは、最後に開くレポートで実行する AfterDocOpen マクロで使用すると便利です。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、異なるデータ・ソースに基づく 2 つのレポートを開き、次に、これらのデータ・ソースに保存されているセキュリティーに関するアクセス情報すべてを削除します。

```
Sub Main()
     Dim objPPApp As Object
     Dim objPPRep1 As Object
     Dim objPPRep2 As Object
     Dim strMDCName As String
```

```
    Set objPPRep1 = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
    Set objPPRep2 = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
    Set objPPApp = objPPRep.Application
    strMDCName = "C:\Cubes and Reports\Sample1.mdc"
    objPPApp.SetDataSourceInfo "local", strMDCName,
"cube_password1"
    objPPRep1.Open("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
    strMDCName = "C:\Cubes and Reports\Sample2.mdc"
    objPPApp.SetDataSourceInfo "local", strMDCName,
"cube_password2"
    objPPRep2.Open("C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx")
    objPPApp.DeleteAllDataSourceInfo
    Set objPPRep = Nothing
    Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』

DeleteAllMDCAccessInfo メソッド

すべての ローカル PowerCube について、セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除します。

構文

Application.**DeleteAllMDCAccessInfo**

適用対象

Application オブジェクト

解説

SetMDCAccessInfo メソッドによってメモリーに保存されたすべてのアクセス情報レコードを削除します。

1 つの PowerCube のアクセス情報レコードを削除するには、DeleteMDCAccessInfo メソッドを使用します。

DeleteAllMDCAccessInfo メソッドは、必要なレポートすべてを開いた後、不正なユーザーが同じ PowerCube に基づいて以後のレポートを開くことを防止する目的にも使用できます。DeleteAllMDCAccessInfo メソッドは、最後に開くレポートで実行する After Doc Open マクロで使用すると便利です。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、異なる PowerCube に基づく 2 つのレポートを開き、次に、両方のキューブに保存されているセキュリティーに関するアクセス情報すべてを削除します。

```
Sub Main()
     Dim objPPApp As Object
     Dim objPPRep1 As Object
     Dim objPPRep2 As Object
     Dim strMDCName As String
     Set objPPRep1 = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
     Set objPPRep2 = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
     Set objPPApp = objPPRep.Application
     strMDCName = "C:\Cubes and Reports\Sample1.mdc"
     objPPApp.SetMDCAccessInfo strMDCName, ", "cube_password1"
     objPPRep1.Open("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
     strMDCName = "C:\Cubes and Reports\Sample2.mdc"
     objPPApp.SetMDCAccessInfo strMDCName, ", "cube_password2"
     objPPRep2.Open("C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx")
     objPPApp.DeleteAllMDCAccessInfo
     Set objPPRep = Nothing
     Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

DeleteDataSourceInfo メソッド

1 つの PowerCube データ・ソースについて、セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除します。

構文

Application.**DeleteDataSourceInfo**(ConnectionType, Location)

適用対象

Application オブジェクト

解説

SetDataSourceInfo メソッドによってメモリーに保存されたキューブ・パスワードなどのアクセス情報レコードを削除します。

データ・ソース・アクセス情報レコードすべてをメモリーから削除するには、DeleteAllDataSourceInfo メソッドを使用します。

DeleteAllMDCAccessInfo メソッドは、必要なレポートすべてを開いた後、不正なユーザーが同じデータ・ソースに基づいて以後のレポートを開くことを防止する目的にも使用できます。DeleteAllMDCAccessInfo メソッドは、最後に開くレポートで実行する AfterDocOpen マクロで使用すると便利です。

パラメーター	説明
Connection Type	必須。接続タイプがローカル・キューブかリモート・パッケージかを識別します。このパラメーターには、「local」または「remote」を指定できます。 タイプ:String
Location	必須。 接続タイプがローカルの場合は、省略形でない完全なローカル・キューブ名を指定します。たとえば、「C:¥Cubes¥Great Outdoors.mdc」のように指定します。 接続タイプがリモートの場合は、パッケージの検索パスをネイティブのエンコード方式またはストア ID で指定します。 検索パスはたとえば、「/content/package[@name=Great Outdoors]」のように指定します。 ストア ID はたとえば、「storeID ('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')」のように指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、キューブのセキュリティー・アクセス情報レコードを設定してから、パスワード保護されたキューブに基づいてレポートを開きます。次に、メモリーからデータ・ソース・セキュリティー・アクセス・レコードを削除します。

```
Sub Main()
     Dim objPPApp As Object
     Dim objPPRep As Object
     Dim strMDCName As String
     Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
     Set objPPApp = objPPRep.Application
     strMDCName = "C:\Cubes and Reports\Sample1.mdc"
     objPPApp.SetDataSourceInfo "local", strMDCName,
"cube_password"
     objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
     objPPApp.DeleteDataSourceInfo("local", strMDCName)
     Set objPPRep = Nothing
     Set objPPApp
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』

DeleteMDCAccessInfo メソッド

1 つのローカル PowerCube について、セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーから削除します。

構文

Application.**DeleteMDCAccessInfo(MDCName)**

適用対象

Application オブジェクト

解説

SetMDCAccessInfo メソッドによってメモリーに保存された 1 つのローカル PowerCube のアクセス情報レコードを削除します。

アクセス情報レコードすべてをメモリーから削除するには、DeleteAllMDCAccessInfo メソッドを使用します。

DeleteAllMDCAccessInfo メソッドは、必要なレポートすべてを開いた後、不正なユーザーがローカル PowerCube に基づいて以後のレポートを開くことを防止する目的にも使用できます。DeleteAllMDCAccessInfo メソッドは、最後に開くレポートで実行する AfterDocOpen マクロで使用すると便利です。

パラメーター	説明
MDCName	必須。ローカル PowerCube の MDC (キューブ) 名を指定します。この文字列は、SetMDCAccessInfo メソッドで使用された名前と一致する必要があります。この名前では、大文字と小文字は区別されません。 タイプ:String

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、キューブのセキュリティー・アクセス情報レコードを設定してから、パスワード保護されたキューブに基づいてレポートを開きます。次に、メモリーからセキュリティー・アクセス・レコードを削除します。

```
Sub Main()
     Dim objPPApp As Object
     Dim objPPRep As Object
```

```
    Dim strMDCName As String
    Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
    Set objPPApp = objPPRep.Application
    strMDCName = "C:\Cubes and Reports\Sample1.mdc"
    objPPApp.SetMDCAccessInfo strMDCName, ", "cube_password"
    objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
    objPPApp.DeleteMDCAccessInfo(strMDCName)
    Set objPPRep = Nothing
    Set objPPApp
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』

DeleteSelected メソッド

選択したオブジェクトを Report コレクションから削除します。

構文

Report.**DeleteSelected**

適用対象

Report オブジェクト

解説

このメソッドは、Select メソッドと組み合わせて使用します。Select を使用してコレクションに含まれるオブジェクトを選択したら、DeleteSelected を使用して選択したオブジェクトを削除できます。

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、「Star」で始まる行すべてを検索し、削除します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intFound As Integer
   Const begins_with = 2
   Const current_layer = False
   Const rows = 1
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Rows.Item(1).Activate
   intFound = 1
```

```
   Do
      intFound = objPPRep.FindNext("Star", begins_with,
_
         current_layer, rows)
      If intFound = -1 Then
         objPPRep.Rows.Active.Select
         objPPRep.DeleteSelected
      End If
   Loop While intFound <> 0
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 241 ページの『Select メソッド』

DeploymentOptions メソッド

IBM Cognos ポータルに発行するレポートの配布オプションを返します。

構文

Report.**DeploymentOptions**

適用対象

Report オブジェクト

解説

レポートの作成者が、IBM Cognos ポータルに発行するレポートのプロンプト・プロパティーと PDF オプションを設定できるようになります。レポートの作成者は、レポートの実装オプションを明示的に設定する必要があります。これらのオプションは、レポートと一緒に保存されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、DeploymentOptions メソッドを使用して、レポートのプロンプト・プロパティーを設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
```

```
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension(1) = True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension(2)= True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension("Years")=
True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 403 ページの『PromptForCurrency プロパティー』
- 405 ページの『PromptForDimension プロパティー』
- 406 ページの『PromptForLongShortNames プロパティー』
- 408 ページの『PromptForZeroSuppression プロパティー』

Depth メソッド

Graph オブジェクトが 3 次元 (3D) かどうかを返す。

構文

Graph.**Depth**

適用対象

Graph オブジェクト

解説

このメソッドは、Graph オブジェクト・タイプ 1 (円グラフ)、3 (棒グラフ)、4 (クラスター・グラフ)、5 (積み上げ棒グラフ)、および 8 (相関グラフ) にのみ適用されます。このメソッドを設定するには、Graph コレクションに Add メソッドを使用するか、または Graph オブジェクトに SetType メソッドを使用します。表示タイプが 0、6、7、または 9 の場合、Depth メソッドは常に False です。また、表示タイプが 2 の場合は、常に True です。

デフォルト:True (円グラフ、棒グラフ、クラスター・グラフ、積み上げ棒グラフ、相関グラフ)

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトの表示タイプを 3 次元クラスター・グラフに変更し、Graph オブジェクトの設定を開いているレポートに表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGph as Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objPPGph.SetType 4, 1, 1
   MsgBox "The Graph object type is " & objPPGph.Type
& "."
   If objPPGph.Depth = -1 Then
      MsgBox "The graph is 3D."
   Else
       MsgBox "The graph is not 3D."
   End If
   Set objPPGph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』

DimensionFilter メソッド

インデックス付きディメンションのフィルター・カテゴリーを設定する。

構文

ValueRestriction.**DimensionFilter** Index, CategoryName

適用対象

ValueRestriction オブジェクト

解説

値制限にフィルターをかけるために、特定のディメンションからカテゴリー名を指定します。ValueRestriction クエリーでは、現在のディメンション・ライン以外の、別のディメンションが必要な場合にのみ DimensionFilter メソッドを指定します。

注:ValueRestriction では、コンポーネントの順序が重要です。Dimension プロパティーは、Measure、Operator、Operand1、Operand2、および Count の各プロパティーと DimensionFilter メソッドの前に設定する必要があります。Name プロパティーは、フィルター定義の任意の場所で設定できます。

デフォルト: 第 1 ディメンション

パラメーター	説明
Index	必須。ディメンション・ラインから返すディメンション・インデックスを指定します。DimensionFilter インデックスは、1 から始まり、ユーザー・インターフェースのディメンション・ラインに表示される順序で左から右へ 1 ずつインクリメントされます。 タイプ:Integer
CategoryName	必須。指定されたディメンションにフィルターをかけるカテゴリーの名前を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Locations" ディメンションから国または地域を選択する詳細サブセットを作成します。値制限 (タイプ 4) は、"Sports Chain" の "Revenue" 値が 25,000～100,000 の範囲にある国または地域のみが返されるように結果を制限します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objValue As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objValue = objPPRep.ReportQueries.Add(4)
   With objValue
      .Name = "25000-100000"
      .Dimension = "Locations"
      .Measure = "Revenue"
      .Operator = "between"
      .Operand1 = 25000
      .Operand2 = 100000
      .DimensionFilter 4, "Sports Chain"
   End With
```

```
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Locations"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country or Region"
      .ValueRestriction objValue.Name
      .Execute
      .AddToReport 0,1,3
   End With
   Msgbox "The Dimension Line Settings for this " &
_
         "report are:" & chr$(10) & chr$(10)
& _
         objValue.DimensionSettings, , "Dimension Line"
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objValue = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

DimensionLine メソッド

現在の Report オブジェクトに対する DimensionLine オブジェクトを返す。

構文

Report.**DimensionLine**

適用対象

Report オブジェクト

解説

キューブに含まれる各ディメンションのデータをフィルターするために使用したカテゴリーを、ディメンション・ラインに表示して、表示中のデータを識別します。Explorer レポートでは、ドリルダウンやドリルアップ、または不要な情報を除去した場合、ディメンション・ラインが変更されます。Reporter レポートでは、オートメーションを使用して不要な情報を除去した場合にのみ、ディメンション・ラインが変更されます。

フィルターを設定する前に、DimensionLine オブジェクトを使用して個別のディメンションを取得します。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、現在のレポートに含まれる DimensionLine オブジェクトに対する現在の 2 つのカテゴリーを変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject ("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
   objPPRep.DimensionLine.Item("Years").Change("1997")
   objPPRep.DimensionLine.Item("Products").Change _
      ("Go Sport Line")
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 22 ページの『DimensionLine オブジェクト』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Division メソッド

1 つ以上のカテゴリーを、定数値または別のカテゴリーで除算します。

構文

object.**Division**(Operand [, Reverse])

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Layer オブジェクト

Layers

Row オブジェクト

Rows

解説

値の組に対して計算が行われるため、常に演算項目が必要です。除算の結果を表示するカテゴリーが作成されます。逆に除算するには、Operand を除数にします。

Explorer モードでは、計算の演算項目が、同じディメンションと軸から取得されている必要があります。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

Explorer モードでは、新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant
Reverse	オプション。Operand が除数であるか被除数であるかを指定します。使用できる値は、次のとおりです。 False = Operand は除数 True = Operand は被除数 デフォルト:False。 タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、最初の 5 行を定数値で除算し、列 1 を列 4 で除算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objRslt As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Rows.SubSet(1,5).Division 6
   Set objRslt = objPPRep.Rows.Item(1).Division _
      (objPPRep.Rows.Item(4))
   MsgBox "The result of dividing column 1 by column
4 is " _
      &objPPRep.CellValue(objRslt,1)
```

```
    Set objRslt = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

DrillDown メソッド

指定した Category オブジェクトをドリルダウンします。

構文

object.**DrillDown**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

Category オブジェクトをドリルダウンできない場合は、エラー・メッセージが表示されます。Category オブジェクトがドリルダウン可能かどうかを調べるには、CanDrillDown プロパティーを使用します。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開いているレポートで次の事項を決定します。

- 指定した Column オブジェクトがドリルダウン可能かどうかを調べ、可能な場合は、次のレベルにドリルダウンする
- 指定した Row オブジェクトがドリルアップ可能かどうかを調べ、可能な場合は、次のレベルにドリルアップする

```
Sub Main()
    Dim objPPRep as Object
```

```
   Dim objPPCol as Object
   Dim objPPRow as Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Outdoor Products")
   Set objPPRow = objPPRep.Rows.Item("1997")
   If objPPCol.CanDrillDown Then
      objPPCol.DrillDown
   End If
   If objPPRow.CanDrillUp Then
      objPPRow.DrillUp
   End If
   Set objPPRow = Nothing
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

DrillUp メソッド

Category オブジェクトをドリルアップします。

構文

object.**DrillUp**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

Explorer モードでは、上位レベルにあるカテゴリーが表示されます。Reporter モードでは、下位レベルにあるカテゴリーがレポートから削除されます。Category オブジェクトをドリルアップできない場合は、エラー・メッセージが表示されます。Category オブジェクトがドリルアップ可能かどうかを調べるには、CanDrillUp プロパティーを使用します。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開いているレポートで次の事項を決定します。

- 指定した Column オブジェクトがドリルダウン可能かどうかを調べ、可能な場合は、次のレベルにドリルダウンする
- 指定した Row オブジェクトがドリルアップ可能かどうかを調べ、可能な場合は、次のレベルにドリルアップする

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Dim objPPRow as Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Outdoor Products")
   Set objPPRow = objPPRep.Rows.Item("1997")
   If objPPCol.CanDrillDown Then
      objPPCol.DrillDown
   End If
   If objPPRow.CanDrillUp Then
      objPPRow.DrillUp
   End If
   Set objPPRow = Nothing
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Exceptions メソッド

1 つの Exception オブジェクトまたはコレクション全体を返す。

構文

Report.**Exceptions**

適用対象

Report オブジェクト

解説

インデックスを指定しない場合は Exceptions コレクションが返され、指定した場合は要求した Exception オブジェクトが返されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、既存のレポートから同じ Exception オブジェクトを返す、2 種類の方法を示しています。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPExp As Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Exception.ppx")
   Set objPPExp = objPPRep.Exceptions.Item(1)
   MsgBox "The exception is " &objPPRep.Exceptions.Item(1).Name
   Set objPPExp = objPPRep.Exceptions(1)
   MsgBox "The exception is " &objPPRep.Exceptions(1).Name
   Set objPPExp = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 23 ページの『Exception オブジェクト』
- 62 ページの『Exceptions』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Exclude メソッド

クエリーから除外するカテゴリーを設定する。

構文

AdvancedQuery.**Exclude** CategoryName [,ParentName]

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

解説

サブセット定義でクエリーから除外するカテゴリーを識別します。1 つ以上のカテゴリーをクエリーから除外するには、AdvancedQuery オブジェクトのサブセット定義で複数の Include ステートメントを指定します。

クエリー結果に、指定したラベルと一致する複数のカテゴリーが見つかった場合は、オプション・パラメーターとして、親カテゴリーを指定するか、または必要なカテゴリーのドリルダウン・パスを指定します。カテゴリーを識別するために、この機能が追加されています。次に例を示します。

```
Exclude("CategoryName", "ParentName or drill-down path
name")
```

注: サブセットの定義では、コンポーネントの順序が重要です。最初に Dimension プロパティーを指定し、次に Level メソッドを指定します。Include、Exclude、および Find メソッドはオプションで、Dimension と Level プロパティーの後の任意の位置に指定します。Name プロパティーは必須で、サブセット定義の任意の場所で設定できます。Execute を指定し、最後に AddToReport メソッドを指定します。

パラメーター	説明
CategoryName	必須。クエリーから除外するカテゴリーの名前を指定します。 タイプ:String
ParentName	オプション。サブセットから除外するカテゴリーの先祖カテゴリー名を指定します。たとえば、2 つの国または地域に、同じ名前の都市が存在する場合があります。国または地域の名前 (先祖) を使用して、これら 2 つの都市を区別します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Europe"に属するカテゴリーを除くすべてのカテゴリーを取得する、AdvancedQuery (タイプ 3) のサブセット定義を作成します。サブセットがレイヤーとしてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCatList As Object
   Dim objAdvanced As Object
```

```
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
      Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList()
   objCatList.Add 0,"Locations"
   objPPRep.Layers.Add objCatList
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Americas & Far East"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country or Region"
      .Exclude "Europe"
      .Execute
      .AddToReport 2,1,4
   End With
   Msgbox "Name: " & objAdvanced.Name & chr$(10)
& _
      "Dimension: " & objAdvanced.Dimension &
chr$(10) & _
      "Level List: " & objAdvanced.LevelList &
chr$(10) & _
      "Query Type Code: " & objAdvanced.Type &
chr$(10) & _
      "Number of Categories: " & objAdvanced.Count
& _
      chr$(10) & _
      "First Category: " & objAdvanced.Item(1).Name,
_
      ,"Subset"
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objCatList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 179 ページの『Include メソッド』

Execute メソッド

キューブに対してクエリーを実行します。

構文

object.**Execute**

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

FindQuery オブジェクト

ParentageQuery オブジェクト

解説

データ・サブセットを作成するクエリーを実行します。オブジェクト (AdvancedQuery、FindQuery、または ParentageQuery) を作成し、クエリーのタイプに適合するプロパティーを設定して、サブセットを定義します。作成されたサブセット定義は、Execute メソッドを使用して実行します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Europe"に属するカテゴリーを除くすべてのカテゴリーを取得する、AdvancedQuery (タイプ 3) のサブセット定義を実行します。サブセットがレイヤーとしてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCatList As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
      Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList()
   objCatList.Add 0,"Locations"
   objPPRep.Layers.Add objCatList
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Americas & Far East"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country"
      .Exclude "Europe"
      .Execute
```

```
      .AddToReport 2,1,4
   End With
   Msgbox "Name: " & objAdvanced.Name & chr$(10)
& _
      "Dimension: " & objAdvanced.Dimension &
chr$(10) & _
      "Level List: " & objAdvanced.LevelList &
chr$(10) & _
      "Query Type Code: " & objAdvanced.Type &
chr$(10) & _
      "Number of Categories: " & objAdvanced.Count
& _
      chr$(10) & _
      "First Category: " & objAdvanced.Item(1).Name,
_
      ,"Subset"
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objCatList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 112 ページの『AddToReport メソッド』

Exponentiation メソッド

1 つ以上のカテゴリーを、他のカテゴリー、または定数値でべき乗します。

構文

object.**Exponentiation**(Operand [, Reverse])

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Layer オブジェクト

Layers

Row オブジェクト

Rows

解説

値の組に対して計算が行われるため、常に演算項目が必要です。べき乗の結果を表示するカテゴリーが作成されます。べき乗の底と指数とを入れ替えることができます。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドでは、定数値を 1 つ以上のカテゴリーでべき乗することもできます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算は、すべて消失します。

注:Explorer モードでは、カテゴリー・グループに対してこの計算を実行できません。複数のカテゴリーが選択されていると、「べき乗」計算が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant
Reverse	オプション。Operand がべき乗の底であるか指数であるかを指定します。True の場合は、Operand は底です。False の場合は、指数です。 デフォルト:False タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、1 列の値を定数値でべき乗し、結果を新しい列に返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.ExplorerMode = False
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Tents")
   objPPCol.Exponentiation(2)
   objPPRep.Save
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

Find メソッド

AdvancedQuery に含める FindQuery オブジェクトの名前を指定する。

構文

AdvancedQuery.**Find** FindSubsetName

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

解説

FindQuery オブジェクトを AdvancedQuery オブジェクトに接続します。最初に FindQuery オブジェクトを作成し、次に名前を割り当てる必要があります。Find では、クエリー名を一致させ、そのディメンション名を確認することで、AdvancedQuery オブジェクトのクエリーにフィルターをかけます。

Find は、キューブ・データ内の検索およびレポート・データ内の検索という 2 つの主要機能領域に分けることができます。レポートに含まれる大量データを処理する場合は、指定された検索基準すべてに一致する個別カテゴリーが検索されます。キューブに含まれるデータを検索する場合は、指定された基準すべてに一致するカテゴリーすべてを検索するクエリーが作成されます。

検索には、レポート内部の非表示カテゴリーは含まれません。Find メソッドは、AdvancedQuery のサブセット定義内のオプションのコンポーネントです。

FindQuery は、AdvancedQuery サブセットに追加する前に作成する必要があります。

注: サブセットの定義では、コンポーネントの順序が重要です。最初に Dimension プロパティーを指定し、次に Level メソッドを指定します。Include、Exclude、および Find メソッドはオプションで、Dimension と Level プロパティーの後の任意の位置に指定します。Name プロパティーは必須で、サブセット定義の任意の場所で設定できます。Execute を指定し、最後に AddToReport メソッドを指定します。

パラメーター	説明
FindSubsetName	必須。AdvancedQuery に含める FindQuery サブセットの名前を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

文字列

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。次に、FindQuery サブセット定義を使用して、AdvancedQuery (タイプ 3) サブセット定義を作成します。クエリーにより検索された、「Star」で始まる名前を持つ製品のサブセットが、列としてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
   End With
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Star Products"
      .Dimension = "Products"
      .Level "Product Id"
      .Find objFind.Name
      .Execute
      .AddToReport 1,1,3
```

```
    End With
    Set objAdvanced = Nothing
    Set objFind = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』

FindNext メソッド

レポートに含まれる、一致する次のカテゴリー・ラベルを検索します。

構文

Report.**FindNext** (SearchText [, Pattern [, AllLayers [, Dimension]]])

適用対象

Report オブジェクト

解説

レポートに含まれるカテゴリーを検索します。キューブに含まれるカテゴリーを検索するには、Execute を使用します。

FindNext では、パラメーターで指定された値に一致する次のカテゴリーをレポートで検索します。一致するカテゴリーが検索された場合は True が返され、検索されなかった場合は False が返されます。

このメソッドの 4 つのパラメーターを使用して、検索オプションを設定します。必須パラメーター SearchText を指定し、3 つのオプション・パラメーターで、次のことを定義します。

- 検索文字列が単語の任意の場所、最初のみ、または最後のみで検索される
- パターンの一致をオンまたはオフにする
- 検索テキストが、単語全体、または単語の部分と一致する
- 検索で、大文字と小文字を区別する
- 現在のレイヤー、またはレイヤーすべてを検索する
- 検索対象のラベルは、行、列、レイヤー、またはその組み合わせのどれにするか

3 つのレポート・ディメンション (行、列、レイヤー) すべてを検索する場合は、検索処理は 1 レイヤーずつ下向きに、次の順序で実行されます。

- 現在のレイヤーに含まれる行
- 現在のレイヤーに含まれる列
- 現在のレイヤー・ラベル

検索では、レポートに含まれる非表示カテゴリーは無視されます。

検索で True (一致するものが存在した) が返されると、カーソルが一致したラベルに移動します。

ネスト・クロス集計では、各ディメンションに含まれるラベルが、現在のカーソル位置から下向きに階層の最下位レベルまで検索されます。

3 つのオプション・パラメーターのいずれかを設定するときは、デフォルト値を使用する場合でも、その左側のオプション・パラメーターをすべて設定する必要があります。たとえば、現在のレイヤーに含まれる「GO」を含む次のラベルを行ディメンション (値 = 1) のみで検索するには、次のコードを使用します。

```
FindNext("GO", 1, FALSE, 1)
```

第 2 パラメーターと第 3 パラメーターではデフォルト値を使用できますが、第 4 パラメーターを変更するためにはこれらがプレースホルダーとして必要です。左側のパラメーターのみを使用し、右側のパラメーターにデフォルト設定を使用する場合は、パラメーターを省略できます。

Pattern または Dimension パラメーターの検索オプションを 1 つ以上使用するには、検索オプションの値を加算します。たとえば、現在のレイヤーに含まれる「GO」で始まる次のラベルを、大文字と小文字を区別して列ディメンションのみで検索するには、次のコードを使用します。

```
FindNext("GO", 34)
```

行、列、レイヤーすべてを検索する (Dimension = 7) には、次のコードを使用します。

```
FindNext("GO", 34, FALSE, 7)
```

パラメーター値が指定されないと、検索オプション無効です。たとえば、大文字と小文字を区別して検索するには、値 32 を含める必要があります。

組み合わせて使用できない値を追加すると、例外エラーが発生します。たとえば、Contains、Begins With、または Ends With 値は相互に排他的であるため、組み合わせることはできません。また、これらの値は、いずれも MatchWhole と組み合わせて使用できません。Pattern Matching (Pattern = 8) は、MatchCase (Pattern = 16) または MatchWhole (Pattern = 32) を組み合わせて使用できません。

有効な組み合わせの例は、次のとおりです。

- MatchCase + Pattern Matching = (40)
- MatchCase + Contains = (33)
- MatchCase + Begins With = (34)
- MatchCase + Ends With = (36)
- MatchCase + MatchWhole = (48)

Pattern Matching の値を使用すると (Pattern = 8)、Find 操作ではテキストに含まれる特定の文字がワイルドカードとして認識され、一部のメタ文字が予約文字として扱われます。メタ文字が含まれていると、エラー・メッセージが表示されます。パターンの一致を使用しない場合は、ワイルドカードとメタ文字は標準の文字として扱われます。

パラメーター	説明
SearchText	必須。検索するテキストを指定します。パターンの一致 (8) がオンの場合は、ワイルドカードを使用できます。空の文字列は無効です。 タイプ:String
Pattern	オプション。検索オプションを指定します。後述の予約文字があります。値を加算すると、オプションを組み合わせて設定できます。 1 = Contains: 検索テキストは、単語の任意の位置で検索される 2 = Begins With: 検索テキストは、単語の先頭部分で検索される 4 = Ends With: 検索テキストは、単語の終わりの部分で検索される 8 = Pattern Matching: 特定の文字列がワイルドカードとして扱われる (後述のリスト表参照) 16 = MatchWhole: 検索テキストが単語全体と一致する 32 = MatchCase: 大文字と小文字を区別して検索する デフォルト: 1 タイプ:Integer
AllLayers	オプション。レイヤーすべてを検索するか、現在のレイヤーのみを検索するかを指定します。有効なオプションは次のとおりです。 True = すべてのレイヤー False = 現在のレイヤー デフォルト:False。 タイプ:Boolean
ディメンション	オプション。検索の有効範囲を指定します。 1 = 行ラベルのみ 2 = 列ラベルのみ 3 = 行ラベルと列ラベルのみ 4 = レイヤー・ラベルのみ 5 = レイヤー・ラベルと行ラベルのみ 6 = レイヤー・ラベルと列ラベルのみ 7 = すべてのラベル デフォルト: 3 タイプ:Integer

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、「Star」で始まる次の行を検索し、見つからない場合は「Star」を含む前の行を検索します。また、一致する行が存在したかどうかを示すメッセージが返されます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intFound As Integer
   Const begins_with = 2
   Const current_layer = False
   Const rows = 1
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   intFound = objPPRep.FindNext("Star", begins_with,
_
      current_layer, rows)
   If intFound = 0 Then
      intFound = objPPRep.FindPrevious("Star", _
         begins_with, current_layer, rows)
   End If
   If intFound <> 0 Then
      objPPRep.Rows.Active.Select
      MsgBox "A row was found and has been selected."
   Else
      MsgBox "No rows found matching criteria."
   End If
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 157 ページの『Execute メソッド』
- 161 ページの『Find メソッド』
- 『FindPrevious メソッド』

FindPrevious メソッド

一致する前のカテゴリー・ラベルをレポート内で検索します。

構文

Report.**FindPrevious** (SearchText [, Pattern [, AllLayers [, Dimension]]])

適用対象

Report オブジェクト

解説

レポートに含まれるカテゴリーを検索します。キューブに含まれるカテゴリーを検索するには、Execute を使用します。

FindPrevious では、前方検索または検索操作を実行し、パラメーターで指定された値と一致する前のカテゴリーを検索します。一致するカテゴリーが検索された場合は True が返され、検索されなかった場合は False が返されます。

このメソッドの 4 つのパラメーターを使用して、検索オプションを設定します。必須パラメーター SearchText を指定し、3 つのオプション・パラメーターで、次のことを定義します。

- 検索文字列が単語の任意の場所、最初のみ、または最後のみで検索される
- パターンの一致をオンまたはオフにする
- 検索テキストが、単語全体、または単語の部分と一致する
- 検索で、大文字と小文字を区別する
- 現在のレイヤー、またはレイヤーすべてを検索する
- 検索対象のラベルは、行、列、レイヤー、またはその組み合わせのどれにするか

3 つのレポート・ディメンション (行、列、レイヤー) すべてを検索する場合は、検索処理は 1 レイヤーずつ上向きに、次の順序で実行されます。

- 現在のレイヤーに含まれる行
- 現在のレイヤーに含まれる列
- 現在のレイヤー・ラベル

検索で True (一致するものが存在した) が返されると、カーソルが一致したラベルに移動します。

検索では、レポートに含まれる非表示カテゴリーは無視されます。

ネスト・クロス集計では、各ディメンションに含まれるラベルが、現在のカーソル位置から上向きに階層の最上位レベルまで検索されます。

3 つのオプション・パラメーターのいずれかを設定するときは、デフォルト値を使用する場合でも、その左側のオプション・パラメーターをすべて設定する必要があります。たとえば、現在のレイヤーに含まれる「GO」を含む前のラベルを行ディメンション (値 = 1) のみで検索するには、次のコードを使用します。

```
FindPrevious("GO", 1, FALSE, 1)
```

第 2 パラメーターと第 3 パラメーターではデフォルト値を使用できますが、第 4 パラメーターを変更するためにはこれらがプレースホルダーとして必要です。左側のパラメーターのみを使用し、右側のパラメーターにデフォルト設定を使用する場合は、パラメーターを省略できます。

Pattern または Dimension パラメーターの検索オプションを 1 つ以上使用するには、検索オプションの値を加算します。たとえば、現在のレイヤーに含まれる「GO」で始まる次のラベルを、大文字と小文字を区別して列ディメンションのみで検索するには、次のコードを使用します。

```
FindPrevious("GO", 34)
```

行、列、レイヤーすべてを検索する (Dimension = 7) には、次のコードを使用します。

```
FindPrevious("GO", 34, FALSE, 7)
```

パラメーター値が指定されないと、検索オプション無効です。たとえば、大文字と小文字を区別して検索するには、値 32 を含める必要があります。

組み合わせて使用できない値を追加すると、例外エラーが発生します。たとえば、Contains、Begins With、または Ends With 値は相互に排他的であるため、組み合わせることはできません。これらの値と MatchWhole を組み合わせて使用することもできません。Pattern Matching (Pattern = 8) は、MatchCase (Pattern = 16) または MatchWhole (Pattern = 32) を組み合わせて使用できません。

有効な組み合わせの例は、次のとおりです。

- MatchCase + Pattern Matching = (40)
- MatchCase + Contains = (33)
- MatchCase + Begins With = (34)
- MatchCase + Ends With = (36)
- MatchCase + MatchWhole = (48)

Pattern Matching の値を使用すると (Pattern = 8)、Find 操作ではテキストに含まれる特定の文字がワイルドカードとして認識され、一部のメタ文字が予約文字として扱われます。メタ文字が含まれていると、エラー・メッセージが表示されます。パターンの一致を使用しない場合は、ワイルドカードとメタ文字は標準の文字として扱われます。

パラメーター	説明
SearchText	必須。検索するテキストを指定します。パターンの一致 (8) がオンの場合は、ワイルドカードを使用できます。空の文字列は無効です。 タイプ:String

パラメーター	説明
Pattern	オプション。検索オプションを指定します。後述の予約文字があります。値を加算すると、オプションを組み合わせて設定できます。 1 = Contains: 検索テキストは、単語の任意の位置で検索される2 = Begins With: 検索テキストは、単語の先頭部分で検索される 4 = Ends With: 検索テキストは、単語の終わりの部分で検索される 8 = Pattern Matching: 特定の文字列がワイルドカードとして扱われる (後述のリスト表参照) 16 = MatchWhole: 検索テキストが単語全体と一致する 32 = MatchCase: 大文字と小文字を区別して検索する デフォルト: 1 タイプ:Integer
AllLayers	オプション。レイヤーすべてを検索するか、現在のレイヤーのみを検索するかを指定します。有効なオプションは次のとおりです。 True = すべてのレイヤー False = 現在のレイヤー デフォルト:False。 タイプ:Boolean
ディメンション	オプション。検索の有効範囲を指定します。 1 = 行ラベルのみ 2 = 列ラベルのみ 3 = 行ラベルと列ラベルのみ 4 = レイヤー・ラベルのみ 5 = レイヤー・ラベルと行ラベルのみ 6 = レイヤー・ラベルと列ラベルのみ 7 = すべてのラベル デフォルト: 3 タイプ:Integer

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、「Star」で始まる次の行を検索し、見つからない場合は「Star」を含む前の行を検索します。また、一致する行が存在したかどうかを示すメッセージが返されます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intFound As Integer
   Const begins_with = 2
   Const current_layer = False
   Const rows = 1
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   intFound = objPPRep.FindNext("Star", begins_with,
_
      current_layer, rows)
   If intFound = 0 Then
      intFound = objPPRep.FindPrevious("Star", _
         begins_with, current_layer, rows)
   End If
   If intFound <> 0 Then
      objPPRep.Rows.Active.Select
      MsgBox "A row was found and has been selected."
   Else
      MsgBox "No rows found matching criteria."
   End If
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 157 ページの『Execute メソッド』
- 161 ページの『Find メソッド』
- 163 ページの『FindNext メソッド』

Forecast メソッド (Explorer)

既存の時間ディメンションに基づいて、指定した数の予測カテゴリーを作成します。

構文

Report.**Forecast**

適用対象

Report オブジェクト

使用条件

予測関数で使用できる予測方法は、基礎となるデータ・ソースから取得される過去の情報の統計的な分析に基づいています。予測値の精度は、さまざまな変数の影響を受けます。このような変数には、基礎となる過去のデータの精度や、外部イベントの精度などが含まれます。また外部イベントは、過去のデータを予測で使用するときの妥当性に影響を与えます。予測関数は、予測対象となる数値データの将来値を算出するためにのみ使用することを前提としており、複雑な財務またはビジネスの方向性を決定する場合の基礎として使用することは前提としていません。

IBM では、実際に算出される将来値の精度、および特定の結果についていかなる保証も行いません。予測関数とそれによって生成されたデータは、ユーザーの責任で使用してください。予測関数にエラーが含まれていたり、予測関数で不正確な計算が行われる可能性もあります。予測関数およびそのドキュメントは「現状のまま」の状態を条件に提供されます。予測関数の使用およびそれに基づくデータ結果の解釈が原因となって、直接的、間接的、偶発的、懲罰的、結果的に生じたあらゆる損害に対して、いかなる場合においても IBM は一切法的責任を負いません。

解説

このメソッドは、Report オブジェクトが Explorer モード (ReporterMode プロパティーが False) の場合にのみ有効です。

次のいずれかの時系列の予測方法を使用できます。

- 趨勢予測は、線形の回帰方法に基づいて時系列予測を行う方法です。趨勢予測は、ビジネスの推進要因が線形で数値データに影響を与える場合に、予測の信頼性が最も高くなります。Trend 予測方法は、過去のデータ内に、2 つの期間を表すデータ値が 2 つのみ存在する場合に使用します。
- 成長予測は、指数回帰方法に基づいて時系列予測を行う方法です。成長予測法の信頼性が最も高くなるのは、ビジネスの推進要因によって、数値データが指数関数的に影響を受ける場合です。
- 自己回帰予測方法は、自己相関に基づいて時系列予測を行う方法です。自己回帰予測は、過去のデータに含まれている線形、非線形、および季節上の変動を検出し、これらの傾向を将来の傾向に反映させます。自己回帰予測の信頼性が最も高くなるのは、ビジネスの推進要因が季節的な変動によって影響を受ける場合です。自己回帰予測方法は、過去のデータが多数の期間を表している場合に使用します (24 カ月を超える月次期間を表している場合など)。

行または列は、時間カテゴリーを含んでいる必要があります。

予測の水平範囲は、レポートの時間カテゴリーの数に制限されます。たとえば、レポートに 2 つの年カテゴリー ("1996"、"2008") がある場合、最大の水平値は 2 です。

水平値がゼロの場合は、既存の予測がレポートから削除されます。

パラメーター	説明
MethodValue	必須。使用する予測方法を指定します。IBM Cognos PowerPlay では、趨勢法、成長法、自己回帰法という予測方法を使用できます。予測方法 1 は趨勢法、2 は成長法、3 は自己回帰法を表します。 タイプ:Short
HorizonValue	必須。返される予測の数を指定します。予測の水平範囲は、レポートの時間カテゴリーの数に制限されます。 タイプ:Short

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開いたレポートを返し、レポートが Explorer モードであることを確認して、Column オブジェクトまたは Row オブジェクトのいずれかに時間カテゴリーが含まれていることを確認します。次に、水平値が有効であることを確認し、予測水平値「2」を入力します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open ("C:\Great Outdoors.mdc")
   objPPRep.ExplorerMode = True
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.Forecast 1,2
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

40 ページの『Report オブジェクト』

GetDataNow メソッド

Report オブジェクトに含まれるデータを更新します。

構文

Report.**GetDataNow**

適用対象

Report オブジェクト

解説

データが常に変動している場合は、GetDataNow メソッドを使用して即座に更新できます。GetDataNow を使用してレポートを更新するマクロを Scheduler で使用すると、午前 2 時など、ネットワーク・トラフィックの少ない時間帯にレポートを更新できます。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開き、GetDataAutomatically プロパティーが False に設定されている場合に、GetDataNow メソッドを使用してレポートに含まれるデータを更新します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.Visible = True
   If objPPRep.GetDataAutomatically = 0 Then
      objPPRep.GetDataNow
   End if
   objPPRep.Close
   Set objPPrep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 172 ページの『GetDataNow メソッド』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Graphs メソッド

1 つの Graph オブジェクトまたはコレクション全体を返す。

構文

Report.**Graphs**

適用対象

Report オブジェクト

解説

インデックスを指定しない場合は Graphs コレクション・オブジェクトが返され、指定した場合は要求した Graph オブジェクトが返されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、レポートを開き、レポートの最初にあるグラフの表示タイプを示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Graph.ppx"
   MsgBox "The type of graph is" & _
      objPPRep.Graphs.Item(1).Type & "."
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 63 ページの『Graphs』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

HasParent メソッド

現在のカテゴリーに親があるかどうかを返す。

構文

Dimension.**HasParent**

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

現在のカテゴリーに親カテゴリーが存在するかどうかを調べます。最上位レベル、代替、および算出カテゴリーには、親はありません。親カテゴリーの名前を返すには、Parent メソッドを使用します。

親が存在する場合は True、存在しない場合は False が返されます。

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、最初のディメンションにフィルターが設定されているカテゴリーに親カテゴリーが存在する場合、表示できるかどうかを調べ、親の名前を表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension As Object
   Dim strName As String
   Dim strVisible As String
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item(1)
   objDimension.ChangeToTop
   If objDimension.HasParent = 0 Then
      Msgbox "The " & objDimension.Name & " dimension
has " & _
         "no parent."
      strName = objDimension.Children.Item(1).Name
      objDimension.Change strName
      If objDimension.Visible = -1 Then
         strVisible = "visible"
      Else
         strVisible = "not visible"
      End If
      MsgBox "The " & objDimension.Name & " dimension
is " & _
         strVisible & "." & chr$(10) & chr$(10)
& _
         "Its parent is " & objDimension.Parent &
"."
   End If
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 20 ページの『Dimension オブジェクト』
- 129 ページの『ChangeToParent メソッド』

Hide メソッド

カテゴリーを非表示にします。

構文

object.**Hide**

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Row オブジェクト

Rows

解説

Report オブジェクトに含まれる、単一のカテゴリーまたはカテゴリーのコレクションを非表示にします。再表示するには、Report オブジェクトに対して UnhideAllCategories メソッドを使用します。このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

合計カテゴリーは非表示にできません。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開いて、列"Tents"を非表示にします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.Columns.Item("Tents").Hide
   objPPRep.Save
   objPPRep.Close
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』
- 273 ページの『UnhideAllCategories メソッド』

HideSelected メソッド

コレクションに含まれる、選択されたオブジェクトを非表示にする。

構文

Report.**HideSelected**

適用対象

Report オブジェクト

解説

このメソッドは、Select メソッドと組み合わせて使用します。Select を使用してコレクションに含まれるオブジェクトを選択し、HideSelected を使用して選択したオブジェクトを非表示にします。非表示になっているオブジェクトすべてを再表示するには、Unhide メソッドを使用します。成功した場合は True が返され、エラーが発生した場合は False が返されます。

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、「Star」で始まるすべての行を検索し、非表示にします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intFound As Integer
   Const begins_with = 2
   Const current_layer = False
   Const rows = 1
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Rows.Item(1).Activate
   intFound = 1
   Do While intFound <> 0
      intFound = objPPRep.FindNext("Star", begins_with,
_
         current_layer, rows)
      If intFound = -1 Then
         objPPRep.Rows.Active.Select
         objPPRep.HideSelected
      End If
   Loop
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 178 ページの『HideUnselected メソッド』
- 241 ページの『Select メソッド』

HideUnselected メソッド

コレクションに含まれる、選択されていないオブジェクトを非表示にする。

構文

Report.**HideUnSelected**

適用対象

Report オブジェクト

解説

このメソッドは、Select メソッドと組み合わせて使用します。Select を使用してコレクションに含まれるオブジェクトを選択し、HideUnselected を使用して、現在選択されていないオブジェクトすべてを非表示にします。成功した場合は True が返され、エラーが発生した場合は False が返されます。

Select メソッドを使用せずに HideUnselected を使用した場合は、すべてが非表示になります。

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、「Star」で始まる最初の行を選択し、他の行すべてを非表示にします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intFound As Integer
   Const begins_with = 2
   Const current_layer = False
   Const rows = 1
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Rows.Item(1).Activate
   intFound = 1
   intFound = objPPRep.FindNext("Star", begins_with,
_
         current_layer, rows)
   If intFound = -1 Then
      objPPRep.Rows.Active.Select
      objPPRep.HideUnselected
   Else
      MsgBox "No rows found."
   End If
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 176 ページの『HideSelected メソッド』
- 241 ページの『Select メソッド』

Include メソッド

クエリーに含めるカテゴリーを設定する。

構文

AdvancedQuery.**Include** CategoryName [,ParentName]

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

解説

AdvancedQuery のサブセット定義に含むカテゴリーを識別します。1 つ以上のカテゴリーをクエリーに含めるには、AdvancedQuery のサブセット定義で複数の Include ステートメントを指定します。

クエリー結果に、指定したラベルと一致する複数のカテゴリーが見つかった場合は、オプション・パラメーターとして、親カテゴリーを指定するか、または必要なカテゴリーのドリルダウン・パスを指定します。カテゴリーを識別するために、この機能が追加されています。次に例を示します。

```
Include("CategoryName", "ParentName or drill-down path
name")
```

注: サブセットの定義では、コンポーネントの順序が重要です。最初に Dimension プロパティーを指定し、次に Level メソッドを指定します。Include、Exclude、および Find メソッドはオプションで、Dimension と Level プロパティーの後の任意の位置に指定します。Name プロパティーは必須で、サブセット定義の任意の場所で設定できます。Execute を指定し、最後に AddToReport メソッドを指定します。

パラメーター	説明
CategoryName	必須。サブセットに含めるカテゴリーの名前を指定します。 タイプ:String
ParentName	オプション。サブセットに含めるカテゴリーの先祖カテゴリー名を指定します。たとえば、2 つの国または地域に、同じ名前の都市が存在する場合があります。国または地域の名前 (先祖) を使用して、これら 2 つの都市を区別します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Europe"に属するカテゴリーすべてを取得する、AdvancedQuery (タイプ 3) のサブセット定義を作成します。次に、結果のサブセットが行としてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "European Countries"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country or Region"
      .Include "Europe"
      .Execute
      .AddToReport 0,1,3
   End With
   Msgbox "Name:  " & objAdvanced.Name & chr$(10)
& _
      "Dimension:  " & objAdvanced.Dimension &
chr$(10) & _
      "Level List:  " & objAdvanced.LevelList &
chr$(10) & _
      "Query Type Code:  " & objAdvanced.Type &
chr$(10) & _
      "Number of Categories:  " & objAdvanced.Count
& _
      chr$(10) & _
      "First Category:  " & objAdvanced.Item(1).Name,
_
      ,"Subset"
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 155 ページの『Exclude メソッド』

Item メソッド

コレクションまたは他のオブジェクト・リストを保持するオブジェクトから、オブジェクトを 1 つ返します。

構文

object.**Item**(Index)

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

Children

Columns

DimensionLine オブジェクト

Exceptions

FindQuery オブジェクト

Graphs

Layers

ParentageQuery オブジェクト

Ranges

Reports

ReportQueries

Rows

解説

Item メソッドは、Exceptions と Graphs を除くコレクションすべてに対するデフォルト・メソッドのため、インデックス・パラメーターのみが必要で、メソッド名は必要ありません。Item がデフォルト・メソッドの場合、次の構文は同等で。

```
Collection.Item(3)
Collection(3)
```

Exceptions と Graphs コレクション、および DimensionLine オブジェクトから 1 つのオブジェクトを選択するには、次のような構文を使用します。

```
Set objPPRange = objPPRep.Exceptions.Item(1).Range
```

パラメーター	説明
Index	必須。返されるオブジェクトのカテゴリー・ラベルまたはインデックス。Graphs コレクションでは、カテゴリー・インデックスのみが使用できます。 タイプ:String または Long

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、列 1 と列 4 を加算します。この場合は、Item メソッドを使用して特定の行と列を選択します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objNewCol As Object
   Dim objNewRow As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objNewRow = objPPRep.Rows.Subset(1, 3).Addition
   MsgBox "The sum of the first three rows is " _
      &objPPRep.CellValue(objNewRow(1).Index,1)
   Set objNewCol = objPPRep.Columns.Item(4).Addition
_
      (objPPRep.Columns.Item(1))
   MsgBox " The sum of column one and column four is
" _
      &objPPRep.CellValue(1,objNewCol.Index)
   objPPRep.Save
   Set objNewRow = Nothing
   Set objNewCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

ItemAtLevel メソッド

ネストされたレポートから、行または列オブジェクトを返します。

構文

collection.**ItemAtLevel**(Label or Index, Level)

適用対象

Columns

Rows

解説

ネスト・クロス集計レポートに含まれる Rows または Columns コレクションから、行または列を検索します。ネストされたレポート以外では、Item メソッドを使用できます。

検索するアイテムを設定するには、Label パラメーターを使用します。アイテムの存在するレベルは Level パラメーターを使用して設定され、0 は実際のデータに最も近いレベル (最下位レベルにある行または列) を表し、1 は 1 つ上位にあるレベルを表します。たとえば、クロス集計には"Years"と"Months"のレベルとデータがあり、レベル 0 は"Months"、レベル 1 は"Years"を示します。

レベルが 1 以上の場合は、返される行または列オブジェクトが、複数のインデックスにまたがることがあります。

レベルが 0 の場合、ItemAtLevel は Item と同等です。

パラメーター	説明
Label	必須。返されるオブジェクトのカテゴリー・ラベルまたはインデックスを指定します。 タイプ:Variant
レベル	必須。カテゴリーを追加するネスト・レベルを表す値を指定します。 タイプ:Long

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、レポートの最後にある列を選択し、スタイルを適用してセルのサイズを変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intCount As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
```

```
    intCount = objPPRep.Columns.Count
    objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intCount,0).Select
    objPPRep.StyleSelected "Good News"
    objPPRep.SizeSelected 100
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Layers メソッド

1 つの Layer オブジェクトまたはコレクション全体を返す。

構文

Report.**Layers**

適用対象

Report オブジェクト

解説

レイヤーは、別のディメンションの詳細を提供したり、レポート結果に新しい視点を提供するディメンション・カテゴリーのセットです。レポートには、複数のレイヤーを含めることができます。

インデックスを指定しないと、Layers コレクションが返されます。指定した場合は、要求した Layer オブジェクトが返されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、最初の 2 つのレイヤーをレポートから削除し、新しい最初の 2 つのレイヤーの合計を新しいレイヤーに表示し、レイヤーすべての最大値を新しいレイヤーに表示します。

```
Sub Main()
    Dim objPPApp as Object
    Dim objPPRep as Object
    Set objPPRep = GetObject ("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
    Set objPPApp = objPPRep.Application
    objPPApp.Visible = True
    objPPApp.Reports.Item(1).ExplorerMode = False
    objPPApp.Reports.Item(1).Layers.Subset(1,2).Remove
```

```
   objPPApp.Reports.Item(1).Layers.Subset(1,2).Addition
   objPPApp.Reports.Item(1).Layers.Maximum
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Level メソッド

クエリーでカテゴリーを検索するための AdvancedQuery オブジェクトで使用されるレベルを設定する。

構文

AdvancedQuery.**Level LevelName** [,TopCategory]

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

解説

クエリーで検索されるカテゴリーを識別する 1 つ以上のレベルを指定します。サブセット定義に指定されたレベルのカテゴリーすべてが、クエリーで検索されます。1 つ以上のレベルをクエリーに含めるには、AdvancedQuery のサブセット定義で複数の Level ステートメントを指定します。サブセットには、少なくとも 1 つの Level が含まれていなければなりません。1 つ以上のレベルを指定する場合は、同じディメンションにあるレベルを使う必要があります。

含まれているレベルのリストを返すには、LevelList プロパティーを使用します。

注: サブセットの定義では、コンポーネントの順序が重要です。最初に Dimension プロパティーを指定し、次に Level メソッドを指定します。Include、Exclude、および Find メソッドはオプションで、Dimension と Level プロパティーの後の任意の位置に指定します。Name プロパティーは必須で、サブセット定義の任意の場所で設定できます。Execute を指定し、最後に AddToReport メソッドを指定します。

パラメーター	説明
LevelName	必須。検索に使用するカテゴリーを含むレベルの名前を指定します。 タイプ:String

パラメーター	説明
TopCategory	オプション。指定したレベルの最上位にあるカテゴリーの名前を指定します。代替ドリルダウン・パスからのレベルの選択に使用します。このパラメーターを指定しないと、レベルは主ドリルダウン・パスとみなされます。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Europe"に属するカテゴリーすべてを取得する、AdvancedQuery (タイプ 3) のサブセット定義を作成します。次に、結果のサブセットが行としてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
   End With
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Star Products"
      .Dimension = "Products"
      .Level "Product Id"
      .Find objFind.Name
      .Execute
      .AddToReport 1,1,3
```

```
    End With
    Set objAdvanced = Nothing
    Set objFind = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 364 ページの『LevelList プロパティー』

Levels メソッド

ディメンションに含まれるカテゴリーに使用可能なレベルすべてを返す。

構文

Dimension.**Levels**([AlternateDrillDown])

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

ディメンションに含まれる Level オブジェクトのコレクションを返します。主ドリルダウン・パスにある Level オブジェクトのコレクションを返すには、このメソッドをパラメーターなしで呼び出します。代替ドリルダウン・パスにある Level オブジェクトのコレクションを返すには、AlternateDrillDown パラメーターに代替ドリルダウン・パスの名前を指定して、このメソッドを呼び出します。Levels メソッドが返すオブジェクトは、ディメンションで最上位にあるカテゴリーから始まる、使用可能なレベルすべてを表しています。代替ドリルダウン・パスの場合は、このパスから始まるレベルすべてが返されます。

このメソッドは、次の場合に失敗します。

- 指定したドリルダウン・パスが、ディメンションに存在しないか、または正しくない
- ディメンションまたは指定したドリルダウン・パスに、レベルが存在しない
- 指定したドリルダウン・パスが、ディメンションで複数回使用されている
- 指定したドリルダウン・パスが、代替ドリルダウン・パスではない

パラメーター	説明
AlternateDrillDown	オプション。代替ドリルダウン・パスの名前を指定します。代替ドリルダウン・パスから始まるレベルすべてが返されます。このパラメーターは大文字と小文字は区別されません。 タイプ:String

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、ディメンションの Level オブジェクトのリストを返します。カテゴリーは、ディメンション・ライン・インデックスでフィルターがかけられています。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension As Object
   Dim objLevel As Object
   Dim  strLevelList As String
   Dim intx As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item(1)
   For intx = 1 to objDimension.Levels.Count
      Set objLevel = objDimension.Levels.Item(intx)
      strLevelList = strLevelList & chr$(10) &
objLevel.Name
      Set objLevel = Nothing
   Next intx
   MsgBox "The levels in the " & objDimension.Name
& _
         " dimension are:" & chr$(10) & strLevelList
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Logon メソッド

認証されたユーザーとして IBM Cognos Analytics にログオンして、パッケージなどの保護された IBM Cognos Analytics リソースに対するアプリケーション・オブジェクト・アクセスを可能にします。

構文

*object***Logon** Namespace, UserID, Password

適用対象

Application オブジェクト

解説

ログオン・メソッドを繰り返して複数のネームスペースにログオンできます。この方法を使用した場合、アクセス権は各ログオンに付与された権限の結合になります。

Application オブジェクトに対して Logon メソッドを使用すると、リモート・パッケージを使用したレポートがすべて閉じられます。アプリケーションが表示されており、リモート・パッケージを使用したレポートが変更されている場合は、閉じる前に変更を保存するプロンプトが表示されます。アプリケーションが非表示の場合は、閉じる前に変更を保存するプロンプトは表示されません。

IBM Cognos Analytics ネームスペースが 1 つしかない場合、Namespace に対する文字列は空にすることができます。たとえば、Logon "", "username", "password" のようにできます。

IBM Cognos Analytics ネームスペースでシングル・サインオンが設定されている場合、必須のパラメーターはネームスペースのみです。たとえば、Logon "namespace" のようにできます。

パラメーター	説明
Namespace	必須。ログオン先の IBM Cognos Analytics ネームスペースを指定します。 タイプ:String
UserID	オプション。 IBM Cognos Analytics ネームスペースのユーザー ID 資格情報を指定します。 タイプ:String
Password	オプション。ユーザー ID のパスワード資格情報を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、 IBM Cognos Analytics ネームスペースにログインし、リモート・セキュア・パッケージを使用してレポートを開き、ログオフします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPApp As Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPApp = objPPRep.Application
```

```
   objPPApp.Logon "Cognos", "UserA", "PwdA"
   objPPRep.Open "D:\PPlay1.ppx"
   objPPApp.Logoff
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』

Logoff メソッド

アプリケーション・オブジェクトのすべての IBM Cognos Analytics ネームスペースに対する認証を取り消します。セッションで複数のネームスペースを使用した場合も、一度だけログオフすればセッションを終了できます。

構文

object.**Logoff**

適用対象

Application オブジェクト

解説

Application オブジェクトに対して Logoff メソッドを使用すると、リモート・パッケージを使用したレポートがすべて閉じられます。アプリケーションが表示されており、リモート・パッケージを使用したレポートが変更されている場合は、レポートを保存するプロンプトが表示されます。アプリケーションが非表示の場合は、変更されたレポートを保存するプロンプトは表示されません。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、 IBM Cognos Analytics ネームスペースにログインし、リモート・セキュア・パッケージを使用してレポートを開き、ログオフします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPApp As Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPApp = objPPRep.Application
   objPPApp.Logon "Cognos", "UserA", "PwdA"
   objPPRep.Open "D:\PPlay1.ppx"
   objPPApp.Logoff
   Set objPPRep = Nothing
```

```
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』

Maximize メソッド

オブジェクト・ウィンドウを最大化します。

構文

object.**Maximize**

適用対象

Application オブジェクト

Report オブジェクト

解説

このメソッドでは、非表示になっているウィンドウは表示できません。表示するには、Application または Report オブジェクトの Visible 属性を使用します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay の表示インスタンスを検索して最大化します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp as Object
   Set objPPApp = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPApp.Visible = True
   objPPAPP.Activate
   objPPApp.Maximize
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Maximum メソッド (コレクション) (Reporter)

定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの最大値を計算します。

構文

collection.**Maximum**[(Operand)]

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

このメソッドでは、複数のカテゴリーの最大値を計算することもできます。

このメソッドは、Report オブジェクトが Reporter モード (ExplorerMode プロパティーが False) の場合のみ有効です。

Column、Layer、および Row オブジェクトについて、カテゴリーと演算項目の各組の最大値を計算し、結果を表示する新規カテゴリーを作成します。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	オプション。定数値または Category オブジェクトを指定します。このパラメーターを指定しないと、コレクションに含まれるカテゴリーすべての最大値を表示するカテゴリーが 1 つ作成されます。このパラメーターを指定すると、各カテゴリーの最大値が計算され、それぞれの結果を表示する新規カテゴリーが作成されます。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、最初の 3 行の最大値、および列 1 と列 4 の最大値を計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objNewCol As Object
```

```
   Dim objNewRow As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   Set objNewRow = objPPRep.Rows.Subset(1, 3).Maximum
   MsgBox "The maximum of the first three rows is " _
      &objPPRep.CellValue(objNewRow(1).Index,1)
   Set objNewCol = objPPRep.Columns.Item(4).Maximum _
      (objPPRep.Columns.Item(1))
   MsgBox " The maximum of column one and column four
is " _
      &objPPRep.CellValue(1,objNewCol.Index)
   objPPRep.Save
   Set objNewRow = Nothing
   Set objNewCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

Maximum メソッド (オブジェクト) (Reporter)

定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの最大値を計算します。

構文

*object***Maximum**(Operand)

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

Column、Layer、および Row オブジェクトについて、カテゴリーと演算項目の各組の最大値を計算し、結果を表示する新規カテゴリーを作成します。このメソッドでは、複数のカテゴリーの最大値を計算することもできます。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドは、Report オブジェクトが Reporter モード (ExplorerMode プロパティーが False) の場合のみ有効です。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。このパラメーターを指定しないと、コレクションに含まれるカテゴリーすべての最大値を表示するカテゴリーが 1 つ作成されます。このパラメーターを指定すると、各カテゴリーの最大値が計算され、それぞれの結果を表示する新規カテゴリーが作成されます。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、定数値を列の値と比較し、両値の最大値を新しい列に返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.ExplorerMode = False
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Tents")
   objPPCol.Maximum(80000)
   objPPRep.Save
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 66 ページの『Layers』

- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

Minimize メソッド

オブジェクト・ウィンドウを最小化します。

構文

object.**Minimize**

適用対象

Application オブジェクト

Report オブジェクト

解説

このメソッドでは、非表示になっているウィンドウは表示されません。表示するには、Application または Report オブジェクトの Visible 属性を使用します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay の表示インスタンスを検索して最小化します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp as Object
   Set objPPApp = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPApp.Visible = True
   objPPAPP.Activate
   objPPApp.Minimize
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Minimum メソッド (コレクション) (Reporter)

定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの最小値を計算します。

構文

collection.**Minimum**[(Operand)]

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

このメソッドでは、複数のカテゴリーの最小値を計算することもできます。

このメソッドは、Report オブジェクトが Reporter モード (ExplorerMode プロパティーが False) の場合のみ有効です。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	オプション。定数値または Category オブジェクトを指定します。このパラメーターを指定しないと、コレクションに含まれるカテゴリーすべての最小値を表示するカテゴリーが 1 つ作成されます。このパラメーターを指定すると、各カテゴリーの最小値が計算され、それぞれの結果を表示する新規カテゴリーが作成されます。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、最初の 3 行の最大値、および列 1 と列 4 の最大値を計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objNewCol As Object
   Dim objNewRow As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
```

```
   objPPRep.ExplorerMode = False
   Set objNewRow = objPPRep.Rows.SubSet(1,3).Minimum
   MsgBox "The minimum of the first three rows is " _
      &objPPRep.CellValue(objNewRow(1).Index,1)
   Set objNewCol = objPPRep.Columns.Item(4).Minimum _
      (objPPRep.Columns.Item(1))
   MsgBox "The minimum of columns 1 and 4 is " _
      &objPPRep.CellValue(1,objNewCol.Index)
   Set objNewRow = Nothing
   Set objNewCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Minimum メソッド (オブジェクト) (Reporter)

定数値またはカテゴリーと、1 つ以上のカテゴリーの最小値を計算します。

構文

object.**Minimum**(Operand)

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

解説

Column、Layer、および Row オブジェクトについて、カテゴリーと演算項目の各組の最小値を計算し、結果を表示する新規カテゴリーを作成します。

このメソッドでは、複数のカテゴリーの最小値を計算することもできます。

このメソッドは、Report オブジェクトが Reporter モード (ExplorerMode プロパティーが False) の場合のみ有効です。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、定数値を列の値と比較し、両値の最小値を新しい列に返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.ExplorerMode = False
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Tents")
   objPPCol.Minimum(60000)
   objPPRep.Save
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Multiplication メソッド (コレクション)

定数値またはカテゴリーを 1 つ以上のカテゴリーで乗算します。

構文

collection.**Multiplication**[(Operand)]

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

このメソッドでは、複数のカテゴリーを互いに乗算することもできます。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

Explorer モードでは、新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

パラメーター	説明
Operand	オプション。定数値または Category オブジェクトを指定します。このパラメーターを指定しないと、コレクションに含まれるカテゴリーすべての乗算結果を表示するカテゴリーが 1 つ作成されます。このパラメーターを指定すると、各カテゴリーの結果が計算され、それぞれの結果を表示する新規カテゴリーが作成されます。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、最初の 5 行を定数値で乗算し、列 1 を列 4 で乗算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objRslt As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Rows.SubSet(1,5).Multiplication 6
   Set objRslt = objPPRep.Rows.Item(1).Multiplication
_
      (objPPRep.Rows.Item(4))
   MsgBox "The result of multiplying column 1 by column
4 is " _
      &objPPRep.CellValue(objRslt,1)
   Set objRslt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
```

```
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Multiplication メソッド (オブジェクト)

定数値またはカテゴリーをオブジェクトで乗算します。

構文

object **.Multiplication**(Operand)

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

Column、Layer、および Row オブジェクトについて、カテゴリーと演算項目の各組の結果を計算し、結果を表示する新規カテゴリーを作成します。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

Explorer モードでは、新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、列の値を 6 で乗算し、計算結果を新しい列に返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "DC:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Tents")
   objPPCol.Multiplication(6)
   objPPRep.Save
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

New メソッド

新規 Report オブジェクトを作成します。

構文

Report.**New** ConnectionType, Location [, Timeout [, ExplorerMode]]

適用対象

Report オブジェクト

解説

CreateObject("CognosPowerPlay.Report") で作成した新規 Report オブジェクトを、完全に初期化します。

CreateObject メソッドを使用して新規レポートを作成する場合は、New メソッドを使用して初期化プロセスを完了します。

この 2 段階式方法を避けるには、GetObject メソッドを使用して MDC ファイル名のみをパラメーターとして渡します。たとえば、GetObject ("c:¥cognos¥samples¥outdoors.mdc") とします。

ConnectionType パラメーターと Location パラメーターを使用して、ローカル・キューブまたはリモート・パッケージに基づいてレポートを作成します。リモート接続の場合は、IBM Cognos Analytics サーバーが実行されている必要があります。

パラメーター	説明
ConnectionType	必須。接続タイプがローカル・キューブかリモート・パッケージかを識別します。このパラメーターには、「local」または「remote」を指定できます。 タイプ:String
Location	必須。 接続タイプがローカルの場合は、省略形でない完全なローカル・キューブ名を指定します。 例: "C:¥Cubes¥Great Outdoors.mdc" 接続タイプがリモートの場合は、パッケージの検索パスをネイティブのエンコード方式またはストア ID で指定します。 検索パスはたとえば、「/content/package[@name=Great Outdoors]」のように指定します。 ストア ID はたとえば、「storeID ('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')」のように指定します。 タイプ:String
Timeout	オプション。指定された IBM Cognos Analytics サーバーへの接続をユーザーが試行できる制限時間です。例えば、45 など。デフォルトは 60 秒です。 タイプ:Integer
ExplorerMode	オプション。ドキュメントに適用する Explorer または Reporter モードを指定します。 False (0) = Reporter True (-1) = Explorer タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、カテゴリーの新規レベルを、レイヤーとして新規レポートに追加します。

```
Sub Main()
   Dim objCubeCategories As Object
   Dim objPPRep As Object
   Const level_0 = 0
   Const level_1 = 1
   Const add_to_current = 0
   Const add_to_all = 1
   Const as_parent = 0
   Const as_child = 1
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "local", "C:\Cubes and Reports\Great
Outdoors.mdc"
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCubeCategories = objPPRep.CategoryList
   objCubeCategories.Add level_1, "Locations"
   objPPRep.Layers.Add objCubeCategories
   Set objCubeCategories = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Open メソッド (Reports)

Reports オブジェクトのコレクションを開きます。

構文

Reports.**Open**(Report)

適用対象

Reports

解説

CreateObject を使用して既存のレポートを開く場合は、Open メソッドを使用して初期化プロセスを完了します。

この 2 段階の手順を避けるには、GetObject メソッドを使用して、レポートのファイル名と拡張子を唯一のパラメーターとして含めます。たとえば、GetObject("C:¥Cognos¥Sample.ppx") とします。

Extensible Markup Language (.xml) で生成されたレポートは、 IBM Cognos PowerPlay ポータブル・レポート (.ppx) ではないため、開けません。

Reports コレクションに対して Open メソッドを使用する場合は、新規 Report オブジェクトを取得しておかないとレポートが終了します。たとえば、オブジェクト PPRep1 を使用して開かれたレポートを取得するには、次のコードを使用する必要があります。

```
Set objPPRep1 = objPPApp.Reports.Open("c:\Cognos\Outdoors.ppx")
```

次のコードを使用するとします。

```
objPPApp.Reports.Open("c:\Cognos\Outdoors.ppx")
```

この場合は、レポートが終了します。

パラメーター	説明
レポート	必須。開く PowerPlay レポートを指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、指定されたディレクトリーにある PowerPlay レポートすべてを開き、接続名「Great Outdoors」のリモート・キューブを使用するように変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim strPath As String
   Dim strExtension As String
   Dim strFolder As String
   strPath = "C:\Reports\"
   strExtension = "*.ppx"
   strFolder=Dir$(strPath & strExtension,16)
   If strFolder <> " Then
     Do Until strFolder = "
        Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
        objPPRep.Open strPath & strFolder, "Great
Outdoors.mdc"
        objPPRep.Save
        objPPRep.Close
        Set objPPRep = Nothing
        strFolder = Dir
     Loop
   End If
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 73 ページの『Reports』

Open メソッド (Report)

既存の Report オブジェクトを開きます。

構文

Report.**Open**(Report [,ConnectionType, Location[,Timeout]])

適用対象

Report オブジェクト

解説

CreateObject を使用して既存のレポートを開く場合は、Open メソッドを使用して初期化プロセスを完了します。

この 2 段階の手順を避けるには、GetObject メソッドを使用して、レポートのファイル名と拡張子を唯一のパラメーターとして含めます。たとえば、GetObject("C:¥Cognos¥Sample.ppx") とします。

Extensible Markup Language (.xml) で生成されたレポートは、 IBM Cognos PowerPlay ポータブル・レポート (.ppx) ではないため、開けません。

Reports コレクションに対して Open メソッドを使用する場合は、新規 Report オブジェクトを取得しておかないとレポートが終了します。たとえば、オブジェクト PPRep1 を使用して開かれたレポートを取得するには、次のコードを使用する必要があります。

```
Set objPPRep1 = objPPApp.Reports.Open("c:\Cognos\Outdoors.ppx")
```

次のコードを使用するとします。

```
objPPApp.Reports.Open("c:\Cognos\Outdoors.ppx")
```

この場合は、レポートが終了します。

通常、ConnectionType パラメーター、Location パラメーター、Timeout パラメーターは、レポートの作成時に使用したローカル・キューブへの参照をオーバーライドするために使用します。オプションのパラメーターを指定せずにこのメソッドを使用すると、PowerPlay ではレポートが次の順序で検索されます。

- ユーザー定義のパス
- 現在のディレクトリー
- レポートのパス
- 設定パス (存在する場合)
- 実行可能ファイルのディレクトリー
- Windows のシステム・ディレクトリー

- Windows ディレクトリー
- パス環境変数のリストに含まれているパス
- ローカル・ドライブと次に接続されているドライブへの相対パス

パラメーター	説明
レポート	必須。開く PowerPlay レポートを指定します。 タイプ:String
ConnectionType	必須。接続タイプがローカル・キューブかリモート・パッケージかを識別します。このパラメーターには、「local」または「remote」を指定できます。 タイプ:String
Location	必須。接続タイプがローカルの場合は、省略形でない完全なローカル・キューブ名を指定します。 例: "C:¥Cubes¥Great Outdoors.mdc" 接続タイプがリモートの場合は、パッケージの検索パスをネイティブのエンコード方式またはストア ID で指定します。 検索パスはたとえば、「/content/package[@name=Great Outdoors]」のように指定します。 ストア ID はたとえば、「storeID ('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')」のように指定します。 タイプ:String
Timeout	オプション。指定したサーバーへの接続をユーザーが試行できる時間。たとえば、45 とします。デフォルトは 60 秒です。 タイプ:Integer

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開き、表示して、積み上げグラフを追加します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "c:\Cognos\Outdoors.ppx", "remote",
       "storeID('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')"
   objPPRep.Visible
```

```
   objPPRep.Graphs.Add 5
   MsgBox "The active graph type is " _
      &objPPRep.Graphs.Active.Type
   objPPRep.Save
   objPPRep.Close
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

OpenRemoteReport メソッド

既存のリモートのレポート・オブジェクトを開きます。

構文

Report.**OpenRemoteReport**(Report [,ConnectionType, Location[,Timeout]])

適用対象

Report オブジェクト

解説

CreateObject を使用して既存のレポートを開く場合は、OpenRemoteReport メソッドを使用して初期化プロセスを完了します。

通常、ConnectionType パラメーター、Location パラメーター、Timeout パラメーターは、レポートの作成時に使用したリモート・パッケージへの参照をオーバーライドするために使用します。

パラメーター	説明
レポート	必須。開くリモートの PowerPlay レポートを指定します。 パッケージの検索パスをネイティブのエンコード方式またはストア ID で指定します。 検索パスはたとえば、「/content/package[@name=Great Outdoors]」のように指定します。 ストア ID はたとえば、「storeID ('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')」のように指定します。 タイプ:String

パラメーター	説明
ConnectionType	必須。接続タイプがローカル・キューブかリモート・パッケージかを識別します。このパラメーターには、「local」または「remote」を指定できます。 タイプ:String
Location	必須。接続タイプがローカルの場合は、省略形でない完全なローカル・キューブ名を指定します。 例: "C:¥Cubes¥Great Outdoors.mdc" 接続タイプがリモートの場合は、パッケージの検索パスをネイティブのエンコード方式またはストア ID で指定します。 検索パスはたとえば、「/content/package[@name=Great Outdoors]」のように指定します。 ストア ID はたとえば、「storeID ('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')」のように指定します。 タイプ:String
Timeout	オプション。指定したサーバーへの接続をユーザーが試行できる時間。たとえば、45 とします。デフォルトは 60 秒です。 タイプ:Integer

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開き、表示して、積み上げグラフを追加します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.OpenRemoteReport "storeID('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')",
      "remote", "/content/package[@name=Great Outdoors]"
   objPPRep.Visible
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Parent メソッド

親カテゴリーの名前を返す。

構文

Dimension.**Parent**

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

ディメンションに含まれる親カテゴリーの名前を識別します。最上位レベル、代替、および算出カテゴリーには、親はありません。

Has Parent メソッドを使用して、現在のカテゴリーに親カテゴリーが存在するかどうかを決定します。親が存在しない場合に Parent メソッドを使用すると、エラーが発生します。

戻り値のタイプ

文字列

例

次の例は、最初のディメンションにフィルターが設定されているカテゴリーに親カテゴリーが存在する場合、表示できるかどうかを調べ、親の名前を表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension As Object
   Dim strName As String
   Dim strVisible As String
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item(1)
   objDimension.ChangeToTop
   If objDimension.HasParent = 0 Then
      Msgbox "The " & objDimension.Name & " dimension
has " & _
         "no parent."
      strName = objDimension.Children.Item(1).Name
      objDimension.Change strName
      If objDimension.Visible = -1 Then
         strVisible = "visible"
      Else
         strVisible = "not visible"
      End If
```

```
      MsgBox "The " & objDimension.Name & " dimension
is " & _
         strVisible & "." & chr$(10) & chr$(10)
& _
         "Its parent is " & objDimension.Parent &
"."
   End If
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 20 ページの『Dimension オブジェクト』
- 174 ページの『HasParent メソッド』

Paste メソッド (Reporter)

Report オブジェクトの選択したカテゴリーにクリップボードの内容を貼り付ける。

構文

Report.**Paste**

適用対象

Report オブジェクト

解説

同じ多次元キューブを使用して、レポート間で貼り付けができます。

このメソッドは、Report オブジェクトが Reporter モード (ExplorerMode プロパティーが False) の場合のみ有効です。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、2 つのレポートを開き、1 番目のレポートから列をコピーして 2 番目のレポートに貼り付け、2 番目のレポートを保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep1 as Object
   Dim objPPRep2 as Object
   Set objPPRep1 = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPRep2 = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep1.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep2.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   objPPRep1.ExplorerMode = False
```

```
    objPPRep2.ExplorerMode = False
    objPPRep1.Columns.Item("Back Packs").Select
    objPPRep1.Copy
    objPPRep2.Paste
    objPPRep2.Save
    objPPRep1.Close
    objPPRep2.Close
    Set objPPRep1 = Nothing
    Set objPPRep2 = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

PDFFile メソッド

PDF オブジェクトを保存するときのファイル名を設定する。

構文

Report.**PDFFile**(FileName, Overwrite)

適用対象

Report オブジェクト

解説

レポートを PDF として保存するための完全修飾名を識別します。レポートを PDF として保存するには、Save メソッドを使用する必要があります。

Overwrite パラメーターを指定して、既存の PDF を上書きするかどうかを決定することもできます。

パラメーター	説明
FileName	必須。保存する PDF の名前を指定します。完全修飾名は、ファイル拡張子 .pdf を付け、引用符で囲む必要があります。たとえば、次のように指定します。 "c:¥Cognos¥pdf¥PDFSample.pdf" タイプ:String

パラメーター	説明
Overwrite	必須。PDF として保存したレポートが上書き可能かどうかを指定します。True の場合は、レポートを PDF として保存すると、同じ場所にある同じ名前のファイルが上書きされます。False の場合は、指定した場所で名前が一意の場合にのみ、ファイルが PDF として保存されます。 デフォルト:False。 タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開き、レポートを PDF ファイルとして保存するための名前を設定し、レポートの保存オプションを設定し、レポートを PDF (.pdf) で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPDF as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open( "c:\Cognos\sample.ppx" )
   objPPRep.visible( TRUE )
   Set objPDF = objPPRep.PDFFile( "c:\Cognos\PDFSample"
, True )
   With objPDF
      .SaveEntireReport = False
      .SaveAllCharts = True
      .AxisOnAllPages = True
      .ChartTitleOnAllPages = False
      .IncludeLegend = True
      .SetListOfLayersToSave objPPRep.Layers
      .SetListOfRowsToSave objPPRep.Rows
   End With
   objPDF.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPDF = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』

Percent メソッド

カテゴリーまたは定数値を基準にして、1 つ以上のカテゴリーに対する割合を追加します。

構文

object.**Percent(Operand [, Reverse])**

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Layer オブジェクト

Layers

Row オブジェクト

Rows

解説

値の組に対する割合が計算されるため、常に演算項目が必要です。割合の結果を表示するカテゴリーが作成されます。割合の計算は、逆に行うこともできます。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

Explorer モードでは、新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

パラメーター	説明
Reverse	オプション。結果が、カテゴリーの値を演算項目に対する割合として表示するか、またはその逆として表示するかを指定します。 False = カテゴリーの値を演算項目に対する割合として表示する True = 上記の逆を表示する タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、合計行の値を基底値とした、各行に対する割合を計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",True
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.Rows.SubSet _
      ("2008","1997").Percent objPPRep.Rows("Years")
   objPPRep.SaveAs "Percent Report.ppx"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

PercentGrowth メソッド

2 つのカテゴリーまたは数値データ間の割合の変化を計算する。

構文

object.**PercentGrowth**(Operand [, Reverse])

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

選択した行または列の値に対して、一定期間またはカテゴリー間における伸び率の大きさまたは方向性を計算します。

このメソッドでは、値の組に対して計算が行われるため、演算項目が必要です。Explorer モードでは、計算の演算項目が、同じディメンション、同じ軸、および同じレベルから取得されている必要があります。

Explorer モードでは、新規の算出カテゴリーが、最後の演算項目カテゴリーの直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の算出カテゴリーが、アクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

パラメーター	説明
Operand	必須。Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Object
Reverse	オプション。演算項目の順序を逆にするかどうかを指定します。 デフォルト:False。 タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、行 1 と行 2 の間の伸び率を計算し、結果を新しい行として挿入します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objRslt As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
```

```
   Set objRslt = objPPRep.Rows.Item(1).PercentGrowth
_
      (objPPRep.Rows.Item(2))
   Set objRslt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 106 ページの『Addition メソッド (コレクション)』
- 107 ページの『Addition メソッド (オブジェクト)』
- 135 ページの『CumPercentOfBase メソッド』
- 150 ページの『Division メソッド』
- 198 ページの『Multiplication メソッド (コレクション)』
- 200 ページの『Multiplication メソッド (オブジェクト)』
- 213 ページの『Percent メソッド』
- 267 ページの『Subtraction メソッド (コレクション)』
- 269 ページの『Subtraction メソッド (オブジェクト)』

PercentOfBase メソッド

異なるディメンションのカテゴリーを基本として使用し、ベース・カテゴリーに対する割合を追加します。

構文

object.**PercentOfBase**(BaseCategory)

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Row オブジェクト

Rows

解説

行の基底値に対する割合を決定する場合、列をベース・カテゴリーとして使用します。列の基底値に対する割合を決定する場合、行をベース・カテゴリーとして使用します。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

パラメーター	説明
BaseCategory	必須。計算の基底値となるカテゴリーを指定します。 タイプ:Object

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、"2008"をベース・カテゴリーとして使用し、Columns コレクションの基底値に対する割合を計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPRes as Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objPPRes = objPPRep.Columns.PercentOfBase _
      (objPPRep.Rows.Item("2008"))
   objPPRep.SaveAs "New Report.ppx"
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPPRes = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 59 ページの『列』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

Print メソッド

Print オブジェクトを返す。

構文

Report.**Print**

適用対象

Report オブジェクト

解説

Print オブジェクトのプロパティーを設定して、次のことを決定できます。

- 印刷部数
- カラーをパターンで印刷するかどうか
- 印刷する行とレイヤー
- グラフのタイトル、合計カテゴリー、凡例、軸、およびラベルの印刷位置
- 部単位で印刷するかどうか
- グラフをすべて印刷するか、または選択したグラフのみを印刷するか

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies =1
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 36 ページの『Print オブジェクト』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』

PrintOut メソッド

Report オブジェクトを印刷する。

構文

Print.**PrintOut**

適用対象

Print オブジェクト

解説

SetListOfRowsToPrint メソッドと SetListOfLayersToPrint メソッドを使用する場合は、これらのメソッドを、PrintOut メソッドを使用する前に設定する必要があります。これらのメソッドを設定しないと、PrintOut メソッドで「無効なメソッドまたはプロパティーのエラー」が発生します。

PrintOut メソッドを呼び出した後、Print オブジェクトは再初期化されます。このオブジェクトを再使用するときにデフォルト設定を適用しない場合は、プロパティーをリセットする必要があります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開いて 1 部印刷した後、Print オブジェクトのプロパティーをリセットして、デフォルトの設定を使用して 2 部印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies = 1
   objRepPrt.PrintOut
   objRepPrt.Copies = 2
```

```
    objRepPrt.PrintOut
    Set objRepPrt = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 217 ページの『Print メソッド』
- 36 ページの『Print オブジェクト』
- 219 ページの『PrintOut メソッド』
- 251 ページの『SetListOfLayersToPrint メソッド』
- 254 ページの『SetListOfRowsToPrint メソッド』

PublishToPortal メソッド

IBM Cognos Analytics Content Store にレポートを作成します。ユーザーは、Cognos Analytics ポータルを使用してレポートにアクセスします。

構文

Report.**PublishToPortal** ReportName, TargetFolder [, ReportDescription]

適用対象

Report オブジェクト

解説

このメソッドを使用して、IBM Cognos Analytics Content Store にレポートを発行します。レポートを発行すると、Web ベースのユーザーが Cognos Analytics ポータルを使用してそのレポートの PDF 版にアクセスできるようになります。

このメソッドを使用するには、次の条件を満たしている必要があります。

- データ・ソースとしてリモート・パッケージを使用するレポートを指定する
- リモート・パッケージへのアクセス権限を持っているユーザーである
- IBM Cognos Analytics サーバーのフォルダーへの書き込みアクセス権を持っている

レポートが正しく発行されると、メソッドから True が返されます。

ターゲット・フォルダーにレポートと同じ名前のオブジェクトがすでに存在している場合は、発行が失敗したことを知らせるエラーが返されます。

注:発行済みレポートの更新を可能にするには、発行の後にレポートを保存する必要があります。発行の後にレポートを保存しなかった場合、同じレポート名を使用して再発行することはできません。

パラメーター	説明
ReportName	必須。 Cognos Analytics ポータルに表示する名前を指定します。 タイプ:String
TargetFolder	必須。レポートを保存するフォルダーの検索パスまたはストア ID を指定します。 検索パスはたとえば、「/content/folder[@name='My Folders']/folder[@name='Sales']」のように指定します。 ストア ID はたとえば、「storeID ('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')」のように指定します。 タイプ:String
ReportDescription	オプション。 Cognos Analytics ポータルに表示するレポートの説明を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、レポートを Cognos Analytics ポータルで表示するために、IBM Cognos Analytics Content Store に発行します。

```
Sub Main()
     Dim objPPRepRemote As Object
     Set objPPRepRemote = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
     Dim objPPApp As Object
     Set objPPApp = objPPRepRemote.Application
     objPPRepRemote.Open "C:\PPlay.ppx"
     objPPRepRemote.PublishToPortal "Tents","/content/folder[@name='MyFolder']
          /package[@name='GO8']", "Q1 sales"
     objPPRepRemote.Save
     objPPRepRemote.Close
     set objPPRepRemote = Nothing
End sub
```

Quit メソッド

IBM Cognos PowerPlay を終了します。

構文

Application.**Quit**

適用対象

Application オブジェクト

解説

このメソッドは、アプリケーションの「終了」コマンド (「ファイル」メニュー) を使用する場合と同じです。変更された表示レポートを保存するプロンプトが表示されます。表示レポートすべてを閉じた後、アプリケーションを非表示にし、他にアプリケーションを使用しているドキュメントがない場合は、アプリケーションを終了します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、PowerPlay の Application オブジェクトのインスタンスを作成し、アプリケーションを終了する前に、いくつかのプロパティーを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPlayApp as Object
   Set objPPlayApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPlayApp.Visible = 1
   MsgBox "The name of the Application is " &objPPLayApp.Name
   MsgBox "The location of the Application is " _
      &objPPLayApp.Path
   MsgBox "The Application version is " &objPPLayApp.Version
   objPPlayApp.Quit
   Set objPPlayApp = Nothing
End Sub
```

Ranges メソッド

1 つの Range オブジェクトまたはコレクション全体を返す。

構文

Exception.**Ranges**

適用対象

Exception オブジェクト

解説

インデックスを指定しないと、Ranges コレクションが返されます。インデックスを指定すると、要求した Range オブジェクトが返されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、1 つの範囲を持つハイライトを作成して、新規レポートに適用します。ハイライトに適用するスタイルは、あらかじめ定義しておく必要があります。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim strExceptionName As String
   strExceptionName = "At Least 400 Thousand"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",True
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.Exceptions.Add strExceptionName
   objPPRep.Exceptions.Item(strExceptionName).Ranges.Add
_
       "Minimum",399999,"Good News"
   objPPRep.Columns.Exception =strExceptionName
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 23 ページの『Exception オブジェクト』
- 39 ページの『Range オブジェクト』

Rank2 メソッド

Row オブジェクトまたは Column オブジェクトをランク付けしてソートします。

構文

object.**Rank2**([ShowCount] [,[PortionToShow] [,[SortOrder] [,[RankSequence] [,[AutoRank]]]]])

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

Rank2 は、Row オブジェクトに基づいて Column オブジェクトを、または Column オブジェクトに基づいて Row オブジェクトをソートしてランク付けします。

パラメーターを省略する場合は、プレースホルダーとしてコンマが必要です。パラメーターが指定されない場合は、それに対応する IBM Cognos PowerPlay 設定内の項目が使用されます。

ShowCount パラメーターを使用して、ランク付けをするカテゴリー数を指定できます。このパラメーターを指定しないと、カテゴリーすべてが表示されます。

自動ランキング・モード (AutoRank = 1) の場合、データ値の変更または新しい値の追加により、再ランキング・アクションが発生します。

Rank2 ではレポートにランク順位の列が追加される点が、Sort メソッドと異なります。昇順または降順は、RankSequence パラメーターで指定します。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Rank メソッドは、PowerPlay メソッド・リストには含まれていませんが、既存の PowerPlay 5.2x マクロに対する後方互換性を引き続き提供しています。Rank 関数はパラメーターを新しいランキング機能にマップし、Rank2 を呼び出します。Rank メソッドには ShowCount、PortionToShow、SortOrder、および ShowRankCategory の 4 つのパラメーターがありますが、Rank2 メソッドには ShowCount、PortionToShow、SortOrder、RankSequence、および AutoReRank の 5 つのパラメーターがあります (Rank メソッドの ShowRankCategory は、新規のランク・カテゴリーを表示するかどうかを指定するオプション・パラメーターです)。

Rank メソッドを使用した既存のマクロは、PowerPlay バージョン 6.0 以降の自動ランキング機能に対して設定をマップしようとします。Rank メソッドを使用した既存のマクロを、Rank2 メソッドを使用するように更新することをお勧めします。Rank 関数は、新しいランク付け OLE メソッド、Rank2 を使用するように変更されていないマクロをサポートするために存続します。

パラメーター	説明
ShowCount	オプション。表示するカテゴリーの数を指定します。指定しない場合は、設定の設定が使用されます。 タイプ:Variant

パラメーター	説明
PortionToShow	オプション。表示するものを指定します。指定しない場合は、設定の設定が使用されます。 0 = すべて 1 = 上位 n (n は行数または列数)2 = 下位 n (n は行数または列数) タイプ:Variant
SortOrder	オプション。カテゴリーをソートする方法を指定します。指定しない場合は、設定の設定が使用されます。 0 = 並べ替えない 1 = 降順 2 = 昇順 タイプ:Variant
RankSequence	オプション。最高位にあるランク順位 (1) を、最高位または最低位の値に適用するかを指定します。 0 = 最低位の値に順位 1 を適用 1 = 最高位の値に順位 1 を適用 タイプ:Variant
AutoRank	オプション。レポートが変更されたとき、自動的に行を再ランキングするかどうかを示す値を指定します。True を指定すると、行が自動的に再ランキングされます。 タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、最終行に基づいて列をランク付けします。ランクは、上位 5 列を昇順に表示します。最高位にある値に順位 1 を適用し、自動ランキングを開始します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intLastRow As Integer
   Const show_five = 5
   Const top_five = 1
   Const rank_high = 1
   Const re_rank = 1
   Const ascending = 2
```

```
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   If objPPRep.Graphs.Active.Type <> 0 Then
      objPPRep.Graphs.Active.SetType 0
   End If
   intLastRow = objPPRep.Rows.Count
   objPPRep.Rows.Item(intLastRow).Rank2 _
         show_five, top_five, ascending, rank_high, re_rank
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Remove メソッド

1 つのオブジェクトまたはオブジェクトすべてを、コレクションから削除します。

構文

object.**Remove**

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

CategoryList オブジェクト

Column オブジェクト

Columns

Exception オブジェクト

Exceptions

FindQuery オブジェクト

Graph オブジェクト

Graphs

Layer オブジェクト

Layers

ParentageQuery オブジェクト

Range オブジェクト

Ranges

ReportQueries

Row オブジェクト

Rows

解説

コレクション・オブジェクトを削除すると、オブジェクトに含まれているオブジェクトすべてが削除されます。ReportQueries コレクションに対して Remove メソッド を使用すると、コレクションに含まれる指定したオブジェクトが削除されます。

空白の行または列が、行または列の直前にあるカテゴリーに属しています。レポートから Row または Column オブジェクトを削除すると、その後にある空白の行または列も削除されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Remove メソッドを使用してハイライトを削除しても、PPEXCEPT.INI ファイルからは削除されません。レポートのインスタンスからハイライトが削除されるのみです。レポートを再度開くと、削除されたハイライトが共有されている場合は再度表示されます。共有ハイライトを削除するには、「ハイライトの設定」ダイアログ・ボックスを使用します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開いているレポートから 1 列と 1 行を削除します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   SET objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Columns.Item("2008 Q 1").Remove
   objPPRep.Rows.Item("Far East").Remove
   objPPRep.Save
   objPPRep.Close
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Remove メソッド (ReportQueries)

ReportQueries コレクションからすべてのクエリー・オブジェクトを削除します。

構文

ReportQueries.**Remove** (RemoveCategoriesFromReport)

適用対象

ReportQueries

解説

このメソッドを使用して、ReportQueries コレクションからすべての Query オブジェクトを削除します。単一のアイテムを削除するには、Item メソッドを使用してコレクションから特定のアイテムを取得し、Remove メソッドを個々のレポート・クエリーに使用します。

RemoveCategoriesFromReport パラメーターで、実行するアクションを指定します。True の場合は、次の構文を指定します。

```
objPPrep.ReportQueries.Remove(True)
```

この場合は、レポートからすべてのクエリーとカテゴリーが削除されます。False の場合は、次の構文を指定します。

```
Set objQuery = objPPrep.ReportQueries.Item(1)
objQuery.Remove(False)
```

この場合は、指定したインデックスでレポートから 1 つのクエリーが削除され、そのカテゴリーも削除されます。

このメソッドを使用する前に作成されたオブジェクト参照は、以後、すべてが無効になります。

パラメーター	説明
RemoveCategoriesFromReport	必須。レポートからサブセット・カテゴリーを削除するかどうかを指定します。 True = カテゴリーをレポートから削除する False = カテゴリーをレポートに残し、サブセットを解除する タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、アクティブなレポートに含まれるサブセット定義の数を調べ、存在する定義を削除します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intCount As Integer
```

```
   Dim intx As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   intCount = objPPRep.ReportQueries.Count
   If intCount = 0 Then
      Msgbox "There are no subset definitions in this"
& _
         " report.", , "Subsets"
   Else
      objPPRep.ReportQueries.Item(1).Remove True
      Msgbox "1 subset definition has been removed.",
' _
         "Subsets"
      intCount = objPPRep.ReportQueries.Count
      If intCount > 0 Then
         objPPRep.ReportQueries.Remove False
         Msgbox intCount & " subset definition(s)
" & _
            "have been removed.", , "Subsets"
      End If
   End If
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 100 ページの『Add メソッド (ReportQueries)』
- 71 ページの『ReportQueries』
- 231 ページの『ReportQueries メソッド』

RemoveLevel メソッド

列、レイヤー、または行レベルをレポートのネスト・クロス集計から削除します。

構文

collection.**RemoveLevel**(NestingLevel)

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

不要なデータをレポートから削除します。レベルを削除すると、そのレベルのデータのみが削除されます。ネスト・クロス集計レポートでは、任意のレベルを、その

子レベルを残したままいつでも削除できます。たとえば、年 (ネスト・レベル 2)、四半期 (ネスト・レベル 1)、および月 (ネスト・レベル 0) に基づいたネストの 3 レベルを持つクロス集計があると仮定します。四半期レベルを削除すると、レポートにはネストの 2 レベル、年と月が表示されます。中間レベル (四半期) を削除しても、最下位レベル (月) は削除されません。

Explorer モードでは、このメソッドはネスト・クロス集計にのみ適用されます。表示中のグラフがネスト・クロス集計でない場合は、エラーが発生します。

Reporter モードでは、ネスト・クロス集計に含まれないレベルも削除できます。

ネスト・レベルが無効の場合は、エラーが発生します。

パラメーター	説明
NestingLevel	必須。表示から削除するネスト・レベルを指定します。0 のネスト・レベルは最も内側のレベルを指定し、1 はその 1 つ左側のレベルを指定します。値を 1 増やすたびに、1 つ左側のレベルが指定されます。 タイプ:Integer

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、最初の列と行のネスト・レベルの名前を表示し、次にレベルをレポートから削除します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cognos\sample.mdc", True
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.ExplorerMode = False
   Msgbox "Nested name of first column:  " & _
      objPPRep.Columns.Item(1).NestedName
   Msgbox "Nested name of first row:  " & _
      objPPRep.Rows.Item(1).NestedName
   objPPRep.Rows.RemoveLevel(1)
   objPPRep.Columns.RemoveLevel(1)
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 108 ページの『AddLevel メソッド』
- 187 ページの『Levels メソッド』

ReportQueries メソッド

ReportQueries コレクションを返します。

構文

Report.**ReportQueries**

適用対象

Report オブジェクト

解説

AdvancedQuery オブジェクト、FindQuery オブジェクト、ParentageQuery オブジェクト、または ValueRestriction オブジェクトを使用して、サブセット定義を作成または定義する場合は、このメソッドを使用して ReportQueries コレクションにアクセスします。

ReportQueries コレクションは空であるか、または既存のサブセット定義がすでに含まれている場合があります。たとえば、既存のレポートではサブセット定義がすでに定義されていることがあります。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、"Europe"に属するカテゴリーを除くすべてのカテゴリーを取得する、AdvancedQuery (タイプ 3) のサブセット定義を作成します。サブセットがレイヤーとしてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCatList As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
      Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList()
   objCatList.Add 0,"Locations"
   objPPRep.Layers.Add objCatList
```

```
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Americas & Far East"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country"
      .Exclude "Europe"
      .Execute
      .AddToReport 2,1,4
   End With
   Msgbox "Name: " & objAdvanced.Name & chr$(10)
& _
      "Dimension: " & objAdvanced.Dimension &
chr$(10) & _
      "Level List: " & objAdvanced.LevelList &
chr$(10) & _
      "Query Type Code: " & objAdvanced.Type &
chr$(10) & _
      "Number of Categories: " & objAdvanced.Count
& _
      chr$(10) & _
      "First Category: " & objAdvanced.Item(1).Name,
_
      ,"Subset"
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objCatList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 100 ページの『Add メソッド (ReportQueries)』
- 112 ページの『AddToReport メソッド』
- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 25 ページの『FindQuery オブジェクト』
- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』
- 71 ページの『ReportQueries』

Reports メソッド

1 つの Report オブジェクトまたはコレクション全体を返す。

構文

Application.**Reports**

適用対象

Application オブジェクト

解説

インデックスを指定しないと、Reports コレクションが返されます。指定した場合は、要求した Report オブジェクトが返されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、Reports コレクションの最初にあるオブジェクトを操作します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject ("C:\Cubes and Reports\Layer2.ppx")
   Set objPPApp = objPPRep.Application
   objPPApp.Visible = True
   objPPApp.Reports.Item(1).ExplorerMode = False
   objPPApp.Reports.Item(1).Layers.Subset(1,2).Remove
   objPPApp.Reports.Item(1).Layers.Subset(1,2).Addition
   objPPApp.Reports.Item(1).Layers.Maximum
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 73 ページの『Reports』

ResetPrintOptionsToDefault メソッド

印刷オプションをデフォルト設定にリセットする。

構文

objPrint.**ResetPrintOptionsToDefault**

適用対象

Print オブジェクト

解説

印刷オプションは、レポートとともに保存されたオプションで初期化されます。印刷マクロがプロパティーを上書きしなければ、プロパティーの状態は、作成者がレポートを保存した状態と一致します。

このメソッドは、レポートと一緒に保存された設定の代わりに、すべてのデフォルト印刷オプションを適用します。

戻り値のタイプ

なし

例

この例は、レポートを開き、レポートと一緒に保存された印刷設定ではなく、デフォルト設定を使用してレポートを印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.ResetPrintOptionsToDefault.
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 36 ページの『Print オブジェクト』

Restore メソッド

オブジェクト・ウィンドウを元のサイズと位置に戻します。

構文

object.**Restore**

適用対象

Application オブジェクト

Report オブジェクト

解説

このメソッドでは、非表示になっているウィンドウは表示されません。表示するには、Application または Report オブジェクトの Visible 属性を使用します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、IBM Cognos PowerPlay の表示インスタンスを検索して復元します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp as Object
   Set objPPApp = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Application"
)
   objPPApp.Restore
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Rollup メソッド

算出値を持つカテゴリーをグループ化し、新しい動的計算を作成する。

構文

object.**Rollup** (Operand)

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

Rollup を使用して、レポートら任意の数値カテゴリーを選択し、集計します。計算の種類は、集計に使用されているカテゴリーの数値データによって異なります。集計に含めることができるのは、同じ Dimension オブジェクトにあるカテゴリーだけです。

Operand パラメーターでオブジェクトを集計する開始点を設定し、指定されたオブジェクトで終了点を設定します。たとえば、Operand パラメーターでレポートの列 2 に開始点を設定し、列 4 に終了点を設定するには、次のように指定します。

```
objPRep.Columns.Item(4).Rollup (PPRep.Columns.Item(2))
```

パラメーター	説明
Operand	必須。Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、レポートに含まれる最初の「Star」で始まる行を検索し、行 1 と検索された行を使用して動的に集計します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intFound As Integer
   Dim intIndex As Integer
   Dim objRollup As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode False
   objPPRep.Rows.Item(1).Activate
   intFound = objPPRep.FindNext("Star", 2, False, 1)
   If intFound <> 0 Then
      intIndex = objPPRep.Rows.Active.Index
      Set objRollup = objPPRep.Rows.Item _
         (intIndex).Rollup(objPPRep.Rows.Item(1))
   Else
      Msgbox "No matching rows were found.",,"Not Found"
   End If
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』

Rows メソッド

1 つの Row オブジェクトまたはコレクション全体を返します。

構文

Report.**Rows**

適用対象

Report オブジェクト

解説

インデックスを指定しないと、Rows コレクションが返されます。指定した場合は、要求した Row オブジェクトが返されます。

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、Rows メソッドと AddBlanks メソッドを使用して、最終行の前に空白行を追加します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intRow As Integer
   Dim intColumn As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   intRow = objPPRep.Rows.Count - 1
   intColumn = objPPRep.Columns.Count - 1
   objPPRep.Rows.Item(intRow).Select
   objPPRep.AddBlanks
   objPPRep.Rows.Unselect
   objPPRep.Columns.Item(intColumn).Select
   objPPRep.AddBlanks
   objPPRep.Columns.Unselect
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel(intRow,0).SelectBlank(1)
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intColumn,0).SelectBlank(1)
   Msgbox " A blank row and column have been added "
& _
      "and selected.",64,"Blanks"
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel(intRow,0).UnselectBlank(1)
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intColumn, _
      0).UnselectBlank(1)
   Msgbox " The blank row and column have now been "
& _
      "unselected.",64,"Blanks"
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 74 ページの『行』

Save メソッド

1 つまたはすべての Report オブジェクトを保存する。

構文

object.**Save**

適用対象

Report オブジェクト

49 ページの『SaveAsPDF オブジェクト』

解説

SaveAs メソッドで名前を付けて保存した既存のレポートで、変更内容を保存します。新規レポートを初めて保存するときに Save メソッドを使用すると、マクロでは保存するファイルの名前を判定できないため、エラーが発生します。このメソッドは既存のレポートを上書きします。変更を保存する必要がある場合のみ使用します。

このメソッドを使用すると、レポートを PDF として保存することもできます。このメソッドは、レポートの作成元クライアントに依存せず、オリジナルのレポート (フォント、イメージ、グラフィック、および書式をすべて含む) を取得する場合に使用します。PDF は、Adobe Reader を使用して標準のレポートを配布する場合に役に立ちます。また、PDF では質の高い複数ページ出力が可能です。PDF ファイルはコンパクトかつポータブルで、プラットフォームに依存しません。

消去または非表示にした行とレイヤーは、レポートを PDF として保存するときに行とレイヤーとして表示されません。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートに含まれる列に 10% を乗算します。次に、レポートを保存して閉じます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Columns("2008 Q 1").Multiplication(1.10)
   objPPRep.Save
   objPPRep.Close
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

次の例は、レポートを開いて、レポートの保存オプションを設定して PDF 形式で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPDF as Object
```

```
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open( "c:\Cognos\sample.ppx" )
   objPPRep.visible( TRUE )
   Set objPDF = objPPRep.PDFFile( "c:\Cognos\PDFSample"
, True )
   With objPDF
      .SaveEntireReport = False
      .SaveAllCharts = True
      .AxisOnAllPages = True
      .ChartTitleOnAllPages = False
      .IncludeLegend = True
       SetChartToSave objPPRep.Graphs.Item( 1 )
      .SetListOfLayersToSave objPPRep.Layers
      .SetListOfRowsToSave objPPRep.Rows
   End With
   objPDF.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPDF = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 73 ページの『Reports』

SaveAs メソッド

Report オブジェクトに異なる名前を付け、必要に応じて異なる形式で保存します。

構文

Report.**SaveAs** FileName [, Format [, Overwrite[, Password]]]

適用対象

Report オブジェクト

解説

新規レポートを初めて保存する場合、既存のレポートをオリジナルのレポートと異なるファイル名で保存する場合、または既存のレポートをオリジナルのレポートと異なるファイル形式で保存する場合に使用します。SaveAs メソッドのみが、IBM Cognos PowerPlay レポート以外の形式でデータを保存できます。次の形式が使用できます。

- PowerPlay ポータブル・レポート (.ppx)。
- MDC (多次元キューブ)。

- ASCII ファイル。レポートのスクリーン・キャプチャーに似ていますが、PowerPlay アプリケーションで開くことはできません。
- Excel スプレッドシート (.xls)。PowerPlay アプリケーションで開くことはできません。

Windows では、FileName の拡張子と選択したフィルターが異なると、適切な拡張子が FileName に適用されます。

PowerPlay は、Extensible Markup Language (.xml) で生成されたレポートを、PowerPlay ポータブル・レポート (.ppx) として保存できます。ユーザーは、これらのレポートを Windows と UNIX プラットフォームのいずれでも表示できます。この標準レポート形式は、ほとんどの Web ブラウザーで表示できます。

レポートを PDF (.pdf) 形式で保存するには、SavePDF メソッドを使用します。

デフォルト:PowerPlay レポート (.ppx)

パラメーター	説明
FileName	必須。レポートの新しい名前を指定します。 タイプ:String
Format	オプション。保存するデータの形式を指定します。形式を示す値は、次のとおりです。 1 = 未サポート 2 = MDC (多次元キューブ) 3 = ASCII または CSV (コンマ区切り形式) 4 = Excel スプレッドシート 5 = PowerPlay ポータブル・レポート デフォルト: 5 タイプ:Variant
Overwrite	オプション。既存のファイルを上書きするかどうかを指定します。True を指定すると、同名のファイルがある場合は上書きされます。False を指定すると、保存するフォルダーまたはディレクトリーに同名のファイルがない場合にだけ保存されます。 デフォルト:True タイプ:Boolean
Password	オプション。出力を保護するために使用するパスワードを指定します。現在は MDC フォーマットでのみ使用されています。 タイプ:String

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、既存のレポートをオリジナルのレポートと異なるファイル名で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPRes as Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPRes = objPPRep.Columns.CumPercentOfBase _
      (objPPRep.Rows.Item("2008"))
   objPPRep.SaveAs "MyNewReport"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Select メソッド

カテゴリーを選択します。

構文

object.**Select**

適用対象

Column オブジェクト

列

Layer オブジェクト

Layers

Report オブジェクト

Row オブジェクト

Rows

解説

オブジェクトに含まれるカテゴリーを選択します。カテゴリーの選択を解除するには、Unselect メソッドを使用します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開き、列"Outdoor Products"を選択して、クリップボードにコピーします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.Columns.Item("Outdoor Products").Select
   objPPRep.Copy
   objPPRep.Close
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 274 ページの『Unselect メソッド』

SelectAllDimensions メソッド

IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに、フィルターをかけるディメンション・ラインの Dimension オブジェクトをすべて選択します。

構文

DeploymentOptions.**SelectAllDimensions**

解説

レポートの作成者が、レポートの利用者に対して、IBM Cognos ポータルで開かれたレポートをフィルターできるように指定します。ユーザーは、レポートに必要な情報のみが表示されるように、不要な情報を任意のディメンションからフィルターできます。

このメソッドは、Dimension オブジェクトの数が多い場合に便利です。Dimension オブジェクトを一度に 1 つずつ選択するには、PromptForDimension プロパティーを使用します。

このメソッドを使用すると、Dimension オブジェクトすべて (ディメンション・ラインで非表示にされているものを含む) をフィルターできます。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートの利用者が IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに表示されるプロンプトを指定します。また、次の例は、レポートの利用者が、ディメンション・ラインのリストに含まれるディメンションすべてをフィルターできるように指定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objDeploymentOptions.SelectAllDimensions
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 275 ページの『UnselectAllDimensions メソッド』

SelectBlank メソッド

特定の空白行または空白列を選択します。

構文

object.**SelectBlank** BlankNumber

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

SelectBlank メソッドは、クロス集計レポートで、Item メソッドと ItemAtLevel メソッドを組み合わせて使用します。クロス集計に空白行または空白列が存在する場合、コレクションの指定された非空白行または非空白列から n 番目の空白を選択します。n は、BlankNumber パラメーターで指定します。

パラメーター	説明
BlankNumber	必須。空白のアイテムを示す値です。BlankNumber はインデックスとして機能し、最初の空白は 1、次が 2、となります。 タイプ:Long

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、AddBlanks メソッドを使用して、アクティブなレポートに含まれる最終行の前に空白行を、最終列の前に空白列を追加します。適用されるのは、Reporter モードのクロス集計レポートのみです。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intRow As Integer
   Dim intColumn As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   intRow = objPPRep.Rows.Count - 1
   intColumn = objPPRep.Columns.Count - 1
   objPPRep.Rows.Item(intRow).Select
   objPPRep.AddBlanks
   objPPRep.Rows.Unselect
   objPPRep.Columns.Item(intColumn).Select
   objPPRep.AddBlanks
   objPPRep.Columns.Unselect
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel(intRow,0).SelectBlank(1)
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intColumn,0).SelectBlank(1)
   Msgbox " A blank row and column have been added "
& _
      "and selected.",64,"Blanks"
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel(intRow,0).UnselectBlank(1)
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intColumn, _
      0).UnselectBlank(1)
   Msgbox " The blank row and column have now been "
& _
      "unselected.",64,"Blanks"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 243 ページの『SelectBlank メソッド』
- 276 ページの『UnselectBlank メソッド』

SetChartToPrint メソッド

印刷するレポートの Graph オブジェクトを指定する。

構文

Print.**SetChartToPrint** (GraphObject)

適用対象

Print オブジェクト

解説

指定した Graph オブジェクトのデータすべてを印刷します。このメソッドが呼び出されないと、デフォルトで、レポートに含まれる現在アクティブな Graph オブジェクトのデータすべてが印刷されます。

このメソッドは、PrintAllCharts プロパティーが False に設定されている場合にのみ有効です。

パラメーター	説明
GraphObject	必須。印刷する Graph オブジェクトを指定します。 タイプ:Object

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。全ページにタイトル、合計カテゴリー、および軸を印刷します。また、凡例は除外します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Trend.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
```

```
    objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
    objRepPrt.IncludeLegend = False
    objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
    objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
    objRepPrt.AxisOnAllPages = True
    objRepPrt.Copies =1
    objRepPrt.PrintOut
    Set objRepPrt = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 217 ページの『Print メソッド』
- 36 ページの『Print オブジェクト』
- 397 ページの『PrintAllCharts プロパティー』

SetChartToSave メソッド

PDF に保存する Graph オブジェクトを指定する。

構文

SaveAsPDF.**SetChartToSave** (GraphObject)

適用対象

SaveAsPDF オブジェクト

解説

PDF で指定されている Graph オブジェクト (フォント、イメージ、グラフィック、および書式すべてを含む) と関連付けられているデータすべてを取得します。

レポートを PDF として保存するときに使用するには、SaveAllCharts プロパティーが False に設定されている必要があります。

デフォルト: このメソッドが呼び出されないと、デフォルトで、レポートに含まれる現在アクティブな Graph オブジェクトのデータすべてが保存されます。

パラメーター	説明
GraphObject	必須。PDF に保存する、レポートに含まれる Graph オブジェクトを指定します。 タイプ:Object

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開いて、レポートの保存オプションを設定して PDF 形式で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPDF as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open( "c:\Cognos\sample.ppx" )
   objPPRep.visible( TRUE )
   Set objPDF = objPPRep.PDFFile( "c:\Cognos\PDFSample"
, True )
   With objPDF
      .SaveEntireReport = False
      .AxisOnAllPages = True
      .ChartTitleOnAllPages = False
      .IncludeLegend = True
      .SetChartToSave objPPRep.Graphs.Item( 1 )
      .SetListOfLayersToSave objPPRep.Layers
      .SetListOfRowsToSave objPPRep.Rows
   End With
   objPDF.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPDF = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 253 ページの『SetListOfLayersToSave メソッド』
- 255 ページの『SetListOfRowsToSave メソッド』

SetDataSourceInfo メソッド

データ・ソースのセキュリティー情報をメモリーに保存する。

構文

*Application***SetDataSourceInfo** Connection Type, Location[, Password, DataSourceConnectionName]

適用対象

Application オブジェクト

解説

ローカル PowerCube またはリモート・パッケージのセキュリティー情報を、オートメーションを使用して設定します。この情報は指定したレポートとデータ・ソースを開く前に設定する必要があります。リモート・パッケージ用に、データ・ソースで複数のデータ・ソース接続が使用されている場合は、使用するデータ・ソース接続を指定します。

セキュリティー・パラメーターは、以後にデータ・ソースに基づくレポートを開く場合に備えて、メモリーに保存されます。以後レポートを開けないように設定するには、必要なすべてのレポートを開いた後、DeleteDataSourceInfo または DeleteAllDataSourceInfo を使用します。

パラメーター	説明
Connection Type	必須。接続タイプがローカル・キューブかリモート・パッケージかを識別します。このパラメーターには、「local」または「remote」を指定できます。 タイプ:String
Location	必須。 接続タイプがローカルの場合は、省略形でない完全なローカル・キューブ名を指定します。たとえば、「C:¥Cubes¥Great Outdoors.mdc」のように指定します。 接続タイプがリモートの場合は、パッケージの検索パスをネイティブのエンコード方式またはストア ID で指定します。 検索パスはたとえば、「/content/package[@name=Great Outdoors]」のように指定します。 ストア ID はたとえば、「storeID ('iAA1ECBF2EA9B46F78651D4787F219509')」のように指定します。 タイプ:String
Password	オプション。保護されたキューブへのアクセスに必要なパスワードを指定します。 タイプ:String
Data Source Connection Name	オプション。データ・ソースに複数のデータ・ソース接続が含まれている場合は、IBM Cognos Administration で使用されるデータ・ソース接続名を指定します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、データ・ソースのセキュリティー・アクセス情報レコードを設定してから、パスワード保護されたキューブに基づいてレポートを開きます。次に、メモリーからデータ・ソース・セキュリティー・アクセス・レコードを削除します。

```
Sub Main()
     Dim objPPApp As Object
     Dim objPPRep As Object
     Dim strMDCName As String
     Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
     Set objPPApp = objPPRep.Application
     strMDCName = "C:\Cubes and Reports\Sample1.mdc"
     objPPApp.SetDataSourceInfo "local", strMDCName,
"cube_password"
     objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
     objPPApp.DeleteDataSourceInfo "local", strMDCName
     Set objPPRep = Nothing
     Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

この例は、データ・ソースのセキュリティー・アクセス情報レコードを設定してから、あいまいなデータ・ソース接続を含むリモート・パッケージに基づいてレポートを開きます。"datasource1"は、パッケージから使用するデータ・ソース接続の名前を参照します。次に、メモリーからデータ・ソース・セキュリティー・アクセス・レコードを削除します。

```
Sub Main()
     Dim objPPApp As Object
     Dim objPPRep As Object
     Dim strPackageSearchPath As String
     Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
     Set objPPApp = objPPRep.Application
     strPackageSearchPath = "/content/package[@name=Great Outdoors]"
     objPPApp.SetDataSourceInfo "remote", strPackageSearchPath,, "datasource1"
     objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
     objPPApp.DeleteDataSourceInfo "remote", strPackageSearchPath
     Set objPPRep = Nothing
     Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

SetDrivingCategory メソッド

Exception オブジェクトのドライブ・カテゴリーを設定する。

構文

Exception.**SetDrivingCategory** (DrivingCategory, DrivingDimension)

適用対象

Exception オブジェクト

解説

DrivingDimension と DrivingCategory の組み合わせは、ハイライト定義の基本となる一意のカテゴリーを識別します。選択されるカテゴリーは、値の範囲に対するドライブ・カテゴリーです。IBM Cognos PowerPlay は、ドライブ・カテゴリーに含まれるデータのみを、指定された値の範囲と比較し、ドライブ・カテゴリーを使用してレポートのハイライトする部分を決定します。ドライブ・カテゴリーを指定しないと、PowerPlay では、指定した範囲と一致する値を見つけるために、ハイライトが定義されているカテゴリーすべてが検索されます。

SetDrivingCategory では大文字と小文字が区別されます。SetDrivingCategory メソッドの戻り値は、次のとおりです。

0 = 失敗 1 = 成功

パラメーター DrivingCategory をクリアするには "<None>" を使用します。たとえば、ドライブ・カテゴリーの Exception オブジェクトである Except1 をクリアするには、次の構文を使用します。

```
Except1.SetDrivingCategory ("<None>", 0)
```

パラメーター	説明
DrivingCategory	必須。ドライブ・カテゴリーの識別子を指定します。このパラメーターは必要な行または列のカテゴリー・ラベルを参照します。 タイプ:Variant
DrivingDimension	必須。ドライブ・カテゴリーのカテゴリー・タイプを指定します。使用できる値は、次のとおりです。 0 = Rows 1 = Columns タイプ:Integer

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、レポートを開き、既存のハイライトにドライブ・カテゴリーを設定して変更を保存します。

```
Sub Main()
  Dim objPPRep as Object
  Dim objExcept1 as Object
  Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\test.ppx")
  Set objExcept1 = objPPRep.Exceptions.Item("Overdue")
  objExcept1.SetDrivingCategory "Environmental Line",1
  objPPRep.Columns.Exception = "Overdue"
  objPPRep.Save
  Set objExcept1 = Nothing
  Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 328 ページの『DrivingCategory プロパティー』
- 23 ページの『Exception オブジェクト』
- 250 ページの『SetDrivingCategory メソッド』

SetListOfLayersToPrint メソッド

印刷するレポートのレイヤー範囲を指定する。

構文

Print.**SetListOfLayersToPrint** (ListOfLayers)

適用対象

Print オブジェクト

解説

レポートで印刷するレイヤーを指定します。印刷する範囲を指定するには、このメソッドを SetListOfRowsToPrint と組み合わせて使用する必要があります。これらのメソッドの一方のみを呼び出すか、またはどちらも呼び出さない場合は、レポートに含まれる現在のレイヤーと行だけが印刷されます。

このメソッドを使用する場合は、PrintOut メソッドの前に設定します。このメソッドを PrintOut メソッドの前に設定しないと、PrintOut メソッドで「無効なメソッドまたはプロパティーのエラー」が発生します。

PrintOut メソッドを呼び出した後、Print オブジェクトは削除されます。このオブジェクトを再使用するには、同じマクロで再作成する必要があります。

パラメーター	説明
ListOfLayers	必須。印刷する Layer オブジェクトのコレクションを指定します。 タイプ:Object

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies =1
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 217 ページの『Print メソッド』
- 36 ページの『Print オブジェクト』
- 219 ページの『PrintOut メソッド』
- 254 ページの『SetListOfRowsToPrint メソッド』

SetListOfLayersToSave メソッド

PDF に保存するレイヤーの範囲を指定する。

構文

SaveAsPDF.**SetListOfLayersToSave** (ListOfLayers)

適用対象

SaveAsPDF オブジェクト

解説

保存する範囲 (レイヤーまたは行) を指定する場合は、このメソッドを SetListOfRowsToSave メソッドと組み合わせて使用します。どちらのメソッドも呼び出さない場合は、レポートに含まれる現在のレイヤーと行だけが印刷されます。

このレポートを PDF として保存するときに SaveEntireReport プロパティーが True に設定されていると、このメソッドは無視されます。

パラメーター	説明
ListOfLayers	必須。PDF に保存する Layer オブジェクトのコレクションを指定します。 タイプ:Object

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開いて、レポートの保存オプションを設定して PDF 形式で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPDF as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open( "c:\Cognos\sample.ppx" )
   objPPRep.visible( TRUE )
   Set objPDF = objPPRep.PDFFile( "c:\Cognos\PDFSample"
, True )
   With objPDF
      .SaveEntireReport = False
      .SaveAllCharts = True
      .AxisOnAllPages = True
      .ChartTitleOnAllPages = False
```

```
      .IncludeLegend = True
      .SetListOfLayersToSave objPPRep.Layers
      .SetListOfRowsToSave objPPRep.Rows
   End With
   objPDF.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPDF = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』
- 255 ページの『SetListOfRowsToSave メソッド』

SetListOfRowsToPrint メソッド

印刷するレポートの行範囲を指定する。

構文

Print.**SetListOfRowsToPrint** (ListOfRows)

適用対象

Print オブジェクト

解説

レポートで印刷する行範囲を指定します。印刷する範囲を指定するには、このメソッドを SetListOfLayersToPrint と組み合わせて使用する必要があります。これらのメソッドの一方のみを呼び出すか、またはどちらも呼び出さない場合は、レポートに含まれる現在のレイヤーと行だけが印刷されます。

このメソッドを使用する場合は、PrintOut メソッドの前に設定します。このメソッドを PrintOut メソッドの前に設定しないと、PrintOut メソッドで「無効なメソッドまたはプロパティーのエラー」が発生します。

PrintOut メソッドを呼び出した後、Print オブジェクトは削除されます。このオブジェクトを再使用するには、同じマクロで再作成する必要があります。

パラメーター	説明
ListOfRows	必須。印刷する Row オブジェクトのコレクションを指定します。 タイプ:Object

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies =1
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 217 ページの『Print メソッド』
- 36 ページの『Print オブジェクト』
- 219 ページの『PrintOut メソッド』
- 254 ページの『SetListOfRowsToPrint メソッド』

SetListOfRowsToSave メソッド

PDF に保存する行範囲を指定する。

構文

SaveAsPDF.**SetListOfRowsToSave** (ListOfRows)

適用対象

SaveAsPDF オブジェクト

解説

保存する範囲 (レイヤーまたは行) を指定する場合は、このメソッドを SetListOfLayersToSave メソッドと組み合わせて使用します。どちらのメソッドも呼び出さない場合は、レポートに含まれる現在のレイヤーと行だけが印刷されます。

このレポートを PDF として保存するときに SaveEntireReport プロパティーが True に設定されていると、このメソッドは無視されます。

パラメーター	説明
ListOfRows	必須。PDF に保存する、Row オブジェクトのコレクションを指定します。 タイプ:Object

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、レポートを開いて、レポートの保存オプションを設定して PDF 形式で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPDF as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open( "c:\Cognos\sample.ppx" )
   objPPRep.visible( TRUE )
   Set objPDF = objPPRep.PDFFile( "c:\Cognos\PDFSample"
, True )
   With objPDF
      .SaveEntireReport = False
      .SaveAllCharts = True
      .AxisOnAllPages = True
      .ChartTitleOnAllPages = False
      .IncludeLegend = True
      .SetListOfLayersToSave objPPRep.Layers
      .SetListOfRowsToSave objPPRep.Rows
   End With
   objPDF.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPDF = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』
- 253 ページの『SetListOfLayersToSave メソッド』

SetMacro メソッド

Exception オブジェクトで使用されるマクロの名前とスタイルを設定します。

構文

Exception.**SetMacro** (Name, Style)

適用対象

Exception オブジェクト

解説

MacroName プロパティーと MacroStyle プロパティーを使用する前に、マクロの名前とスタイルを設定します。

SetMacro メソッドでは、デフォルトのマクロ・ディレクトリーのみで指定したマクロが検索されます。SetMacro メソッドにはパスを指定できません。デフォルトのマクロ・ディレクトリーは、「設定」コマンド (「ファイル」メニュー)、または Application メソッドの DefaultMacroDirectory を使用して設定できます。

このメソッドで呼び出されたマクロは、「Highlighting Exceptions」ダイアログ・ボックス・トピックの「Format for Macros Used」セクションで指定した ExceptionMacro 形式に従う必要があります。

パラメーター	説明
名前	必須。マクロの名前を指定します。 タイプ:String
Style	必須。マクロに関連付けるスタイルを指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、レポートに含まれる最初のハイライトに対して、マクロの名前とスタイルを設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPExpt as Object
```

```
    Set objPPRep = GetObject (, "CognosPowerPlay.Report")
    objPPRep.Application.DefaultMacroDirectory = _
        "C:\Samples\PowerPlay\Macros\"
    Set objPPExpt = objPPRep.Exceptions.Item ("GreatRevenue")
    objPPExpt.SetMacro "Report Sorting.mac", "Good News"
    objPPRep.SaveAs "New Exception Report.ppx"
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 322 ページの『DefaultMacroDirectory プロパティー』
- 23 ページの『Exception オブジェクト』
- 478 ページの『Highlight Exceptions マクロ』
- 370 ページの『MacroName プロパティー』
- 371 ページの『MacroStyle プロパティー』
- 257 ページの『SetMacro メソッド』

SetMDCAccessInfo メソッド

1 つのローカル PowerCube について、セキュリティーに関するアクセス情報をメモリーに保存します。

構文

Application.**SetMDCAccessInfo** MDCName[, cube_password]

適用対象

Application オブジェクト

解説

セキュリティーが設定された PowerCube 情報を、オートメーションを使用して設定します。この情報は、指定したレポートと MDC ファイルを開く前に設定する必要があります。

セキュリティー・パラメーターは、以後に PowerCube に基づくレポートを開く場合に備えて、メモリーに保存されます。以後レポートを開けないように設定するには、必要なレポートを開いた後、DeleteMDCAccessInfo または DeleteAllMDCAccessInfo を使用します。

パラメーター	説明
MDCName	必須。ローカル PowerCube の名前を指定します。 MDC 名が不明の場合、使用するセキュリティー・パラメーターのデフォルト・セットをプログラマーが指定できるように、「*」をワイルドカードとして使用できます。 タイプ:String
cube_password	オプション。パスワード保護された PowerCube のパスワードを指定します。 タイプ:Variant

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、キューブのセキュリティー・アクセス情報レコードを設定してから、パスワード保護されたキューブに基づいてレポートを開きます。次に、メモリーから mdc セキュリティー・アクセス・レコードを削除します。

```
Sub Main()
     Dim objPPApp As Object
     Dim objPPRep As Object
     Dim strMDCName As String
     Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
     Set objPPApp = objPPRep.Application
     strMDCName = "C:\Cubes and Reports\Sample1.mdc"
     objPPApp.SetMDCAccessInfo strMDCName, ", "cube_password"
     objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
     objPPApp.DeleteMDCAccessInfo(strMDCName)
     Set objPPRep = Nothing
     Set objPPApp
End Sub
```

関連トピック

- 188 ページの『Logon メソッド』
- 190 ページの『Logoff メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 11 ページの『Application オブジェクト』

SetType メソッド

Graph オブジェクトのタイプを設定する。

構文

Graph.**SetType**(Type[, Depth] [, Vertical])

適用対象

Graph オブジェクト

解説

次のリストを使用して、Graph オブジェクトのタイプを設定します。

- 0 (クロス集計)
- 1 (円)
- 2 (3D)
- 3 (棒)
- 4 (クラスター)
- 5 (積み上げ)
- 6 (線)
- 7 (複線)
- 8 (相関)
- 9 (散布)

パラメーター	説明
Type	必須。Graph オブジェクトのタイプを指定します。 タイプ:Integer
Depth	オプション。Graph オブジェクトが 3 次元 (3D) かどうかを指定します。適用できるタイプは 1、3、4、および 5 のみです。 False = タイプ 0、6、7、8 True = タイプ 2 デフォルト:True (このプロパティーが有効な Graph オブジェクト・タイプ) タイプ:Boolean

パラメーター	説明
Vertical	オプション。Graph オブジェクトが縦表示かどうかを指定します。プロパティーが False の場合は、適用されるタイプは 3 のみです。 デフォルト:True タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトの表示タイプを 3 次元クラスター・グラフに変更し、Graph オブジェクトの設定を開いているレポートに表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGph as Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objPPGph.SetType 4, 1, 1
   MsgBox "The Graph object type is " & objPPGph.Type
& "."
   If objPPGph.Depth = -1 Then
      MsgBox "The graph is not 3D."
   Else
       MsgBox "The graph is  3D."
   End If
   Set objPPGph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 27 ページの『Graph オブジェクト』

SizeSelected メソッド

選択したオブジェクトにサイズを適用する。

構文

Report.**SizeSelected** Size

適用対象

Report オブジェクト

解説

このメソッドは、Select メソッドと組み合わせて使用します。Select メソッドを使用してレポートに含まれるオブジェクトを選択したら、SizeSelected を使用して、選択したアイテムすべてに適用するサイズを設定できます。

パラメーター	説明
Size	必須。サイズをピクセル単位で指定します。 タイプ:Long

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、レポートの最後にある列を選択し、スタイルを適用してセルのサイズを変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intCount As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   intCount = objPPRep.Columns.Count
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intCount,0).Select
   objPPRep.StyleSelected "Good News"
   objPPRep.SizeSelected 100
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 241 ページの『Select メソッド』

Sort メソッド

列、レイヤー、または行を、昇順または降順でソートします。

構文

collection.**Sort SortBy**, OppDimIndex [, Order[, AutoSort]]

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

Sort は、パラメーターで設定された条件に基づいてデータをソートします。行または列の値またはラベル、またはレイヤーのラベルに基づいてソートができます。また、ソートは自動的に行われます。

自動ソート・モード (AutoSort = True) では、ドリルアップまたはドリルダウンすると、現在のパラメーター設定を使用して自動的にデータがソートされます。自動ソート・モードがオフ (AutoSort = False) の場合は、ドリルアップまたはドリルダウンしても、データのソートは行われません。以前にソートされたアイテム、および新しい値または変更された値の表示順序は変わりません。

各 Dimension オブジェクトでアクティブなソート・アクションは 1 つのみです。レポートに含まれる同一ディメンションで、ラベルまたは値のいずれかでソートができますが、同時に両方は適用できません。

Sort は Rank2 メソッドとは異なり、画面の表示を単純にソートするもので、実際には Report オブジェクトに追加しません。Rank2 は、ランク順位の列または行をレポートに追加します。

このソート・メソッドでは、レポートの一部として存在する消去または非表示のカテゴリーも常にソートされます。

OppDimIndex パラメーターは、レイヤーのソートに使用しないでください。

次のパラメーターを指定しない場合は、設定の設定が使用されます。

パラメーター	説明
SortBy	必須。どのようにソートするかを指定します。 0 = ソートをしない 1 = ラベルによるソート 2 = 値によるソート (レイヤーの場合は無効) 0 を指定した場合は、他の 3 つのパラメーターは無効になります。 タイプ:Variant

パラメーター	説明
OppDimIndex	必須。データをソートする列または行を指定します。これは常に反対のディメンションです。行は列インデックス、列は行インデックスを使用します。インデックスの初期値は 1 です。このパラメーターはレイヤーでは無効です。 タイプ:Variant
Order	オプション。カテゴリーをソートする方法を指定します。指定しない場合は、設定の設定が使用されます。 1 = 降順、2 = 昇順 デフォルト: 降順 タイプ:Variant
AutoSort	オプション。レポートが変更されたとき、自動的に行をソートするかどうかを指定します。指定しない場合は、設定の設定が使用されます。 False (自動ソートを行わない) True (自動ソートを行う) タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、最終行の値に基づいて列をソートします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intRowIndex As Integer
   Const SortByValue = 2
   Const Descending = 1
   Const NoAutoSort = 0
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   intRowIndex = objPPRep.Rows.Count
   objPPRep.Columns.Sort _
      SortByValue, intRowIndex, Descending, NoAutoSort
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 223 ページの『Rank2 メソッド』

StyleSelected メソッド

選択したオブジェクトにスタイルを適用します。

構文

Report.**StyleSelected** Style

適用対象

Report オブジェクト

解説

StyleSelected メソッドは、Select メソッドと組み合わせて使用します。Select を使用してコレクションに含まれるオブジェクトを選択し、StyleSelected を使用して選択したアイテムすべてに適用するスタイルを設定します。

パラメーター	説明
Style	必須。定義したスタイルを表す値を指定します。 True = 成功 False = エラー タイプ:String

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、レポートの最後にある列を選択し、スタイルを適用してセルのサイズを変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intCount As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   intCount = objPPRep.Columns.Count
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intCount,0).Select
   objPPRep.StyleSelected "Good News"
   objPPRep.SizeSelected 100
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 241 ページの『Select メソッド』

Subset メソッド

現在のコレクションからオブジェクトのサブセットを返します。

構文

collection.**Subset**(IndexOfFirstCategory, IndexOfLastCategory)

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

サブセットは、共通の基準を一部共有する情報を分離するためのグループです。サブセットには、コレクションに含まれるオブジェクトすべてが含まれることがあります。

パラメーター	説明
IndexOfFirstCategory	必須。範囲の最初にあるカテゴリーのインデックスまたはカテゴリー名を指定します。 タイプ:Integer
IndexOfLastCategory	必須。範囲の最後にあるカテゴリーのインデックスまたはカテゴリー名を指定します。 タイプ:Integer

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、Subset メソッドを使用して、開かれているレポートに最初の 3 行を追加します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objNewCol As Object
   Dim objNewRow As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objNewRow = objPPRep.Rows.Subset(1, 3).Addition
   MsgBox "The sum of the first three rows is " _
      &objPPRep.CellValue(objNewRow(1).Index,1)
```

```
   Set objNewCol = objPPRep.Columns.Item(4).Addition
_
      (objPPRep.Columns.Item(1))
   MsgBox " The sum of column one and column four is
" _
      &objPPRep.CellValue(1,objNewCol.Index)
   objPPRep.Save
   Set objNewRow = Nothing
   Set objNewCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 59 ページの『列』
- 66 ページの『Layers』
- 74 ページの『行』

Subtraction メソッド (コレクション)

コレクションに含まれる 1 つ以上のカテゴリーから、定数値またはカテゴリーを減算します。または、定数値や他のカテゴリーから、カテゴリーすべてを減算します。

構文

collection.**Subtraction**[(Operand [, Reverse])]

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

このメソッドでは、定数値または別のカテゴリーからカテゴリーすべてを減算できます。減算は、逆に行うこともできます。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

Explorer モードでは、新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

パラメーター	説明
Operand	オプション。定数値または Category オブジェクトを指定します。このパラメーターを指定しないと、コレクションに含まれるカテゴリーすべての減算値を表示するカテゴリーが 1 つ作成されます。このパラメーターを指定すると、カテゴリーが演算項目から減算され、それぞれの結果を表示する新規カテゴリーが作成されます。 タイプ:Variant
Reverse	オプション。演算項目からカテゴリーを減算するか、その逆かを指定します。 True = 演算項目からカテゴリーを減算する False = カテゴリーから演算項目を減算する タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、2 列の差異を新しい列に返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Columns.Item("Environmental Line").Subtraction
_
      objPPRep.Columns.Item("Products")
   objPPRep.Save
   objPPRep.Close
   Set objPPREp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Subtraction メソッド (オブジェクト)

オブジェクトから定数値または別のカテゴリーを減算します。または、カテゴリーまたは定数値からオブジェクトを減算します。

構文

object.**Subtraction**(Operand [, Reverse])

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

Column、Layer、および Row オブジェクトについて、カテゴリーと演算項目の各組からカテゴリーを減算し、結果を表示する新規カテゴリーを作成します。

メソッドが、オブジェクトまたはコレクションに適用されるかどうかにより、結果がオブジェクトまたはコレクションとして返されます。

Explorer モードでは、新規の計算が最後の演算項目の直後に挿入されます。Reporter モードでは、新規の計算がアクティブな行または列の直後に挿入されます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

Explorer モードでは、レベル、ドリル、フィルター、またはネストを削除してレポートを変更すると、変更されたレポートで作成できない計算がすべて消失します。

パラメーター	説明
Operand	必須。定数値または Category オブジェクトを指定します。 タイプ:Variant

パラメーター	説明
Reverse	オプション。演算項目からカテゴリーを減算するか、その逆かを指定します。 True = 演算項目からカテゴリーを減算する False = カテゴリーから演算項目を減算する タイプ:Boolean

戻り値のタイプ

オブジェクト

例

次の例は、列の各値から定数値を減算し、差異を新しい列に返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPCol as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objPPCol = objPPRep.Columns.Item("Tents")
   objPPCol.Subtraction(1000)
   objPPRep.Save
   Set objPPCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

SwapColumnsAndLayers メソッド

Column オブジェクトと Layer オブジェクトの位置を交換する。

構文

Report.**SwapColumnsAndLayers**

適用対象

Report オブジェクト

解説

レポートに含まれるカテゴリーの場所を入れ替えます。他の入れ替えメソッドを使用して、行と列、行とレイヤーの場所を入れ替えることができます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開いているレポートに含まれる列とレイヤーの位置を入れ替えます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.SwapColumnsAndLayers
   objPPRep.SaveAs "New Report.ppx"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 『SwapRowsAndColumns メソッド』
- 272 ページの『SwapRowsAndLayers メソッド』

SwapRowsAndColumns メソッド

Row オブジェクトと Column オブジェクトの位置を交換する。

構文

Report.**SwapRowsAndColumns**

適用対象

Report オブジェクト

解説

他の入れ替えメソッドを使用して、列とレイヤー、行とレイヤーの場所を入れ替えることができます。

レポートの情報を異なる視点から分析したり、現在のページ・サイズに収まるようにレポートのデータを変更するために、行と列を入れ替えます。たとえば、行に会計年度の四半期、列に製品が含まれている場合、行に製品、列に四半期が含まれるように入れ替えることができます。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開かれているレポートに含まれる行と列の位置を入れ替えます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.SwapRowsAndColumns
   objPPRep.SaveAs "New Report.ppx"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 271 ページの『SwapRowsAndColumns メソッド』
- 『SwapRowsAndLayers メソッド』

SwapRowsAndLayers メソッド

Row オブジェクトと Layer オブジェクトの位置を交換する。

構文

Report.**SwapRowsAndLayers**

適用対象

Report オブジェクト

解説

他に、列とレイヤー、行と列の位置を交換するメソッドがあります。

レイヤーを持たないレポートに対してこのメソッドを使用すると、行がレイヤーになり、レポートから行がなくなります。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開いているレポートに含まれる行とレイヤーの位置を入れ替えます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.SwapRowsAndLayers
   objPPRep.SaveAs "New Report.ppx"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』
- 271 ページの『SwapRowsAndColumns メソッド』
- 272 ページの『SwapRowsAndLayers メソッド』

UnhideAllCategories メソッド

非表示になっているカテゴリーすべてを表示する。

構文

Report.**UnhideAllCategories**

適用対象

Report オブジェクト

解説

Hide メソッドを使用してカテゴリーを非表示にすると、マクロへの接続すべてが切断されます。非表示カテゴリーを再表示できるのは、このメソッドのみです。

このメソッドの使用後は、コレクションに含まれるオブジェクトの位置に対する参照が無効になります。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開かれたレポートに含まれる非表示カテゴリーすべてを再表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.UnhideAllCategories
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 175 ページの『Hide メソッド』
- 91 ページの『ActiveReport メソッド』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Unselect メソッド

カテゴリーの選択を解除します。

構文

object.**Unselect**

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Layer オブジェクト

Layers

Row オブジェクト

Rows

解説

オブジェクトまたはコレクションから選択すべてを解除します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、開いているレポートで列の選択を解除します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   objPPRep.Columns.Item("Outdoor Products").Select
   objPPRep.Copy
   ObjPPRep.Columns.Unselect
   objPPRep.Close
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 241 ページの『Select メソッド』
- 243 ページの『SelectBlank メソッド』
- 276 ページの『UnselectBlank メソッド』

UnselectAllDimensions メソッド

IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに、フィルターをかけるディメンション・ラインの選択された Dimension オブジェクトをすべて選択解除します。

構文

DeploymentOptions.**UnselectAllDimensions**

解説

レポートの作成者が、レポートの利用者に対して、IBM Cognos ポータルで開かれたレポートをフィルターできるように指定します。ユーザーは、必要な情報のみがレポートに表示されるように、不要な情報をフィルターできます。

このメソッドは、ユーザーが PromptForDimension プロパティーを使用して、特定のディメンションを選択したり、ディメンションすべてのフィルターを削除したりできるように、DeploymentOptions オブジェクトのディメンション・ラインに含まれる Dimension オブジェクトの選択をすべて解除します。

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、選択したディメンションすべてをディメンション・ライン・フィルターから解除し、レポートをフィルターするためにユーザーが使用できるディメンションを指定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objDeploymentOptions.UnselectAllDimensions
   objDeploymentOptions.Dimension(1) = True
   objDeploymentOptions.Dimension(2) = True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 242 ページの『SelectAllDimensions メソッド』

UnselectBlank メソッド

特定の空白行または空白列の選択を解除します。

構文

object.**UnselectBlank BlankNumber**

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

UnselectBlank は、クロス集計レポートで、Item と ItemAtLevel メソッドと組み合わせて使用します。SelectBlank メソッドを使用して選択した空白行または空白列がクロス集計に存在する場合、空白アイテムの選択を解除するには UnselectBlank を使用します。

パラメーター	説明
BlankNumber	必須。空白のアイテムを示す値を指定します。BlankNumber はインデックスとして機能し、最初の空白行または列は 1、次が 2、となります。 タイプ:Long

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、AddBlanks メソッドを使用して、アクティブなレポートに含まれる最終行の前に空白行を、最終列の前に空白列を追加します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim intRow As Integer
   Dim intColumn As Integer
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = False
   intRow = objPPRep.Rows.Count - 1
   intColumn = objPPRep.Columns.Count - 1
   objPPRep.Rows.Item(intRow).Select
   objPPRep.AddBlanks
   objPPRep.Rows.Unselect
   objPPRep.Columns.Item(intColumn).Select
   objPPRep.AddBlanks
   objPPRep.Columns.Unselect
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel(intRow,0).SelectBlank(1)
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intColumn,0).SelectBlank(1)
   Msgbox " A blank row and column have been added "
& _
      "and selected.",64,"Blanks"
   objPPRep.Rows.ItemAtLevel(intRow,0).UnselectBlank(1)
   objPPRep.Columns.ItemAtLevel(intColumn, _
      0).UnselectBlank(1)
   Msgbox " The blank row and column have now been "
& _
      "unselected.",64,"Blanks"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

UpdatePublishedReport メソッド

IBM Cognos Analytics Content Store に以前に発行されたレポートを更新します。

構文

Report.**UpdatePublishedReport** [ReportDescription]

適用対象

Report オブジェクト

解説

このメソッドを使用することにより、以前に PublishToPortal メソッドを使用して IBM Cognos Analytics Content Store に発行されたレポートを更新できます。

パラメーター	説明
ReportDescription	オプション。保存されたレポートの説明を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

ブール値

例

```
Sub Main()
     Dim objPPApp As Object
     Dim objPPRepRemote As Object
     Set objPPRepRemote = CreateObject("CognosPowerPlay.Report"
     Set objPPApp = objPPRepRemote.Application
     objPPApp.Visible = True
     objPPRepRemote.Open "C:\PPlay.ppx"
' Modify report.....
     objPPRepRemote.UpdatePublishedReport
     objPPRepRemote.Close
     set objPPRepRemote = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 220 ページの『PublishToPortal メソッド』

ValueRestriction メソッド

AdvancedQuery オブジェクトの値制限を返します。

構文

AdvancedQuery.**ValueRestriction**(ValueName)

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

解説

AdvancedQuery の結果をフィルターする値制限の名前を指定します。
ValueRestriction には、次の値のカテゴリーのみが含まれていることがあります。

- n 番目に大きい値、または小さい値 (Largest または Smallest 演算子と Count プロパティーを指定)
- 指定された値より大きい、指定された値より小さい、大きいまたは等しい、小さいまたは等しい、または等しい値 (より大きい、より小さい、大きいまたは等しい、小さいまたは等しい、等しい演算子と Operand1 を指定)
- 指定された範囲に含まれる値 (Between 演算子と、Operand1 および Operand2 を指定)

値制限は一度に 1 つのみ指定します。たとえば、「Revenue> 10,000 and Units Sold < 30」は無効です。

値制限には、数値データに適用されている関数は含めないでください。たとえば、"Average(Revenue)>500" および "Revenue - Cost in Top 10" は無効です。

値制限が適用できるのは、AdvancedQuery 結果の最下位レベルにあるカテゴリーのみです。たとえば、AdvancedQuery の結果には多数の"Years"と"Quarters"が含まれています。上位 10 の値のみを選択する値制限を適用すると、AdvancedQuery の結果には上位 10 にある"Quarters" (最下位レベルにあるカテゴリー) と関連する年度が含まれます。結果レポートは 10 行 (上位 10 の値) ですが、クエリーからは 10 カテゴリー以上が返される場合があります。

パラメーター	説明
ValueName	必須。値制限を行うクエリーの ValueRestriction オブジェクトに割り当てる名前を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

なし

例

次の例は、"Locations" ディメンションから国または地域を選択する詳細サブセットを作成します。値制限 (タイプ 4) は、"Environmental Line" の "Revenue" 値が 25,000～100,000 の範囲にある国または地域のみが返されるように結果を制限します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objValue As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objValue = objPPRep.ReportQueries.Add(4)
   With objValue
      .Name = "25000-100000"
      .Dimension = "Locations"
      .Measure = "Revenue"
      .Operator = "between"
      .Operand1 = 25000
      .Operand2 = 100000
      .DimensionFilter 2, "Environmental Line"
   End With
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Locations"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country or Region"
      .ValueRestriction objValue.Name
      .Execute
      .AddToReport 0,1,3
   End With
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objValue = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Vertical メソッド

Graph オブジェクトが縦表示かどうかを返す。

構文

Graph.**Vertical**

適用対象

Graph オブジェクト

解説

このメソッドを設定するには、Graph コレクションに Add メソッドを使用するか、または Graph オブジェクトに SetType メソッドを使用します。

グラフ・タイプ 3 (棒グラフ) では、垂直または水平の 2D または 3D グラフを作成できます。これは、グラフ・タイプ 3 では True (垂直の場合) または False (水平の場合) が返されることを意味します。

クロス集計では、常に False が返されます。

デフォルト:True

戻り値のタイプ

ブール値

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトの表示タイプを 3 次元クラスター・グラフに変更し、Graph オブジェクトの設定を開いているレポートに表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGph as Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objPPGph.SetType 4, 1, 1
   MsgBox "The Graph object type is " & objPPGph.Type
& "."
   If objPPGph.Depth = -1 Then
      MsgBox "The graph is not 3D."
   Else
       MsgBox "The graph is  3D."
   End If
   If objPPGph.Vertical = -1 Then
      MsgBox "The graph is oriented vertically."
   Else
      MsgBox "The graph is oriented horizontally."
   End If
   Set objPPGph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
```

```
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 27 ページの『Graph オブジェクト』

第 5 章 プロパティー

また、IBM Cognos PowerPlay OLE オートメーションの以下のプロパティーを使用します。

名前	説明
Application プロパティー	Application オブジェクトを返します。
AutomaticExceptions プロパティー	自動ハイライトをオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。
AutomaticExceptionSensitivity プロパティー	自動ハイライトの優先度を設定するか、設定状態を返します。
Average プロパティ	CategoryList オブジェクトにある選択されたカテゴリーの平均値を計算するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
AxisOnAllPages プロパティー	印刷されたレポートまたは PDF の全ページに、軸とラベルを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
BlankWhenDividedByZero プロパティー	ゼロで除算された数値を、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。
BlankWhenMissing プロパティー	欠落値を、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。
BlankWhenZero プロパティー	数値のゼロを、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。
CalculatedCategories プロパティー	算出カテゴリーのオン/オフの切り替え、あるいは PowerCube が算出カテゴリーを含むかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Caption プロパティー	Application オブジェクト・ウィンドウのタイトルを返します。
CellText プロパティー	セルに含まれるテキストを返します。
CellValueAlignment プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用された位置揃えを返します。

名前	説明
CellValueFontColor プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント色を返します。
CellValueFontName プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント名を返します。
CellValueFontSize プロパティー	レポートに含まれるセル値に適用されたフォント・サイズを返します。
ChartTitleOnAllPages プロパティー	印刷されたレポートまたは PDF の全ページに、タイトルを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Collate プロパティー	Report オブジェクトを、印刷時に部単位で印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Copies プロパティー	印刷する部数を設定するか、設定状態を返します。
Count プロパティー	Dimension オブジェクトに含まれる現在のカテゴリーから 1 レベル下にあるカテゴリー数、またはコレクションに含まれるオブジェクト数を返します。
CubeName プロパティー	アクティブ・レポートに含まれるキューブのファイル名を返します。
DataGridlines プロパティー	クロス集計でのグリッド線をオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。
DefaultAlternateDirectory プロパティー	読み取り専用レポートに対する更新を保存するディレクトリーを設定するか、設定状態を返します。
DefaultCubeDirectory プロパティー	多次元キューブ・ファイル (.mdc) のデフォルト・パスを設定するか、設定状態を返します。
DefaultMacroDirectory プロパティー	マクロ・ファイルのデフォルト・パスを設定するか、設定状態を返します。
DefaultReportDirectory プロパティー	PowerPlay レポート・ファイルのデフォルト・パスを設定するか、設定状態を返します。
Dimension プロパティー	カテゴリーの取得元ディメンションを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
DimensionLineIndex プロパティー	Layer、Row、および Column オブジェクトのリストを管理するディメンション・ライン・アイテムの位置を返します。
DimensionSettings プロパティー	ValueRestriction に対するディメンション・ラインの設定すべてを、コンマ区切り文字列として返します。
DrivingCategory プロパティー	Exception オブジェクトのドライブ・カテゴリーを返します。
DrivingDimension プロパティー	Exception オブジェクトのドライブ・ディメンションを返します。
Each プロパティー	選択されたカテゴリーと新規カテゴリーのすべて、または新規カテゴリーのみをレポートに表示するように設定するか、設定状態を返します。
EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計列に、ユーザー定義のラベルを使用するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
EnableUserRowSummaryLabel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計行に、ユーザー定義のラベルを使用するかどうか設定するか、設定状態を返します
Exception プロパティー	1 つ以上のカテゴリーにハイライトを設定するか、設定状態を返します。
ExplorerMode プロパティー	Report オブジェクトを Explorer レポートまたは Reporter レポートに設定するか、設定状態を返します。
FitToPage プロパティー	レポートを 1 ページに収まるように拡大/縮小するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
FooterText プロパティー	レポートのフッターに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。
FullName プロパティー	Application オブジェクトまたは Report オブジェクトの場所を含む完全な名前を返します。
GetDataAutomatically プロパティー	データが変更されるたびに、Report オブジェクトがデータを自動的に取得するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
HeaderText プロパティー	レポートのヘッダーに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。
HideRankCategory プロパティー	ランク・カテゴリーを非表示にするかどうかを設定するか、設定状態を返します。
IncludeLegend プロパティー	凡例を、印刷したレポートまたは PDF に表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
IndentTotalsLevel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる集計セルの現在のインデント・レベルを設定するか、設定状態を返します。
Index プロパティー	コレクションに含まれるオブジェクトの位置を返します。
Intersect プロパティー	異なるディメンションから、選択されたカテゴリーのインターセクト値を決定するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
IsAlternate プロパティー	ドリルダウン・パスが主要または代替のどちらであるかを返します。
IsCalculatedCategory プロパティー	カテゴリーが算出カテゴリーであるかどうかを返します。
KeepSummaryVisible プロパティー	スクロールするページすべてについて、合計カテゴリーを表示したままにするかどうかを設定するか、設定状態を返します。
LabelAlignment プロパティー	レポートに含まれるセル・ラベルに適用された位置揃えを返します。
LabelFontColor プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント色を返します。
LabelFontName プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント名を返します。
LabelFontSize プロパティー	レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント・サイズを返します。
LabelGridlines プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれるカテゴリー・ラベルに対するグリッド線をオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。
Layout プロパティー	ネストされたクロス集計の現在のレイアウト・スタイルを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
Level プロパティー	ディメンションに含まれるカテゴリーのレベルを返します。
LevelList プロパティー	指定されたドリルダウン・パスのレベル・リストを返します。
LevelsDown プロパティー	次のレベルの ParentageQuery サブセットを指定するために、階層の下にあるレベル数を設定します。
LogonPrompt プロパティー	ログオンまたはセキュリティー情報に関するプロンプトを、アプリケーションで表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
LowerBoundary プロパティー	Range オブジェクトの下限として定義される値を設定するか、設定状態を返します。
LowestLevel プロパティー	親カテゴリーの次の下位レベルと最下位レベルのどちらを、クエリーで使用するかを設定します。
MacroName プロパティー	Exception オブジェクトに関連付けられたマクロの名前を設定するか、設定状態を返します。
MacroStyle プロパティー	Exception オブジェクトで使用されるマクロに関連付けられたスタイルの名前を設定するか、設定状態を返します。
MaximumNumberOfRanges プロパティー	Exception オブジェクトについて、定義可能な Range オブジェクトの最大数を返します。
MaxPrintedBars プロパティー	印刷データの 1 ページに表示する、グラフ棒の最大数を設定するか、設定状態を返します。
MaxVisibleBars プロパティー	スクロールするデータの 1 ページに表示する、グラフ棒の最大数を設定するか、設定状態を返します。
Measure プロパティー	値制限に使用される数値データの名前を設定するか、設定状態を返します。
MeasureCurrency プロパティー	指定した通貨に使用する値または記号を設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
Name プロパティー	オブジェクトの名前を設定するか、設定状態を返します。
NamesShown プロパティー	円グラフの横にカテゴリー名を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
NestedCharts プロパティー (Explorer)	集計データを表す複数のグラフを、1 つのグラフに表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
NestedName プロパティー	カテゴリーのネストされた名前を返します。
Operand1 プロパティー	指定した演算子に基づくレポート・セル値の比較で使用する値を設定するか、設定状態を返します。
Operand2 プロパティー	Between 演算子を使用して範囲を指定する場合の 2 番目の値を設定するか、設定状態を返します。
Operator プロパティー	値制限に使用される演算子のタイプを設定するか、設定状態を返します。
ParentCategory プロパティー	オブジェクトに対する親カテゴリーの名前を返します。
Path プロパティー	Report オブジェクトまたは Application オブジェクトのパスを返します。
Pattern プロパティー	サブセット定義の検索基準を設定します。
Precedence プロパティー	複雑な計算に使用される優先順位を設定するか、設定状態を返します。
PrintAllCharts プロパティー	グラフすべてを同一ページに印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PrintColorsAsPatterns プロパティー	色を、パターンと色のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。
PrintEntireReport プロパティー	すべての表示、レイヤー、行を含むレポート全体を印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PrintPageLayout プロパティー	同一ページに、ページ・レイアウトまたはページ幅を基準にした表示に含まれるすべての表示を印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
PrintSelectedDisplay プロパティー	選択した Graph オブジェクト、または現在アクティブになっている Graph オブジェクトを印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PromptForCurrency プロパティー	IBM Cognos ポータルに発行されたレポートの通貨をレポート利用者が変更できるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PromptForDimension プロパティー	IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに、レポート利用者が、指定された Dimension オブジェクトにフィルターをかけることができるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PromptForLongShortNames プロパティー	レポート利用者が、IBM Cognos ポータルに発行されたレポートに含まれるカテゴリーの長い名前と短い名前を変更できるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PromptForSwapRowsAndColumns プロパティー	レポート利用者が、IBM Cognos ポータルに発行されたレポートの行と列を入れ替えることができるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
PromptForZeroSuppression プロパティー	レポート利用者が、IBM Cognos ポータルに発行されたレポートにゼロ消去を適用または解除できるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
RefreshSubCube プロパティー	サブキューブを自動的に最新の情報に更新するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SaveAllCharts プロパティー	Graph オブジェクトすべてを PDF で保存するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Saved プロパティー	Report オブジェクトが保存されているかどうかを返します。
SaveEntireReport プロパティー	レポート全体を PDF 形式で保存するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SearchDescription プロパティー	FindQuery オブジェクトの使用時に、キューブに含まれるカテゴリーの説明を検索するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
SearchShortName プロパティー	FindQuery オブジェクトの使用時に、短い形式または長い形式のどちらでカテゴリー名を検索するかを設定するか、設定状態を返します。
SearchText プロパティー	FindQuery クエリーのサブセット定義で使用される検索文字列を設定するか、設定状態を返します。
ShareDimensionLine プロパティー	開いているレポートがディメンション・ラインを共有するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShareOf プロパティ	選択されたカテゴリーの値を上位レベルにあるカテゴリーの割合として表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowSummaryBreakdown プロパティー (Explorer)	クロス集計に合計行および合計列の内訳を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowSummaryColumn プロパティー (Explorer)	合計列を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowSummaryRow プロパティー (Explorer)	合計行を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowTies プロパティー	ラベル連結を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ShowValuesAs プロパティー (Explorer)	レポートでの値の表示方法を設定するか、設定状態を返します。
StatsLineCaption プロパティー	グラフに含まれる統計線のタイトルを設定するか、設定状態を返します。
StatsLineColor プロパティー	グラフに含まれる統計線の色を設定するか、設定状態を返します。
StatsLineOn プロパティー	グラフの統計線を設定するか、設定状態を返します。
StatsLineStyle プロパティー	グラフに含まれる統計線のスタイルを設定するか、設定状態を返します。
StatsLineUserValue プロパティー	グラフの統計線にカスタム値を設定します。
Style プロパティー	カテゴリー、ハイライトの範囲、またはカテゴリーのセットに使用されるスタイルを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
Sum プロパティー	選択されたカテゴリーの合計を計算するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SummariesOnAllPages プロパティー	既存の合計を、印刷されたレポートの全ページに表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SummaryColumnOnAllPages プロパティー	レポートまたは PDF の全ページに、合計列カテゴリーを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
SummaryRowOnAllPages プロパティー	レポートまたは PDF の全ページに、合計行カテゴリーを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
Suppress8020 プロパティー (Explorer)	レポート・ディメンションを 80/20 消去モードに設定するか設定状態を返します。
SuppressZeros プロパティー	Report オブジェクトを消去モードに設定するか、設定状態を返します。
Threshold プロパティー	Print オブジェクトの最大印刷ページ範囲を設定するか、設定状態を返します。
TitleText プロパティー	レポートのタイトルに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。
TopLevelCategory プロパティー (Explorer)	オブジェクトのディメンション名を返します。
TopLevelParentCategory プロパティー	オブジェクトのディメンション名を返します。
Type プロパティー	オブジェクトのタイプを返します。
UpperBoundary プロパティー	Range オブジェクトの上限として定義される値を設定するか、設定状態を返します。
UseFontSubstitution プロパティー	IBM Cognos ポータル に発行されたレポートに、全フォント情報を保存するかどうかを設定するか、設定状態を返します。
UserControl プロパティー	Application オブジェクトがユーザーの制御下にあるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
UserColumnSummaryLabel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計列について、ユーザー定義のラベルを設定するか、設定状態を返します。

名前	説明
UserRowSummaryLabel プロパティー	ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計行について、ユーザー定義のラベルを設定するか、設定状態を返します。
UseScrolling プロパティー	スクロールを可能にするかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ValuesAutoFit プロパティー	値ラベルをグラフ棒や円セグメントの中に収めるかどうかを設定するか、設定状態を返します。
ValuesFontColor プロパティー	グラフの値ラベルに使用するフォント色を設定するか、設定状態を返します。
ValuesFontName プロパティー	値ラベルに使用するフォント名を設定するか、設定状態を返します。
ValuesFontSize プロパティー	グラフの値ラベルに使用するフォント・サイズを設定するか、設定状態を返します。
ValuesFontStyle プロパティー	グラフの値ラベルに使用するフォント・スタイルを設定するか、設定状態を返します。
ValuesPosition プロパティー	一部のグラフ・タイプについて、値ラベルの位置を設定するか、設定状態を返します。
ValuesShown プロパティー	円グラフの横に値ラベルを表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。
Version プロパティー	PowerPlay のバージョン番号を返します。
Visible プロパティー	オブジェクトをユーザーに表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

Application プロパティー

Application オブジェクトを返します。

構文

object.**Application**

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

Application オブジェクト

CategoryList オブジェクト

Column オブジェクト

Columns

Dimension オブジェクト

DimensionLine オブジェクト

Exception オブジェクト

Exceptions

FindQuery オブジェクト

Graph オブジェクト

Graphs

Layer オブジェクト

Layers

33 ページの『Level オブジェクト』

Levels

ParentageQuery オブジェクト

Print オブジェクト

Range オブジェクト

Ranges

Report オブジェクト

ReportQueries

Reports

Row オブジェクト

Rows

SaveAsPDF オブジェクト

ValueRestriction オブジェクト

解説

デフォルトのディレクトリーや製品の現在のバージョンなど、アプリケーション・レベルの設定にアクセスします。また、アプリケーションを他のアプリケーションすべての上位に配置してアクティブにすることもできます。

タイプ

オブジェクト

アクセス

読み取り

例

次の例は、開かれているレポートの名前と場所を返します。その後、Application プロパティーを使用して、 IBM Cognos PowerPlay を前面に移動し、アクティブにします。

```
Sub Main()
   Dim objRep As Object
   Set objRep = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   MsgBox "The name of the current report is " &objRep.Name
   MsgBox "The location of the current report is " &objRep.Path
   If objRep.Saved = False Then
      objRep.Save
      MsgBox "Changes to the report have been saved."
   Else
      MsgBox "No changes have been made to the report."
   End If
   objRep.Application.Activate
   Set objRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 11 ページの『Application オブジェクト』

AutomaticExceptions プロパティー

自動ハイライトをオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**AutomaticExceptions**

適用対象

Report オブジェクト

解説

自動的にハイライトにするかどうかを設定します。自動ハイライトは、データ駆動型のハイライト機能で、例外値のハイライト、またはアウトライナーとも呼ばれま

す。レポートに含まれるクロス集計のセル値が変更されると、行、列、およびクロス集計の合計に基づく予測値が計算され、観測値 (セルの数値) と比較されます。差が大きい場合は、セル値が緑 (値が大きい場合) または赤 (値が小さい場合) でハイライトされます。

このプロパティーは、IBM Cognos PowerPlay が Explorer モードになっている場合にのみ有効です。それ以外の場合は、この機能は使用できないという旨のメッセージが表示されます。

行または列が時間ディメンションである場合は、自動ハイライトを使用しないでください。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、作業中のレポートに対して、現在の AutomaticExceptions プロパティーの設定を変更します。たとえば、設定が True の場合は、False に変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   If objPPRep.AutomaticExceptions = True Then
      objPPRep.AutomaticExceptions = False
      Msgbox "Automatic Exceptions highlighting " &
_
         "has been turned off." , , "Automatic Exceptions"
   Else
      objPPRep.AutomaticExceptions = True
      Msgbox "Automatic Exceptions highlighting " &
_
         "has been turned on." , , "Automatic Exceptions"
   End If
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『AutomaticExceptionSensitivity プロパティー』

AutomaticExceptionSensitivity プロパティー

自動ハイライトの優先度を設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**AutomaticExceptionSensitivity**

適用対象

Report オブジェクト

解説

データ駆動型のハイライト機能 (例外値のハイライト、またはアウトライナーとも呼ばれます) の優先度を指定します。レポートに含まれるセル値は、自動ハイライトの有効優先度範囲 (1〜10) にある場合にハイライトされます。OLE オートメーションでのハイライトのスタイルは、デフォルトで赤と緑の 2 種類があります。偏差の平均を超える例外は自動的に緑色のハイライトになり、偏差の平均よりも小さい例外は赤色のハイライトになります。ユーザーが自動ハイライトのデフォルトのスタイルを変更すると、変更後のスタイルが、例外のハイライトに使用されます。

タイプ

整数

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、作業中のレポートの AutomaticExceptionsSensitivity プロパティーを変更するために、ユーザーの入力を要求します。ユーザーが 1〜10 の範囲で値を指定します。レポートに含まれているセル値のうち、優先度の範囲内にあるセル値が、自動ハイライトのデフォルトのスタイルに基づいてハイライトされます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim strValue As String
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   strValue = InputBox("Adjust the Automatic " &
_
      "Exception Sensitivity.  Enter a value between
" & _
      "1 and 10.", "Automatic Exception Sensitivity",
10)
   objPPRep.AutomaticExceptionSensitivity = strValue
   Msgbox "The Automatic Exception Sensitivity " &
_
      "has been reset to " & _
      objPPRep.AutomaticExceptionSensitivity & "."
_
      , , "Automatic Exceptions"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

Average プロパティー

CategoryList オブジェクトにある選択されたカテゴリーの平均値を計算するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

CategoryList.**Average**

適用対象

CategoryList オブジェクト

解説

将来または現在のイベントを効率的に計画するために、このプロパティーを使用して平均を計算できます。True の場合、CategoryList オブジェクトに含まれる選択されたカテゴリーすべての平均値を表示する新規カテゴリーが、レポートに作成されます。たとえば、年の第 1 四半期の平均売上を計算できるほか、全製品の平均利益区分を計算して、各製品が平均を上回っているのか、それとも下回っているのかを判定できます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Go Sport Line"と 1996 年第 2 四半期のカテゴリーを新規レポートに追加し、"Go Sport Line"に含まれる製品の平均を表示します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objCatList as Object
   Const LARGE_NUMBER = 999
   Set objPPRep = CreateObject( "CognosPowerPlay.Report"
)
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   objPPRep.Visible = True
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList
   objCatList.Add LARGE_NUMBER, "Products", "Go Sport
Line"
   objCatList.Each = True
   objCatList.Average = True
   objPPRep.Columns.Add objCatList
   objCatList.Remove
```

```
    objCatList.Add 1, "Years", "1996", "1996 Q 2"
    objCatList.Each = True
    objCatList.Average = False
    objPPRep.Rows.Add objCatList
    Set objCatList = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』

AxisOnAllPages プロパティー

印刷されたレポートまたは PDF の全ページに、軸とラベルを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**AxisOnAllPages**

適用対象

Print オブジェクト

SaveAsPDF オブジェクト

解説

このプロパティーは、PDF の各ページに軸とラベルを保存する場合、またはレポートを印刷する際に、軸、ラベル、凡例をすべてのページに印刷する場合に使用します。

このプロパティーをレポート印刷時に使用するには、PrintAllCharts プロパティーが False に設定されている必要があります。

レポートを PDF ファイルとして保存するときにこのプロパティーを使用するには、SaveAllCharts プロパティーが False に設定され、SaveEntireReport が True に設定されている必要があります。

レポートを印刷するとき、またはレポートを PDF として保存するときに、このプロパティーが True に設定されていると、軸およびラベルがレポートのページすべてに表示されます。False の場合は、軸とラベルが一度だけ表示されます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。次の例は、全ページにタイトル、合計カテゴリー、および軸を印刷します。また、部単位で印刷するオプションをオンにして、凡例を含めます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies = 1
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 397 ページの『PrintAllCharts プロパティー』
- 411 ページの『SaveAllCharts プロパティー』
- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』

BlankWhenDividedByZero プロパティー

ゼロで除算された数値を、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Dimension.**BlankWhenDividedByZero**

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

ゼロによる除算の結果をゼロ (0) ではなく空白として Dimension オブジェクト内に表示するには、BlankWhenDividedByZero プロパティーを True に設定します。空白は、ネストされたクロス集計でのみ有効です。他のグラフ・タイプでは意味を持ちません。

このプロパティーは、数値データにのみ使用できます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Measures"を"Product Cost"に変更して、Financial Formatting プロパティーを設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension as object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item("Measures")
   objDimension.ChangeToTop
   objDimension.Change "Product Cost"
   objDimension.BlankWhenZero = True
   objDimension.BlankWhenMissing = False
   objDimension.BlankWhenDividedByZero = False
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『BlankWhenMissing プロパティー』
- 301 ページの『BlankWhenZero プロパティー』

BlankWhenMissing プロパティー

欠落値を、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Dimension.**BlankWhenMissing**

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

Dimension オブジェクトに含まれる欠落値を、NA やゼロではなく空白として表示するには、BlankWhenMissing プロパティーを True に設定します。空白は、ネストされたクロス集計でのみ有効です。他のグラフ・タイプでは意味を持ちません。

このプロパティーは、数値データにのみ使用できます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Measures"を"Product Cost"に変更して、Financial Formatting プロパティーを設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension as object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item("Measures")
   objDimension.ChangeToTop
   objDimension.Change "Product Cost"
   objDimension.BlankWhenZero = True
   objDimension.BlankWhenMissing = False
   objDimension.BlankWhenDividedByZero = False
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 299 ページの『BlankWhenDividedByZero プロパティー』
- 『BlankWhenZero プロパティー』

BlankWhenZero プロパティー

数値のゼロを、ゼロまたは空白のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Dimension.**BlankWhenZero**

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

Dimension オブジェクトに含まれるゼロの値を、ゼロ (0) ではなく空白として表示するには、BlankWhenZero プロパティーを True に設定します。空白は、ネストされたクロス集計でのみ有効です。他のグラフ・タイプでは意味を持ちません。

このプロパティーは、数値データにのみ使用できます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Measures"を"Product Cost"に変更して、Financial Formatting プロパティーを設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension as object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item("Measures")
   objDimension.ChangeToTop
   objDimension.Change "Product Cost"
   objDimension.BlankWhenZero = True
   objDimension.BlankWhenMissing = False
   objDimension.BlankWhenDividedByZero = False
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 299 ページの『BlankWhenDividedByZero プロパティー』
- 300 ページの『BlankWhenMissing プロパティー』

CalculatedCategories プロパティー

算出カテゴリーのオン/オフの切り替え、あるいは PowerCube が算出カテゴリーを含むかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**CalculatedCategories**

適用対象

Report オブジェクト

解説

CalculatedCategories プロパティーは、キューブに算出カテゴリーがある場合は True を返し、ない場合は False を返します。キューブに算出カテゴリーがある場合は、このプロパティーを False に設定して算出カテゴリーをオフに、または True に設定してオンにできます。算出カテゴリーがないときにこのプロパティーを True に設定すると、「キューブには算出カテゴリーがありません」というエラー・メッセージが表示されます。

デフォルト:True (新規レポートの場合)

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (キューブに算出カテゴリーがある場合)

読み取り (キューブに算出カテゴリーがない場合)

例

次の例は、レポートを新規作成して算出カテゴリーをオフにし、カテゴリーをレポートに追加してから、算出カテゴリーを再びオンにします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCategoryList As Object
   Const CubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   If objPPRep.CalculatedCategories = True Then
      objPPRep.CalculatedCategories = False
   End If
   Set objCategoryList = objPPRep.CategoryList()
   objCategoryList.Add 2, "Products", "GO Sport Line"
   objPPRep.Rows.Add objCategoryList
   objCategoryList.Add 1, "Years"
```

```
   objPPRep.Columns.Add objCategoryList
   objPPRep.CalculatedCategories = True
   objPPRep.SaveAs "C:\Calculated Categories.ppx"
   Set objCategoryList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』

Caption プロパティー

Application オブジェクト・ウィンドウのタイトルを返します。

構文

Application.**Caption**

適用対象

Application オブジェクト

解説

このプロパティーを使用して、使用されているアプリケーションのタイトルを調べます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、IBM Cognos PowerPlay の Application オブジェクトのインスタンスを作成し、アプリケーションの名前、場所、バージョン、およびアプリケーション・ウィンドウのタイトルを返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPlayApp as Object
   Set objPPlayApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPlayApp.Visible = 1
   MsgBox "The title of the application is " &objPPlayApp.Caption
   MsgBox "The name of the Application is " &objPPLayApp.Name
   MsgBox "The location of the Application is " _
      &objPPLayApp.Path
   MsgBox "The Application version is " &objPPLayApp.Version
   Set objPPlayApp = Nothing
```

```
End Sub
```

CellText プロパティー

セルに含まれるテキストを返します。

構文

object.**CellText**(Index)

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

算出結果、ランク位置、またはレポートの特定の位置に含まれる値を返すには、このプロパティーを使用します。CellText は、次のプロパティーと組み合わせて使用できます。

- CellValueAlignment
- CellValueFontColor
- CellValueFontName
- CellValueFontSize

これらのプロパティーを使用すると、セルに特殊な書式が適用されているかどうかを確認できます。

このプロパティーは、レポートで非表示に設定されていない行と列に含まれるテキストを返します。

パラメーター	説明
Index	必須。セルの行番号または列番号を指定します。プロパティーを Column オブジェクトに適用する場合は、行番号を使用します。プロパティーを Row オブジェクトに適用する場合は、列番号を使用します。インデックスは 1 から始まり、グラフ内の各セルに対し、左から右へ 1 ずつ増加していきます。 タイプ:Integer

戻り値のタイプ

文字列

例

次の例は、レポートを開いて、指定したセルに含まれるテキストを返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Sample.ppx")
   objPPRep.Visible = True
   MsgBox "The text in the fourth cell of the second
row is " _
      &objPPRep.Rows.Item(2).CellText(4)
   MsgBox "The text in the third cell of the third column
is " _
      &objPPRep.Columns.Item(3).CellText(3)
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 426 ページの『ShowValuesAs プロパティー (Explorer)』

CellValueAlignment プロパティー

レポートに含まれるセル値に適用された位置揃えを返します。

構文

object.**CellValueAlignment**(Index)

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

行または列のセル値に適用されている位置揃えを決定します。レポート作成者は、数値データの書式設定 (通貨タイプ、コンマ、またはパーセント記号を含む) に応じて、セルに異なる位置揃えを使用するように選択できます。

レポートに含まれるセル値のそれぞれに異なる位置揃えが適用されている可能性があるため、列または行のセルを参照するインデックスを指定する必要があります。

このプロパティーは、値にのみ適用されます。値は、数値データまたは計算です。

このプロパティーのインデックス参照が範囲外の場合は、エラーが発生します。

有効な位置揃えの値は次のとおりです。

0 = 左揃え 1 = 中央揃え 2 = 右揃え 3 = デフォルト

デフォルト:3 (セルに位置揃えが設定されていない場合のレポート設定)

パラメーター	説明
Index	必須。セルの行番号または列番号を指定します。プロパティーを Column オブジェクトに適用する場合は、行番号を使用します。プロパティーを Row オブジェクトに適用する場合は、列番号を使用します。 タイプ:Integer

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、第 2 列の第 4 行、および第 3 列の第 3 行に含まれるセル値の位置揃えを返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   MsgBox "The alignment for this cell value is " _
      &objPPRep.Rows.Item(2).CellValueAlignment(4)
   MsgBox "The alignment for this cell value is " _
      &objPPRep.Columns.Item(3).CellValueAlignment(3)
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『CellValueFontColor プロパティー』
- 309 ページの『CellValueFontName プロパティー』
- 311 ページの『CellValueFontSize プロパティー』

CellValueFontColor プロパティー

レポートに含まれるセル値に適用されたフォント色を返します。

構文

object.**CellValueFontColor**(Index)

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

特に複数の色を使用して特定の数値データまたはカテゴリーがハイライトされているクロス集計で、行または列のセル値に使用されるフォントの色を決定します。レポートの作成者は、ハイライトの定義で、それぞれの範囲に異なる色を適用するように選択できます。

レポートに含まれるセル値のそれぞれに異なるフォントの色が適用されている可能性があるため、列または行のセルを参照するインデックスを指定する必要があります。

このプロパティーは、値にのみ適用されます。値は、数値データまたは計算です。

このプロパティーのインデックス参照が範囲外の場合は、エラーが発生します。

有効なフォントの色は次のとおりです。

0 = 黒

128 = 茶

32768 = 緑

32896 = オリーブ

8388608 = 濃紺

8388736 = 紫

8421376 = 緑青

8421504 = 灰色

12632256 = シルバー

255 = 赤

65280 = ライム

65535 = 黄

16711680 = 青

16711935 = ピンク

16776960= 水色

16777215 = 白

デフォルト:0 (黒)

パラメーター	説明
Index	必須。セルの行番号または列番号を指定します。プロパティーを Column オブジェクトに適用する場合は、行番号を使用します。プロパティーを Row オブジェクトに適用する場合は、列番号を使用します。 タイプ:Integer

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、第 2 列の第 4 行、および第 3 列の第 3 行に含まれるセル値のフォントの色を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   MsgBox "The font color for this cell value is " _
      &objPPRep.Rows.Item(2).CellValueFontColor(4)
   MsgBox "The font color for this cell value is " _
      &objPPRep.Columns.Item(3).CellValueFontColor(3)
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 306 ページの『CellValueAlignment プロパティー』
- 『CellValueFontName プロパティー』
- 311 ページの『CellValueFontSize プロパティー』

CellValueFontName プロパティー

レポートに含まれるセル値に適用されたフォント名を返します。

構文

object.**CellValueFontName(Index)**

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

特に複数のフォントを使用して特定の数値データまたはカテゴリーがハイライトにされているクロス集計で、行または列のセル値で使用されているフォント名を決定します。レポートの作成者は、ハイライトの定義で、それぞれの範囲に異なるフォントを適用するように選択できます。

レポートに含まれるセル値のそれぞれに異なるフォントが適用されている可能性があるため、列または行のセルを参照するインデックスを指定する必要があります。

このプロパティーは、値にのみ適用されます。値は、数値データまたは計算です。

このプロパティーのインデックス参照が範囲外の場合は、エラーが発生します。

デフォルト:Arial

パラメーター	説明
Index	必須。セルの行番号または列番号を指定します。プロパティーを Column オブジェクトに適用する場合は、行番号を使用します。プロパティーを Row オブジェクトに適用する場合は、列番号を使用します。 タイプ:Integer

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、第 2 列の第 4 行、および第 3 列の第 3 行に含まれるセル値のフォント名を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   MsgBox "The name of the font for this cell value is
" _
      &objPPRep.Rows.Item(2).CellValueFontName(4)
```

```
   MsgBox "The name of the font for this cell value is
" _
      &objPPRep.Columns.Item(3).CellValueFontName(3)
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 306 ページの『CellValueAlignment プロパティー』
- 307 ページの『CellValueFontColor プロパティー』
- 『CellValueFontSize プロパティー』

CellValueFontSize プロパティー

レポートに含まれるセル値に適用されたフォント・サイズを返します。

構文

object.**CellValueFontSize**(Index)

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

特に複数のサイズを使用して特定の数値データまたはカテゴリーがハイライトにされているクロス集計で、行または列のセル値で使用されているフォント・サイズを決定します。レポートの作成者は、ハイライトの定義で、それぞれの範囲に異なるフォント・サイズを適用するように選択できます。

レポートに含まれるセル値のそれぞれに異なるフォント・サイズが適用されている可能性があるため、列または行のセルを参照するインデックスを指定する必要があります。

このプロパティーは、値にのみ適用されます。値は、数値データまたは計算です。

このプロパティーのインデックス参照が範囲外の場合は、エラーが発生します。

デフォルト:10

パラメーター	説明
Index	必須。セルの行番号または列番号を指定します。プロパティーを Column オブジェクトに適用する場合は、行番号を使用します。プロパティーを Row オブジェクトに適用する場合は、列番号を使用します。 タイプ:Integer

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、第 2 列の第 4 行、および第 3 列の第 3 行に含まれるセル値のフォント・サイズを返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   MsgBox "The size of the font for this cell value is
" _
      &objPPRep.Rows.Item(2).CellValueFontSize(4)
   MsgBox "The name of the font for this cell value is
" _
      &objPPRep.Columns.Item(3).CellValueFontSize(3)
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 306 ページの『CellValueAlignment プロパティー』
- 307 ページの『CellValueFontColor プロパティー』
- 309 ページの『CellValueFontName プロパティー』

ChartTitleOnAllPages プロパティー

印刷されたレポートまたは PDF の全ページに、タイトルを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ChartTitleOnAllPages**

適用対象

Print オブジェクト

SaveAsPDF オブジェクト

解説

このプロパティーは、PDF の各ページにグラフのタイトルを保存する場合、またはレポートを印刷する際に、グラフのタイトルをすべてのページに印刷する場合に使用します。

このプロパティーをレポート印刷時に使用するには、PrintAllCharts プロパティーが False に設定されている必要があります。

レポートを PDF ファイルとして保存するときにこのプロパティーを使用するには、SaveAllCharts プロパティーが False に設定されている必要があります。このプロパティーを設定したときに、SaveEntireReport プロパティーが True に設定されていると、このプロパティーは無視されます。

このプロパティーが True でグラフにタイトルがある場合は、レポートを印刷したとき、またはレポートを PDF として保存したときに、タイトルがレポートに含まれるページすべてに表示されます。False の場合、タイトルは 1 回のみ表示されます。

レポートに含まれるクロス集計が 1 つだけの場合、このメソッドは適用されません。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。次の例は、全ページにタイトル、合計カテゴリー、および軸を印刷します。また、部単位で印刷するオプションをオンにして、凡例を含めます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies = 1
   objRepPrt.PrintOut
```

```
    Set objRepPrt = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 397 ページの『PrintAllCharts プロパティー』
- 411 ページの『SaveAllCharts プロパティー』
- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』

Collate プロパティー

Report オブジェクトを、印刷時に部単位で印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**Collate**

適用対象

Print オブジェクト

解説

True に設定すると、プリンター・ドライバーが部単位の印刷をサポートしていれば、レポートが部単位で印刷されます。False の場合は、レポートがグループごとに印刷されます。グループごとの印刷では、同一ページの必要な部数すべてが一度に印刷され、その後に続くページのすべてが印刷されます

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。全ページにタイトル、合計カテゴリー、および軸を印刷します。また、部単位で印刷するオプションをオンにして、凡例を除外します。

```
Sub Main()
    Dim objPPRep as Object
    Dim objRepPrt as Object
    Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
    objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
    Set objRepPrt = objPPRep.Print
```

```
    objRepPrt.PrintAllCharts = False
    objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
    objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
    objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
    objRepPrt.IncludeLegend = True
    objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
    objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
    objRepPrt.AxisOnAllPages = True
    objRepPrt.Collate = True
    objRepPrt.Copies = 1
    objRepPrt.PrintOut
    Set objRepPrt = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 217 ページの『Print メソッド』
- 36 ページの『Print オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Copies プロパティー

印刷する部数を設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**Copies**

適用対象

Print オブジェクト

解説

レポートの印刷部数を設定します。指定しない場合のデフォルト値は 1 部です。0 を指定すると、エラーが返されます。このプロパティーは、Threshold プロパティーとは関連がありません。

デフォルト: 1

タイプ

整数

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。次の例は、全ページにタイトル、合計カテゴリー、および軸を印刷します。また、部単位で印刷するオプションをオンにして、凡例を含めます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies = 1
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 36 ページの『Print オブジェクト』

Count プロパティー

戻り値

- Dimension オブジェクトに含まれる現在のカテゴリーより 1 つ下のレベルにあるカテゴリー数
- オブジェクト・リストを管理するコレクションまたはオブジェクトに含まれるオブジェクト数

構文

object.**Count**

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

CategoryList オブジェクト

Children

Columns

Dimension オブジェクト

DimensionLine オブジェクト

Exceptions

FindQuery オブジェクト

Graphs

Layers

ParentageQuery オブジェクト

Ranges

Reports

ReportQueries

Rows

解説

For...Next ループの実行回数を指定します。これにより、マクロの柔軟性を高めることができます。

Count プロパティーは、Average カテゴリーには適用されません。

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、"Years"カテゴリーより 1 つ下のレベルにあるカテゴリー数を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPDim as Object
   Set objPPRep = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
```

```
   Set objPPDim = objPPRep.DimensionLine.Item("Years")
   MsgBox "Number of categories one level below: " _
      &objPPDim.Count
   Set objPPDim = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

CubeName プロパティー

アクティブ・レポートに含まれるキューブのファイル名を返します。

構文

Report.**CubeName**

適用対象

Report オブジェクト

解説

名前と完全修飾されたパスによってキューブが識別されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、作業中のレポートのキューブ名を返します。名前には、パスとキューブのファイル名が含まれます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Msgbox "The " & objPPRep.Name & " report is
based " & _
         "on the following cube." & chr$(10) &
_
         chr$(10) & objPPRep.CubeName, , "PowerPlay
Cube"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

DataGridlines プロパティー

クロス集計でのグリッド線をオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**DataGridlines**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

クロス集計に含まれるデータに関連付けられているグリッド線を制御します。グリッド線を表示するには、このプロパティー True に、非表示にするには False に設定します。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートに含まれている Graph オブジェクトをクロス集計に設定し、データとラベルに使用するグリッド線のプロパティーを False に設定します。また、レイアウトを Financial with Totals に指定し、合計を次のレベルにインデントします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 0
      .Layout = 2
      .IndentTotalsLevel = 1
```

```
      .DataGridlines = False
      .LabelGridlines = False
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
   End With
End Sub
```

関連トピック

- 360 ページの『LabelGridlines プロパティー』

DefaultAlternateDirectory プロパティー

読み取り専用レポートに対する更新を保存するディレクトリーを設定するか、設定状態を返します。

構文

Application.**DefaultAlternateDirectory**

適用対象

Application オブジェクト

解説

SaveAs メソッドを使用してレポートを保存すると、レポートはオリジナルが保存されているディレクトリーに保存されます。ただし、読み取り専用のレポートは上書きできません。これらのレポートは、指定された DefaultAlternateDirectory に保存されます。この指定がない場合は、一時フォルダーに保存されます。

DefaultAlternateDirectory の設定を決定するには、このプロパティーを使用します。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、「設定」ダイアログ・ボックスの「ディレクトリー」タブに、"Alternate path for read-only reports"ディレクトリーのエントリーを設定します。マクロが実行される前に、フォルダーが作成されている必要があります。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim strPath as string
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
```

```
   strPath = objPPRep.Application.Path & "\Secure
Reports"
   objPPRep.Application.DefaultAlternateDirectory = strPath
   MsgBox "The Alternate path for read-only reports "
& _
      "has been changed to " & chr$(10) & chr$(10)
& _
      objPPRep.Application.DefaultAlternateDirectory
& _
      ".", 64, "New Path"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

DefaultCubeDirectory プロパティー

多次元キューブ・ファイル (.mdc) のデフォルト・パスを設定するか、設定状態を返します。

構文

Application.**DefaultCubeDirectory**

適用対象

Application オブジェクト

解説

ディレクトリーが設定されると、全マクロでこのディレクトリーにある MDC ファイルが検索されます。ディレクトリーはユーザー・インターフェースで変更することができ、この変更は Application オブジェクトに反映されます。また、Application オブジェクトを使用してディレクトリーを変更すると、ユーザー・インターフェースに反映されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、IBM Cognos PowerPlay アプリケーションが見つかるディレクトリーのサブディレクトリーを、デフォルトのキューブ・ディレクトリーとして設定します。このマクロの実行前にキューブ・サブディレクトリー MyCubeDirectory が存在している必要があります。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim strCubeDirectory as String
```

```
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   strCubeDirectory = objPPRep.Application.Path &
"\MyCubeDirectory"
   objPPRep.Application.DefaultCubeDirectory = strCubeDirectory
   MsgBox "The default cube directory is " _
       &objPPRep.Application.DefaultCubeDirectory
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

DefaultMacroDirectory プロパティー

マクロ・ファイルのデフォルト・パスを設定するか、設定状態を返します。

構文

Application.**DefaultMacroDirectory**

適用対象

Application オブジェクト

解説

ディレクトリーが設定されると、全マクロでこのディレクトリーにあるマクロ・ファイルが検索されます。ユーザー・インターフェースで行ったディレクトリーの変更は、Application オブジェクトに反映されます。また、Application オブジェクトを使用してディレクトリーを変更すると、ユーザー・インターフェースに反映されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay アプリケーション・ディレクトリーのサブディレクトリーを、デフォルトのマクロ・ディレクトリーとして設定します。マクロは、パスがファイル名で指定されない限り、指定されたディレクトリーからロードされます。このマクロを実行する前に、"MyMacroDirectory"マクロ・サブディレクトリーが作成されている必要があります。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
```

```
   Dim strMacroDirectory as String
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   strMacroDirectory = objPPRep.Application.Path &
"\MyMacroDirectory"
   objPPRep.Application.DefaultMacroDirectory = strMacroDirectory
   MsgBox "The default macro directory is " _
       &objPPRep.Application.DefaultMacroDirectory
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

DefaultReportDirectory プロパティー

IBM Cognos PowerPlay レポート・ファイルのデフォルト・パスを設定するか、設定状態を返します。

構文

Application.**DefaultReportDirectory**

適用対象

Application オブジェクト

解説

ディレクトリーが設定されると、全マクロでこのディレクトリーにある PowerPlay レポート・ファイルが検索されます。ユーザー・インターフェースで行ったディレクトリーの変更は、Application オブジェクトに反映されます。また、Application オブジェクトを使用してディレクトリーを変更すると、ユーザー・インターフェースに反映されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、デフォルトのレポート・ディレクトリーを、PowerPlay アプリケーション・ディレクトリーのサブディレクトリーに指定します。このマクロを実行する前に、"MyReportDirectory"レポート・サブディレクトリーを作成しておく必要があります。

```
Sub Main()
```

```
   Dim objPPRep As Object
   Dim strReportDirectory as String
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   strReportDirectory = objPPRep.Application.Path &
"\MyReportDirectory"
   objPPRep.Application.DefaultReportDirectory = strReportDirectory
   MsgBox "The default report directory is " _
       &objPPRep.Application.DefaultReportDirectory
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Dimension プロパティー

カテゴリーの取得元ディメンションを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**Dimension**

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

FindQuery オブジェクト

ValueRestriction オブジェクト

解説

AdvancedQuery および FindQuery クエリーのサブセットに対して、ディメンション・ラインの名前を設定します。特定のディメンションを検索するには、最初に最上位レベルにあるディメンション・ラインの設定を取得します。無効なディメンション・ラインの値がサブセット定義にあると、例外エラーが返されます。

AdvancedQuery または FindQuery では、関連するすべてのプロパティーを設定した後、Execute メソッドを使用してクエリーのサブセット定義を実行します。

Dimension プロパティーは、AdvancedQuery および FindQuery サブセットの各定義で最初に表示されなければなりません。

ValueRestriction では、コンポーネントの順序が重要です。Dimension プロパティーは、Measure、Operator、Operand1、Operand2、および Count の各プロパティーと DimensionFilter メソッドの前に設定する必要があります。Name プロパティーは、フィルター定義の任意の場所で設定できます。

デフォルト:Entire Cube (FindQuery)

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
   End With
   Set objFind = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 8 ページの『AdvancedQuery オブジェクト』
- 25 ページの『FindQuery オブジェクト』

DimensionLineIndex プロパティー

Layer、Row、および Column オブジェクトのリストを管理するディメンション・ライン・アイテムの位置を返します。

構文

collection.**DimensionLineIndex**

適用対象

Layers

Columns

Rows

解説

ディメンション・ラインに含まれるディメンションに割り当てられた位置番号 (インデックス値) を調べます。

このプロパティーは、Report オブジェクトが Explorer モード (ExplorerMode プロパティーが True) の場合のみ有効です。

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、作業中のレポートに含まれる行、列、およびレイヤーのディメンション・ライン・インデックスを返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.ExplorerMode = True
   Msgbox "The Dimension line index for columns is "
& _
      objPPRep.Columns.DimensionLineIndex & "."
   Msgbox "The Dimension line index for rows is " &
_
      objPPRep.Rows.DimensionLineIndex & "."
   Msgbox "The Dimension line index for layers is " &
_
      objPPRep.Layers.DimensionLineIndex & "."
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 147 ページの『DimensionFilter メソッド』
- 149 ページの『DimensionLine メソッド』
- 22 ページの『DimensionLine オブジェクト』
- 51 ページの『ValueRestriction オブジェクト』

DimensionSettings プロパティー

ValueRestriction に対するディメンション・ラインの設定すべてを、コンマ区切り文字列として返します。

構文

ValueRestriction.**DimensionSettings**

適用対象

ValueRestriction オブジェクト

解説

各ディメンションには、ディメンション・ラインに固有のフォルダーがあります。たとえば、"Great Outdoors"キューブに含まれるディメンションには、"Years"、"Products"、"Locations"、"Channels"、および"Margin Ranges"があります。このプロパティーを使用して、ValueRestriction のディメンション・ラインに関する現在の設定を調べます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、"Locations" ディメンションから国または地域を選択する詳細サブセットを作成します。値制限 (タイプ 4) は、"Sports Chain" の "Revenue" 値が 25,000～100,000 の範囲にある国または地域のみが返されるように結果を制限します。 "Great Outdoors"キューブのディメンションの設定結果は、"Years"、"Products"、"Locations"、"Sports Chain"、および"Margin Ranges"です。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objValue As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objValue = objPPRep.ReportQueries.Add(4)
   With objValue
      .Name = "25000-100000"
      .Dimension = "Locations"
```

```
      .Measure = "Revenue"
      .Operator = "between"
      .Operand1 = 25000
      .Operand2 = 100000
      .DimensionFilter 4, "Sports Chain"
   End With
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Locations"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country or Region"
      .ValueRestriction objValue.Name
      .Execute
      .AddToReport 0,1,3
   End With
   Msgbox "The Dimension Line Settings for this " &
_
         "report are:" & chr$(10) & chr$(10)
& _
         objValue.DimensionSettings, , "Dimension Line"
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objValue = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

DrivingCategory プロパティー

Exception オブジェクトのドライブ・カテゴリーを返します。

構文

Exception.**DrivingCategory**

適用対象

Exception オブジェクト

解説

Exception オブジェクトに含まれるカテゴリーと、値を比較するカテゴリーを調べます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、レポートを開いて、最初の Exception オブジェクトについてドライブ・カテゴリーおよびディメンションを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Exception.ppx"
   MsgBox "Driving Category:" _
      & objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingCategory
   MsgBox "Driving Dimension:" _
      & objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingDimension
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 27 ページの『Graph オブジェクト』

DrivingDimension プロパティー

Exception オブジェクトのドライブ・ディメンションを返します。

構文

Exception.**DrivingDimension**

適用対象

Exception オブジェクト

解説

Exception オブジェクトに含まれるディメンションと、値を比較するディメンションを調べます。

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、レポートを開いて、最初の Exception オブジェクトについてドライブ・カテゴリーおよびディメンションを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Exception.ppx"
   MsgBox "Driving Category:" _
      & objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingCategory
   MsgBox "Driving Dimension:" _
      & objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingDimension
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 23 ページの『Exception オブジェクト』

Each プロパティー

選択されたカテゴリーと新規カテゴリーのすべて、または新規カテゴリーのみを Report オブジェクトに表示するように設定するか、設定状態を返します。

構文

CategoryList.**Each**

適用対象

CategoryList オブジェクト

解説

Each プロパティーを使用するには、Sum、Intersection、または Average プロパティーのいずれかが True に設定されている必要があります。Each プロパティーが True に設定されている場合は、True に設定されている Sum、Intersection、または Average によって選択されたカテゴリーと新規カテゴリーのすべてがレポートに表示されます。False の場合は、Sum、Intersection、または Average カテゴリーのみがレポートに表示されます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Great Outdoors.mdc"から新規レポートを作成し、カテゴリー・リストにカテゴリーを合計として追加します。ただし、Each プロパティーは False に設定されているため、"Sum"カテゴリーのみが表示されます。次に、カテゴリーがレポートに追加されます。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objCatList as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList
   objCatList.Add 1, "Products", _
      "Environmental Line", "Alert Devices"
   objCatList.Each = False
   objCatList.Sum = True
   objPPRep.Columns.Add objCatList
   objCatList.Remove
   objCatList.Add 1, "Years"
   objCatList.Each = True
   objCatList.Sum = False
   objPPRep.Rows.Add objCatList
   Set objCatList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』

EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー

ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計列に、ユーザー定義のラベルを使用するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**EnableUserColumnSummaryLabel**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

合計列のラベルとして、上位レベルにある列カテゴリー、またはユーザー定義名のどちらを使用するかを指定します。True の場合は、UserColumnSummaryLabel プロパティーを使用して、列に適用するラベル名を定義できます。

ShowSummaryColumn プロパティーが True の場合のみ、クロス集計レポートに列ラベルが表示されます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、行と列に対してユーザー定義の合計ラベルを使用するように、Graph オブジェクトをリセットします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objPPGraph.EnableUserColumnSummaryLabel = True
   objPPGraph.UserColumnSummaryLabel = "Summary Total"
   objPPGraph.EnableUserRowSummaryLabel = True
   objPPGraph.UserRowSummaryLabel = "Summary Total"
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 333 ページの『EnableUserRowSummaryLabel プロパティー』

EnableUserRowSummaryLabel プロパティー

ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計行に、ユーザー定義のラベルを使用するかどうか設定するか、設定状態を返します

構文

object.**EnableUserRowSummaryLabel**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

合計行のラベルとして、上位レベルにある行カテゴリー、またはユーザー定義名のどちらを使用するかを指定します。True の場合は、UserRowSummaryLabel プロパティーを使用して、行に適用するラベル名を定義できます。

ShowSummaryRow プロパティーが True の場合のみ、クロス集計レポートに行ラベルが表示されます。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、行と列に対してユーザー定義の合計ラベルを使用するように、Graph オブジェクトをリセットします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objPPGraph.EnableUserColumnSummaryLabel = True
   objPPGraph.UserColumnSummaryLabel = "Summary Total"
   objPPGraph.EnableUserRowSummaryLabel = True
   objPPGraph.UserRowSummaryLabel = "Summary Total"
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
```

```
End Sub
```

関連トピック

- 331 ページの『EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー』

Exception プロパティー

1 つ以上のカテゴリーにハイライトを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**Exception**

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Layers

Row オブジェクト

Rows

解説

オブジェクトに使用するハイライトを指定するには、ハイライトの名前が必要です。

ハイライトを削除するには、ハイライトのスタイルを再定義します。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み (Column、Layer、Row)

書き込み (Columns、Layers、Rows)

例

次の例は、第 3 行に"Default"のハイライトを適用し、レポートを印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Exception.ppx"
   objPPRep.Rows.Item(3).Exception = "Default"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
```

```
    objRepPrt.PrintAllCharts = False
    objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
    objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
    objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(1)
    objRepPrt.IncludeLegend = False
    objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
    objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
    objRepPrt.AxisOnAllPages = True
    objRepPrt.Collate = True
    objRepPrt.PrintOut
    Set objRepPrt = Nothing
    Set objPPrep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

ExplorerMode プロパティー

Report オブジェクトを Explorer レポートまたは Reporter レポートに設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**ExplorerMode**

適用対象

Report オブジェクト

解説

True の場合、レポートは Explorer レポートです。Explorer レポートでは、一部のメソッドやプロパティーが使用できません。False の場合、レポートは Reporter レポートです。すべてのメソッドやプロパティーを使用できます。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、新規レポートを作成し、レポートを Reporter モードに設定して、カテゴリーを合計としてカテゴリー・リストに追加します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objCatList as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList
   objCatList.Add 1, "Products", _
      "Environmental Line", "Alert Devices"
   objCatList.Each = False
   objCatList.Sum = True
   objPPRep.Columns.Add objCatList
   objCatList.Remove
   objCatList.Add 1, "Years"
   objCatList.Each = True
   objCatList.Sum = False
   objPPRep.Rows.Add objCatList
   Set objCatList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 45 ページの『Row オブジェクト』

FitToPage プロパティー

レポートを 1 ページに収まるように拡大/縮小するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**FitToPage**

適用対象

Print オブジェクト

解説

複数ページのレポートが 1 ページに収まるように縮小します。このプロパティーを True に設定すると、画面ではスクロールの必要なグラフが 1 ページに印刷されます。False に設定すると、レポートが必要なページ数で印刷されます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、FitToPage プロパティーを True に設定して、作業中のレポートの最初にあるグラフを印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objRepPrt = objPPRep.Print()
   With objRepPrt
      .PrintAllCharts = False
      .SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
      .SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
      .SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(1)
      .IncludeLegend = False
      .ChartTitleOnAllPages = True
      .SummariesOnAllPages = True
      .AxisOnAllPages = True
      .Collate = True
      .Copies = 1
      .FitToPage = True
      .PrintOut
   End With
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 245 ページの『SetChartToPrint メソッド』
- 251 ページの『SetListOfLayersToPrint メソッド』
- 254 ページの『SetListOfRowsToPrint メソッド』

FooterText プロパティー

レポートのフッターに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.FooterText(Format)

適用対象

Report オブジェクト

解説

レポートのフッターに含まれる完全なテキストを設定するか、設定状態を返します。フッターに追加できる行数には制限がないため、フッターに含まれている情報の一部がレポートに表示または印刷されない場合があります。オートメーションを使用すると、レポートの作成者がフッターに含め、ユーザーに対しては非表示にした情報を確認することができます。レポートのフッターは、テキスト形式または HTML 形式で設定するか、設定状態を返すことができます。

フッターをテキスト形式に設定すると、フッターは左揃えになり、デフォルトのフォント・サイズ、色、およびタイプが使用されます。フッターに複数行を指定するには、改行文字の ASCII 値である chr$ (10) をフッターの行間に使用します。

レポートのフッターに HTML を使用するように設定すると、複雑な書式設定を指定できます。フォントのサイズ、色、およびタイプを指定し、フッター・テキストの位置揃えを指定できます。たとえば、次のコードを使用すると、フッター・テキストが右揃えになり、フォントのサイズおよび色が指定されます。

```
strFooter = strFooter + "<P ALIGN=""Right""><FONT
SIZE=6 COLOR=""#0000FF"">"
```

HTML タグを文字列に割り当てるときは、引用符のセットを 2 つ使用し、HTML タグに含まれる文字を、文字列の終了を示す引用符と区別します。たとえば、<P ALIGN="Right"> を文字列に割り当てるには、次の構文を使用します。

```
objPPRep.FooterText(2) = "<P ALIGN=""Right"">"
```

外部エディターを使用して HTML を指定する場合は、レポート・フッターに目的の書式を設定するために、HTML を変更しなければならない場合があります。

レポート・フッターには、IBM Cognos PowerPlay の変数、または指定された値に拡張された変数を含めることができます。変数を指定するには、次の構文を使用します。

```
[PPVAR]Variable[PPVAR]
```

たとえば、次のようになります。

```
objPPRep.FooterText(1) = "[PPVAR]Page #[PPVAR]"
```

変数または拡張された変数の値を返すことができます。指定された値に拡張された変数を返すには、テキストの場合はパラメーター値 11 を使用し、HTML の場合は 12 を使用します。

たとえば、次のようになります。

```
objPPRep.FooterText(1) = "Report Printed [PPVAR]Date(ddd,
dd MMM, yyy)[PPVAR]"
```

```
MsgBox objPPRep.FooterText(1)
```

戻り値

Report Printed [PPVAR]Date(ddd, dd MMM, yyy)[PPVAR]

```
MsgBox objPPRep.FooterText(11)
```

戻り値

Report Printed Thursday, 13 January, 2000

パラメーター	説明
Format	オプション。レポートのフッターに含まれるテキストの書式を指定します。指定しない場合は、テキストと変数が返されます。 有効な設定値と戻り値: 1 = テキスト 2 = HTML 有効な戻り値: 11 = 拡張された変数のテキスト 12 = 拡張された変数の HTML デフォルト: 1 タイプ:Integer

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、開かれているレポートのフッターに 2 行のテキストを指定し、フッター・テキストを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objRep As Object
   Dim strFooterTextLine1 as String
   Dim strFooterTextLine2 as String
   Dim strNewLine as String
   Set objRep = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   strFooterTextLine1 = "Annual Report"
   strFooterTextLine2 = "[PPVAR]Date(dddd, MMMM dd, yyyy)[PPVAR]"
   strNewLine = chr$(10)
```

```
   objRep.FooterText(1) = strFooterTextLine1 + chr$(10)
_
       +  strFooterTextLine2
   MsgBox "The report footer text is:  " _
      &objRep.FooterText(11)
   objRep.Save
   Set objRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 342 ページの『HeaderText プロパティー』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 73 ページの『Reports』
- 445 ページの『TitleText プロパティー』

FullName プロパティー

Application オブジェクトまたは Report オブジェクトの場所を含む完全な名前を返します。

構文

object.**FullName**

適用対象

Application オブジェクト

Report オブジェクト

解説

Application オブジェクトの FullName プロパティーは変更できませんが、Report オブジェクトの FullName プロパティーは変更できます。レポートの FullName プロパティーを変更するには、SaveAs メソッドを使用します。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay のインスタンスを作成し、Application オブジェクトの名前および場所を表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPlayApp as Object
```

```
   Set objPPlayApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPlayApp.Visible = 1
   MsgBox "The name and location of the application is
" _
      &objPPLayApp.FullName
   MsgBox "The application version is " &objPPLayApp.Version
   Set objPPlayApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

GetDataAutomatically プロパティー

データが変更されるたびに、Report オブジェクトがデータを自動的に取得するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**GetDataAutomatically**

適用対象

Report オブジェクト

解説

True の場合は、ランク付けや計算などのレポートを変更するアクションに伴って、データが更新されます。False の場合は、計算、ランク付け、その他のレポートの変更アクションによって列数と行数が更新されますが、データは更新されません。大量のデータを使用する場合は、このプロパティーを False に設定します。変更が終了した後に、GetDataNow メソッドを使用してデータを取得できます。この場合、Application オブジェクトは、新しい情報についてキューブを定期的にポーリングしません。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、GetDataAutomatically プロパティーが False に設定されている場合に、レポートを開いて GetDataNow メソッドを使用し、レポートに含まれるデータを更新します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   If objPPRep.GetDataAutomatically = 0 then
      objPPRep.GetDataNow
   End if
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 40 ページの『Report オブジェクト』

HeaderText プロパティー

レポートのヘッダーに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**HeaderText**(Format)

適用対象

Report オブジェクト

解説

レポートのヘッダーに含まれる完全なテキストを設定するか、設定状態を返します。ヘッダーに追加できる行数には制限がないため、ヘッダーに含まれている情報の一部がレポートに表示または印刷されない場合があります。オートメーションを使用すると、レポートの作成者がヘッダーに含め、ユーザーに対しては非表示にした情報を確認することができます。レポートのヘッダーは、テキスト形式または HTML 形式で設定するか、設定状態を返すことができます。

ヘッダーをテキスト形式に設定すると、ヘッダーは左揃えになり、フォントのサイズ、色、およびタイプとしてデフォルトが使用されます。ヘッダーに複数行を指定するには、改行文字の ASCII 値である chr$ (10) をヘッダーの行間に使用します。

レポートのヘッダーに HTML を使用するように設定すると、複雑な書式設定を指定できます。フォントのサイズ、色、およびタイプを指定し、ヘッダー・テキストの位置揃えを指定できます。たとえば、次のコードを使用すると、ヘッダー・テキストが右揃えになり、フォントのサイズおよび色が指定されます。

```
strFooter = strFooter + "<P ALIGN=""Right""><FONT
SIZE=6 COLOR=""#0000FF"">"
```

HTML タグを文字列に割り当てるときは、引用符のセットを 2 つ使用し、HTML タグに含まれる文字を、文字列の終了を示す引用符と区別します。たとえば、<P ALIGN="Right"> を文字列に割り当てるには、次の構文を使用します。

```
objPPRep.HeaderText(2) = "<P ALIGN=""Right"">"
```

外部エディターを使用して HTML を指定する場合は、レポート・ヘッダーに目的の書式を設定するために、HTML を変更しなければならない場合があります。

レポート・ヘッダーには、IBM Cognos PowerPlay の変数、または指定された値に拡張された変数を含めることができます。変数を指定するには、次の構文を使用します。

```
[PPVAR]Variable[PPVAR]
```

たとえば、次のようになります。

```
objPPRep.HeaderText(1) = "[PPVAR]Page #[PPVAR]"
```

変数または拡張された変数の値を返すことができます。指定された値に拡張された変数を返すには、テキストの場合はパラメーター値 11 を使用し、HTML の場合は 12 を使用します。

たとえば、次のようになります。

```
objPPRep.HeaderText(1) = "Report Printed [PPVAR]Date(ddd,
dd MMM, yyy)[PPVAR]"

MsgBox objPPRep.HeaderText(1)
```

戻り値

Report Printed [PPVAR]Date(ddd, dd MMM, yyy)[PPVAR]

```
MsgBox objPPRep.HeaderText(11)
```

戻り値

Report Printed Thursday, 13 January, 2000

パラメーター	説明
Format	オプション。レポートのヘッダーに含まれるテキストの書式を指定します。指定しない場合は、テキストと変数が返されます。 有効な設定値と戻り値: 1 = テキスト 2 = HTML 有効な戻り値: 11 = 拡張された変数のテキスト 12 = 拡張された変数の HTML デフォルト: 1 タイプ:Integer

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、開かれているレポートのヘッダー・テキストを指定し、現在の日付を表示します。

```
Sub Main()
   Dim objRep As Object
   Dim strHeaderTextLine1 as String
   Dim strNewLine as String
   Set objRep = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   strHeaderTextLine1 = "[PPVAR]Date(dddd, MMMM dd, yyyy)[PPVAR]"
   objRep.HeaderText(1) = strHeaderTextLine1
   MsgBox "The report header text is:  " _
      &objRep.HeaderText(11)
   objRep.Save
   Set objRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 337 ページの『FooterText プロパティー』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 73 ページの『Reports』
- 445 ページの『TitleText プロパティー』

HideRankCategory プロパティー

ランク・カテゴリーを非表示にするかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**HideRankCategory**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

ランク・カテゴリーは、カテゴリーの序数値を識別する行または列です。True の場合は、ランク・カテゴリーが非表示になります。False の場合は、ランク・カテゴリーが表示されます。このプロパティーは、クロス集計表示では使用できません。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、レポート "c:¥cognos¥sample.ppx" に棒グラフが使用されている場合に、ランク・カテゴリーを非表示にします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPGraph As Object
   Set objPPRep = GetObject ("C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx")
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.Activate
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs (1)
   objPPGraph.SetType 3, 1, 1
   objPPGraph.HideRankCategory = True
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 63 ページの『Graphs』

IncludeLegend プロパティー

凡例を、印刷したレポートまたは PDF に表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**IncludeLegend**

適用対象

Print オブジェクト

SaveAsPDF オブジェクト

解説

レポートに含まれるカテゴリーの説明的なリストを表示するかどうかを決定します。カテゴリー名と、関連するデータを表す色が示されます。凡例は、クロス集計、棒グラフ、単線グラフ、および 3D 棒グラフには表示されません。

True の場合は、グラフに関連付けられている凡例が、レポートの他のページに表示されます。False の場合、印刷するレポートまたは PDF に凡例を含めません。

凡例を色付きまたはパターン付きのどちらで印刷するかを決定するには、ColorsAsPatterns プロパティーを使用します。

このプロパティーをレポートの印刷時に使用するには、PrintAllCharts プロパティーが False に設定されている必要があります。

レポートを PDF として保存するときにこのプロパティーを使用するには、SaveAllCharts プロパティーが False に設定され、SaveEntireReport が True に設定されている必要があります。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるデータすべてを、1 部印刷します。印刷するレポートには、凡例を含めます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Copies = 1
   objRepPrt.PrintOut
```

```
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』

IndentTotalsLevel プロパティー

ネストされたクロス集計に含まれる集計セルの現在のインデント・レベルを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**IndentTotalsLevel**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

ネストされたクロス集計に含まれる行と列には、集計された合計を表示できます。IndentTotalsLevel は、合計カテゴリーのインデント方法を制御します。IndentTotalsLevel は、Layout プロパティーが 2 (インデント・レイアウト 2) に設定されているときに Explorer モードで有効になります。使用できるオプションは、現在のレベル、前のレベル (存在する場合)、および右揃えです。

デフォルト: 現在のレベル

タイプ

整数

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートに含まれている Graph オブジェクトをクロス集計に設定し、データとラベルに使用するグリッド線のプロパティーを False に設定します。また、レイアウトを Financial with Totals に指定し、合計を次のレベルにインデントします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
```

```
    Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
    With objPPGraph
        .SetType 0
        .Layout = 2
        .IndentTotalsLevel = 1
        .DataGridlines = False
        .LabelGridlines = False
    End With
    Set objPPGraph = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 361 ページの『Layout プロパティー』

Index プロパティー

コレクションに含まれるオブジェクトの位置を返します。

構文

object.**Index**

適用対象

Column オブジェクト

Dimension オブジェクト

Graph オブジェクト

Layer オブジェクト

Range オブジェクト

Row オブジェクト

Report オブジェクト

解説

コレクションに含まれるオブジェクトの数値による位置を調べます。

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、1996 年の結果に基づいてレポートの列にランクを付け、"Go Sport Line"列の位置を表示して、他の製品に対するランクを調べます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPRank as Object
   Set objPPRep = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Rows.Item("1996").Rank , , 0, 1
   Set objPPRank = objPPRep.Columns.Item("Go Sport Line")
   MsgBox "The rank of Go Sport Line is " & objPPRank.Index
   Set objPPRank = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 20 ページの『Dimension オブジェクト』
- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 39 ページの『Range オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Intersect プロパティー

異なる Dimension オブジェクトから、選択されたカテゴリーのインターセクト値を決定するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

CategoryList.**Intersect**

適用対象

CategoryList オブジェクト

解説

True の場合は、CategoryList オブジェクトに含まれる異なるディメンションから選択されたカテゴリーのインターセクト値を表示する新規カテゴリーが作成されます。

このプロパティーは、Reporter レポートでのみ使用できます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、列として"Years"を選択し、アウトドア用品の北米における独立市場のインターセクトを行として表示します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objCatList as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",False
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList
   objCatList.Add 1, "Years"
   objPPRep.Columns.Add objCatList
   objCatList.Remove
   objCatList.Add 0, "Products", "Outdoor Products"
   objCatList.Add 0, "Channels",  "Independent"
   objCatList.Add 0, "Locations", "Americas"
   objCatList.Each = False
   objCatList.Intersect = True
   objPPRep.Rows.Add objCatList
   Set objCatList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』
- 20 ページの『Dimension オブジェクト』

IsAlternate プロパティー

ドリルダウン・パスが主要または代替のどちらであるかを返します。

構文

object.**IsAlternate**

適用対象

Column オブジェクト

Dimension オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

カテゴリーのパス・タイプを識別します。True (-1) の場合は、カテゴリーは代替ドリルダウン・パスにあります。False (0) の場合は、カテゴリーは主ドリルダウン・パスにあります。

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り

例

次の例は、IsAlternate プロパティーを使用して、ドリルダウン・パスのタイプ (主要または代替) を調べます。

```
Sub Main
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension As Object
   Dim strDrill As String
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item(4)
   objDimension.Change "By Region"
   If objDimension.IsAlternate = True Then
      strDrill = "alternate"
   Else
      strDrill = "primary"
   End If
   MsgBox "The " & objDimension.Name & " dimension
" & _
         "is from the " & strDrill & " drill
path."
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 33 ページの『Level オブジェクト』
- 69 ページの『Levels』
- 187 ページの『Levels メソッド』

IsCalculatedCategory プロパティー

カテゴリーが算出カテゴリーであるかどうかを返します。

構文

object.**IsCalculatedCategory**

適用対象

Column オブジェクト

Dimension オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

算出カテゴリーを含むレベルを識別します。True (-1) の場合は、カテゴリーは算出カテゴリーです。False (0) の場合は、カテゴリーが算出カテゴリーではありません。

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り

例

次の例は、IsCalculatedCategory プロパティーを使用して、算出カテゴリーが存在することを調べます。

```
Sub Main
   Dim objPPRep As Object
   Dim objLayer As Object
   Dim objLevel As Object
   Dim strLevel As String
   Dim strDrill As String
   Dim strCategory As String
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objLayer = objPPRep.Layers.Item(1)
   Set objLevel = objLayer.Level
   strLevel = objLevel.Name
   If objLayer.IsAlternate = True Then
      strDrill = "alternate"
   Else
```

```
      strDrill = "primary"
   End If
   If objLayer.IsCalculatedCategory = True Then
      strCategory = ""
   Else
      strCategory = "not"
   End If
   MsgBox "The " & objLayer.Name & " category
is a " & _
      strDrill & " drill-down and is " & strCategory
& _
      " a calculated category." & chr$(10) &
chr$(10) & _
      "It is a member of the " & strLevel & "
level."
   Set objLayer = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 33 ページの『Level オブジェクト』
- 69 ページの『Levels』
- 187 ページの『Levels メソッド』

KeepSummaryVisible プロパティー

スクロールするページすべてについて、合計カテゴリーを表示したままにするかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**KeepSummaryVisible**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

合計カテゴリーをデータの各ページに表示するか、またはデータの最終ページにのみ表示するかを指定します。合計カテゴリーが非表示、または存在しない場合は、このプロパティーは無効です。

このプロパティーは、クロス集計、3D 棒グラフ、散布グラフ、および円グラフでは使用できません。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートのスクロール・バー設定を変更します。スクロール機能を True に、グラフ棒の最大表示数を 6 に、グラフ棒の最大印刷数を 10 に設定し、合計カテゴリーをレポートの最後まで非表示にします。

```
Sub Main()
  Dim PPRep As Object
  Set PPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
  PPRep.Graphs.Item(1).UseScrolling = TRUE
  PPRep.Graphs.Item(1).MaxVisibleBars = 6
  PPRep.Graphs.Item(1).MaxPrintedBars = 10
  PPRep.Graphs.Item(1).KeepSummaryVisible = FALSE
  Set PPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 63 ページの『Graphs』

LabelAlignment プロパティー

レポートに含まれるセル・ラベルに適用された位置揃えを返します。

構文

object.**LabelAlignment**

適用対象

Column オブジェクト

Row オブジェクト

解説

特に、カテゴリーごとに異なる書式が使用されているクロス集計で、行ラベルと列ラベルの位置揃えを決定します。

行ラベルまたは列ラベルの位置揃えを設定すると、LabelAlignment プロパティーはアクティブな Report オブジェクトにのみ適用されます。このプロパティーは、Reports コレクションに含まれる他のレポートの行ラベルまたは列ラベルには適用

されません。他のレポートのデフォルトの行ラベルまたは列ラベルの位置揃え設定は、過去にアプリケーションで設定されていない限り変更されません。

有効な位置揃えの値は次のとおりです。

0 = 左揃え 1 = 中央揃え 2 = 右揃え 3 = デフォルト

デフォルト:3 (ラベルに位置揃えが設定されていない場合のレポート設定)

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、第 2 行ラベルおよび 第 3 列ラベルの位置揃えを返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   MsgBox "The alignment of the second row label is "
_
      &objPPRep.Rows.Item(2).LabelAlignment
   MsgBox "The alignment of the third row label is "
_
      &objPPRep.Columns.Item(3).LabelAlignment
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『LabelFontColor プロパティー』
- 357 ページの『LabelFontName プロパティー』
- 358 ページの『LabelFontSize プロパティー』

LabelFontColor プロパティー

レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント色を返します。

構文

object.**LabelFontColor**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

特に複数の色を使用して特定のカテゴリーがハイライトされているクロス集計で、行ラベル、列ラベル、またはレイヤー・ラベルに使用されているフォントの色を決定します。レポートの作成者は、レポートを読みやすくするために、カテゴリー・ラベルに異なる色を使用するように選択できます。

行、列、またはレイヤーのフォントの色を設定すると、LabelFontColor プロパティーはアクティブな Report オブジェクトにのみ適用されます。このプロパティーは、Reports コレクションに含まれる他のレポートには適用されません。他のレポートのデフォルトのフォント色設定は、過去にアプリケーションで設定されていない限り変更されません。

有効なフォントの色は次のとおりです。

0 = 黒

128 = 茶

32768 = 緑

32896 = オリーブ

8388608 = 濃紺

8388736 = 紫

8421376 = 緑青

8421504 = 灰色

12632256 = シルバー

255 = 赤

65280 = ライム

65535 = 黄

16711680 = 青

16711935 = ピンク

16776960= 水色

16777215 = 白

デフォルト:0 (黒)

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、第 2 行ラベル、第 3 列ラベル、および第 1 レイヤー・ラベルのフォントの色を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   MsgBox "The color of the font for the second row label
is " _
      &objPPRep.Rows.Item(2).LabelFontColor
   MsgBox "The color of the font for the third column
label is " _
      &objPPRep.Columns.Item(3).LabelFontColor
   MsgBox "The color of the font for the first layer
label is " _
      &objPPRep.Layers.Item(1).LabelFontColor
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 354 ページの『LabelAlignment プロパティー』
- 『LabelFontName プロパティー』
- 358 ページの『LabelFontSize プロパティー』

LabelFontName プロパティー

レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント名を返します。

構文

object.**LabelFontName**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

特に複数のフォントを使用して特定のカテゴリーがハイライトされているクロス集計で、行ラベル、列ラベル、またはレイヤー・ラベルに適用されているフォント名

を決定します。レポートの作成者は、レポートを読みやすくするために、カテゴリー・ラベルに異なるフォントを使用するように選択できます。

行、列、またはレイヤーのフォント名を設定すると、LabelFontName プロパティーはアクティブな Report オブジェクトにのみ適用されます。このプロパティーは、Reports コレクションに含まれる他のレポートには適用されません。他のレポートのデフォルトのフォント名設定は、過去にアプリケーションで設定されていない限り変更されません。

デフォルト:Arial

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、第 2 行ラベル、第 3 列ラベル、および第 1 レイヤー・ラベルに適用されるフォント・サイズを返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   MsgBox "The name of the font for the second row label
is " _
      &objPPRep.Rows.Item(2).LabelFontName
   MsgBox "The name of the font for the third column
label is " _
      &objPPRep.Columns.Item(3).LabelFontName
   MsgBox "The name of the font for the first layer label
is " _
      &objPPRep.Layers.Item(1).LabelFontName
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 354 ページの『LabelAlignment プロパティー』
- 355 ページの『LabelFontColor プロパティー』
- 『LabelFontSize プロパティー』

LabelFontSize プロパティー

レポートに含まれるカテゴリー・ラベルに適用されたフォント・サイズを返します。

構文

object.**LabelFontSize**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

特に複数のフォント・サイズを使用して特定のカテゴリーがハイライトされているクロス集計で、行ラベル、列ラベル、またはレイヤー・ラベルに適用されているフォント・サイズを決定します。レポートの作成者は、レポートを読みやすくするために、カテゴリー・ラベルに異なるフォント・サイズを使用するように選択できます。

行、列、またはレイヤーのフォント・サイズを設定すると、LabelFontSize プロパティーはアクティブな Report オブジェクトにのみ適用されます。このプロパティーは、Reports コレクションに含まれる他のレポートには適用されません。他のレポートのデフォルトのフォント・サイズ設定は、過去にアプリケーションで設定されていない限り変更されません。

デフォルト:10

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、第 2 行ラベル、第 3 列ラベル、および第 1 レイヤー・ラベルに適用されるフォント・サイズを返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   MsgBox "The size of the font for the second row label
is " _
      &objPPRep.Rows.Item(2).LabelFontSize
   MsgBox "The size of the font for the third column
label is " _
      &objPPRep.Columns.Item(3).LabelFontSize
   MsgBox "The size of the font for the first layer label
is "
```

```
      &objPPRep.Layers.Item(1). LabelFontSize
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 354 ページの『LabelAlignment プロパティー』
- 355 ページの『LabelFontColor プロパティー』
- 357 ページの『LabelFontName プロパティー』

LabelGridlines プロパティー

ネストされたクロス集計に含まれるカテゴリー・ラベルに対するグリッド線をオンまたはオフに設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**LabelGridlines**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

ネストされたクロス集計に含まれるカテゴリー・ラベルに関連付けられているグリッド線を制御します。グリッド線を表示するには、このプロパティー True に、非表示にするには False に設定します。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートに含まれている Graph オブジェクトをクロス集計に設定し、データとラベルに使用するグリッド線のプロパティーを False に設定します。また、レイアウトを Financial with Totals に指定し、合計を次のレベルにインデントします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
```

```
    Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
    Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
    With objPPGraph
       .SetType 0
       .Layout = 2
       .IndentTotalsLevel = 1
       .DataGridlines = False
       .LabelGridlines = False
    End With
    Set objPPGraph = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 319 ページの『DataGridlines プロパティー』)

Layout プロパティー

ネストされたクロス集計の現在のレイアウト・スタイルを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**Layout**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

ネストされたクロス集計のレイアウトを次の 3 つのスタイルのいずれか 1 つに設定します。

- 0 = 標準
- 1 = インデント・レイアウト 1
- 2 = インデント・レイアウト 2 (Explorer モードでのみ使用可能)

デフォルト: 0

タイプ

整数

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートに含まれている Graph オブジェクトをクロス集計に設定し、データとラベルに使用するグリッド線のプロパティーを False に設定します。また、レイアウトを Financial with Totals に指定し、合計を次のレベルにインデントします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 0
      .Layout = 2
      .IndentTotalsLevel = 1
      .DataGridlines = False
      .LabelGridlines = False
   End With
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 347 ページの『IndentTotalsLevel プロパティー』)

Level プロパティー

ディメンションに含まれるカテゴリーのレベルを返します。

構文

object.**Level**

適用対象

Column オブジェクト

Dimension オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

カテゴリーのレベル (ネストのレベルではない) を返します。ディメンションの最上位にあるカテゴリーには、レベルがありません。代替カテゴリー、算出カテゴリー、および一部の数値データは、キューブ・タイプによってはレベルがありませ

ん。このプロパティーを、レベルがないカテゴリーについて使用すると、返されるレベル名は空の文字列になります。

タイプ

オブジェクト

アクセス

読み取り

例

次の例は Level プロパティーを使用して、Column オブジェクトの名前を調べます。

```
Sub Main
   Dim objPPRep As Object
   Dim objColumn As Object
   Dim objLevel As Object
   Dim strLevel As String
   Dim strDrill As String
   Dim strCategory As String
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objColumn = objPPRep.Columns.Item(1)
   Set objLevel = objColumn.Level
   strLevel = objLevel.Name
   If objColumn.IsAlternate = True Then
      strDrill = "alternate"
   Else
      strDrill = "primary"
   End If
   If objColumn.IsCalculatedCategory = True Then
      strCategory = ""
   Else
      strCategory = "not"
   End If
   MsgBox "The " & objColumn.Name & " category
is a " & _
      strDrill & " drill-down and is " & strCategory
& _
      " a calculated category." & chr$(10) &
chr$(10) & _
      "It is a member of the " & strLevel & "
level."
   Set objColumn = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 187 ページの『Levels メソッド』

LevelList プロパティー

指定されたドリルダウン・パスのレベル・リストを返します。

構文

AdvancedQuery.**LevelList**

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

解説

AdvancedQuery サブセット定義に Levels メソッドを使用して指定されたレベル・リストを表示します。

ユーザーがディメンションをドリルダウンする場合、あるレベルから別のレベルのカテゴリーにドリルダウンします。Levels メソッドでは、指定したパスに対し、ディメンション内のすべての使用可能なレベルを表すオブジェクトが、最上位のカテゴリーから順番に返されます。次にこのプロパティーを使用して、これらの各カテゴリーを表示することができます。例えば、"Europe" に属する "Country" または "Region" レベルには、次のカテゴリーが含まれている可能性があります。

- ベルギー
- ドイツ
- スペイン
- スウェーデン
- イギリス
- フランス
- イタリア

Levels メソッドによって、このレベルのカテゴリーが返されます。ただし、サブセット定義で指定されているレベルを表示させるのは、LevelList プロパティーです。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、"Europe" に属する "Country" または "Region" レベルにあるカテゴリーすべてを取得する AdvancedQuery (タイプ 3) のサブセット定義を作成します。次

に、結果のサブセットが行としてレポートに追加されます。MsgBox では、LevelList プロパティーを使用してサブセット定義で指定されたレベルが表示されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "European Countries"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country"
      .Include "Europe"
      .Execute
      .AddToReport 1,1,3
   End With
   Msgbox "Name:  " & objAdvanced.Name & chr$(10)
& _
      "Dimension:  " & objAdvanced.Dimension &
chr$(10) & _
      "Level List:  " & objAdvanced.LevelList &
chr$(10) & _
      "Query Type Code:  " & objAdvanced.Type &
chr$(10) & _
      "Number of Categories:  " & objAdvanced.Count
& _
      chr$(10) & _
      "First Category:  " & objAdvanced.Item(1).Name,
_
      ,"Subset"
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 187 ページの『Levels メソッド』

LevelsDown プロパティー

次のレベルの ParentageQuery サブセットを指定するために、階層の下にあるレベル数を設定します。

構文

ParentageQuery.**LevelsDown**

適用対象

ParentageQuery オブジェクト

解説

ParentageQuery のサブセット定義を指定するため、現在のディメンションの下位にあるレベルを調べます。サブセット定義に指定されたレベルによって、サブセットのカテゴリーが決定されます。LowestLevel プロパティーが True の場合は、レベルがすでに最下位なので、サブセット定義には LevelsDown プロパティーを含めないでください。

サブセット定義においては、コンポーネントの順序が重要です。最初に Category メソッドを指定し、次に LevelsDown と LowestLevel プロパティー、さらに Execute と AddToReport メソッドを指定します。Name プロパティーは、サブセット定義の任意の場所に設定できます。

タイプ

整数

アクセス

書き込み

例

次の例は、"Channels"の 1 レベル下にあるカテゴリーすべてを返す ParentageQuery (タイプ 2) サブセット定義を作成します。"Channels"の 1 レベル下にあるカテゴリーは、行の最初にあるネストされたレベルとしてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCategory As Object
   Dim objParent As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objParent = objPPRep.ReportQueries.Add(2)
   With objParent
      .Name = "Sales Channels"
      .Category "Channels"
```

```
      .LowestLevel = False
      .LevelsDown = 1
      .Execute
      .AddToReport 0,1,6
   End With
   Msgbox "The first category added was " & _
      objParent.Item(1).Name & ".", ,"Subset"
   Set objParent = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 369 ページの『LowestLevel プロパティー』
- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』

LogonPrompt プロパティー

ログオンまたはセキュリティー情報に関するプロンプトを、アプリケーションで表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Application.**LogonPrompt**

適用対象

Application オブジェクト

解説

ユーザーが、セキュリティーが設定されたキューブやレポート、またはデータベースへのアクセスにユーザー名とパスワードが必要なキューブやレポートを開いたときに、標準のログオン・ダイアログ・ボックスを表示するには、True に設定します。

開かれているキューブやレポートが保護設定してあり、また、ユーザーが複数のユーザー・クラスを持つ場合は、ユーザーが使用するユーザー・クラスも要求されます。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、キューブまたはレポートによってユーザーの認証を要求されたときに、ログオン・ダイアログ・ボックスを表示するかどうかを設定します。デフォルトは True (-1) で、認証プロンプトを表示します。False (0) に設定すると、ユーザーにデータ・キューブを開く権限がないことを示すエラー・メッセージが表示されます。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Application.LogonPrompt False
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

LowerBoundary プロパティー

Range オブジェクトの下限として定義される値を設定するか、設定状態を返します。

構文

Range.**LowerBoundary**

適用対象

Range オブジェクト

解説

レポートに含まれる情報がハイライトの範囲で設定された条件を満たすときの、書式設定を適用する下限を決定します。下限によって、範囲の最小値が設定されます。たとえば、少なくとも $50,000 に到達した売上高をハイライトすることができます。

範囲の上限を決定するには、UpperBoundary プロパティーを使用します。

タイプ

Variant

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、Exception オブジェクトに含まれる範囲の下限として定義された値を返します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep As Object
```

```
    Dim objPPRange As Object
    Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Exception.ppx")
    objPPRep.Visible = 1
    Set objPPRange = objPPRep.Exceptions.item(1).Ranges.Item(1)
    MsgBox "Lower boundary is " &objPPRange.LowerBoundary
    Set objPPRange = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 39 ページの『Range オブジェクト』

LowestLevel プロパティー

親カテゴリーの次の下位レベルと最下位レベルのどちらを、クエリーで使用するかを設定します。

構文

ParentageQuery.**LowestLevel**

適用対象

ParentageQuery オブジェクト

解説

サブセットが、特殊カテゴリーの最下位レベルに基づいているかどうかを指定します。True の場合は、クエリーが親カテゴリーの最下位レベルを使用していることを示します。False の場合は、LevelsDown プロパティーを使用して、レベルが階層内で何レベル下にあるかを指定します。False は、次のレベルにある ParentageQuery を使用していることを示します。True は、すでに最下位レベルにあることを示しているため、LevelsDown プロパティーはサブセット定義には必要ありません。

デフォルト:True

サブセット定義においては、コンポーネントの順序が重要です。最初に Category メソッドを指定し、次に LevelsDown と LowestLevel プロパティー、さらに Execute と AddToReport メソッドを指定します。Name プロパティーは、サブセット定義の任意の場所に設定できます。

タイプ

ブール値

アクセス

書き込み

例

次の例は、"Channels"の 1 レベル下にあるカテゴリーすべてを返す ParentageQuery (タイプ 2) サブセット定義を作成します。"Channels"の 1 レベル下にあるカテゴリーは、行の最初にあるネストされたレベルとしてレポートに追加されます。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCategory As Object
   Dim objParent As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objParent = objPPRep.ReportQueries.Add(2)
   With objParent
      .Name = "Sales Channels"
      .Category "Channels"
      .LowestLevel = False
      .LevelsDown = 1
      .Execute
      .AddToReport 0,1,6
   End With
   Msgbox "The first category added was " & _
      objParent.Item(1).Name & ".", ,"Subset"
   Set objParent = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 365 ページの『LevelsDown プロパティー』
- 34 ページの『ParentageQuery オブジェクト』

MacroName プロパティー

Exception オブジェクトに関連付けられたマクロの名前を設定するか、設定状態を返します。

構文

Exception.**MacroName**

適用対象

Exception オブジェクト

解説

MacroStyle プロパティーの初期値を定義するには、SetMacro メソッドを使用します。これによって、MacroName には常にスタイルが関連付けられて設定されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、Exception オブジェクトに関連付けられたマクロの名前を決定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Exception.ppx"
   MsgBox "Driving Category:" & _
      objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingCategory
   MsgBox "Driving Dimension:" & _
      objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingDimension
   MsgBox "The name of the macro associated with the
" & _
      "Exception is " &objPPRep.Exceptions.Item(1).MacroName
   MsgBox "The style of the macro associated with the
" & _
      "Exception is " &objPPRep.Exceptions.Item(1).MacroStyle
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 23 ページの『Exception オブジェクト』

MacroStyle プロパティー

Exception オブジェクトで使用されるマクロに関連付けられたスタイルの名前を設定するか、設定状態を返します。

構文

Exception.**MacroStyle**

適用対象

Exception オブジェクト

解説

MacroStyle プロパティーの初期値を定義するには、SetMacro メソッドを使用します。これによって、存在しないマクロにスタイルが関連付けられないようにします。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、Exception オブジェクトのマクロに関連付けられたスタイルを決定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Exception.ppx"
   MsgBox "Driving Category:" & _
      objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingCategory
   MsgBox "Driving Dimension:" & _
      objPPRep.Exceptions.Item(1).DrivingDimension
   MsgBox "The name of the macro associated with the
" & _
      "Exception is " &objPPRep.Exceptions.Item(1).MacroName
   MsgBox "The style of the macro associated with the
" & _
      "Exception is " &objPPRep.Exceptions.Item(1).MacroStyle
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 23 ページの『Exception オブジェクト』
- 257 ページの『SetMacro メソッド』

MaximumNumberOfRanges プロパティー

Exception オブジェクトについて、定義可能な Range オブジェクトの最大数を返します。

構文

Ranges.**MaximumNumberOfRanges**

適用対象

Ranges

解説

ハイライトに定義できる範囲の最大数を決定します。現在、Exception オブジェクトは最大で 5 つの範囲を持つことができます。したがって、このプロパティーは常に 5 を返します。

タイプ

Long

アクセス

読み取り

例

次の例は、ハイライトに対して定義可能な範囲の最大数を表示します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPRange As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPRange = objPPRep.Exceptions.item(1).Ranges
   MsgBox "Maximum Number of Ranges = " & _
         objPPRange.MaximumNumberOfRanges
   Set objPPRange = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 23 ページの『Exception オブジェクト』
- 39 ページの『Range オブジェクト』

MaxPrintedBars プロパティー

印刷データの 1 ページに表示する、グラフ棒の最大数を設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**MaxPrintedBars**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

各ページに印刷するグラフ棒の最大数を設定します。

このプロパティーは、クロス集計、3D 棒グラフ、散布グラフ、および円グラフでは使用できません。

デフォルト: 8

タイプ

Long

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートのスクロール・バー設定を変更します。スクロール機能を True に、グラフ棒の最大表示数を 6 に、グラフ棒の最大印刷数を 10 に設定し、合計カテゴリーをレポートの最後まで非表示にします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Graphs.Item(1).UseScrolling = True
   objPPRep.Graphs.Item(1).MaxVisibleBars = 6
   objPPRep.Graphs.Item(1).MaxPrintedBars = 10
   objPPRep.Graphs.Item(1).KeepSummaryVisible = False
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 63 ページの『Graphs』

MaxVisibleBars プロパティー

スクロールするデータの 1 ページに表示する、グラフ棒の最大数を設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**MaxVisibleBars**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

各ページに表示するグラフ棒の数を設定します。

最小値は、5〜50 の間で指定する必要があります。

このプロパティーは、クロス集計、3D 棒グラフ、散布グラフ、および円グラフでは使用できません。

デフォルト: 8

タイプ

Long

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートのスクロール・バー設定を変更します。スクロール機能を True に、グラフ棒の最大表示数を 6 に、グラフ棒の最大印刷数を 10 に設定し、合計カテゴリーをレポートの最後まで非表示にします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Graphs.Item(1).UseScrolling = True
   objPPRep.Graphs.Item(1).MaxVisibleBars = 6
   objPPRep.Graphs.Item(1).MaxPrintedBars = 10
   objPPRep.Graphs.Item(1).KeepSummaryVisible = False
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 63 ページの『Graphs』

Measure プロパティー

値制限に使用される数値データの名前を設定するか、設定状態を返します。

構文

ValueRestriction.**Measure**

適用対象

ValueRestriction オブジェクト

解説

AdvancedQuery の結果として得られるカテゴリー数を制限するために、ValueRestriction オブジェクトが使用する数値データの名前を指定します。

ValueRestriction では、コンポーネントの順序が重要です。Dimension プロパティーは、Measure、Operator、Operand1、Operand2、および Count の各プロパティーと DimensionFilter メソッドの前に設定する必要があります。Name プロパティーは、フィルター定義の任意の場所で設定できます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Locations" ディメンションから国または地域を選択する詳細サブセットを作成します。値制限 (タイプ 4) は、"Sports Chain" の "Revenue" 値が 25,000～100,000 の範囲にある国または地域のみが返されるように結果を制限します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objValue As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objValue = objPPRep.ReportQueries.Add(4)
   With objValue
      .Name = "25000-100000"
      .Dimension = "Locations"
```

```
        .Measure = "Revenue"
        .Operator = "between"
        .Operand1 = 25000
        .Operand2 = 100000
        .DimensionFilter 4, "Sports Chain"
    End With
    Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
    With objAdvanced
        .Name = "Locations"
        .Dimension = "Locations"
        .Level "Country or Region"
        .ValueRestriction objValue.Name
        .Execute
        .AddToReport 0,1,3
    End With
    Set objAdvanced = Nothing
    Set objValue = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

MeasureCurrency プロパティー

指定した通貨に使用する値または記号を設定するか、設定状態を返します。

構文

Dimension.**MeasureCurrency**

適用対象

Dimension オブジェクト

解説

IBM Cognos PowerPlay では、通貨の値を国際的な商取引で使用可能な多くの主要通貨で表示できます。金額に使用される基本通貨、および通貨記号 (該当する場合) を変更するには、MeasureCurrency を使用します。文字列パラメーターとして、適用可能な 3 文字のコードを入力します。

パラメーターを指定しないと、MeasureCurrency プロパティーは現在のコードを返します。

MeasureCurrency の値を変更すると、PowerPlay では、PowerPlay Transformer を介してキューブ設計者から提供される為替相場表を使用して、金額が再計算され

ます。たとえば、キューブで通貨にドルが使用されている場合にユーザーがイギリスの国コード"gbr"を使用すると、キューブは値を再計算してポンド単位の値に切り替え、ドル記号をポンドの通貨記号に置き換えます。

3 文字の国または地域コードは、国際標準である国際標準化機構/国際電気標準会議 (ISO/IEC) の仕様 3166 に基づいています。たとえば、スウェーデン、米国、およびスペインの国または地域コードはそれぞれ "SWE"、"USA"、および "ESP" です。

表示される通貨は、キューブに含まれるアイテムに限定されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、現在の通貨コードを調べ、"USA"を"CAN"に変更します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objDimension As Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objDimension = objPPRep.DimensionLine.Item _
      ("Measures")
   objDimension.ChangeToTop
   objDimension.Change "Product Cost"
   If objDimension.MeasureCurrency = "USA" Then
      objDimension.MeasureCurrency = "CAN"
      MsgBox "The Currency has been changed from" &
_
         " American to Canadian."
   Else
      MsgBox "The currency code is " & _
         objDimension.MeasureCurrency & "."
   End If
   Set objDimension = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Name プロパティー

オブジェクトの名前を設定する、または設定状態を返します。

構文

object.**Name**

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

Application オブジェクト

Column オブジェクト

Dimension オブジェクト

Exception オブジェクト

FindQuery オブジェクト

Layer オブジェクト

ParentageQuery オブジェクト

Report オブジェクト

Row オブジェクト

ValueRestriction オブジェクト

解説

Column、Exception、Layer、または Row の各オブジェクトの名前を、等号 (=) を使用して変更します。Report SaveAs メソッドを使用する場合のみ、オブジェクトの名前を変更できます。Application、Dimension、Exception オブジェクトの名前は変更できません。

AdvancedQuery、FindQuery、または ParentageQuery については Name プロパティーを使用してクエリーの名前を指定します。

ValueRestriction に関連付けられた Name プロパティーには、数値データに適用する関数を含めないでください。たとえば、"Average(Revenue)>500" および "Revenue - Cost in Top 10" は無効です。Value Restriction クエリーには、値の制限名を一度に 1 つずつ指定します。たとえば、「Revenue> 10,000 and Units Sold < 30」は制限名として無効です。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り (Application、Dimension、Exception、Report)

読み取り/書き込み
(AdvancedQuery、Column、FindQuery、Layer、ParentageQuery、Row、Value Restriction)

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay のインスタンスを作成し、このアプリケーションの名前、場所、およびバージョンを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPlayApp as Object
   Set objPPlayApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPlayApp.Visible = 1
   MsgBox "The name of the Application is " &objPPLayApp.Name
   MsgBox "The location of the Application is " _
      &objPPLayApp.Path
   MsgBox "The Application version is " &objPPLayApp.Version
   Set objPPlayApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 20 ページの『Dimension オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

NamesShown プロパティー

円グラフの横にカテゴリー名を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**NamesShown**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

このプロパティーは、円グラフにのみ適用されます。カテゴリー値の代わりにカテゴリー名を使用してスライスにラベルを付けるには、このプロパティーを True に設定します。ただし、凡例にはカテゴリー名およびカテゴリー値の両方が含まれます。

単一の円グラフに対して NestedCharts プロパティーを True に設定すると、スライス・ラベルがカテゴリー値ではなくカテゴリー名となるように、円グラフが自動的に変更されます。

NamesShown プロパティーを True に設定すると、ValuesShown プロパティーが自動的に False に設定されます。

ネストされたグラフで NamesShown を False に設定すると、円グラフのスライスの横にラベルが表示されなくなります。

デフォルト:False (単一のグラフ)、True (ネストされたグラフ)

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、アクティブ・グラフのタイプを円グラフに設定し、円グラフのスライスのラベルに、カテゴリー名を使用します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 1
      .NamesShown = True
      .ValuesFontColor = 10
      .ValuesFontSize = 10
      .ValuesFontName = "Times New Roman"
   End With
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 466 ページの『ValuesShown プロパティー』)

NestedCharts プロパティー (Explorer)

集計データを表す複数のグラフを、1 つのグラフに表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Graph.**NestedCharts**

適用対象

Graph オブジェクト

解説

1 つのグラフで集計データに関する複数のグラフを表示します。特に大量の集計データが含まれている場合、レポートのディメンションに関する比較、相関、および傾向を効果的に表示できます。たとえば、10 の異なるグラフに含まれる各合計行の単一グラフを生成するネスト・レポートに対して、このプロパティーを使用し、同じ情報を表示する複数のグラフを含む表示を生成します。

ネストされていないデータに対してこのプロパティーを True に設定すると、データは単一のグラフで表示されますが、行ラベルおよび列ラベルを持つネストされたグラフ形式となります。

ネストされたグラフでは、MaxVisibleBars プロパティーを使用して数値を指定できる単一のグラフとは異なり、グラフに属するカテゴリーすべてが表示されます。

このプロパティーを True に設定すると、単一のグラフにのみ適用されるプロパティーまたはメソッドが無視されます。これらのプロパティーには、次のものが含まれます。

- KeepSummaryVisible
- MaxPrintedBars
- MaxVisibleBars
- ShowSummaryColumn
- ShowSummaryRow
- ShowTies
- UseScrolling
- ValuesShown

このプロパティーを SetType メソッドと組み合わせて使用すると、表示するグラフのタイプを選択できます。このプロパティーは、クロス集計には表示されません。

このプロパティーは、Explorer モードでのみ使用可能です。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、アクティブなグラフの表示を設定し、複数のグラフを表示します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 3
      .HideRankCategory = False
      .KeepSummaryVisible = True
      .MaxVisibleBars = 5
      .ShowTies = True
   End With
   objPPGraph.NestedCharts = True
   objPPRep.SaveAs "NewReport.ppx"
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 380 ページの『NamesShown プロパティー』
- 466 ページの『ValuesShown プロパティー』

NestedName プロパティー

カテゴリーのネストされた名前を返します。

構文

object.**NestedName**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

ネストを考慮するカテゴリーの名前を返します。たとえば、次のネストされたレポートの場合、2 行目の名前は"欧州"で、その行のネストされた名前は"2008.欧州"です。

年	地域
2008	極東
	欧州
	中東

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、作業中のレポートの最初にある行、列、およびレイヤーのネストされた名前を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Msgbox "First column:  " & _
      objPPRep.Columns.Item(1).NestedName
   Msgbox "First row:  " & _
      objPPRep.Rows.Item(1).NestedName
   Msgbox "First layer:  " & _
      objPPRep.Layers.Item(1).NestedName
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

Operand1 プロパティー

指定した演算子に基づくレポート・セル値の比較で使用する値を設定するか、設定状態を返します。

構文

ValueRestriction.**Operand1**

適用対象

ValueRestriction オブジェクト

解説

AdvancedQuery の結果として得られるカテゴリー数を制限するために、値を指定します。

Between 演算子タイプを使用する場合は、Operand1 と Operand2 のプロパティー値を指定する必要があります。

ValueRestriction では、コンポーネントの順序が重要です。Dimension プロパティーは、Measure、Operator、Operand1、Operand2、および Count の各プロパティーと DimensionFilter メソッドの前に設定する必要があります。Name プロパティーは、フィルター定義の任意の場所で設定できます。

演算子が Largest または Smallest の場合は、Operand1 を指定しないでください。Largest または Smallest 演算子を使用すると、Count プロパティーのみが使用されます。Count のデフォルト値は 10 です。

タイプ

Double

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Locations" ディメンションから国または地域を選択する詳細サブセットを作成します。値制限 (タイプ 4) は、売上が "125,000" を超える国または地域を返すように結果を制限します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objValue As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objValue = objPPRep.ReportQueries.Add(4)
   With objValue
      .Name = "Revenue exceeding 125000"
      .Dimension = "Locations"
      .Measure = "Revenue"
      .Operator = ">"
      .Operand1 = 125000
   End With
```

```
    Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
    With objAdvanced
       .Name = "Locations"
       .Dimension = "Locations"
       .Level "Country or Region"
       .ValueRestriction objValue.Name
       .Execute
       .AddToReport 0,1,3
    End With
    Set objAdvanced = Nothing
    Set objValue = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『Operand2 プロパティー』
- 388 ページの『Operator プロパティー』

Operand2 プロパティー

Between 演算子を使用して範囲を指定する場合の 2 番目の値を設定するか、設定状態を返します。

構文

ValueRestriction.**Operand2**

適用対象

ValueRestriction オブジェクト

解説

Between 演算子を使用して、AdvancedQuery の結果として得られるカテゴリー数を制限するために、2 番目の値を指定します。

Between 演算子タイプを使用する場合は、Operand1 と Operand2 のプロパティー値を指定する必要があります。Between 演算子のタイプが指定されないと、Operand2 プロパティーに指定された値は無視されます。

ValueRestriction では、コンポーネントの順序が重要です。Dimension プロパティーは、Measure、Operator、Operand1、Operand2、および Count の各プロパティーと DimensionFilter メソッドの前に設定する必要があります。Name プロパティーは、フィルター定義の任意の場所で設定できます。

タイプ

Double

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Locations" ディメンションから国または地域を選択する詳細サブセットを作成します。値制限 (タイプ 4) は、"Sports Chain" の "Revenue" 値が 25,000～100,000 の範囲にある国または地域のみが返されるように結果を制限します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objValue As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
      Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objValue = objPPRep.ReportQueries.Add(4)
   With objValue
      .Name = "25000-100000"
      .Dimension = "Locations"
      .Measure = "Revenue"
      .Operator = "between"
      .Operand1 = 25000
      .Operand2 = 100000
      .DimensionFilter 4, "Sports Chain"
   End With
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Locations"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country or Region"
      .ValueRestriction objValue.Name
      .Execute
      .AddToReport 0,1,3
   End With
   Set objPPRep = Nothing
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objValue = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 384 ページの『Operand1 プロパティー』
- 『Operator プロパティー』

Operator プロパティー

値制限に使用される演算子を設定するか、設定状態を返します。

構文

ValueRestriction.**Operator**

適用対象

ValueRestriction オブジェクト

解説

AdvancedQuery の結果として得られるカテゴリー数を制限するために、演算子を指定します。

値制限の比較に使用できる演算子のタイプは、次のとおりです。

- > (指定の値より大きい)
- < (指定の値より小さい)
- = (等しい)
- >= (大きいまたは等しい)
- <= (小さいまたは等しい)
- Largest (上位 n 個の値)
- Smallest (下位 n 個の値)
- Between (指定された範囲内の値)

Between 演算子を使用する場合は、Operand1 と Operand2 のプロパティー値を指定する必要があります。>、<、>=、または <= 演算子を使用する場合は、Operand1 プロパティーの値を指定する必要があります。 Largest または Smallest 演算子を使用する場合は、Count プロパティーの値を指定する必要があります。

ValueRestriction では、コンポーネントの順序が重要です。Dimension プロパティーは、Measure、Operand1、Operand2、Count の各プロパティー、および DimensionFilter メソッドの前に設定する必要があります。Name プロパティーは、フィルター定義の任意の場所で設定できます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、"Locations" ディメンションから国または地域を選択する詳細サブセットを作成します。値制限 (タイプ 4) は、"Sports Chain" の "Revenue" 値が 25,000～100,000 の範囲にある国または地域のみが返されるように結果を制限します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objValue As Object
   Dim objAdvanced As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
      Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objValue = objPPRep.ReportQueries.Add(4)
   With objValue
      .Name = "25000-100000"
      .Dimension = "Locations"
      .Measure = "Revenue"
      .Operator = "between"
      .Operand1 = 25000
      .Operand2 = 100000
      .DimensionFilter 4, "Sports Chain"
   End With
   Set objAdvanced = objPPRep.ReportQueries.Add(3)
   With objAdvanced
      .Name = "Locations"
      .Dimension = "Locations"
      .Level "Country or Region"
      .ValueRestriction objValue.Name
      .Execute
      .AddToReport 0,1,3
   End With
   Set objPPRep = Nothing
   Set objAdvanced = Nothing
   Set objValue = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 384 ページの『Operand1 プロパティー』
- 386 ページの『Operand2 プロパティー』

ParentCategory プロパティー

オブジェクトに対する親カテゴリーの名前を返します。

構文

object.**ParentCategory**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

ParentCategory プロパティーは、行、列、またはレイヤーの親カテゴリー名を取得するドリルアップで使用されます。計算の場合は、空の文字列が返されます。また、カテゴリーが最上位レベルにあるとエラーが返されます。

Reporter レポートでは、インターセクト、ランク、および単一の集計親が使用できない算出カテゴリーなどの複雑なカテゴリーについては、空白が返されます。

Explorer レポートでは、行または列のアイテムについて返される親カテゴリー名は、行および列すべてに適用されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、現在開かれているレポートにある第 1 行の親名と、第 1 列の親名を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objRows As Object
   Dim objCols As Object
   Set objPPRep = GetObject (,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Visible = True
   Set objRows = objPPRep.Rows
   Set objCols = objPPRep.Columns
   MsgBox "Row 1's parent is:" _
      &objRows.Item(1).ParentCategory
   MsgBox "Column 1's parent is:" _
```

```
      &objCols.Item(1).ParentCategory
  Set objRows = Nothing
  Set objCols = Nothing
  Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Path プロパティー

Report オブジェクトまたは Application オブジェクトのパスを返します。

構文

object.**Path**

適用対象

Application オブジェクト

Report オブジェクト

解説

Application オブジェクトのパスは変更できません。Report オブジェクトのパスは、SaveAs メソッドを使用する場合のみ変更できます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay のインスタンスを作成し、このアプリケーションの名前、場所、およびバージョンを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPlayApp as Object
   Set objPPlayApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPlayApp.Visible = 1
   MsgBox "The name of the Application is " &objPPLayApp.Name
   MsgBox "The location of the Application is " _
      &objPPLayApp.Path
   MsgBox "The Application version is " &objPPLayApp.Version
```

```
    Set objPPlayApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

Pattern プロパティー

サブセット定義の検索基準を設定します。

構文

FindQuery.**Pattern**

適用対象

FindQuery オブジェクト

解説

SearchText プロパティーをサブセット定義に使用する方法を制御します。Pattern を使用して、次のことを調べることができます。

- 検索文字列を見つける場所 (単語の任意位置、単語の先頭、または単語の終端)
- パターンの一致のオン/オフ
- 検索テキストの全体一致または部分一致
- 大文字と小文字の区別

それぞれの検索オプションは、数値で設定します。例えば、テキストの大文字と小文字を一致させる場合は 32、単語の最後を一致させる場合は 4 です。さまざまな検索オプションの値を加算して、全体的な検索オプションを設定する固有な値を指定します。

パターン値が指定されない場合は、検索オプションは無効です。たとえば、大文字と小文字を区別して検索するには、値 32 を含める必要があります。値を追加することで、さまざまな検索オプションを設定できます。組み合わせて使用できない値を追加すると、例外エラーが発生します。たとえば、Contains、Begins With、または Ends With 値は相互に排他的であるため、組み合わせることはできません。これらの値と MatchWhole を組み合わせて使用することもできません。また、Pattern Matching を MatchCase または MatchWhole と組み合わせて使用しないでください。

Pattern Matching の値を使用すると (Pattern = 8)、Find 操作ではテキストに含まれる特定の文字がワイルドカードとして認識され、一部のメタ文字が予約文字として扱われます。メタ文字が含まれていると、エラー・メッセージが表示されます。パターンの一致を使用しない場合は、ワイルドカードとメタ文字は標準の文字として扱われます。

有効な組み合わせの例は、次のとおりです。

- Begins With + Pattern Matching = (10)

- MatchCase + Contains = (33)
- MatchCase + Begins With = (34)
- MatchCase + Ends With = (36)
- MatchCase + Use Patterns = (40)
- MatchCase + MatchWhole = (48)

サブセット定義においては、コンポーネントの順序が重要です。最初に Dimension プロパティーを設定し、次に SearchShortName、SearchText、および Pattern の各プロパティー、さらに Execute と AddToReport メソッドを指定します。Name プロパティーは、サブセット定義の任意の場所に設定できます。

パラメーター	説明
PatternValue	必須。検索オプションを示す数値を指定します。デフォルト値は 1 です。 1 - Contains: 検索テキストは、単語の任意の位置で検索される 2 - Begins With: 検索テキストは、単語の先頭部分で検索される 4 - Ends With: 検索テキストは、単語の終わりの部分で検索される 8 - Pattern Matching: 特定の文字列がワイルドカードとして扱われる 16 - MatchWhole: 検索テキストが単語全体と一致する 32 - MatchCase: 大文字と小文字を区別して検索する

タイプ

整数

アクセス

書き込み

パターンの一致に使用できるワイルドカード文字

ワイルドカード	説明
^	一致を文字列の先頭部分に固定する (^ball は balloon に一致するが baseball には一致しない)。
$	一致を文字列の終端部分に固定する ($ball は baseball に一致するが balloon には一致しない)。
?	任意の文字に一致する。
#	直前の文字 (または式の一部) の 0 回以上の繰り返しに一致する。

ワイルドカード	説明
@	直前の文字 (または式の一部) の 1 回以上の繰り返しに一致する。
~	直前の文字 (または式の一部) の 0 または 1 回の繰り返しに一致する。
*	任意の文字の 0 回以上の繰り返しに一致する。
|	文字の前にある文字 (または式の一部) と後にある文字のいずれかに一致する (abc|def は abcef と abdef のどちらにも一致する)。
[ ] [-] [!]	大括弧に囲まれた文字のいずれかに一致する ([aeiou] は a、e、i、o、u に一致する)。 大括弧に囲まれた 2 文字間にあるハイフンは範囲を示す ([am-px] は a、m～p、x に一致する)。 最初、または最後にあるハイフンは、それ自身に一致する ([-] はハイフンに一致する)。冒頭に感嘆符がある場合は、文字の設定が逆転する ([!a-m] は、a～m の文字を除くすべての文字に一致する)。
( )	式の一部。式に含まれる式のネストを可能にします。したがって、繰り返しや他の演算子を一般的に適用できます。たとえば、ab(cd)#e は、ab の後に cd が 0 回以上繰り返され、その後に e のある文字に一致します。
\	エスケープ。ワイルドカード文字の次の文字が本来の文字と一致します。通常、メタ文字を標準の文字として扱う場合に使用します。たとえば、¥? は、? と一致します。

メタ文字

メタ文字	説明
<	単語の先頭部分に一致する。
>	単語の終端部分に一致する。
{m,n}	この指定の前にある文字 (または式の一部) が m 以上、かつ n 以下の回数、一致する。{n} は n 回一致します。{n,} は少なくとも n 回一致します。

メタ文字	説明
¥:x	拡張メタ文字 x (x は任意の文字または数字を表す)。

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
   End With
   Set objFind = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 25 ページの『FindQuery オブジェクト』

Precedence プロパティー

複雑な計算に使用される優先順位を設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**Precedence**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

複雑な計算 (複数の演算を含む) は、特定の順序で演算されます。IBM Cognos PowerPlay の優先順位規則は次のとおりです。

1. 累積と % 累積。
2. 割合、平均、最小値、または最大値の演算は、除算や乗算よりも優先される。
3. 除算や乗算は、加算や減算よりも優先される。
4. 加算や減算は、計算以外の操作 (カテゴリーなど) よりも優先される。
5. 行の計算と列の計算が交差する場合、行が優先される。
6. レイヤーは、行と列の後に計算される。

計算の優先順位は、Precedence によって設定されます。選択項目は、"Normal"または"Override"です (大文字と小文字は区別されません)。

優先が明示的にカテゴリーに割り当てられた (Override が設定される) 場合、行と列を入れ替えてもセルの値は変化しません。Switch パラメーターが指定されないと、現在の設定が返されます。計算以外に Precedence を使用すると、エラーが発生します。

ビジネス計算には優先順位を設定できません (累積、% 累積のみ)。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、複数の計算を含む小さなレポートを作成します。優先順位が列"Total"に設定され、計算を含む行を上書きします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objCategoryList As Object
   Dim objIncreaseRow As Object
   Dim objPercentRow As Object
   Dim objSummaryColumn As Object
   Dim intColumns As Integer
   Const CubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = GetObject(CubePath)
   Set objCategoryList = objPPRep.CategoryList()
   objCategoryList.Add 1, "Years"
   objPPRep.Rows.Add objCategoryList
   objCategoryList.Add 1, "Products"
```

```
   objPPRep.Columns.Add objCategoryList
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Rows.Item("Years").Activate
   Set objIncreaseRow = objPPRep.Rows.Item _
      ("1997").Subtraction(objPPRep.Rows.Item("1996"))
   objIncreaseRow.Name = "Increase"
   objIncreaseRow.Activate
   Set objPercentRow = objIncreaseRow.Percent _
      (objPPRep.Rows.Item("1996"))
   objPercentRow.Name = "Percent Increase"
   objPPRep.Columns.Item("Products").Remove
   intColumns = objPPRep.Columns.Count
   objPPRep.Columns.Item(intColumns).Activate
   Set objSummaryColumn = _
      objPPrep.Columns.SubSet(1, 3).Addition()
   intColumns = objPPRep.Columns.Count
   objPPRep.Columns.Item(intColumns).Name "Total"
   objPPRep.Columns.Item(intColumns).Precedence = _
      "Override"
   objPPRep.SaveAs "C:\Cubes and Reports\Precedence.ppx"
   Set objSummaryColumn = Nothing
   Set objPercentRow = Nothing
   Set objIncreaseRow = Nothing
   Set objCategoryList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 87 ページの『Accumulation メソッド』
- 106 ページの『Addition メソッド (コレクション)』
- 150 ページの『Division メソッド』
- 267 ページの『Subtraction メソッド (コレクション)』

PrintAllCharts プロパティー

グラフすべてを同一ページに印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**PrintAllCharts**

適用対象

Print オブジェクト

解説

True の場合は、同一ページに印刷するページ・レイアウト、またはページ幅を基準にしたグラフすべてを表示します。False の場合は、選択されているか現在アクティブな Graph オブジェクトが必要なページ数だけ印刷されます。

次のプロパティーとともに使用する場合は、PrintAllCharts プロパティーを False に設定する必要があります。

- AxisOnAllPages
- ChartTitleOnAllPages
- IncludeLegend
- SetChartToPrint
- SummariesOnAllPages

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。全ページにタイトル、合計カテゴリー、および軸を印刷します。また、部単位で印刷するオプションをオンにして、凡例を除外します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies = 1
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
```

```
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 36 ページの『Print オブジェクト』

PrintColorsAsPatterns プロパティー

色を、パターンと色のどちらで表示するかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**PrintColorsAsPatterns**

適用対象

Print オブジェクト

解説

True の場合は、色をパターンとして印刷します。False の場合は、色をそのまま印刷します (カラー・プリンターがある場合)。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、レポートに含まれるグラフすべてを、すべての行およびレイヤーも含めて、1 部ずつ印刷します。凡例を表示し、色をパターンとして印刷し、部単位で印刷するオプションをオンにします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
```

```
    objRepPrt.IncludeLegend = True
    objRepPrt.PrintColorsAsPatterns = True
    objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
    objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
    objRepPrt.AxisOnAllPages = True
    objRepPrt.Collate = True
    objRepPrt.Copies = 1
    objRepPrt.PrintOut
    Set objRepPrt = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 36 ページの『Print オブジェクト』

PrintEntireReport プロパティー

すべての表示、レイヤー、行を含むレポート全体を印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**PrintEntireReport**

適用対象

Print オブジェクト

解説

印刷オプションは、レポートとともに保存されたオプションで初期化されます。印刷マクロがプロパティーを上書きしなければ、プロパティーの状態は、作成者がレポートを保存した状態と一致します。

一度に True に設定できるのは、PrintEntireReport、PrintPageLayout、PrintSelectedDisplays のいずれか 1 つの印刷プロパティーだけです。

True の場合は、すべての表示、レイヤー、行を含むレポート全体が印刷されます。

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポート全体を開いて印刷します。また、合計行カテゴリーと合計列カテゴリーをすべてのページに表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintEntireReport = True
   objRepPrt.SummaryRowOnAllPages = True
   objRepPrt.SummaryColumnOnAllPages = True
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPrep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 36 ページの『Print オブジェクト』

PrintPageLayout プロパティー

ページ・レイアウト表示またはページ幅を基準にした表示に含まれる表示内容をすべて同じページに印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**PrintPageLayout**

適用対象

Print オブジェクト

解説

印刷オプションは、レポートとともに保存されたオプションで初期化されます。印刷マクロがプロパティーを上書きしなければ、プロパティーの状態は、作成者がレポートを保存した状態と一致します。

一度に True に設定できるのは、
PrintEntireReport、PrintPageLayout、PrintSelectedDisplays のいずれか 1 つの印刷プロパティーだけです。

True 場合は、同一ページに、ページ・レイアウトまたはページ幅を基準にした表示に含まれるすべての表示内容が印刷されます。

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

この例は、デフォルトの印刷設定を使用し、ページ・レイアウト表示またはページ幅を基準にした表示に含まれるすべての表示内容を開いて、同一ページに印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.ResetPrintOptionsToDefault
   objRepPrt.PrintPageLayout = True
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPrep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 36 ページの『Print オブジェクト』

PrintSelectedDisplay プロパティー

選択した Graph オブジェクト、または現在アクティブになっている Graph オブジェクトを印刷するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**PrintSelectedDisplay**

適用対象

Print オブジェクト

解説

印刷オプションは、レポートとともに保存されたオプションで初期化されます。印刷マクロがプロパティーを上書きしなければ、プロパティーの状態は、作成者がレポートを保存した状態と一致します。

一度に True に設定できるのは、
PrintEntireReport、PrintPageLayout、PrintSelectedDisplays のいずれか 1 つの印刷プロパティーだけです。

True の場合は、選択されているか現在アクティブな Graph オブジェクトが印刷されます。

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

この例は、レポートを開いて、選択されているか現在アクティブな Graph オブジェクトを印刷します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintSelectedDisplay = True
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(1)
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPrep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』
- 36 ページの『Print オブジェクト』

PromptForCurrency プロパティー

IBM Cognos ポータルに発行されたレポートの通貨をレポート利用者が変更できるかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

DeploymentOptions.**PromptForCurrency**

解説

このプロパティーは、レポートの基準となるキューブが複数の通貨をサポートする場合に使用します。デフォルトでは、レポート作成者が指定した通貨 (複数可) がレポートで使用されます。キューブで複数の通貨がサポートされ、レポートに通貨の数値データが含まれていない場合、作成者はこのプロパティーを True に設定できます。

利用者は、数値データごとに異なる通貨を設定することはできません。

このプロパティーが True に設定されている場合、レポート利用者は、IBM Cognos ポータルに含まれる通貨の書式設定の一部を設定できます。

キューブが通貨をサポートしない場合、またはレポートに複数の通貨が含まれている場合は、エラーが発生します。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートの利用者が IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに表示されるプロンプトを指定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 405 ページの『PromptForDimension プロパティー』
- 406 ページの『PromptForLongShortNames プロパティー』
- 408 ページの『PromptForZeroSuppression プロパティー』

PromptForDimension プロパティー

IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに、レポート利用者が、指定された Dimension オブジェクトにフィルターをかけることができるかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

DeploymentOptions.**PromptForDimension**(Index)

解説

このプロパティーを使用して、レポート利用者がレポートを IBM Cognos ポータルで開いたときに、フィルターをかけられるディメンションを指定します。各ディメンションの選択および選択のクリアは、一度に 1 回ずつ操作する必要があります。すべてのディメンションを選択するには、SelectAllDimensions メソッドを使用します。すべてのディメンションの選択をクリアするには、UnselectAllDimensions メソッドを使用します。

デフォルトでは、ユーザーがディメンションをフィルターできないように、それらの各ディメンションに対して False に設定されています。

デフォルト:False

パラメーター	説明
Index	必須。DimensionLine オブジェクトに含まれる Dimension オブジェクトの名前または位置を指定します。DimensionLine オブジェクト内の位置は 1 から始まり、1 ずつ増加します。 タイプ:String または Integer

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポート利用者がレポートを IBM Cognos ポータルで開いたときに、フィルターをかけられるディメンションを指定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
```

```
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension(1) = True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension(2)= True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension("Locations")=
True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 403 ページの『PromptForCurrency プロパティー』
- 『PromptForLongShortNames プロパティー』
- 408 ページの『PromptForZeroSuppression プロパティー』

PromptForLongShortNames プロパティー

レポート利用者が、IBM Cognos ポータルに発行されたレポートに含まれるカテゴリーの長い名前と短い名前を変更できるかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

DeploymentOptions.**PromptForLongShortNames**

解説

このプロパティーは、レポートの基準となるキューブがカテゴリー名の長い形式と短い形式をサポートする場合に使用します。デフォルトでは、レポート作成者が指定したカテゴリー名がレポートで使用されます。

このプロパティーは、すべてのディメンションに適用されます。レポート利用者は、ディメンションごとに長い名前と短い名前を使い分けることはできませんが、レポート作成者は使い分けが可能です。

このプロパティーは、キューブが長い名前または短い名前のどちらか一方だけをサポートする場に使用できます。

デフォルトでは、レポートの利用者に対して、カテゴリーの長い名前から短い名前 (またはその逆) に変更するように指示するプロンプトは表示されません。

レポートに、長い名前を持つディメンションと、短い名前を持つディメンションが混在すると、エラーが発生します。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートの利用者が IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに表示されるプロンプトを指定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 403 ページの『PromptForCurrency プロパティー』
- 405 ページの『PromptForDimension プロパティー』
- 408 ページの『PromptForZeroSuppression プロパティー』

PromptForSwapRowsAndColumns プロパティー

レポート利用者が、IBM Cognos ポータルに発行されたレポートの行と列を入れ替えることができるかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

DeploymentOptions.**PromptForSwapRowsAndColumns**

解説

異なるレポート利用者のグループが、同じ情報を必要とし、それらを異なる方法で表示する必要がある場合に使用します。このプロパティーを True に設定すると、ユーザーは異なるレポート軸を参照として使用しながら、情報を分析したり傾向を追跡できるようになります。レポートの利用者は、このプロパティーを使用して、レポートに含まれるデータすべてを現在のページ・サイズに収めることができます。

デフォルトでは、レポートの作成者が作成した行と列がレポートで使用されます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートの利用者が IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに表示されるプロンプトを指定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 403 ページの『PromptForCurrency プロパティー』
- 405 ページの『PromptForDimension プロパティー』
- 406 ページの『PromptForLongShortNames プロパティー』
- 『PromptForZeroSuppression プロパティー』

PromptForZeroSuppression プロパティー

レポート利用者が、IBM Cognos ポータルに発行されたレポートにゼロ消去を適用または解除できるかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

DeploymentOptions.**PromptForZeroSuppression**

解説

レポートの行または列すべてが 0 (または 0 とランク・カテゴリー) を含み、この情報が不要な場合に使用します。これによって、レポートのサイズが縮小され、より読みやすくなります。レポートの利用者は、行または列、またはその両方で 0 を消去するかどうか選択することで、IBM Cognos ポータルに含まれるレポートをカスタマイズできます。

デフォルトでは、レポートの作成者が作成時に指定した消去モードがレポートで使用されます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートの利用者が IBM Cognos ポータルでレポートを開いたときに表示されるプロンプトを指定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 403 ページの『PromptForCurrency プロパティー』
- 405 ページの『PromptForDimension プロパティー』
- 406 ページの『PromptForLongShortNames プロパティー』

RefreshSubCube プロパティー

サブキューブを自動的に最新の情報に更新するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Application.**RefreshSubCube**

適用対象

Application オブジェクト

解説

"Refresh"サブキューブの設定を設定して、サブキューブの同期化が自動で実行されているかどうかを調べます。サブキューブとは、キューブの一部です。RefreshSubCube プロパティーは、プロパティー名の後にブール値があると、"Refresh"サブキューブの設定を設定します。次に例を示します。

```
ppObjApp.RefreshSubCube True
```

プロパティーの後にブール値がなければ、アプリケーションに設定されている現在の設定に戻ります。

True は、指定されたサブキューブが IBM Cognos PowerPlay によって自動的に更新されることを示します。False は、サブキューブが更新されずにキューブが開かれることを示します。

RefreshSubCube プロパティーは、サブキューブを開く前に設定します。サブキューブを更新しない場合にこのプロパティーが True に設定されていると、レポートは予測したものとは異なることがあります。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、サブキューブの同期化について、現在の設定を返します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp As Object
   Dim strSetting As String
   Set objPPApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   If objPPApp.RefreshSubCube = True Then
      strSetting = "True"
   Else
      strSetting = "False"
   End If
   MsgBox "The Refresh sub-cubes setting is " &strSetting
   Set objPPApp = Nothing
```

```
End Sub
```

関連トピック

- 79 ページの『第 4 章 メソッド』
- 283 ページの『第 5 章 プロパティー』

SaveAllCharts プロパティー

Graph オブジェクトすべてを PDF で保存するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

SaveAsPDF.**SaveAllCharts**

適用対象

SaveAsPDF オブジェクト

解説

現在アクティブな Graph オブジェクトと、レポートに含まれる Graph オブジェクトすべてのどちらを保存するかを決定します。True の場合は、PDF の同一ページに保存するページ・レイアウト、またはページ幅を基準にしたグラフすべてを表示します。False に設定すると、選択した Graph オブジェクトのみ、または現在アクティブな Graph オブジェクトが必要なページ数で PDF として保存されます。False に設定した場合は、SetChartToSave メソッドを使用して、保存するグラフを選択します。

レポートを PDF として保存するときは、このプロパティーが False に設定されている場合にのみ、次のプロパティーを使用できます。

- AxisOnAllPages
- ChartTitleOnAllPages
- IncludeLegend
- SetChartToSave
- SummariesOnAllPages

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、レポートの保存オプションを設定して PDF 形式で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPDF as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open( "c:\Cognos\sample.ppx" )
   objPPRep.visible( TRUE )
   Set objPDF = objPPRep.PDFFile( "c:\Cognos\PDFSample"
, True )
   With objPDF
      .SaveEntireReport = False
      .SaveAllCharts = True
      .AxisOnAllPages = True
      .ChartTitleOnAllPages = False
      .IncludeLegend = True
      .SetListOfLayersToSave objPPRep.Layers
      .SetListOfRowsToSave objPPRep.Rows
   End With
   objPDF.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPDF = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 237 ページの『Save メソッド』
- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』

Saved プロパティー

Report オブジェクトが保存されているかどうかを返します。

構文

Report.**Saved**

適用対象

Report オブジェクト

解説

True の場合は、レポートが保存されています。False の場合は、レポートが保存されていません。

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り

例

次の例は、開かれているレポートが保存されているかどうかを調べます。保存されていない場合は、マクロによって保存されます。

```
Sub Main()
   Dim objRep As Object
   Set objRep = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   MsgBox "The name of the current report is " &objRep.Name
   If objRep.Saved = False Then
      objRep.Save
      MsgBox "Changes to the report have been saved."
   Else
      MsgBox "No changes have been made to the report."
   End If
   objRep.Application.Activate
   Set objRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 40 ページの『Report オブジェクト』

SaveEntireReport プロパティー

レポート全体を PDF 形式で保存するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

SaveAsPDF.**SaveEntireReport**

適用対象

SaveAsPDF オブジェクト

解説

PDF の保存に関する他のプロパティーの設定状態にかかわらず、レポート全体を保存します。True の場合は、レポート全体が PDF として保存されます。レポートを Portable Document Format として保存するときに関連付けられている、他のプロパティー設定のすべてが上書きされます。False の場合は、他のプロパティーを設定して、保存する PDF の表示内容を決定できます。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、レポートの保存オプションを設定して PDF 形式で保存します。

```
Sub Main()
   Dim objPDF as Object
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open( "c:\Cognos\sample.ppx" )
   objPPRep.visible( TRUE )
   Set objPDF = objPPRep.PDFFile( "c:\Cognos\PDFSample"
, True )
   With objPDF
      .SaveEntireReport = False
      .SaveAllCharts = True
      .AxisOnAllPages = True
      .ChartTitleOnAllPages = False
      .IncludeLegend = True
      .SetListOfLayersToSave objPPRep.Layers
      .SetListOfRowsToSave objPPRep.Rows
   End With
   objPDF.Save
   Set objPPRep = Nothing
   Set objPDF = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 298 ページの『AxisOnAllPages プロパティー』
- 312 ページの『ChartTitleOnAllPages プロパティー』
- 345 ページの『IncludeLegend プロパティー』
- 411 ページの『SaveAllCharts プロパティー』
- 253 ページの『SetListOfLayersToSave メソッド』
- 255 ページの『SetListOfRowsToSave メソッド』
- 437 ページの『SummariesOnAllPages プロパティー』

SearchDescription プロパティー

FindQuery オブジェクトの使用時に、キューブに含まれるカテゴリーの説明を検索するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

FindQuery.**SearchDescription**

適用対象

FindQuery オブジェクト

解説

FindQuery オブジェクトを使用して、SearchDescription プロパティーで指定された検索文字列に一致する、キューブに含まれるカテゴリーを検索します。

長い名前または短い名前を検索するには、SearchDescription プロパティーを False に設定します。説明を検索するには、このプロパティーを True に設定します。FindQuery オブジェクトによって、検索テキストと一致するカテゴリー・ラベルのリストが返されます。

サブセット定義においては、コンポーネントの順序が重要です。最初に Dimension プロパティーを設定し、次に SearchShortName、SearchDescription、SearchText、および Pattern の各プロパティー、さらに Execute と AddToReport メソッドを指定します。Name プロパティーは、サブセット定義の任意の場所に設定できます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
```

```
    objPPRep.Visible = True
    Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
    With objFind
       .Name = "Find Star"
       .Dimension = "Products"
       .SearchShortName = False
       .SearchDescription = True
       .SearchText = "Star"
       .Pattern = 2
    End With
    Set objFind = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 417 ページの『SearchText プロパティー』

SearchShortName プロパティー

FindQuery オブジェクトの使用時に、短い形式または長い形式のどちらでカテゴリー名を検索するかを設定するか、設定状態を返します。

構文

FindQuery.**SearchShortName**

適用対象

FindQuery オブジェクト

解説

FindQuery オブジェクトを使用して、SearchText プロパティーで指定された検索文字列に一致する、キューブに含まれるカテゴリーを検索します。通常、この操作では、キューブ・データの短い名前に使用されるカテゴリー・ラベルが検索されます。長い名前を検索するには、False を設定します。

結果は、データの表示状態によって異なります。長い名前を指定すると、検索によって長い名前と一致するカテゴリー・ラベルのリストが返されます。同様に、短い名前を指定すると、短い名前が返されます。

説明を検索するには、このプロパティーを False に設定し、SearchDescription プロパティーを True に設定します。

サブセット定義においては、コンポーネントの順序が重要です。最初に Dimension プロパティーを設定し、次に SearchShortName、SearchDescription、SearchText、および Pattern の各プロパティー、さらに Execute と AddToReport メソッドを指定します。Name プロパティーは、サブセット定義の任意の場所に設定できます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
   End With
   Set objFind = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『SearchText プロパティー』

SearchText プロパティー

FindQuery クエリーのサブセット定義で使用される検索文字列を設定するか、設定状態を返します。

構文

FindQuery.**SearchText**

適用対象

FindQuery オブジェクト

解説

クエリーで検索するカテゴリーの名前を指定します。Find クエリー (キューブの検索) を実行する前に、SearchText プロパティーをテキストに設定します。Pattern プロパティーを使用して指定しない場合は、検索で大文字と小文字が区別されません。検索文字列には、サブセットを作成する文字が含まれている必要があります。検索はカテゴリー・ラベルにのみ適用され、データには適用されません。サブセット作成時に、指定された検索基準に一致するカテゴリーがない場合は、空のサブセットが返されます。

サブセット定義においては、コンポーネントの順序が重要です。最初に Dimension プロパティーを設定し、次に SearchShortName、SearchDescription、SearchText、および Pattern の各プロパティー、さらに Execute と AddToReport メソッドを指定します。Name プロパティーは、サブセット定義の任意の場所に設定できます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、「Star」で始まる製品すべてを検索する FindQuery (タイプ 1) サブセット定義を作成します。

```
Sub Main()
   Dim strCubePath As String
   Dim objPPRep As Object
   Dim objFind As Object
   strCubePath = "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New strCubePath, 1
   objPPRep.ExplorerMode = False
   objPPRep.Visible = True
   Set objFind = objPPRep.ReportQueries.Add(1)
   With objFind
      .Name = "Find Star"
      .Dimension = "Products"
      .SearchShortName = False
      .SearchText = "Star"
      .Pattern = 2
```

```
    End With
    Set objFind = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 416 ページの『SearchShortName プロパティー』

ShareDimensionLine プロパティー

開いているレポートがディメンション・ラインを共有するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ShareDimensionLine**

適用対象

Application オブジェクト

Report オブジェクト

解説

True に設定すると、最初のレポートでのディメンション・ラインの変更が、次のレポートに自動的に反映されます。

- 開いているレポート、または以降に開くレポート
- 同じ多次元キューブを共有するレポート
- Shared Dimensions コマンドがオンに設定されているレポート

False に設定すると、レポートのディメンション・ラインに対する変更は、他のレポートに反映されません。他の ShareDimensionLine プロパティーが True に設定されているレポートに対する変更も、このレポートに反映されません。

Report オブジェクトの ShareDimensionLine プロパティーが True に設定されると、Application オブジェクトのプロパティーの既存の設定は無視されます。また、Application オブジェクトの ShareDimensionLine プロパティーが True に設定されると、このプロパティーの設定後に作成されたレポートのみが影響を受けます。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay アプリケーションに含まれるレポートすべてについて、ShareDimensionLine プロパティーを True に設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp As Object
   Set objPPApp = CreateObject ("CognosPowerPlay.Application")
   objPPApp.Visible = True
   objPPApp.Activate
   objPPApp.ShareDimensionLine = True
   MsgBox objPPApp.ShareDimensionLine
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

ShareOf プロパティー

選択されたカテゴリーの値を上位レベルにあるカテゴリーの割合として表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

CategoryList.**ShareOf**

適用対象

CategoryList オブジェクト

解説

True の場合は、選択されたカテゴリー値を上位レベルにあるカテゴリーの割合で表示します。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートに含まれるカテゴリーを、上位レベルにあるカテゴリーの割合として設定します。

```
Sub Main
```

```
    Dim objPPRep as Object
    Dim objCatList as Object
    Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
    objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc"
    objPPRep.ExplorerMode = False
    objPPRep.Visible = True
    Set objCatList = objPPRep.CategoryList
    objCatList.Add 1, "Products" ,"Outdoor Products"
    objCatList.Each = False
    objCatList.ShareOf = True
    objPPRep.Columns.Add objCatList
    objCatList.Remove
    objCatList.Add 0, "Measures", "Revenue"
    objCatList.Each = True
    objCatList.ShareOf = False
    objPPRep.Rows.Add objCatList
    Set objCatList = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』

ShowSummaryBreakdown プロパティー (Explorer)

クロス集計に合計行および合計列の内訳を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ShowSummaryBreakdown**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

外部レベルの合計のそれぞれについて小計を表示します。このプロパティーを True に設定すると、レポートのクロス集計行と列の詳細から取得された自動小計が挿入されます。大量のデータが含まれるクロス集計では、レポートに含まれる情報の概要を表示するために集計データを使用できます。ネストされたクロス集計でこのプロパティーを True に設定すると、ネストされたレベル合計を見ることができます。

外部レベルの合計行または合計列それぞれの詳細を表示するには、ShowSummaryRow プロパティーまたは ShowSummaryColumn プロパティーのどちらか一方を True に設定し、ShowSummaryBreakdown プロパティーを True に設定する必要があります。合計のそれぞれに 1 行または 1 列のみを表示するには、ShowSummaryRow プロパティーまたは ShowSummaryColumn プロパティーを True に設定し、ShowSummaryBreakdown を False に設定します。合計行または合計列を非表示するには、ShowSummaryRow プロパティーまたは ShowSummaryColumn プロパティーを False に設定し、ShowSummaryBreakdown を True に設定します。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、ShowSummaryBreakdown プロパティーを False に設定して、クロス集計でネスト・カテゴリーの小合計を非表示にします。

```
Sub Main()
   Dim objCubeCategories As Object
   Dim objPPRep As Object
   Dim objGraph As Object
   Const level_0 = 0
   Const level_1 = 1
   Const add_to_current = 0
   Const add_to_all = 1
   Const as_parent = 0
   Const as_child = 1
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "D:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc",
-1
   objPPRep.ExplorerMode = True
   objPPRep.Visible = True
   Set objCubeCategories = objPPRep.CategoryList()
   objCubeCategories.Add level_1, "Locations"
   objPPRep.Rows.AddLevel objCubeCategories, level_0,
_
         add_to_all, as_child
   Set objGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objGraph.SetType 0
```

```
    objPPRep.Graphs.ShowSummaryRow = True
    objPPRep.Graphs(1).ShowSummaryBreakdown = False
    Set objCubeCategories = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『ShowSummaryColumn プロパティー (Explorer)』
- 424 ページの『ShowSummaryRow プロパティー (Explorer)』

ShowSummaryColumn プロパティー (Explorer)

合計列を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ShowSummaryColumn**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

True の場合は、合計列を表示します。False の場合は、合計列が非表示になります。

このプロパティーは円グラフでは使用できません。Explorer レポートにのみ適用されます。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、現在開かれているレポートにグラフを 2 つ追加し、レポートの 3 番目にあるグラフについて合計列を表示します。

```
Sub Main()
    Dim objPPRep As Object
    Set objPPRep = GetObject (, "CognosPowerPlay.Report")
```

```
    objPPRep.Graphs.Add 1
    objPPRep.Graphs.Add 2
    objPPRep.Graphs.ShowSummaryColumn = False
    objPPRep.Graphs(3).ShowSummaryColumn = True
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 63 ページの『Graphs』

ShowSummaryRow プロパティー (Explorer)

合計行を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ShowSummaryRow**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

True の場合は、合計行を表示します。False の場合は、合計行が非表示になります。

このプロパティーは円グラフ、棒グラフ、および相関グラフでは使用できません。Explorer レポートにのみ適用されます。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、現在開かれているレポートにグラフを 2 つ追加し、レポートの 3 番目にあるグラフについて合計列を表示します。

```
Sub Main()
    Dim objPPRep As Object
```

```
    Set objPPRep = GetObject (, "CognosPowerPlay.Report")
    objPPRep.Graphs.Add 1
    objPPRep.Graphs.Add 2
    objPPRep.Graphs.ShowSummaryRow = False
    objPPRep.Graphs(3).ShowSummaryRow = True
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 63 ページの『Graphs』

ShowTies プロパティー

ラベル連結を表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ShowTies**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

グラフには、軸のレベルを接続したり、連結できるものがあります。連結を表示するには、ShowTies プロパティーを True に設定します。

ShowTies は、円グラフ、散布グラフ、クロス集計、または 3D 棒グラフには適用されません。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートに含まれる適用可能な Graph オブジェクトに ShowTies プロパティーを設定します。

```
Sub Main()
```

```
   Dim objPPRep As Object
   Dim objGraph As Object
   Dim intx As Integer
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   intx=0
   Do
      intx=intx+1
      Set objGraph = objPPRep.Graphs.Item(intx)
      Select Case objGraph.Type
         Case 0,1,2,9
            MsgBox "ShowTies property does not apply
to " & _
                   "these graph types. "
         Case Else
            If objGraph.ShowTies = 0 Then
               objGraph.ShowTies = True
            Else
               objGraph.ShowTies = False
            End If
      End Select
   Loop Until intx = objPPRep.Graphs.Count
   Set objGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 431 ページの『StatsLineOn プロパティー』

ShowValuesAs プロパティー (Explorer)

レポートでの値の表示方法を設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**ShowValuesAs**

適用対象

Report オブジェクト

解説

ShowAs が取得できる値は、次のとおりです。

1= 値を数値として表示

2= 値を行合計に対する割合として表示

3= 値を列合計に対する割合として表示

4= 値をレイヤー合計に対する割合として表示

5= 値を総計に対する割合として表示

このプロパティーは、Report オブジェクトが Explorer モードの場合のみ有効です (ExplorerMode プロパティーが True に設定されている場合)。

タイプ

Long

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、開いているレポートを返し、値を総計に対する割合として表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = GetObject (, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objPPRep.ExplorerMode = True
   objPPRep.ShowValuesAs(5)
   objRepPrt.PrintOut
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

StatsLineCaption プロパティー

グラフに含まれる統計線のタイトルを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**StatsLineCaption**(LineNumber)

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

多くのグラフでは、販売統計の棒グラフに平均値の線を重ね合わせるなど、統計線を追加して強調できます。StatsLineOn プロパティーで指定された最大 3 本の線が追加できます。自動的に生成された凡例に、各統計線の説明が表示されます。StatsLineCaption は、凡例に線のラベルを設定します。

設定しない場合は、"Maximum"などのデフォルトの線種が使用されます。

適用できるグラフ・タイプは、棒グラフ、クラスター・グラフ、相関グラフ、単線グラフ、複線グラフ、および散布グラフです。

パラメーター	説明
LineNumber	必須。参照する統計線を指定します。 1 = 最小値を表す線 (デフォルト・タイトル:Minimum) 2 = 最大値を表す線 (デフォルト・タイトル:Maximum) 3 = 平均値を表す線 (デフォルト・タイトル:Mean) 4 = 標準偏差を表す線 (デフォルト・タイトル:Standard Deviation) 5 = 回帰線 (デフォルト・タイトル:Regression) 6 = カスタムを表す線 1 (デフォルト・タイトル:Custom 1) 7 = カスタムを表す線 2 (デフォルト・タイトル:Custom 2) タイプ:Short

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトをクラスター・グラフ・タイプに設定し、カスタムの統計線を表示します。カスタム線は Limit として参照し、「100,000」に設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPGraph As Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 4,1,1
      .StatsLineOn 6,True        'custom line
```

```
      .StatsLineColor 6,2        'green
      .StatsLineStyle 6,1        'dashed style
      .StatsLineUserValue 6,100000
      .StatsLineCaption 6,"Limit"
   End With
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『StatsLineColor プロパティー』
- 431 ページの『StatsLineOn プロパティー』
- 432 ページの『StatsLineStyle プロパティー』
- 434 ページの『StatsLineUserValue プロパティー』

StatsLineColor プロパティー

グラフに含まれる統計線の色を設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**StatsLineColor(LineNumber)**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

多くのグラフでは、統計線を追加して強調できます。統計線の色を変更するには、StatsLineColor プロパティーを使用します。このプロパティーを Color パラメーターを指定せずに使用すると、現在の色が返されます。

StatsLineOn プロパティーで指定された最大 3 本の線が追加できます。

適用できるグラフ・タイプは、棒グラフ、クラスター・グラフ、相関グラフ、単線グラフ、複線グラフ、および散布グラフです。

デフォルト: 0

パラメーター	説明
LineNumber	必須。参照する統計線を指定します。 1 = 最小値を表す線 2 = 最大値を表す線 3 = 平均値を表す線 4 = 標準偏差を表す線 5 = 回帰線 6 = カスタムを表す線 1 7 = カスタムを表す線 2 タイプ:Integer

タイプ

整数

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトをクラスター・グラフ・タイプに設定し、カスタムの統計線を表示します。カスタム線は Limit として参照し、「100,000」に設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPGraph As Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 4,1,1
      .StatsLineOn 6,True        'custom line
      .StatsLineColor 6,2        'green
      .StatsLineStyle 6,1        'dashed style
      .StatsLineUserValue 6,100000
      .StatsLineCaption 6,"Limit"
   End With
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 427 ページの『StatsLineCaption プロパティー』
- 431 ページの『StatsLineOn プロパティー』
- 432 ページの『StatsLineStyle プロパティー』
- 434 ページの『StatsLineUserValue プロパティー』

StatsLineOn プロパティー

グラフの統計線を設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**StatsLineOn**(LineNumber)

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

多くのグラフでは、統計線を追加して強調できます。オンまたはオフに設定するため統計線のタイプを取得するには、StatsLineOn プロパティーを使用します。Switch プロパティーをパラメーターを指定せずに使用すると、現在のブール値が返されます。

StatsLineOn プロパティーで指定された最大 3 本の線が追加できます。

適用できるグラフ・タイプは、棒グラフ、クラスター・グラフ、相関グラフ、単線グラフ、複線グラフ、および散布グラフです。

パラメーター	説明
LineNumber	必須。参照する統計線を指定します。 1 = 最小値線: 最小値を表示する線 2 = 最大値線: 最大値を表示する線 3 = 平均値線: 平均値を表示する線 4 = 標準偏差線: あらかじめ定義された平均からの逸脱を表示する 2 本の線 5 = 回帰線: 対数回帰線 6 = カスタムを表す線 1 7 = カスタムを表す線 2 タイプ:Short

戻り値のタイプ

Long

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトをクラスター・グラフ・タイプに設定し、カスタムの統計線を表示します。カスタム線は Limit として参照し、「100,000」に設定します。

```
Sub Main()
```

```
    Dim objPPRep As Object
    Dim objPPGraph As Object
    Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
    Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
    With objPPGraph
       .SetType 4,1,1
       .StatsLineOn 6,True        'custom line
       .StatsLineColor 6,2        'green
       .StatsLineStyle 6,1        'dashed style
       .StatsLineUserValue 6,100000
       .StatsLineCaption 6,"Limit"
    End With
    Set objPPGraph = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 427 ページの『StatsLineCaption プロパティー』
- 429 ページの『StatsLineColor プロパティー』
- 『StatsLineStyle プロパティー』
- 434 ページの『StatsLineUserValue プロパティー』

StatsLineStyle プロパティー

グラフに含まれる統計線のスタイルを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**StatsLineStyle**(LineNumber)

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

多くのグラフでは、統計線を追加して強調できます。統計線のスタイルを変更するには、StatsLineStyle プロパティーを使用します。このプロパティーを Style パラメーターを指定せずに使用すると、現在のスタイルが返されます。

StatsLineOn プロパティーで指定された最大 3 本の線が追加できます。

適用できるグラフ・タイプは、棒グラフ、クラスター・グラフ、相関グラフ、単線グラフ、複線グラフ、および散布グラフです。

デフォルト: 0

パラメーター	説明
LineNumber	必須。参照する統計線を指定します。 1 = 最小値を表す線 2 = 最大値を表す線 3 = 平均値を表す線 4 = 標準偏差を表す線 5 = 対数回帰線 6 = カスタムを表す線 1 7 = カスタムを表す線 2 8 = 線形回帰線 タイプ:Short

タイプ

整数

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトをクラスター・グラフ・タイプに設定し、カスタムの統計線を表示します。カスタム線は Limit として参照し、「100,000」に設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPGraph As Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 4,1,1
      .StatsLineOn 6,True        'custom line
      .StatsLineColor 6,2        'green
      .StatsLineStyle 6,1        'dashed style
      .StatsLineUserValue 6,100000
      .StatsLineCaption 6,"Limit"
   End With
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
```

```
End Sub
```

関連トピック

- 427 ページの『StatsLineCaption プロパティー』
- 429 ページの『StatsLineColor プロパティー』
- 431 ページの『StatsLineOn プロパティー』
- 『StatsLineUserValue プロパティー』

StatsLineUserValue プロパティー

グラフの統計線にカスタム値を設定します。

構文

object.**StatsLineUserValue**(LineNumber)

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

グラフでは、統計線を追加して強調できます。販売統計の棒グラフに割り当て線を重ね合わせるなど、値を選択して統計線を追加するには、StatsLineUserValue プロパティーを使用します。StatsLineOn プロパティーで指定された最大 3 本の線が追加できます。このプロパティーを Value パラメーターを指定せずに使用すると、現在の値が返れます。

適用できるグラフ・タイプは、棒グラフ、クラスター・グラフ、相関グラフ、単線グラフ、複線グラフ、および散布グラフです。

デフォルト: 0

パラメーター	説明
LineNumber	必須。参照するカスタム統計線を指定します。 6 = カスタムを表す線 1 7 = カスタムを表す線 2 タイプ:Short

タイプ

Double

アクセス

書き込み

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトをクラスター・グラフ・タイプに設定し、カスタムの統計線を表示します。カスタム線は Limit として参照し、「100,000」に設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPGraph As Object
   Set objPPRep = GetObject(, "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 4,1,1
      .StatsLineOn 6,True        'custom line
      .StatsLineColor 6,2        'green
      .StatsLineStyle 6,1        'dashed style
      .StatsLineUserValue 6,100000
      .StatsLineCaption 6,"Limit"
   End With
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 427 ページの『StatsLineCaption プロパティー』
- 429 ページの『StatsLineColor プロパティー』
- 431 ページの『StatsLineOn プロパティー』
- 432 ページの『StatsLineStyle プロパティー』

Style プロパティー

カテゴリー、ハイライトの範囲、またはカテゴリーのセットに使用されるスタイルを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**Style**

適用対象

Column オブジェクト

Columns

Layer オブジェクト

Layers

Row オブジェクト

Rows

解説

適用できるのは、既存のスタイルのみです。スタイルが存在しないと、エラーが発生します。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み (Row、Column、Layer)

書き込み (Rows、Columns、Layers)

例

次の例は、特定のスタイルをレポートに含まれる行すべてに適用します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample.ppx.ppx"
   objPPRep.Rows.Style = "Good News"
   objPPRep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Sum プロパティー

選択されたカテゴリーの合計を計算するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

CategoryList.**Sum**

適用対象

CategoryList オブジェクト

解説

True の場合、選択されたカテゴリーの合計を表示する新規カテゴリーが作成されます。False の場合、合計は計算されません。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、カテゴリーを列と行に追加し、レポートに含まれるカテゴリーの合計を計算します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objCatList as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.New "C:\Cubes and Reports\Great " & _
      "Outdoors.mdc", False
   Set objCatList = objPPRep.CategoryList
   objPPRep.Visible = True
   objCatList.Add 1, "Products", "Outdoor Products"
   objPPRep.Columns.Add objCatList
   objCatList.Add 1, "Locations", "Far East"
   objPPRep.Rows.Add objCatList
   MsgBox "The sum of the categories is " &objCatList.Sum
   Set objCatList = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 14 ページの『CategoryList オブジェクト』

SummariesOnAllPages プロパティー

既存の合計を、印刷されたレポートの全ページに表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**SummariesOnAllPages**

適用対象

Print オブジェクト

解説

印刷するレポートに表示する詳細の程度を決定します。True の場合、合計カテゴリーがある場合は、レポートの各印刷ページに表示されます。False の場合、合計カテゴリーが印刷されるレポートの最後のページにのみ表示されます。

このプロパティーは、PrintAllCharts プロパティーが False に設定されている場合のみ使用します。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、レポートを開いて、2 番目のグラフのみに含まれるすべてのデータを 1 部印刷します。全ページにタイトル、合計カテゴリー、および軸を印刷します。また、部単位で印刷するオプションをオンにして、印刷レポートから凡例を除外します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample2.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(2)
   objRepPrt.IncludeLegend = True
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.Copies = 1
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
```

```
End Sub
```

関連トピック

- 217 ページの『Print メソッド』

SummaryColumnOnAllPages プロパティー

PDF の全ページに、合計列カテゴリーを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**SummaryColumnOnAllPages**

適用対象

SaveAsPDF オブジェクト

解説

PDF に印刷するレポートに表示する詳細の程度を決定します。レポートを PDF として保存すると、Print オブジェクトのプロパティーが PDF オプションで置換されます。

True の場合、合計列カテゴリーがレポートの各ページに表示されます。False の場合、合計列カテゴリーがレポートの最後のページにのみ表示されます。

レポートを PDF ファイルとして保存するときにこのプロパティーを使用するには、SaveAllCharts プロパティーが False に設定されている必要があります。

このプロパティーは、Explorer レポートでのみ有効です。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、Upfront に発行するレポートの各ページに合計列が表示されるように設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
```

```
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension(1) = True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension(2)= True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension("Years")=
True
   objDeploymentOptions.SummaryColumnOnAllPages = True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 217 ページの『Print メソッド』
- 397 ページの『PrintAllCharts プロパティー』
- 411 ページの『SaveAllCharts プロパティー』
- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』

SummaryRowOnAllPages プロパティー

PDF の全ページに、合計行カテゴリーを表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**SummaryRowOnAllPages**

適用対象

SaveAsPDF オブジェクト

解説

PDF に印刷するレポートに表示する詳細の程度を決定します。レポートを PDF として保存すると、Print オブジェクトのプロパティーが PDF オプションで置換されます。

True の場合、合計行カテゴリーがレポートの各ページに表示されます。False の場合、合計行カテゴリーがレポートの最後のページにのみ表示されます。

レポートを PDF ファイルとして保存するときにこのプロパティーを使用するには、SaveAllCharts プロパティーが False に設定されている必要があります。

このプロパティーは、Explorer レポートでのみ有効です。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、Upfront に発行するレポートの各ページに合計行が表示されるように設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension(1) = True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension(2)= True
   objDeploymentOptions.PromptForDimension("Years")=
True
   objDeploymentOptions.SummaryRowOnAllPages = True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 217 ページの『Print メソッド』
- 397 ページの『PrintAllCharts プロパティー』
- 411 ページの『SaveAllCharts プロパティー』
- 413 ページの『SaveEntireReport プロパティー』

Suppress8020 プロパティー (Explorer)

レポート・ディメンションを 80/20 消去モードに設定するか設定状態を返します。

構文

Report.**Suppress8020**

適用対象

Report オブジェクト

解説

ビジネス数値データに大きく貢献しているカテゴリーを識別し、重要性の低いカテゴリーに集計を適用して、レポートの焦点を絞り込む場合に使用します。このプロパティーを設定すると、無意味な行や列を、"その他"と呼ばれる単一のカテゴリーにグループ化できます。80/20 消去とは、サンプルの 20% が、情報の 80% に貢献しているという意味です。そのため、レポートのデータ表示は、カテゴリーの数や分布に応じて異なります。

行または列、またはその両方に含まれる重要性の低い情報を消去できます。選択したディメンションに関係なく、80/20 消去の割合はレポートに含まれるレイヤーすべてに適用されます。このプロパティーには、4 つの設定があります。

- 0 (オフ)
- 1 (行のみ)
- 2 (列のみ)
- 3 (行と列)

カテゴリーすべてが大きく貢献していると、"その他"カテゴリーが追加されない場合もあります。

"その他"カテゴリーは、ドリル、ランク、挿入、削除することはできません。また、レポートのディメンションに複数の数値データが含まれている場合は、80/20 消去を適用できません。

ハイライトを適用して、"その他"カテゴリーを選択できます。

行、列、またはレイヤーに沿って存在する"その他"カテゴリーは、すべて特性 (書式設定、名前、および非表示設定を含む) を共有します。また、ネスト、フィルター、またはドリルされたレポートに含まれる"その他"カテゴリーのそれぞれに、異なる書式設定を適用することはできません。

デフォルト: 0

タイプ

整数

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay レポートを開いて、Suppress8020 プロパティーを行と列に適用します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
```

```
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open ("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
   objPPRep.ExplorerMode = True
   objPPRep.Visible = True
   objPPRep.ShowValuesAs = 2
   objPPRep.ShareDimensionLine = 1
   objPPRep.Suppress8020 = 3
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『SuppressZeros プロパティー』

SuppressZeros プロパティー

Report オブジェクトを消去モードに設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**SuppressZeros**

適用対象

Report オブジェクト

解説

消去モードを設定し、モードに基づいて消去、または非消去の操作を実行します。

次の値を返します。

- 1 (消去しない)
- 2 (行と列を消去)
- 3 (行のみ消去)
- 4 (列のみ消去)

タイプ

Long

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、 IBM Cognos PowerPlay レポートを開き、行にのみ SuppressZeros プロパティーを True に設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = CreateObject ("CognosPowerPlay.Report")
```

```
   objPPRep.Open ("C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx")
   objPPRep.Visible (1)
   objPPRep.ShowValuesAs (2)
   objPPRep.ShareDimensionLine (1)
   objPPRep.SuppressZeros (3)
   objPPrep.Save
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 40 ページの『Report オブジェクト』

Threshold プロパティー

Print オブジェクトの最大印刷ページ範囲を設定するか、設定状態を返します。

構文

Print.**Threshold**

適用対象

Print オブジェクト

解説

オートメーション・スクリプトで、印刷するページ数を制限します。ユーザー・インターフェースから印刷する場合は、このプロパティーは影響しません。また、部数は、最大印刷範囲の制限に影響しません。

デフォルト: 999

タイプ

整数

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、Print オブジェクトの上限印刷枚数を 10 ページに設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objRepPrt as Object
   Set objPPRep = CreateObject("CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Open "C:\Cubes and Reports\Sample1.ppx"
   Set objRepPrt = objPPRep.Print
   objRepPrt.Threshold = 10
```

```
   objRepPrt.PrintAllCharts = False
   objRepPrt.SetListOfRowsToPrint objPPrep.Rows
   objRepPrt.SetListOfLayersToPrint objPPRep.Layers
   objRepPrt.SetChartToPrint objPPRep.Graphs.Item(1)
   objRepPrt.IncludeLegend = False
   objRepPrt.ChartTitleOnAllPages = True
   objRepPrt.SummariesOnAllPages = True
   objRepPrt.AxisOnAllPages = True
   objRepPrt.Collate = True
   objRepPrt.PrintOut
   Set objRepPrt = Nothing
   Set objPPrep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 36 ページの『Print オブジェクト』

TitleText プロパティー

レポートのタイトルに含まれるテキストを設定するか、設定状態を返します。

構文

Report.**TitleText(Format)**

適用対象

Report オブジェクト

解説

レポートのタイトルに含まれる完全なテキストを設定するか、設定状態を返します。タイトルに追加できる行数には制限がないため、タイトルに含まれている情報の一部がレポートに表示または印刷されない場合があります。オートメーションを使用すると、レポートの作成者がタイトルに含め、ユーザーに対しては非表示にした情報を確認することができます。レポートのタイトルは、テキスト形式または HTML 形式で設定するか、設定状態を返すことができます。

タイトルをテキスト形式に設定すると、タイトルは左揃えになり、フォントのサイズ、色、およびタイプにデフォルトが使用されます。タイトルに複数の行を指定するには、改行文字の ASCII 値である chr$ (10) をタイトルの行間に使用します。

レポートのタイトルに HTML を使用するように設定すると、複雑な書式設定を指定できます。フォントのサイズ、色、およびタイプを指定し、タイトル・テキストの位置揃えを指定できます。たとえば、次のコードを使用すると、タイトル・テキストが右揃えになり、フォントのサイズおよび色が指定されます。

```
strTitle = "<P ALIGN=""Right""><FONT SIZE=6 COLOR=""#0000FF"">"
+ "MyNewTitle center<BR>On a New Line"
```

HTML タグを文字列に割り当てるときは、引用符のセットを 2 つ使用し、HTML タグに含まれる文字を、文字列の終了を示す引用符と区別します。たとえば、<P ALIGN="Right"> を文字列に割り当てるには、次の構文を使用します。

```
objPPRep.TitleText(2) = "<P ALIGN=""Right"">"
```

外部エディターを使用して HTML を指定する場合は、レポート・タイトルに目的の書式を設定するために、HTML を変更しなければならない場合があります。

レポート・タイトルには、IBM Cognos PowerPlay の変数、または指定された値に拡張された変数を含めることができます。変数を指定するには、次の構文を使用します。

```
[PPVAR]Variable[PPVAR]
```

たとえば、次のようになります。

```
objPPRep.TitleText(1) = "[PPVAR]Page #[PPVAR]"
```

変数または拡張された変数の値を返すことができます。指定された値に拡張された変数を返すには、テキストの場合はパラメーター値 11 を使用し、HTML の場合は 12 を使用します。

たとえば、次のようになります。

```
objPPRep.TitleText(1) = "Report Printed [PPVAR]Date(ddd,
dd MMM, yyy)[PPVAR]"

MsgBox objPPRep.TitleText(1)
```

戻り値

Report Printed [PPVAR]Date(ddd, dd MMM, yyy)[PPVAR]

```
MsgBox objPPRep.TitleText(11)
```

戻り値

Report Printed Thursday, 13 January, 2000

パラメーター	説明
Format	オプション。レポートのタイトルに含まれるテキストの書式を指定します。指定しない場合は、テキストと変数が返されます。 有効な設定値と戻り値: 1 = テキスト 2 = HTML 有効な戻り値: 11 = 拡張された変数のテキスト 12 = 拡張された変数の HTML デフォルト: 1 タイプ:Integer

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、開かれているレポートのタイトルに 3 行のテキストを指定し、完全なタイトルと日付を返します。

```
Sub Main()
   Dim objRep As Object
   Dim strTitleTextLine1 as String
   Dim strTitleTextLine2 as String
   Dim strTitleTextLine3 as String
   Dim strNewLine as String
   Set objRep = GetObject( ,"CognosPowerPlay.Report")
   strTitleTextLine1 = "Annual Sales Report"
   strTitleTextLine2 = "Northwest Region"
   strTitleTextLine3 = "[PPVAR]Date(dddd, MMMM dd, yyyy)[PPVAR]"
   strNewLine = chr$(10)
   objRep.TitleText(1) = strTitleTextLine1 + chr$(10)
_
       +  strTitleTextLine2 + chr$(10) + strTitleTextLine3
   MsgBox "The report title text is:  " _
      &objRep.TitleText(11)
   objRep.Save
   Set objRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 337 ページの『FooterText プロパティー』
- 342 ページの『HeaderText プロパティー』
- 40 ページの『Report オブジェクト』
- 73 ページの『Reports』

TopLevelCategory プロパティー (Explorer)

コレクションのディメンション名を返します。

構文

collection.**TopLevelCategory**

適用対象

Columns

Layers

Rows

解説

レポートで選択したカテゴリーが属するディメンションの名前を決定します。ディメンション名が返されると、ビジネスの特定要素 (製品、日付、市場など) のデータを識別できます。

このプロパティーは、Explorer レポートにのみ適用されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、開く Explorer レポートに含まれる行と列が、どのディメンションからのものなのかを示すメッセージ・ボックスを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objRows As Object
   Dim objCols As Object
   Set objPPRep = GetObject (,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objRows = objPPRep.Rows
   Set objCols = objPPRep.Columns
   MsgBox "Rows are from dimension: " _
      &objRows.TopLevelCategory
   MsgBox "Columns are from dimension: " _
      &objCols.TopLevelCategory
   Set objRows = Nothing
   Set objCols = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 59 ページの『列』
- 66 ページの『Layers』
- 74 ページの『行』

TopLevelParentCategory プロパティー

オブジェクトのディメンション名を返します。

構文

object.**TopLevelParentCategory**

適用対象

Column オブジェクト

Layer オブジェクト

Row オブジェクト

解説

カテゴリーが属するディメンションの名前を取得します。

カテゴリーが最上位にある場合、または算出式の場合は、空の文字列が返されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、開くレポートに含まれる第 2 行と第 2 列が、どのディメンションからのものなのかを示すメッセージ・ボックスを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Dim objRow As Object
   Dim objCol As Object
   Set objPPRep = GetObject (,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objRow = objPPRep.Rows(2)
   Set objCol = objPPRep.Columns(2)
   MsgBox objRow.Name & " is from dimension: " _
      &objRow.TopLevelParentCategory
   MsgBox objCol.Name & " is from dimension: " _
      &objCol.TopLevelParentCategory
   Set objRow = Nothing
   Set objCol = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 16 ページの『Column オブジェクト』
- 30 ページの『Layer オブジェクト』
- 45 ページの『Row オブジェクト』

Type プロパティー

Graph オブジェクト・タイプまたは Query オブジェクト・タイプを返します。

構文

object.**Type**

適用対象

AdvancedQuery オブジェクト

FindQuery オブジェクト

Graph オブジェクト

ParentageQuery オブジェクト

解説

Graph オブジェクトの表示タイプを識別するには、次のリストを使用します。

- 0 (クロス集計)
- 1 (円)
- 2 (3D)
- 3 (棒)
- 4 (クラスター)
- 5 (積み上げ)
- 6 (線)
- 7 (複線)
- 8 (相関)
- 9 (散布)

Set オブジェクトの Query タイプを識別するには、次のリストを使用します。

- 1 = FindQuery
- 2 = ParentageQuery
- 3 = AdvancedQuery
- 4 = ValueRestriction

Graph オブジェクトは、ユーザー・インターフェースでの表示と同じです。

戻り値のタイプ

Long

例

次の例は、最初の Graph オブジェクトの表示タイプを 3 次元クラスター・グラフに変更し、Graph オブジェクトの設定を開いているレポートに表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGph as Object
   Set objPPRep = GetObject( , "CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objPPGph.SetType 4, 1, 1
   MsgBox "The Graph object type is " & objPPGph.Type
& "."
   If objPPGph.Depth = -1 Then
      MsgBox "The graph is not 3D."
   Else
       MsgBox "The graph is  3D."
   End If
   Set objPPGph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 173 ページの『Graphs メソッド』

UpperBoundary プロパティー

Range オブジェクトの上限として定義される値を設定するか、設定状態を返します。

構文

Range.**UpperBoundary**

適用対象

Range オブジェクト

解説

レポートに含まれる情報がハイライト範囲で設定された条件を満たすときの、書式設定を適用する上限を決定します。上限によって、範囲の最大値が設定されます。たとえば、$50,000 を超えない売上高をハイライトすることができます。

範囲の下限を決定するには、LowerBoundary プロパティーを使用します。

タイプ

Variant

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、Exception オブジェクトに含まれる範囲の上限を表示します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep As Object
   Dim objPPRange As Object
   Set objPPRep = GetObject("C:\Cubes and Reports\Exception.ppx")
   objPPRep.Visible = 1
   Set objPPRange = objPPRep.Exceptions.item(1).Ranges.Item(1)
   MsgBox "Upper boundary is " &objPPRange.UpperBoundary
   Set objPPRange = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 39 ページの『Range オブジェクト』

UseFontSubstitution プロパティー

IBM Cognos ポータル に発行されたレポートに、全フォント情報を保存するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

DeploymentOptions.**UseFontSubstitution**

解説

システムで使用できないフォントを代用フォントで置換します。True の場合、レポートを IBM Cognos ポータルに発行すると、見つからないフォントにサイズと外観が最も近い、代替のシステム・フォントが DeploymentOptions オブジェクトに含められます。False の場合、フォントの置換はされず、必要なフォントがインストールされていないコンピューターでレポートを開いた場合にも、レポートはオリジナルと完全に同じ状態で表示されます。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、IBM Cognos ポータルに発行するレポートに対して、システム・フォントの使用を含めた実装オプションを設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep as Object
   Dim objDeploymentOptions as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objDeploymentOptions = objPPRep.DeploymentOptions
   objDeploymentOptions.PromptForCurrency = True
   objDeploymentOptions.PromptForLongShortNames = True
   objDeploymentOptions.PromptForZeroSuppression = True
   objDeploymentOptions.PromptForSwapRowsAndColumns =
True
   objDeploymentOptions.SelectAllDimensions
   objDeploymentOptions.UseFontSubstitution = True
   objPPRep.Save
   Set objDeploymentOptions = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 245 ページの『SetChartToPrint メソッド』
- 251 ページの『SetListOfLayersToPrint メソッド』
- 254 ページの『SetListOfRowsToPrint メソッド』

UserControl プロパティー

Application オブジェクトがユーザーの制御下にあるかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

Application.**UserControl**

適用対象

Application オブジェクト

解説

True の場合、最後のレポートが閉じられたときに、Application オブジェクトが閉じないように設定します。False の場合、最後のレポートが閉じられたときに、Application オブジェクトは非表示になります。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は、開いているレポートの制御をユーザーに渡します。

```
Sub Main()
   Dim objPPApp As Object
   Dim objTest As Object
   Set objPPApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPApp.Visible = True
   Set objTest = objPPApp.Reports.Add _
      ("C:\Cubes and Reports\Great Outdoors.mdc")
   Set objTest = objPPApp.Reports.Open _
      ("C:\Cubes and Reports\Exception.ppx")
   Msgbox "The number of reports in the collection is
" _
      &objPPApp.Reports.Count
   Msgbox "The name of the first report in the collection
is " _
      &objPPApp.Reports(1).Name
   objPPApp.Reports(1).Visible = True
   MsgBox objPPApp.UserControl
   Set objTest = Nothing
   Set objTest = Nothing
   Set objPPApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』

UserColumnSummaryLabel プロパティー

ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計列について、ユーザー定義のラベルを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**UserColumnSummaryLabel**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

合計列のラベルを定義します。列に対してデフォルトのカテゴリー・ラベルを使用する代わりに UserColumnSummaryLabel プロパティーを使用するには、EnableUserColumnSummaryLabel プロパティーを True に設定します。

ShowSummaryColumn プロパティーが True の場合のみ、クロス集計レポートに列ラベルが表示されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、行と列に対してユーザー定義の合計ラベルを使用するように、Graph オブジェクトをリセットします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objPPGraph.EnableUserColumnSummaryLabel = True
   objPPGraph.UserColumnSummaryLabel = "Summary Total"
   objPPGraph.EnableUserRowSummaryLabel = True
   objPPGraph.UserRowSummaryLabel = "Summary Total"
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 331 ページの『EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー』
- 333 ページの『EnableUserRowSummaryLabel プロパティー』

UserRowSummaryLabel プロパティー

ネストされたクロス集計に含まれる最も内側の合計行について、ユーザー定義のラベルを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**UserRowSummaryLabel**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

合計行のラベルを定義します。行に対してデフォルトのカテゴリー・ラベルを使用する代わりに UserRowSummaryLabel プロパティーを使用するには、EnableUserRowSummaryLabel プロパティーを True に設定します。

ShowSummaryRow プロパティーが True の場合のみ、クロス集計レポートに行ラベルが表示されます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、行と列に対してユーザー定義の合計ラベルを使用するように、Graph オブジェクトをリセットします。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   objPPGraph.EnableUserColumnSummaryLabel = True
   objPPGraph.UserColumnSummaryLabel = "Summary Total"
   objPPGraph.EnableUserRowSummaryLabel = True
   objPPGraph.UserRowSummaryLabel = "Summary Total"
   Set objPPGraph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 331 ページの『EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー』
- 333 ページの『EnableUserRowSummaryLabel プロパティー』

UseScrolling プロパティー

スクロールを可能にするかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**UseScrolling**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

スクロール機能をオンまたはオフにします。値が True (-1) の場合、グラフ棒の合計数が最大表示数を超えると、スクロールが可能になります。値が False (0) の場合、スクロールは使用できません。

このプロパティーが False の場合は、IBM Cognos PowerPlay では、グラフ棒の最大数 5000 個の範囲内で、すべてのデータをグラフ化する試みがなされます。この制限を超えると、警告メッセージが表示されます。

スクロールは、クロス集計、3D 棒グラフ、散布グラフ、および円グラフでは使用できません。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートのスクロール・バー設定を変更します。スクロール機能を True に、グラフ棒の最大表示数を 6 に、グラフ棒の最大印刷数を 10 に設定し、合計カテゴリーをレポートの最後まで非表示にします。

```
Sub Main()
   Dim objPPRep As Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   objPPRep.Graphs.Item(1).UseScrolling = TRUE
   objPPRep.Graphs.Item(1).MaxVisibleBars = 6
   objPPRep.Graphs.Item(1).MaxPrintedBars = 10
   objPPRep.Graphs.Item(1).KeepSummaryVisible = FALSE
   Set objPPRep = Nothing
```

```
End Sub
```

関連トピック

- 27 ページの『Graph オブジェクト』
- 63 ページの『Graphs』

ValuesAutoFit プロパティー

値ラベルをグラフ棒や円セグメントの中に収めるかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ValuesAutoFit**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

グラフを作成するとき、関連する数値をグラフ棒や円グラフのセクションに表示できます。値を表示するには、ValuesShown プロパティーを True に設定します。ValuesAutoFit プロパティーを True に設定すると、数値ラベルが使用可能なグラフ棒や円の幅に収まるように自動調節されます。ValuesAutoFit プロパティーでは指定されたフォントが使用されますが、値が収まるようにサイズが調節されます (使用される最大サイズは、指定したフォント・サイズです)。False に設定すると、デフォルトのフォント・サイズによって、数値がグラフ棒や他のラベルと重なって表示されることがあります。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートで最初の Graph オブジェクトを水平棒グラフに設定し、グラフ棒の上に値が表示されるようにプロパティーを設定します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
```

```
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 3,0,0
      .ValuesShown = True
      .ValuesPosition = 0
      .ValuesAutoFit = True
      .ValuesFontColor = 10
      .ValuesFontSize = 10
      .ValuesFontName = "Times New Roman"
   End With
   Set objPPGRaph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 『ValuesFontColor プロパティー』
- 461 ページの『ValuesFontName プロパティー』
- 462 ページの『ValuesFontSize プロパティー』
- 465 ページの『ValuesPosition プロパティー』
- 466 ページの『ValuesShown プロパティー』

ValuesFontColor プロパティー

グラフの値ラベルに使用するフォント色を設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ValuesFontColor**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

グラフ棒、円グラフのセクション、または単線グラフに関連付けられた色の数値を、変更または表示します。値を表示するには、ValuesShown プロパティーを True に設定します。

フォント色は、次のとおりです。

0 = 黒

1 = 茶

2 = 緑

3 = オリーブ

4 = 濃紺

5 = 紫

6 = 緑青

7 = 灰色

8 = シルバー

9 = 赤

10 = ライム

11 = 黄

12 = 青

13 = ピンク

14 = 水色

15 = 白

デフォルト:0 (黒)

タイプ

Long

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートで最初の Graph オブジェクトを水平棒グラフに設定し、グラフ棒の上に値が表示されるようにプロパティーを設定します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 3,0,0
      .ValuesShown = True
      .ValuesPosition = 0
      .ValuesAutoFit = False
```

```
        .ValuesFontColor = 10
        .ValuesFontSize = 10
        .ValuesFontName = "Times New Roman"
    End With
    Set objPPGRaph = Nothing
    Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 458 ページの『ValuesAutoFit プロパティー』
- 『ValuesFontName プロパティー』
- 462 ページの『ValuesFontSize プロパティー』
- 465 ページの『ValuesPosition プロパティー』
- 466 ページの『ValuesShown プロパティー』

ValuesFontName プロパティー

グラフの値ラベルに使用するフォント名を設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ValuesFontName**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

グラフを作成するとき、関連する数値をグラフ棒、円グラフのセクション、または折れ線グラフに表示できます。値を表示するには、ValuesShown プロパティーを True に設定します。現在のフォント・タイプを変更するには、ValuesFontName プロパティーを使用します。フォント・サイズを変更するには、ValuesFontSize プロパティーを使用します。

デフォルト:Arial

タイプ

文字列

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートで最初の Graph オブジェクトを水平棒グラフに設定し、グラフ棒の上に値が表示されるようにプロパティーを設定します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 3,0,0
      .ValuesShown = True
      .ValuesPosition = 0
      .ValuesAutoFit = False
      .ValuesFontColor = 10
      .ValuesFontSize = 10
      .ValuesFontName = "Times New Roman"
   End With
   Set objPPGRaph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 458 ページの『ValuesAutoFit プロパティー』
- 459 ページの『ValuesFontColor プロパティー』
- 『ValuesFontSize プロパティー』
- 465 ページの『ValuesPosition プロパティー』
- 466 ページの『ValuesShown プロパティー』

ValuesFontSize プロパティー

グラフの値ラベルに使用するフォント・サイズを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ValuesFontSize**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

グラフを作成するときに、グラフ棒、円グラフのセクション、または折れ線グラフに関連する数値を表示できます。値を表示するには、ValuesShown プロパティーを True に設定します。現在のフォント・サイズを変更するには、ValuesFontSize プロパティーを使用します。フォントを変更するには、ValuesFontName プロパティーを使用します。

デフォルト:10 ポイント

タイプ

Long

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートで最初の Graph オブジェクトを水平棒グラフに設定し、グラフ棒の上に値が表示されるようにプロパティーを設定します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 3,0,0
      .ValuesShown = True
      .ValuesPosition = 0
      .ValuesAutoFit = False
      .ValuesFontColor = 10
      .ValuesFontSize = 10
      .ValuesFontName = "Times New Roman"
   End With
   Set objPPGRaph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 458 ページの『ValuesAutoFit プロパティー』
- 459 ページの『ValuesFontColor プロパティー』
- 461 ページの『ValuesFontName プロパティー』
- 465 ページの『ValuesPosition プロパティー』

- 466 ページの『ValuesShown プロパティー』

ValuesFontStyle プロパティー

グラフの値ラベルに使用するフォントのスタイルを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ValuesFontStyle**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

棒グラフ、クラスター・グラフ、単線グラフ、および相関グラフと関連付けられているフォントのスタイルを変更または表示します。

使用可能なフォントのスタイルは、次のとおりです。

0 - 標準 1 - 斜体 2 - 太字 3 - 太字斜体

デフォルト: 0

タイプ

Long

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートで最初の Graph オブジェクトを水平棒グラフに設定し、グラフ棒の上に値が表示されるようにプロパティーを設定します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 3,0,0
      .ValuesShown = True
      .ValuesPosition = 0
      .ValuesAutoFit = False
```

```
      .ValuesFontColor = 10
      .ValuesFontName = "Times New Roman"
      .ValuesFontStyle = 3
   End With
   Set objPPGRaph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 458 ページの『ValuesAutoFit プロパティー』
- 459 ページの『ValuesFontColor プロパティー』
- 461 ページの『ValuesFontName プロパティー』
- 『ValuesPosition プロパティー』
- 466 ページの『ValuesShown プロパティー』

ValuesPosition プロパティー

一部のグラフ・タイプについて、値ラベルの位置を設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**ValuesPosition**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

グラフを作成するとき、関連する数値を棒グラフに表示できます。数値の位置調整は、棒グラフまたはクラスター・グラフでのみ有効です。

値を表示するには、ValuesShown プロパティーを True に設定します。

デフォルト:0 (False)

タイプ

Short

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートで最初の Graph オブジェクトを水平棒グラフに設定し、グラフ棒の上に値が表示されるようにプロパティーを設定します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 3,0,0
      .ValuesShown = True
      .ValuesPosition = 0
      .ValuesAutoFit = False
      .ValuesFontColor = 10
      .ValuesFontSize = 10
      .ValuesFontName = "Times New Roman"
   End With
   Set objPPGRaph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 458 ページの『ValuesAutoFit プロパティー』
- 459 ページの『ValuesFontColor プロパティー』
- 461 ページの『ValuesFontName プロパティー』
- 462 ページの『ValuesFontSize プロパティー』
- 『ValuesShown プロパティー』

ValuesShown プロパティー

円グラフの横に値ラベルを表示するかどうかを設定する、または設定状態を返す。

構文

object.**ValuesShown**

適用対象

Graph オブジェクト

Graphs

解説

このプロパティーは、単一の円グラフにのみ適用されます。このプロパティーを、ネストされたグラフに対して True に設定すると、エラーが発生します。

カテゴリー名の代わりにカテゴリー値を使用してスライスにラベルを付けるには、ValuesShown プロパティーを True に設定します。凡例にはカテゴリー名のみが含まれます。

NamesShown プロパティーを True に設定すると、ValuesShown プロパティーが自動的に False に設定されます。両方のプロパティーを False に設定すると、円グラフのスライスの横にラベルが表示されなくなります。

デフォルト:True

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み (Graph)

書き込み (Graphs)

例

次の例は、作業中のレポートで最初の Graph オブジェクトを水平棒グラフに設定し、グラフ棒の上に値が表示されるようにプロパティーを設定します。

```
Sub Main
   Dim objPPRep as Object
   Dim objPPGraph as Object
   Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
   Set objPPGraph = objPPRep.Graphs.Item(1)
   With objPPGraph
      .SetType 3,0,0
      .ValuesShown = True
      .ValuesPosition = 0
      .ValuesAutoFit = False
      .ValuesFontColor = 10
      .ValuesFontSize = 10
      .ValuesFontName = "Times New Roman"
   End With
   Set objPPGRaph = Nothing
   Set objPPRep = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 380 ページの『NamesShown プロパティー』

Version プロパティー

IBM Cognos PowerPlay のバージョン番号を返します。

構文

Application.**Version**

適用対象

Application オブジェクト

解説

使用している PowerPlay のバージョンを調べます。

タイプ

文字列

アクセス

読み取り

例

次の例は、PowerPlay の Application オブジェクトのインスタンスを作成し、名前、場所、およびバージョンを表示します。

```
Sub Main()
   Dim objPPlayApp as Object
   Set objPPlayApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPlayApp.Visible = 1
   MsgBox "The name of the Application is " &objPPLayApp.Name
   MsgBox "The location of the Application is " _
      &objPPLayApp.Path
   MsgBox "The Application version is " &objPPLayApp.Version
   Set objPPlayApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』

Visible プロパティー

オブジェクトをユーザーに表示するかどうかを設定するか、設定状態を返します。

構文

object.**Visible**

適用対象

Application オブジェクト

Dimension オブジェクト

DimensionLine オブジェクト

Report オブジェクト

解説

デフォルトでは、IBM Cognos PowerPlay は、マクロから起動されると、非表示で実行されます。マクロの動作を表示するには、Visible プロパティーを True に設定します。PowerPlay を表示すると、マクロをより効果的にデバッグできます。また、PowerPlay が非表示で動作しているときにエラーが発生した場合、またはマクロに Quit メソッドが指定されていない場合は、PowerPlay はメモリーに残ります。マクロを実行したり、マクロが失敗した場合に PowerPlay をメモリーに残したままにしておくと、メモリーが不足してきます。

ユーザーの制御下では、このプロパティーは無効です。たとえば、Applications オブジェクトが表示されている場合は、UserControl プロパティーは True に設定されています。

デフォルト:False

タイプ

ブール値

アクセス

読み取り/書き込み

例

次の例は PowerPlay の Application オブジェクトを作成し、アプリケーションを表示に設定します。

```
Sub Main()
   Dim objPPlayApp as Object
   Set objPPlayApp = CreateObject("CognosPowerPlay.Application")
   objPPlayApp.Visible = 1
   MsgBox "The title of the application is " &objPPlayApp.Caption
   MsgBox "The name of the Application is " &objPPLayApp.Name
   MsgBox "The location of the Application is " _
      &objPPLayApp.Path
   MsgBox "The Application version is " &objPPLayApp.Version
   Set objPPlayApp = Nothing
End Sub
```

関連トピック

- 11 ページの『Application オブジェクト』
- 20 ページの『Dimension オブジェクト』
- 22 ページの『DimensionLine オブジェクト』
- 40 ページの『Report オブジェクト』

第 6 章 管理マクロ

IBM Cognos PowerPlay は、管理マクロを使用して、特定の管理イベントのタスクを実行します。管理マクロには、次の場合に 1 つ以上のアクションを実行する、カスタマイズされた命令のセットが含まれています。

- PowerPlay アプリケーションを開く、または閉じるとき。
- レポートまたはキューブを開く、または閉じるとき。
- PowerPlay がレポートまたはキューブを開いた後。たとえば、表示を変更、計算を実行、または最下位レベルにあるカテゴリーへドリルダウンする場合など。
- レポートでハイライトが発生したとき。

管理マクロの作成

管理マクロは、レポート・レベルのマクロと同じように作成しますが、 IBM Cognos PowerPlay で自動的に実行するマクロには特定のマクロ名を割り当てる必要があります。たとえば、PowerPlay で AppOpen マクロが認識されるようにするには、"AppOpen.mac"ファイルがマクロ・ディレクトリーに存在している必要があります。

次の表では、PowerPlay 管理マクロ名、PowerPlay で自動的に実行するファイルを割り当てる名前、PowerPlay が管理マクロを実行する順序について説明しています。

管理マクロ	説明
AppOpen マクロ	PowerPlay が始動し、キューブまたはレポートが開かれる前に、始動処理を実行する。
DocOpen マクロ	PowerPlay がレポートまたはキューブを開いたときに、管理タスクを実行する。マクロに含まれる命令は、レポートまたはキューブが開かれる前に実行されます。
After Doc Open マクロ	計算の実行など、ローカルなドキュメント処理に使用する。 このマクロは、レポートと同じファイル名 (拡張子は .mac) で、レポートと同じフォルダーに保存されている必要があります。
Highlight Exceptions マクロ	ハイライトを設定します。この機能の使用を「ユーザー設定ハイライト」ダイアログ・ボックスで指定すると、PowerPlay はレポートに含まれるセルごとに、この関数を 1 回実行します。

管理マクロ	説明
DocClose マクロ	DocOpen マクロの実行後に、必要なクリーンアップ処理を実行します。このマクロは、レポートを閉じるときに開始されます。
AppClose マクロ	AppOpen マクロの実行後に、必要なクリーンアップ処理を実行します。このマクロは、PowerPlay を終了するときに開始されます。

例

次の例は、特定の管理マクロの具体的な使用方法を示しています。

- PowerPlay 起動時に DocOpen マクロを使用してキューブのバージョンを確認し、ユーザーに最新のキューブを提供する。
- PowerPlay 終了時に DocClose マクロを使用して、空のファイルまたは未使用のファイルを削除する。
- After Doc Open マクロを使用して、カテゴリーの最下位レベルに自動的にドリルダウンする。
- AppOpen マクロを使用して PowerPlay を起動し、設定を設定する。
- AppClose マクロを使用して、ユーザーがアプリケーションを終了した後に設定をリセットする。
- Exception マクロを使用して、レポートにハイライトを設定する。
- AppOpen マクロを使用して、キューブまたはレポートにあらかじめセキュリティー・パスワードを設定する。

After Doc Open マクロ

表示の変更や計算の実行などの、ローカルなドキュメント処理に使用されるマクロです。

解説

この管理マクロを使用することにより、 IBM Cognos PowerPlay でレポートを開いた後に実行する多くのルーチン・タスク (最下位レベルのカテゴリーへのドリルダウンや、クロス集計以外のビューの表示など) を自動化できます。このマクロがマクロ・ディレクトリーに存在する場合、PowerPlay は、DocOpen マクロが終了してレポートが開かれた後に、このマクロを即座に実行します。たとえば、一般的な営業レポート"Sales.rpt"を開き、独自のハイライト表示設定を追加して選択されたデータを表示するには、これらの設定に対するスクリプトを After Doc Open マクロ・ファイルの"Sales.Mac"に含めます。

必要条件

- After Doc Open マクロは、レポートと同じファイル名 (拡張子は .mac) で、レポートと同じフォルダーに保存されている必要がある。1 つのレポートに対して、1 つの After Doc Open マクロ・ファイルを関連付けることができます。
- マクロに含める必要のある関数は、Main サブルーチンだけである。

- 管理者は、「PowerPlay の設定」ダイアログ・ボックスで指定したマクロ・ディレクトリーで、このマクロを集中管理する必要がある。

例

次の例は、開かれているレポート (Reporter モード) を使用して、第 1 行に対して最下位レベルにある子カテゴリーを自動的に追加し、次に第 1 行を削除します。

```
Sub Main()
  On Error Resume Next
  Dim objPPRep as Object
  Dim objRow as Object
  'Get the report object
  Set objPPRep = GetObject(,"CognosPowerPlay.Report")
  if Err <> 0 Then
   Msgbox "Error getting PowerPlay report. " + Error$
  Else
  'Make sure that there is at least one row in the report
   If (objPPRep.Rows.Count > 0) then
  'Get the first row category object
    Set objRow = objPPRep.Rows(1)
  'Add lowest-level categories for this row
    objRow.AddLowestLevelCategories
  'Remove first row category
    objRow.Remove
   End if
  End If
  Set objRow = Nothing
  Set objPPRep = Nothing
End sub
```

関連トピック

- 『AppClose マクロ』
- 474 ページの『AppOpen マクロ』
- 476 ページの『DocClose マクロ』
- 477 ページの『DocOpen マクロ』
- 478 ページの『Highlight Exceptions マクロ』

AppClose マクロ

AppOpen マクロの実行後、 IBM Cognos PowerPlay 終了前に、必要なクリーンアップ処理を実行するマクロです。

解説

この管理マクロは、次の場合に使用します。

- マクロによって開かれたが、ユーザーが必要としなくなったドキュメントを閉じる。
- 保存の必要なファイルを保存するか、または保存のプロンプトを表示する
- マクロによって変更された、任意のオプション設定を復元する。
- テンポラリー・ファイルを削除する。

このマクロがマクロ・ディレクトリーに存在する場合、PowerPlay 終了時にこのマクロが実行されます。たとえば、ユーザーがアプリケーションを終了した後に設定をリセットするには、"AppClose.mac"にスクリプトを含めます。

必要条件

- マクロに含める必要のある関数は、Main サブルーチンだけである。
- AppClose マクロが含まれているフォルダー名を、「設定」ダイアログ・ボックスにある「マクロとカスタム・メニュー・ファイル」ボックスに指定する必要がある。
- 管理者は、「PowerPlay の設定」ダイアログ・ボックスで指定したマクロ・ディレクトリーで、このマクロを集中管理する必要がある。

例

次の例は、メッセージ・ボックスに「AppClose Macro」と表示して、マクロが正常に終了したことを示します。

```
Sub Main
  msgbox "AppClose Macro"
End sub
```

関連トピック

- 472 ページの『After Doc Open マクロ』
- 『AppOpen マクロ』
- 476 ページの『DocClose マクロ』
- 477 ページの『DocOpen マクロ』
- 471 ページの『第 6 章 管理マクロ』

AppOpen マクロ

IBM Cognos PowerPlay が起動し、レポートまたはキューブが開かれる前に、始動処理を実行するマクロです。

構文

Function AppOpenMacro *(StartMode As Long) As Long* **End Function**

解説

このマクロは、通常 PowerPlay 起動後に実行される冗長、または反復実行される動作を自動化するために使用します。次のような場合があります。

- ユーザー設定を指定する。

- 特定のレポートを自動的に開く。
- ユーザーのパーソナル・コンピューターでパスワードが入力できないように、特定のユーザー・アクセスに対してキューブやレポートのセキュリティー・パスワードを設定する。

このマクロがマクロ・ディレクトリーにあると、PowerPlay 起動時にこのマクロが実行され、マクロの実行ステータスを示す True または False が返されます。False が返された場合は、アプリケーションが開かれていないことを示します。たとえば、PowerPlay 起動後、キューブやレポートが開かれる前に設定を指定するには、"AppOpen.mac"管理マクロ・ファイルにスクリプトを含めます。

必要条件

- マクロには、True (-1) または False (0) を返す関数 AppOpenMacro を含める必要がある。マクロが存在しない、マクロ内の関数名が正しくない、またはパラメーターの個数が一致しない場合はマクロは実行されず、アプリケーションが通常どおり開かれます。
- 管理者は、「PowerPlay の設定」ダイアログ・ボックスで指定したマクロ・ディレクトリーで、このマクロを集中管理する必要がある。

パラメーター	説明
StartMode	必須。アプリケーションの起動方法を指定します。 1 = 通常の始動 2 = OLE タイプ:Long

戻り値のタイプ

Long

例

次の例は、PowerPlay 起動時に、レポート "C:¥Cognos¥Sample.ppx" を自動的に開きます。

```
Function AppOpenMacro(lStartMode as Long) as Long
  On Error Resume Next
  Dim objPPRep as Object
  Dim ObjPPApp as object
  'Get the application object
  Set objPPApp = GetObject(, "CognosPowerPlay.Application")
  'Open the specified report
  Set objPPRep = objPPApp.reports.open("c:\cognos\sample.ppx")
  if Err <> 0 then
    Msgbox "Unable to open PowerPlay report."
    AppOpenMacro = False
```

```
  Else
  'Make the report visible
    objPPRep.visible = True
  'Set return code to indicate successful completion
   AppOpenMacro = True
  End if
  Set objPPRep = Nothing
  Set objPPApp = Nothing
End Function
```

関連トピック

- 472 ページの『After Doc Open マクロ』
- 473 ページの『AppClose マクロ』
- 『DocClose マクロ』
- 477 ページの『DocOpen マクロ』
- 478 ページの『Highlight Exceptions マクロ』
- 471 ページの『第 6 章 管理マクロ』

DocClose マクロ

DocOpen マクロの実行後に、必要なクリーンアップ処理を実行するマクロです。

解説

このマクロは、IBM Cognos PowerPlay で、次のようなクローズ時の動作が行われるようにする場合に使用します。

- 未使用または空のファイルを削除する。
- マクロが完了したことを、ユーザーに通知する。
- 保存の必要なファイルを保存するか、または保存のプロンプトを表示する。

管理マクロがマクロ・ディレクトリーにあると、レポート終了時にのみ、このマクロが実行されます。たとえば、PowerPlay によってレポートが閉じられる際にテンポラリー・ファイルを削除するには、"DocClose.mac"管理マクロ・ファイルにスクリプトを含めます。

必要条件

マクロに含める必要のある関数は、Main サブルーチンだけである。

管理者は、「PowerPlay の設定」ダイアログ・ボックスで指定されたマクロ・ディレクトリーで、DocClose マクロをメンテナンスする必要がある。

例

次の例は、メッセージ・ボックスに"DocClose Macro"と表示して、マクロが実行されたことを示します。

```
Sub Main
```

```
  msgbox "DocClose Macro"
End sub
```

関連トピック

- 472 ページの『After Doc Open マクロ』
- 473 ページの『AppClose マクロ』
- 474 ページの『AppOpen マクロ』
- 『DocOpen マクロ』
- 478 ページの『Highlight Exceptions マクロ』
- 471 ページの『第 6 章 管理マクロ』

DocOpen マクロ

IBM Cognos PowerPlay がレポートまたはキューブを開くときに管理タスクを実行するマクロです。

構文

Function DocOpenMacro *(StartMode As Long, ReportName As String, CubeName As String, CubePassword As String) As Long* **End Function**

解説

文書の機密保護や統計記録など、管理的な機能を追加する場合に使用します。このマクロがマクロ・ディレクトリーにあると、レポートまたはキューブが開かれる際にマクロが実行されます。False が返された場合は、ドキュメントが開かれていないことを示します。たとえば、作成したレポートのタイプをデータベースに記録するには、"DocOpen.mac"ファイルにスクリプトを含めます。

必要条件

- "DocOpen.mac"マクロには、True (-1) または False (0) を返す関数 DocOpenMacro を含める必要がある。マクロが存在しない、マクロ内の関数名が正しくない、またはパラメーターの個数が一致しない場合はマクロは実行されず、レポートまたはキューブが通常どおり開かれます。

管理者は、「PowerPlay の設定」ダイアログ・ボックスで指定したマクロ・ディレクトリーで、このマクロを集中管理する必要がある。

パラメーター	説明
StartMode	必須。レポートを開く方法を指定します。 1 = 通常の始動 2 = OLE タイプ:Long
ReportName	必須。開くレポートのファイル名を指定します。 タイプ:String

パラメーター	説明
CubeName	必須。レポートが使用する .mdc ファイル名を指定します。 タイプ:String
CubePassword	オプション。保護キューブに対するログオン情報を指定します。 タイプ:String

戻り値のタイプ

Long

例

次の例は、開かれたレポートおよびキューブをすべてテキスト・ファイルにログ記録します。

```
Function DocOpenMacro( StartMode As Long, ReportName
As String, CubeName As String, Unused1 As String, CubePassword As
String, Unused2 As String, Unused3 As String, Unused4 As String)
As Long

   Dim strLogFile As String

   strLogFile = "c:\log.txt"

   Open strLogFile For Append As #1

   Print #1, "Report: " & ReportName & " Cube:
" & CubeName

   Close #1

   DocOpenMacro = 1

End Function
```

関連トピック

- 472 ページの『After Doc Open マクロ』
- 473 ページの『AppClose マクロ』
- 474 ページの『AppOpen マクロ』
- 『Highlight Exceptions マクロ』
- 471 ページの『第 6 章 管理マクロ』

Highlight Exceptions マクロ

レポートに含まれるハイライトを設定するマクロです。

構文

Function ExceptionMacro *(DimensionLineSetting as String, RowLabel as String, ColumnLabel as String, LayerLabel as String, ExceptionName as String, ValueOfCell as Double) As Long ComparisonCode* **End Function**

解説

文書の機密保護や統計記録など、任意の管理的な機能を追加する場合に使用します。このマクロの使用を「ユーザー設定ハイライト」ダイアログ・ボックスで指定すると、IBM Cognos PowerPlay はレポートに含まれるセルごとに、このマクロ関数を 1 回実行します。たとえば、指定された条件に一致するセル値をハイライト表示 (特定のスタイルで) するには、"ExceptionMacroName.mac"ファイルにスクリプトを含めます。

必要条件

- このマクロには、関数 ExceptionMacro を含める必要がある。
- マクロは、「設定」ダイアログ・ボックスで指定されたマクロ・ディレクトリーに保存する必要がある。
- 1 つ以上の有効なレポート・ファイル名に、このマクロを適用できる。
- PowerPlay では、この関数がレポート内のセルごとに 1 回実行されるため、メッセージ・ボックスを表示する ComparisonCode パラメーターのコードは含めないようにする。ComparisonCode パラメーターを含めると、メッセージ・ボックスがセルごとに 1 回以上表示されます。ハイライト・マクロはメッセージ・ボックスを使用して、セルがハイライト設定されていることを示します。たとえば、レポートに 2,400 個のセルがあり、1,834 個のセルがハイライト基準に一致する場合、各セルがテストされるため、メッセージが 1,834 回表示されることになります。
- ドリルダウン、行の追加、計算の実行などによりカテゴリーが変更されるたびに、PowerPlay によって、この関数が再びレポート内のセルごとに実行される。
- 管理者は、「PowerPlay の設定」ダイアログ・ボックスで指定したマクロ・ディレクトリーで、このマクロを集中管理する必要がある。

パラメーター	説明
DimensionLineSetting	必須。PowerPlay によってハイライト・マクロに渡されるディメンション・ラインの設定を指定します。 タイプ:String
RowLabel	必須。PowerPlay によってハイライト・マクロに渡される行ラベルを指定します。 タイプ:String
ColumnLabel	必須。PowerPlay によってハイライト・マクロに渡される列ラベルを指定します。 タイプ:String
LayerLabel	必須。PowerPlay によってハイライト・マクロに渡されるレイヤー・ラベルを指定します。 タイプ:String

パラメーター	説明
ExceptionName	必須。PowerPlay によってハイライト・マクロに渡されるハイライト名を指定します。 タイプ:String
ValueOfCell	必須。PowerPlay によってハイライト・マクロに渡されるセル値を指定します。 タイプ:Double
ComparisonCode	必須。ハイライトに関連するスタイルを、セルに適用するかどうかを指定します。ExceptionFunction マクロにより、戻り値が定義されます。 0 = スタイルを適用しない 1 = スタイルを適用する タイプ:Integer

戻り値のタイプ

Long

例

次の例は、0 未満の値を持つ各セルにハイライトのスタイルを適用します。値 1 が返されると、指定されたハイライトに関連するスタイルを、セルに適用します。値 0 が返されると、ハイライトのスタイルはセルに適用されません。

```
Function ExceptionMacro (PPDimLine as String, PPRow as
String, PPCol as String, PPLayer as String, PPExName as String,
PPCellV as Double) As Long

  if PPCellV < 0 then

    ExceptionMacro = 1

  else

    ExceptionMacro = 0

  end if

End Function
```

関連トピック

- 472 ページの『After Doc Open マクロ』
- 473 ページの『AppClose マクロ』
- 474 ページの『AppOpen マクロ』
- 476 ページの『DocClose マクロ』
- 477 ページの『DocOpen マクロ』
- 471 ページの『第 6 章 管理マクロ』

特記事項

本書は IBM が世界各国で提供する製品およびサービスについて作成したものです。

この記述は、IBM から他の言語で提供されている場合があります。ただし、これを入手するには、本製品または当該言語版製品を所有している必要がある場合があります。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。本書には、お客様が購入されたプログラムまたはライセンス資格に含まれない製品、サービス、または機能に関する説明が含まれる場合があります。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19番21号
日本アイ・ビー・エム株式会社
法務・知的財産
知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態で提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。 IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group
Attention: Licensing
3755 Riverside Dr.
Ottawa, ON
K1V 1B7
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性がありますが、その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確証できません。 IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があり、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、それぞれのお客様の次の情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。

- 名前
- ユーザー名
- パスワード

以下の目的で使用されます。

- セッション管理
- 認証
- お客様の利便性の向上
- シングル・サインオン構成
- セッション管理、認証、お客様の利便性の向上およびシングル・サインオン構成以外の利用の追跡または機能上の目的

これらの Cookie を 無効にすることはできません。

この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人を特定できる情報を収集する機能を提供する場合、 お客様は、このような情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンドユーザーへの通知や同意の要求も含まれますがそれらには限られません。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』(http://www.ibm.com/privacy/details) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』および『IBM Software Products and Software-as-a-Service Privacy Statement』(http://www.ibm.com/software/info/product-privacy) を参照してください。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

［ア行］

アイテム
　アクセスする 181
アクセスする 91
　アイテム 181, 183
　アクティブなオブジェクト 90
　完全な名前 340
　行 236
　グラフ 173
　ディメンション・ライン 149
　範囲 222
　レイヤー 184
　列 133
　レポート 232
　PowerPlay for Windows 11, 292
アクティブなレポート 91
値フィルター 279
値を累計する 87
値, 累計する, メソッド 87
アプリケーション
　パスを返す 391
位置揃えする
　セル値 306
入れ替える
　行とレイヤー 272
　行と列 271
　プロンプトを表示する 407
　列とレイヤー 270
印刷する
　行 254
　グラフ 245
　グラフ棒 373
　グラフ・タイトル 312
　合計カテゴリー 437, 439, 440
　軸 298
　タイトル 312
　凡例 345
　凡例を含める 345
　部数 315
　部単位で印刷されるレポート 314
　ラベル 298
　レイヤー 251
　レポート 217
　colors 399
　patterns 399
ウィンドウ
　キャプション 304
　最小化する 195
　最大化する 191
　タイトル 304
　復元する 234
ウィンドウを最小化する 195
ウィンドウを復元する 234
エラーを処理する 2
演算子 384, 386
演算項目
　減算 267
オブジェクト
　アクティブ化する 89
　位置を判別する 348
　印刷 37
　カウントする 316
　行 45
　切り取る 137
　減算する 269
　コピーする 134
　削除する 144, 226
　集計 197
　挿入する 109
　追加する 92, 95, 96, 97, 99, 102
　ディメンション 20
　ハイライト 23
　範囲 39
　非表示にする 176
　命名する 379, 383
　列 16
　レベル 33
　レポート 40
　AdvancedQuery 8
　CategoryList 14
　Child 15
　DimensionLine 22
　FindQuery 25
　Layer 31
　ParentageQuery 34
　SaveAsPDF 49
　ValueRestriction 51
オブジェクトをアクティブ化する 89
親カテゴリー 174, 209
オンにする
　統計線 431

［カ行］

カウントする 316

返す
アプリケーションのパス 391
合計 436
スタイル 435
範囲の上限 451
表示タイプ 450
表示方向 281
表示/非表示 468
保存済みのレポート 412
ユーザー制御 453
レポートのパス 391
Graph オブジェクトの奥行き 146
Graph オブジェクトの方向 281
Graph オブジェクト・タイプ 450
PowerPlay for Windows のバージョン 468
share 420
カテゴリー 390
加算する (Reporter) 107
現在の処理 128
最上位レベル 130
再表示する 273
乗算する 198, 200
除算する 150
新規カテゴリーを計算する 330
選択解除する 274
選択する 241
追加する 111
非表示にする 176
表示する 273
平均化する (Reporter) 118
べき乗する 159
リスト表示する 125
parent 129, 174, 209
カテゴリー (Reporter) 106
平均を計算する 120
カテゴリー名
グラフにする 380
長い名前または短い名前のプロンプトを表示する 406
カテゴリーを乗算する 198, 200
カテゴリーを除算する 150
カテゴリーをべき乗する 159
カテゴリーをリスト表示する 125
カテゴリー・リスト
キューブ 14
作成する 14
管理マクロ 472, 474, 477, 478
基底値に対する累積パーセント (Reporter) 135
基底値に対する割合
カテゴリー (Reporter) 216
キューブ 318
キューブのカテゴリー・リスト 14
行
アクセスする 236
入れ替える (レイヤー) 272
入れ替える (列) 271
空白を追加する 104
行 (続き)
コレクション 74
定義する 45
共有する
ディメンション・ライン 419
切り取る
オブジェクト 137
レポート 137
空白
選択解除する 276
選択する 243
クエリー 112, 115, 123, 155, 158, 161, 185, 231, 324, 364, 366, 369, 392, 415, 416, 417
クエリーの実行 158
クエリー・オブジェクト 71
AdvancedQuery 8
FindQuery 25
ParentageQuery 34
ValueRestriction 51
グラフ 294, 296
アクセスする 173
コレクション 63
スタイルを変更する 432
統計線をオンに設定する 431
統計線を追加する 427, 429
の値 434
表示する 27
グラフにする
カテゴリー名 380
集計データ 382
グラフ・タイプ 260
クリーンアップ処理 473
グリッド線 360
計算する
各カテゴリー 330
新規カテゴリー 330
伸び 214
平均 297
形式を設定する 265
決定する
インターセクト値 349
ウィンドウ・キャプション 304
ウィンドウ・タイトル 304
オブジェクトの位置 348
下限 368
ドライブ・カテゴリー 328
ドライブ・ディメンション 329
ドリルアップ 122
ドリルダウン 121
マクロ名 370
マクロ・スタイル 371
maximum 192, 193
minimum 196, 197
検索 25, 163, 166
検索クエリー 25

減算する
オブジェクト 269
コレクション 267
子 131
合計カテゴリー 353
合計ラベル 332, 333, 454, 456
更新する
発行されたレポート 278
レポート 172
考慮事項 2
コピーする
オブジェクト 134
レポート 134
コレクション 267
行 74
列 59
Exceptions 62
Graphs 63
Layers 66
Levels 69
Ranges 70
ReportQueries 71
Reports 73

［サ行］

最下位レベルのカテゴリー 111
最大化、ウィンドウ 191
再表示する 273
削除する 228
オブジェクト 144, 226
すべてのデータ・ソース情報 139
データ・ソース情報 141
MDC アクセス情報 140, 143
作成する
カテゴリー・リスト 14
新規レポート 201
サブキューブの同期化 410
サブセット 266
取得する 266
算出カテゴリー 352
システム・フォントを使用する 452
実装オプション
カテゴリー名のプロンプト 406
行と列を入れ替える 407
ゼロ消去 408
通貨のプロンプト 403
ディメンションのプロンプト 405
集計データ表示 382
終了する
PowerPlay for Windows 222
出力 219
取得する
サブセット 266
セル値 126
データを自動的に 341
消去する
行 441
貢献度の低い要素 441
ゼロ 443
列 441
使用権限 121, 122
上限範囲 451
数値 426
数値データ 376
スクリプトを設計する 2
スクロール機能を有効にする 457
スクロールする 375, 457
スタイル 435, 464
選択する 265
変更する 432
制限 51
成長率カテゴリー
追加する 214
設定する
行リスト 254, 255
グラフ 245, 246
グラフ・タイプ 260
合計 436
スタイル 435
デフォルトのキューブ・ディレクトリー 321
デフォルトのマクロ・ディレクトリー 322
デフォルトのレポート・ディレクトリー 323
ドライブ・カテゴリー 250
範囲の上限 451
表示タイプ 260
表示/非表示 468
マクロ 257
マクロ設定 472
ユーザー制御 453
レイヤー・リスト 251, 253
DataSourceInfo 247
Explorer モード 335
MDC アクセス情報 258
Reporter モード 335
share 420
セル値 306, 307, 309, 311
ゼロ消去 443
プロンプトを表示する 408
線 427
色を追加する 429
統計線をオンに設定する 431
選択解除する
カテゴリー 274
空白 276
選択する
カテゴリー 241
空白行 243
空白列 243
線の値 434
ソート 262
総計 426

挿入する
Category オブジェクト 109

［タ行］

タイトル 445
タイトルのテキスト 445
代用フォント 452
大量のデータ 457
追加する 92, 97, 99, 102
オブジェクト 95, 96
カテゴリー 107
カテゴリー (Reporter) 106, 107
基底値に対する累積パーセント (Reporter) 135
基底値に対する割合 (Reporter) 216
空白行 104
空白列 104
最下位レベルのカテゴリー 111
成長率カテゴリー 214
統計線 427, 429
割合 (Reporter) 213
割合カテゴリー (Reporter) 213
通貨 377, 403
データ
自動的に取得する 341
ソート 262
データ・ソース情報 247
定義する
印刷オプション 37
行 45
グラフ・タイプ 260
出力 219
範囲 39
表示タイプ 260
マクロ 257
例外 23, 154
レポート 40
ディメンション
プロンプトを表示する 405
変更する 20
ディメンション・フィルター 147
ディメンション・ライン
アクセスする 149
管理する 22
共有する 419
設定する 327
デフォルト
キューブ・ディレクトリー 321
マクロ・ディレクトリーを設定する 322
レポート・ディレクトリーを設定する 323
同期化 410
閉じる
レポート 132
ドライブ・カテゴリー 328
設定する 250
ドライブ・ディメンション 329
ドリルアップする 153
ドリルダウン 152

［ナ行］

名前 318, 383, 461
完全なものにアクセスする 340
名前を付けて保存
レポート 239
の値 87
インターセクト値を決定する 349
統計線 434
表示形式を設定する 426
伸び
計算する 214

［ハ行］

ハイライトを指定する 334
発行する
レポート 220
IBM Cognos Analytics ポータルに 220
範囲 368
アクセスする 222
定義する 39
非表示にする
オブジェクト 176
カテゴリー 176
ランク・カテゴリー 344
表示
印刷の向き 281
タイプを返す 450
タイプを設定する 260
タイプを定義する 260
表示形式を設定する 426
数値 426
総計 426
Percent 426
表示される合計 353
表示する
値を指定した形式で 426
カテゴリー 273
グラフ 27
合計行 424
合計の内訳 421
合計列 423
ネストされたグラフ 27
範囲の最大数 373
レイヤー 31
表示/非表示
返す 468
設定する 468
開く
リモートのレポート 207
レポート 203, 205

フィルター 51, 147, 384, 386, 388
フォント 452
フォントの色
  セル値 307
  ラベル 355
フォント名
  セル値 309
  ラベル 357
フォント・サイズ
  セル値 311
  ラベル 359
複数のグラフ 382
フッター 338
フッターのテキスト 338
プロパティー 283
  アプリケーション 292
  演算子 388
  キャプション 304
  件数 316
  交差 (Intersect) 349
  個別値 330
  しきい値 444
  数値データ 376
  ディメンション 324
  名前 379
  バージョン 468
  ハイライト 334
  表示 468
  部数 315
  レイアウト 361
  レベル 362
  AutomaticExceptions 294
  AutomaticExceptionSensitivity 296
  AxisOnAllPages 298
  BlankWhenDividedByZero 299
  BlankWhenZero 300, 302
  CalculatedCategories 303
  CellText 305
  ChartTitleOnAllPages 312
  Collate 314
  CubeName 318
  DataGridlines 319
  DefaultAlternateDirectory 320
  DefaultCubeDirectory 321
  DefaultMacroDirectory 322
  DefaultReportDirectory 323
  DimensionLineIndex 325
  DimensionSettings 327
  DrivingCategory 328
  DrivingDimension 329
  EnableUserColumnSummaryLabel 332
  EnableUserRowSummaryLabel 333
  ExplorerMode 335
  FitToPage 336
  FooterText 338
  FullName 340
プロパティー (続き)
  GetDataAutomatically 341
  HeaderText 342
  HideRankCategory 344
  IncludeLegend 345
  IndentTotalsLevel 347
  Index 348
  IsAlternate 350
  IsCalculateCategory 352
  KeepSummaryVisible 353
  LabelGridlines 360
  LevelList 364
  LevelsDown 366
  LogonPrompt 367
  LowerBoundary 368
  LowestLevel 369
  MacroName 370
  MacroStyle 371
  MaximumNumberOfRanges 373
  MaxPrintedBars 373
  MaxVisibleBars 375
  MeasureCurrency 377
  NamesShown 380
  NestedCharts 382
  NestedName 383
  Operand1 384
  Operand2 386
  ParentCategory 390
  Path 391
  Pattern 392
  PDFFile 211
  Precedence 395
  PrintAllCharts 397
  PrintColorsAsPatterns 399
  PrintEntireReport (PowerPlay for Windows) 400
  PrintPageLayout (PowerPlay for Windows) 401
  PrintSelectedDisplay (PowerPlay for Windows) 402
  PromptForCurrency 403
  PromptForDimension 405
  PromptForLongShortNames 406
  PromptForSwapRowsAndColumns 407
  PromptForZeroSuppression 408
  RefreshSubCube 410
  SaveAllCharts 411
  Saved 412
  SaveEntireReport 413
  SearchDescription 415
  SearchShortName 416
  SearchText 417
  ShareDimensionLine 419
  ShareOf 420
  ShowSummaryBreakdown 421
  ShowSummaryColumn 423
  ShowSummaryRow 424
  ShowTies 425
  ShowValuesAs 426

プロパティー (続き)
StatsLineCaption 427
StatsLineColor 429
StatsLineOn 431
StatsLineStyle 432
StatsLineUserValue 434
Style 435
Sum 436
SummariesOnAllPages 437
SummaryColumnOnAllPages 439
SummaryRowOnAllPages 440
Suppress8020 441
SuppressZeros 443
TitleText 445
TopLevelCategory 447
TopLevelParentCategory 449
Type 450
UpperBoundary 451
UseFontSubstitution 452
UserColumnSummaryLabel 454
UserControl 453
UserRowSummaryLabel 456
UseScrolling 457
ValuesAutoFit 458
ValuesFontColor 459
ValuesFontName 461
ValuesFontSize 462
ValuesFontStyle 464
ValuesPosition 465
ValuesShown 466
プロンプトを表示する
行と列を入れ替える 407
ゼロ消去 408
通貨 403
ディメンション 405
長いカテゴリー名 406
短いカテゴリー名 406
ヘッダー 342
ヘッダーのテキスト 342
変更する 16
親カテゴリー 129
現在のカテゴリー 128
最上位レベルのカテゴリー 130
ディメンション 20
統計線のスタイル 432
列 16
保存する
行 255
グラフ 246, 411
レイヤー 253
レポート 238, 413
PDF 49

[マ行]

マクロ
印刷する 245, 251, 254
管理 472
考慮事項を作成する 2
スタイルを判定する 371
設定する 257
設定を行う 472
定義する 257
名前を判定する 370
ハイライトの設定 478
保存する 246, 253
AfterDocOpen 472
AppClose 473
AppOpen 474
DocOpen 477
マクロのステータス 474
マクロを作成する 2
命名する
オブジェクト 379
PDF ファイル 211
メソッド
アイテム 181
アクティブ 90
印刷 217
行 236
切り取り 137
コピー 134
最小化 195
最大 192, 193
最大化 191
サブセット 266
実装オプション 145
終了 222
ストア ID 201
選択 241
ソート 262
閉じる 132
貼り付け 210
非表示 176
開く
ストア ID を使用するレポート 205
部門 150
べき乗 159
保存 238
有効化します。 89
列 133
レベル 185
Accumulation 87
ActiveReport 91
Add (CategoryList) 92
Add (Columns、Layers、Rows) 95
Add (Exceptions) 96
Add (Graphs) 97
Add (Ranges) 99

メソッド (続き)
Add (ReportQueries) 101
Add (Reports) 102
AddBlanks 104
Addition (PowerPlay for Windows - オブジェクト) 107
Addition (PowerPlay for Windows - コレクション) 106
AddLevel 109
AddLowestLevelCategories 111
AddToReport 112
AddToReportAtSpecificNestingLevel 115
Average (PowerPlay for Windows - オブジェクト) 120
Average (PowerPlay for Windows - コレクション) 118
CanDrillDown 121
CanDrillUp 122
Category 123
CategoryList 125
CellValue 126
Change 128
ChangeToParent 129
ChangeToTop 130
Children 131
CumPercentOfBase (PowerPlay for Windows) 135
DeleteAllDataSourceInfo 139
DeleteAllMDCAccessInfo 140
DeleteDataSourceInfo 141
DeleteMDCAccessInfo 143
DeleteSelected 144
Depth 146
DimensionFilter 147
DimensionLine 149
DrillDown 152
DrillUp 153
Exceptions 154
Exclude 155
Execute 158
Find 161
FindNext 163
FindPrevious 166
Forecast (PowerPlay for Windows) 170
GetDataNow 172
Graphs 173
HasParent 174
HideSelected 177
HideUnselected 178
Include 179
ItemAtLevel 183
Layers 184
Levels 187, 188, 190
Minimum (PowerPlay for Windows - コレクション) 196
Minimum (オブジェクト) 197
Multiplication (オブジェクト) 200
Multiplication (コレクション) 198
New 201
Open (Reports) 203
Open (Report) 205
OpenRemoteReport 207

メソッド (続き)
Parent 209
Percent 213
PercentGrowth 214
PercentOfBase 216
PrintOut 219
PublishToPortal 220
Ranges 222
Rank2 223
Remove 228
Remove (オブジェクト) 226
RemoveLevel 229
ReportQueries 231
Reports 232
ResetPrintOptionsToDefault (PowerPlay for Windows) 233
Restore 234
RollUp (オブジェクト) 197
SaveAs 239
SelectAllDimensions 242
SelectBlank 243
SetChartToPrint 245
SetChartToSave 246
SetDataSourceInfo 247
SetDrivingCategory 250
SetListOfLayersToPrint 251
SetListOfLayersToSave 253
SetListOfRowsToPrint 254
SetListOfRowsToSave 255
SetMacro 257
SetMDCAccessInfo 258
SetType 260
SizeSelected 262
StyleSelected 265
Subtraction (オブジェクト) 269
Subtraction (コレクション) 267
SwapColumnsAndLayers 270
SwapRowsAndColumns 271
SwapRowsAndLayers 272
UnHideAllCategories 273
Unselect 274
UnselectAllDimensions 275
UnselectBlank 276
UpdatePublishedReport 278
ValueRestriction 279
Vertical 281

[ヤ行]

ユーザー制御 453

[ラ行]

ラベル
フォントの色 355

ラベル (続き)
フォント名 357
フォント・サイズ 359
alignment 354
ランク付けする 223
リスト 364
リモートのレポート
開く 207
例外
コレクション 62
指定する 334
設定する 478
定義する 23, 154
レイヤー
アクセスする 184
入れ替える (行) 272
入れ替える (列) 270
表示する 31
列
アクセスする 133
入れ替える (行) 271
入れ替える (レイヤー) 270
空白を追加する 104
コレクション 59
変更する 16
レポート
アクセスする 232
切り取る 137
更新する 172, 278
コピーする 134
コレクション 73
作成する 201
定義する 40
閉じる 132
名前を付けて保存 239
パスを返す 391
発行する 220
開く 203, 205
部単位で印刷 314
保存済みのレポートを返す 412
保存する 238
レポート (Reporter)
貼り付ける 210
レポートを貼り付ける (Reporter) 210
レポートを保存する 211

[ワ行]

割合カテゴリー (Reporter) 213

[数字]

80/20 消去 441

A

Accumulation メソッド (PowerPlay for Windows) 87
Activate メソッド (PowerPlay for Windows) 89
Active メソッド (PowerPlay for Windows) 90
ActiveReport メソッド (PowerPlay for Windows) 91
Add 112, 115
Add メソッド
(CategoryList) 92
(Columns、Layers、Rows) 95
(Exceptions) 96
(Graphs) 97
(Ranges) 99
(ReportQueries) 101
(Reports) 102
AddBlanks メソッド (PowerPlay for Windows) 104
Addition メソッド (PowerPlay for Windows) 106, 107
AddLevel メソッド (PowerPlay for Windows) 109
AddLowestLevelCategories メソッド (PowerPlay for Windows) 111
AddToReport メソッド (PowerPlay for Windows) 112
AddToReportAtSpecificNestingLevel メソッド (PowerPlay for Windows) 115
AdvancedQuery オブジェクト (PowerPlay for Windows) 8
After Doc Open マクロ 472
alignment
ラベル 354
AppClose マクロ 473
Application オブジェクト (PowerPlay for Windows) 11
Application プロパティー (PowerPlay for Windows) 292
AppOpenMacro 474
AutomaticExceptions プロパティー (PowerPlay for Windows) 294
AutomaticExceptionSensitivity プロパティー (PowerPlay for Windows) 296
Average メソッド (PowerPlay for Windows - コレクション) 118
Average メソッド (PowerPlay for Windows) 120
AxisOnAllPages プロパティー (PowerPlay for Windows) 298

B

BlankWhenDividedByZero プロパティー (PowerPlay for Windows) 299
BlankWhenMissing プロパティー (PowerPlay for Windows) 300
BlankWhenZero プロパティー (PowerPlay for Windows) 302

C

CalculatedCategories プロパティー (PowerPlay for Windows) 303
CanDrillDown メソッド (PowerPlay for Windows) 121
CanDrillUp メソッド (PowerPlay for Windows) 122
Caption プロパティー 304
Category メソッド (PowerPlay for Windows) 123

CategoryList オブジェクト (PowerPlay for Windows) 14
CategoryList メソッド (PowerPlay for Windows) 125
CellText プロパティー (PowerPlay for Windows) 305
CellValue メソッド (PowerPlay for Windows) 126
CellValueAlignment プロパティー (PowerPlay for Windows) 306
CellValueFontColor プロパティー (PowerPlay for Windows) 307
CellValueFontName プロパティー (PowerPlay for Windows) 309
CellValueFontSize プロパティー (PowerPlay for Windows) 311
Change メソッド (PowerPlay for Windows) 128
ChangeToParent メソッド (PowerPlay for Windows) 129
ChangeToTop メソッド (PowerPlay for Windows) 130
ChartTitleOnAllPages プロパティー (PowerPlay for Windows) 312
Child オブジェクト (PowerPlay for Windows) 15
Children メソッド (PowerPlay for Windows) 131
Collate プロパティー (PowerPlay for Windows) 314
color 459
ColorsAsPatterns プロパティー (PowerPlay for Windows) 399
Column オブジェクト (PowerPlay for Windows) 16
Columns コレクション (PowerPlay for Windows) 59
Columns メソッド (PowerPlay for Windows) 133
Copies プロパティー (PowerPlay for Windows) 315
Copy メソッド (PowerPlay for Windows) 134
Count プロパティー (PowerPlay for Windows) 316
CubeName プロパティー (PowerPlay for Windows) 318
CumPercentOfBase メソッド (PowerPlay for Windows) 135
Cut メソッド (PowerPlay for Windows) 137

D

DataGridlines プロパティー (PowerPlay for Windows) 319
DefaultAlternateDirectory プロパティー (PowerPlay for Windows) 320
DefaultCubeDirectory プロパティー (PowerPlay for Windows) 321
DefaultMacroDirectory プロパティー (PowerPlay for Windows) 322
DefaultReportDirectory プロパティー (PowerPlay for Windows) 323
DeleteAllDataSourceInfo メソッド (PowerPlay for Windows) 139
DeleteAllMDCAccessInfo メソッド (PowerPlay for Windows) 140
DeleteDataSourceInfo メソッド 141
DeleteMDCAccessInfo メソッド (PowerPlay for Windows) 143
DeleteSelected メソッド (PowerPlay for Windows) 144
DeploymentOptions メソッド (PowerPlay for Windows) 145
Depth メソッド (PowerPlay for Windows) 146
Dimension オブジェクト (PowerPlay for Windows) 20
Dimension プロパティー 324
DimensionFilter メソッド (PowerPlay for Windows) 147
DimensionLine オブジェクト (PowerPlay for Windows) 22
DimensionLine メソッド (PowerPlay for Windows) 149
DimensionLineIndex プロパティー 325
DimensionSettings プロパティー (PowerPlay for Windows) 327
Division メソッド (PowerPlay for Windows) 150
DocOpenMacro 477
DrillDown メソッド (PowerPlay for Windows) 152
DrillUp メソッド (PowerPlay for Windows) 153
DrivingCategory プロパティー (PowerPlay for Windows) 328
DrivingDimension プロパティー (PowerPlay for Windows) 329

E

Each プロパティー (PowerPlay for Windows) 330
EnableUserColumnSummaryLabel プロパティー (PowerPlay for Windows) 332
EnableUserRowSummaryLabel プロパティー (PowerPlay for Windows) 333
Exception オブジェクト (PowerPlay for Windows) 23
Exception プロパティー (PowerPlay for Windows) 334
ExceptionMacro 478
Exceptions コレクション (PowerPlay for Windows) 62
Exceptions メソッド (PowerPlay for Windows) 154
Exclude メソッド (PowerPlay for Windows) 155
Execute メソッド (PowerPlay for Windows) 158
Explorer モード 335
ExplorerMode プロパティー (PowerPlay for Windows) 335
Exponentiation メソッド (PowerPlay for Windows) 159

F

Find メソッド (PowerPlay for Windows) 161
FindNext メソッド (PowerPlay for Windows) 163
FindPrevious メソッド (PowerPlay for Windows) 166
FindQuery オブジェクト (PowerPlay for Windows) 25
FitToPage プロパティー (PowerPlay for Windows) 336
FooterText プロパティー (PowerPlay for Windows) 338
Forecast メソッド (PowerPlay for Windows) 170
FullName プロパティー (PowerPlay for Windows) 340

G

GetDataAutomatically プロパティー (PowerPlay for Windows) 341
GetDataNow メソッド (PowerPlay for Windows) 172
Graph オブジェクト
  印刷の向き 281
  奥行き 146
  タイプ 450
Graph オブジェクト (PowerPlay for Windows) 27
Graphs コレクション (PowerPlay for Windows) 63

Graphs メソッド (PowerPlay for Windows) 173

H

HasParent メソッド (PowerPlay for Windows) 174
HeaderText プロパティー (PowerPlay for Windows) 342
Hide メソッド (PowerPlay for Windows) 176
HideRankCategory プロパティー (PowerPlay for Windows) 344
HideSelected メソッド (PowerPlay for Windows) 177
HideUnselected メソッド (PowerPlay for Windows) 178
Highlight Exceptions マクロ 478

I

Include メソッド (PowerPlay for Windows) 179
IncludeLegend プロパティー (PowerPlay for Windows) 345
IndentTotalsLevel プロパティー (PowerPlay for Windows) 347
Index プロパティー (PowerPlay for Windows) 348
Intersect プロパティー (PowerPlay for Windows) 349
IsAlternate プロパティー (PowerPlay for Windows) 350
IsCalculatedCategory プロパティー (PowerPlay for Windows) 352
Item メソッド (PowerPlay for Windows) 181
ItemAtLevel メソッド (PowerPlay for Windows) 183

K

KeepSummaryVisible プロパティー (PowerPlay for Windows) 353

L

LabelAlignment プロパティー (PowerPlay for Windows) 354
LabelFontColor プロパティー (PowerPlay for Windows) 355
LabelFontName プロパティー (PowerPlay for Windows) 357
LabelFontSize プロパティー (PowerPlay for Windows) 359
LabelGridlines プロパティー (PowerPlay for Windows) 360
Layer オブジェクト (PowerPlay for Windows) 31
layers
  コレクション 66
Layers コレクション (PowerPlay for Windows) 66
Layers メソッド (PowerPlay for Windows) 184
Layout プロパティー (PowerPlay for Windows) 361
level 364
Level オブジェクト (PowerPlay for Windows) 33
Level プロパティー (PowerPlay for Windows) 362
Level メソッド (PowerPlay for Windows) 185
LevelList プロパティー (PowerPlay for Windows) 364
levels 33, 69, 362
  削除する 229
Levels コレクション (PowerPlay for Windows) 69
Levels メソッド (PowerPlay for Windows) 187, 188, 190
LevelsDown プロパティー (PowerPlay for Windows) 366
LogonPrompt プロパティー (PowerPlay for Windows) 367
LowerBoundary プロパティー (PowerPlay for Windows) 368
LowestLevel プロパティー (PowerPlay for Windows) 369

M

MacroName プロパティー (PowerPlay for Windows) 370
MacroStyle プロパティー (PowerPlay for Windows) 371
Maximize メソッド (PowerPlay for Windows) 191
Maximum メソッド (PowerPlay for Windows) 192, 193
MaximumNumberOfRanges プロパティー (PowerPlay for Windows) 373
MaxPrintedBars プロパティー (PowerPlay for Windows) 373
MaxVisibleBars プロパティー (PowerPlay for Windows) 375
MDC アクセス情報 258
Measure プロパティー (PowerPlay for Windows) 376
MeasureCurrency プロパティー (PowerPlay for Windows) 377
Minimize メソッド (PowerPlay for Windows) 195
Minimum メソッド (PowerPlay for Windows) 196, 197
Multiplication メソッド (PowerPlay for Windows - オブジェクト) 200
Multiplication メソッド (PowerPlay for Windows - コレクション) 198

N

Name プロパティー (PowerPlay for Windows) 379
NamesShown プロパティー (PowerPlay for Windows) 380
NestedCharts プロパティー (PowerPlay for Windows) 382
NestedName プロパティー (PowerPlay for Windows) 383
New メソッド (PowerPlay for Windows) 201

O

Open メソッド 203, 205
OpenRemoteReport メソッド 207
Operand1 プロパティー (PowerPlay for Windows) 384
Operand2 プロパティー (PowerPlay for Windows) 386
Operator プロパティー (PowerPlay for Windows) 388

P

Parent メソッド (PowerPlay for Windows) 209
ParentageQuery オブジェクト (PowerPlay for Windows) 34
ParentCategory プロパティー (PowerPlay for Windows) 390
Paste メソッド (PowerPlay for Windows) 210
Path プロパティー (PowerPlay for Windows) 391
Pattern プロパティー (PowerPlay for Windows) 392
PDF ファイル 211
PDFFile プロパティー (PowerPlay for Windows) 211
Percent
  表示形式を設定する 426
Percent メソッド (PowerPlay for Windows) 213
PercentGrowth メソッド (PowerPlay for Windows) 214

PercentOfBase メソッド (PowerPlay for Windows) 216
position 465
PowerPlay for Windows
アクセスする 11, 292
終了する 222
version 468
PowerPlay for Windows OLE オートメーション プロパティー 283
PowerPlay for Windows OLE オートメーションの全プロパティー 283
Precedence プロパティー (PowerPlay for Windows) 395
Print オブジェクト (PowerPlay for Windows) 37
Print メソッド (PowerPlay for Windows) 217
PrintAllCharts プロパティー (PowerPlay for Windows) 397
PrintColorsAsPatterns プロパティー (PowerPlay for Windows) 399
PrintEntireReport プロパティー (PowerPlay for Windows) 400
PrintOut メソッド (PowerPlay for Windows) 219
PrintPageLayout プロパティー (PowerPlay for Windows) 401
PrintSelectedDisplay プロパティー (PowerPlay for Windows) 402
prompt 367
PromptForCurrency プロパティー (PowerPlay for Windows) 403
PromptForDimension プロパティー (PowerPlay for Windows) 405
PromptForLongShortNames プロパティー (PowerPlay for Windows) 406
PromptForSwapRowsAndColumns プロパティー (PowerPlay for Windows) 407
PromptForZeroSuppression プロパティー (PowerPlay for Windows) 408
PublishToPortal メソッド 220
PublishToUpfront
NewsBox アイテム 220

Q

Quit メソッド (PowerPlay for Windows) 222

R

Range オブジェクト (PowerPlay for Windows) 39
Ranges コレクション (PowerPlay for Windows) 70
Ranges メソッド (PowerPlay for Windows) 222
Rank2 メソッド (PowerPlay for Windows) 223
RefreshSubCube プロパティー (PowerPlay for Windows) 410
Remove メソッド (PowerPlay for Windows - ReportQueries) 228
Remove メソッド (PowerPlay for Windows - オブジェクト) 226
RemoveLevel メソッド (PowerPlay for Windows) 229
Report オブジェクト (PowerPlay for Windows) 40
Reporter モード 335
ReportQueries コレクション (PowerPlay for Windows) 71
ReportQueries メソッド (PowerPlay for Windows) 231
Reports コレクション (PowerPlay for Windows) 73
Reports メソッド (PowerPlay for Windows) 232
ResetPrintOptionsToDefault メソッド (PowerPlay for Windows) 233
Restore メソッド (PowerPlay for Windows) 234
Rollup メソッド 235
Rollup メソッド (PowerPlay for Windows - オブジェクト) 197
Row オブジェクト (PowerPlay for Windows) 45
Rows コレクション (PowerPlay for Windows) 74
Rows メソッド (PowerPlay for Windows) 236

S

Save メソッド (PowerPlay for Windows) 238
SaveAllCharts プロパティー (PowerPlay for Windows) 411
SaveAs メソッド (PowerPlay for Windows) 239
SaveAsPDF オブジェクト (PowerPlay for Windows) 49
Saved プロパティー 412
SaveEntireReport プロパティー 413
SearchDescription プロパティー 415
SearchShortName プロパティー 416
SearchText プロパティー 417
Select メソッド (PowerPlay for Windows) 241
SelectAllDimensions メソッド (PowerPlay for Windows) 242
SelectBlank メソッド (PowerPlay for Windows) 243
SetChartToPrint メソッド (PowerPlay for Windows) 245
SetChartToSave メソッド (PowerPlay for Windows) 246
SetDataSourceInfo メソッド 247
SetDrivingCategory メソッド (PowerPlay for Windows) 250
SetListOfLayersToPrint メソッド (PowerPlay for Windows) 251
SetListOfLayersToSave メソッド (PowerPlay for Windows) 253
SetListOfRowsToPrint メソッド (PowerPlay for Windows) 254
SetListOfRowsToSave メソッド (PowerPlay for Windows) 255
SetMacro メソッド (PowerPlay for Windows) 257
SetMDCAccessInfo メソッド (PowerPlay for Windows) 258
SetType メソッド (PowerPlay for Windows) 260
ShareDimensionLine プロパティー (PowerPlay for Windows) 419
ShareOf プロパティー (PowerPlay for Windows) 420
ShowSummaryBreakdown プロパティー (PowerPlay for Windows) 421
ShowSummaryColumn プロパティー (PowerPlay for Windows) 423
ShowSummaryRow プロパティー (PowerPlay for Windows) 424
ShowTies プロパティー (PowerPlay for Windows) 425
ShowValuesAs プロパティー (PowerPlay for Windows) 426
size 462

SizeSelected メソッド (PowerPlay for Windows) 262
Sort メソッド (PowerPlay for Windows) 262
StatsLineCaption プロパティー (PowerPlay for Windows) 427
StatsLineColor プロパティー (PowerPlay for Windows) 429
StatsLineOn プロパティー (PowerPlay for Windows) 431
StatsLineStyle プロパティー (PowerPlay for Windows) 432
StatsLineUserValue プロパティー (PowerPlay for Windows) 434
Style プロパティー (PowerPlay for Windows) 435
StyleSelected メソッド (PowerPlay for Windows) 265
Subset メソッド (PowerPlay for Windows) 266
Subtraction メソッド (PowerPlay for Windows - オブジェクト) 269
Subtraction メソッド (PowerPlay for Windows - コレクション) 267
Sum プロパティー (PowerPlay for Windows) 436
SummariesOnAllPages プロパティー (PowerPlay for Windows) 437
SummaryColumnOnAllPages プロパティー (PowerPlay for Windows) 439
SummaryRowOnAllPages プロパティー (PowerPlay for Windows) 440
Suppress8020 プロパティー (PowerPlay for Windows) 441
SuppressZeros プロパティー (PowerPlay for Windows) 443
SwapColumnsAndLayers メソッド (PowerPlay for Windows) 270
SwapRowsAndColumns メソッド (PowerPlay for Windows) 271
SwapRowsAndLayers メソッド (PowerPlay for Windows) 272

T

Threshold プロパティー (PowerPlay for Windows) 444
TitleText プロパティー (PowerPlay for Windows) 445
TopLevelCategory プロパティー (PowerPlay for Windows) 447
TopLevelParentCategory プロパティー (PowerPlay for Windows) 449
Type プロパティー (PowerPlay for Windows) 450

U

UnhideAllCategories メソッド (PowerPlay for Windows) 273
Unselect メソッド (PowerPlay for Windows) 274
UnselectAllDimensions メソッド (PowerPlay for Windows) 275
UnselectBlank メソッド (PowerPlay for Windows) 276
UpdatePublishedReport 278
UpdatePublishedReport メソッド (PowerPlay for Windows) 278
Upfront へ発行する
  配布オプション 145
UpperBoundary プロパティー (PowerPlay for Windows) 451
UseFontSubstitution プロパティー (PowerPlay for Windows) 452
UserColumnSummaryLabel プロパティー (PowerPlay for Windows) 454
UserControl プロパティー (PowerPlay for Windows) 453
UserRowSummaryLabel プロパティー (PowerPlay for Windows) 456
UseScrolling プロパティー (PowerPlay for Windows) 457

V

ValueRestriction オブジェクト (PowerPlay for Windows) 51
ValueRestriction メソッド (PowerPlay for Windows) 279
ValuesAutoFit プロパティー (PowerPlay for Windows) 458
ValuesFontColor プロパティー (PowerPlay for Windows) 459
ValuesFontName プロパティー (PowerPlay for Windows) 461
ValuesFontSize プロパティー (PowerPlay for Windows) 462
ValuesFontStyle プロパティー (PowerPlay for Windows) 464
ValuesPosition プロパティー (PowerPlay for Windows) 465
ValuesShown プロパティー (PowerPlay for Windows) 466
Version プロパティー (PowerPlay for Windows) 468
Vertical メソッド (PowerPlay for Windows) 281
Visible プロパティー 468